

全国調査報告書

外来語に関する意識調査  
(全国調査)

平成16年3月

国立国語研究所

外来語に関する意識調査  
(全国調査)

国立国語研究所

# 目 次

## I 調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査対象	3
4 調査期間	3
5 調査方法	3
6 調査実施機関	3
7 回収結果	4
8 回答者の属性	4
9 この報告書を読む際の注意	9
10 研究分担者	9
11 他調査と関連する調査項目	10

## II 調査結果の概要

第1章 外来語そのものについての意識	13
1 外来語を使う機会が多いと感じること	13
2 今以上に外来語が増えることについての意識	15
3 外来語を使うことの良い点	17
4 外来語を使うことの悪い点	20
第2章 外来語と略語についての意識	22
1 外来語や略語の知識	22
2 外来語や略語の意味が分からず困ったこと	24
3 知らない外来語や略語への対応	26
4 分からない外来語や略語が使われていたときの気持ち	28
5 外来語や略語の使用	30
6 外来語や略語の使い分け	32
7 和製外来語について	34
第3章 「漢語」や「和語」などについての意識	37
1 “キャンセル” “解約” “取り消し”	37
2 “ハッピー” “幸福” “幸せ”	42
3 外来語の正確な理解	47
4 外来語が分かりにくい分野	56
第4章 外来語を言い換えることの必要性	58
1 外来語を言い換えてほしい分野	58
2 外来語の言い換えについて	60

3	日本語になかった物事や考え方を表す言葉の言い換え	62
4	「外来語言い換え提案」の周知度	70
5	「言い換え語」の分かりやすさ	72
6	「外来語言い換え提案」の必要性	77
第5章	情報通信について	79
1	日常生活の情報源	79
2	パソコンの使用状況	81
3	パソコンの使用頻度	83
4	パソコンの使用目的	86
5	インターネットの利用状況	88
6	新聞を読む時間	94
7	テレビを見る時間	96
8	ラジオを聴く時間	98
9	雑誌を読む時間	100
第6章	自治体の広報紙やホームページの利用	102
1	自治体の広報紙やホームページの利用状況	102
2	広報紙やホームページ以外の情報源	104
3	広報紙の中でよく読む記事	106
4	居住地の広報紙の読みやすさ	108
5	広報紙の中に分かりにくい言葉があると感ずること	110
6	広報紙の中で言い換えてほしい言葉	112
第7章	自治体の窓口や説明会での職員の話し言葉	114
1	自治体職員の話し言葉の分かりやすさ	114
2	話し言葉の中で言い換えてほしい言葉	116
3	広報紙での適切な表記	118
第8章	外来語の将来	121
1	外来語の将来	121
2	将来の外来語の使用	123
第9章	言葉一般について	125
1	日本語についての意識	125
2	言葉の乱れ	127
3	敬語の使い方への気づかい	129
4	敬語の使い方	131
5	英語についての意識	133
6	これまでに学習したことのある言語	137
7	英語の優位性	139
III	調査票	
	単純集計結果つき調査票	143

# I 調査の概要

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

近年著しく増加していると思われる外来語（カタカナ語）使用に関する国民の意識，外来語を日本語表現として置き換える試みへの是非，さらには平行して行われる予定の「地方自治体および自治体職員の外来語意識（発信者調査）」に関する受信者の意識等を把握し，今後の外来語使用や言い換え提案等の施策立案の参考に資すること，ならびにそれらに関する科学的データの蓄積・提供を目的とする。

## 2 調査項目

- (1) 外来語そのものについての意識
- (2) 外来語と略語についての意識
- (3) 「漢語」や「和語」などについての意識
- (4) 外来語の言い換えについて
- (5) 情報通信
- (6) 自治体の広報紙やホームページの利用
- (7) 自治体等の職員の話し言葉について
- (8) 外来語の将来
- (9) 言葉の学習一般

## 3 調査対象

- (1) 母集団：満15歳以上の男女個人
- (2) 標本数：4,500人
- (3) 抽出方法：層化二段無作為抽出法

## 4 調査期間

平成15年10月9日（木）～11月11日（火）

## 5 調査方法

調査員による個別面接聴取法

## 6 調査実施機関

社団法人 新情報センター

7 回収結果

(1) 有効回収数 (率) 3,087人 (68.6%)

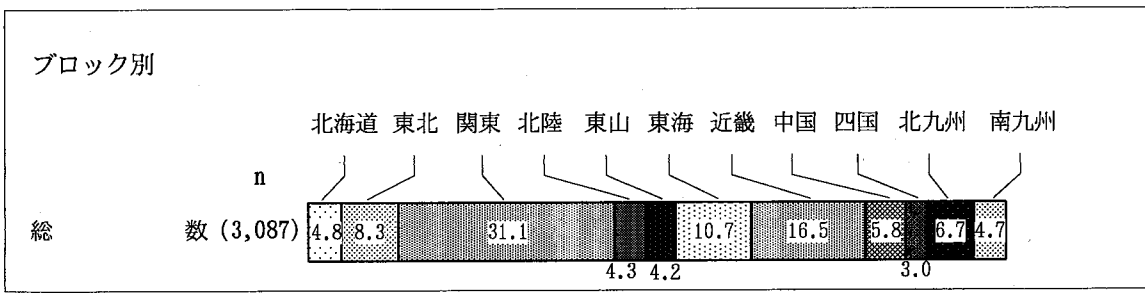
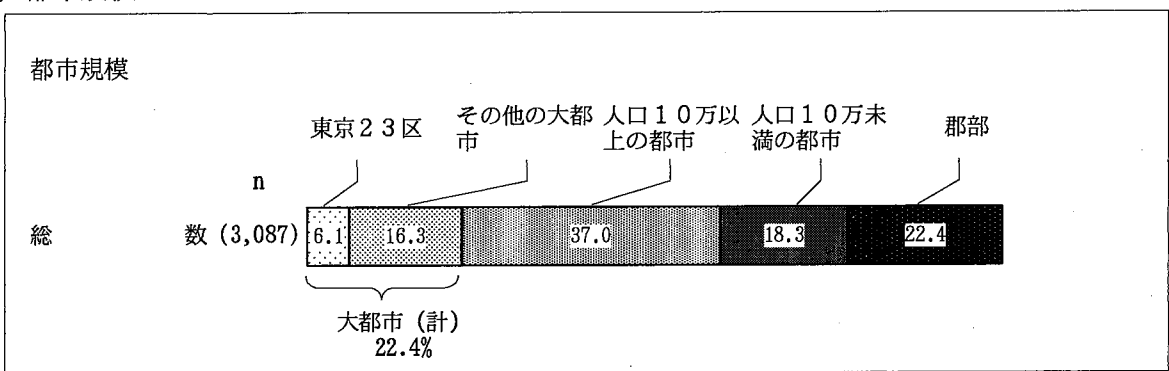
(2) 調査不能数 (率) 1,413人 (31.4%)

- 不能内訳 -

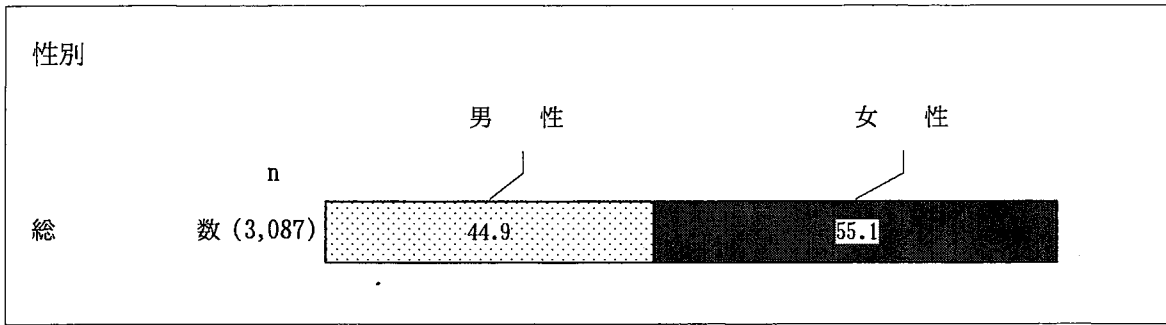
転居	121	( 2.7%)
長期不在	74	( 1.6%)
一時不在	462	(10.3%)
住居不明	37	( 0.8%)
拒否	688	(15.3%)
その他	31	( 0.7%)

8 回答者の属性

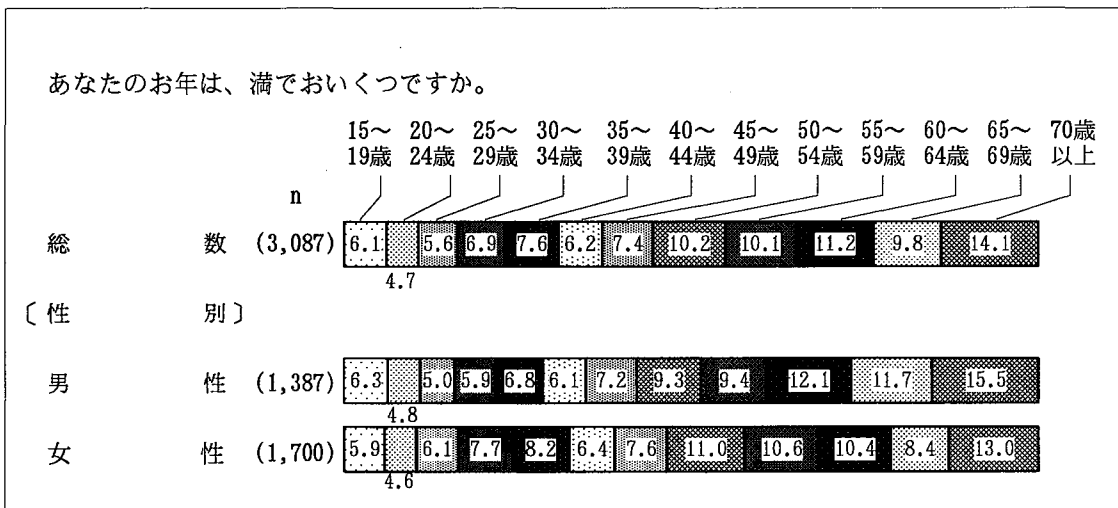
(1) 都市規模・ブロック



(2) 性別

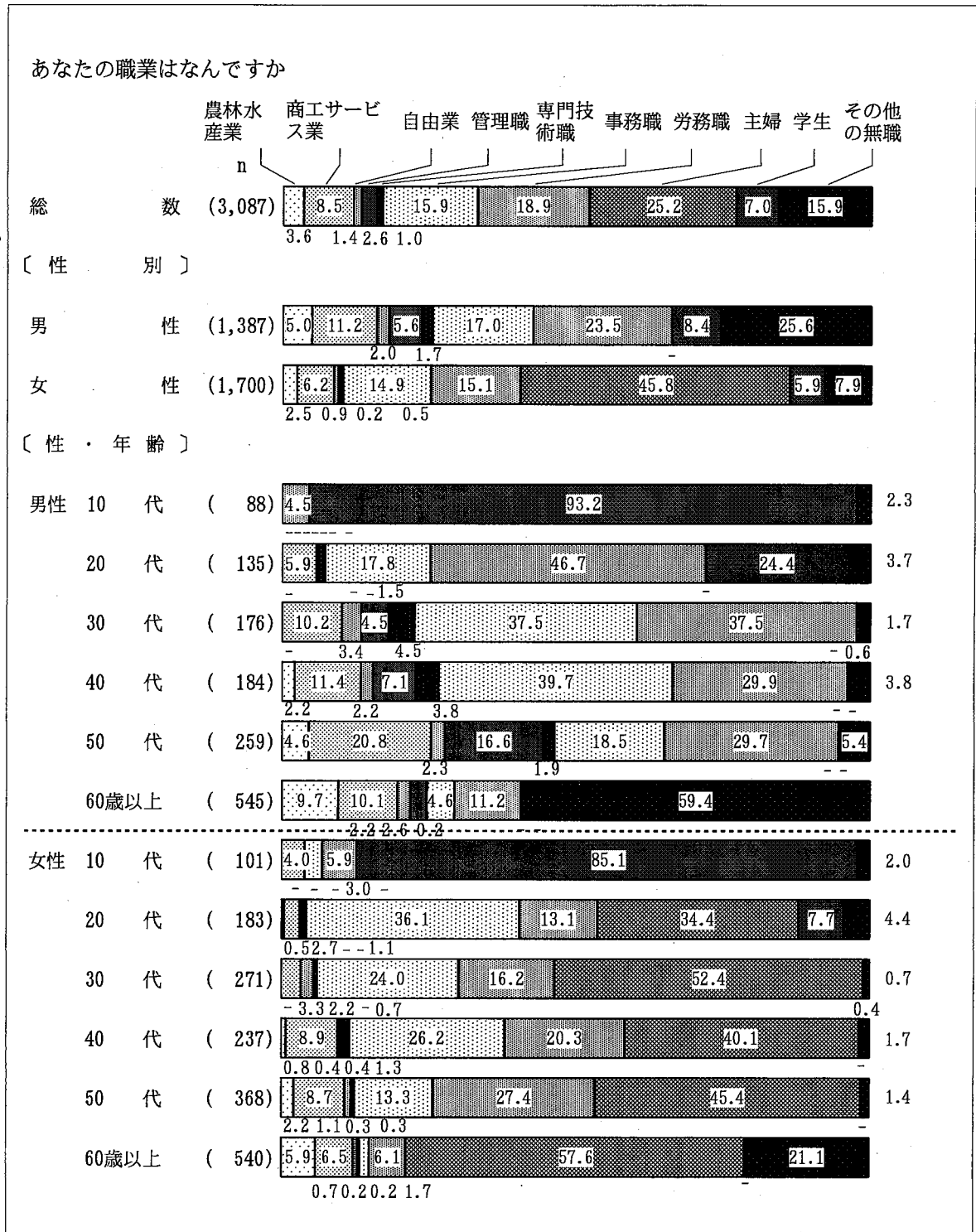


(3) 年齢

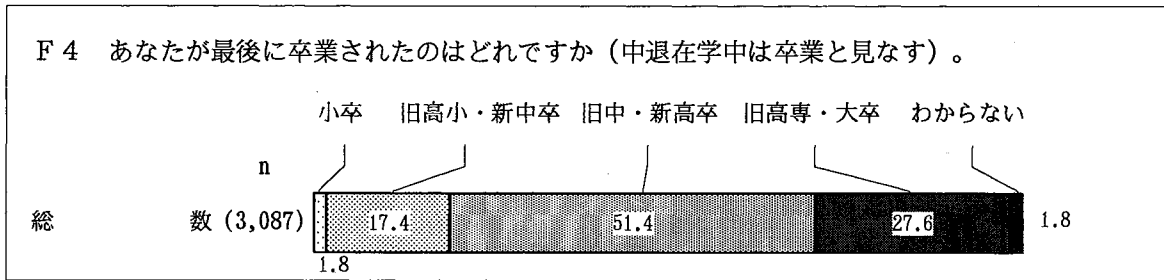




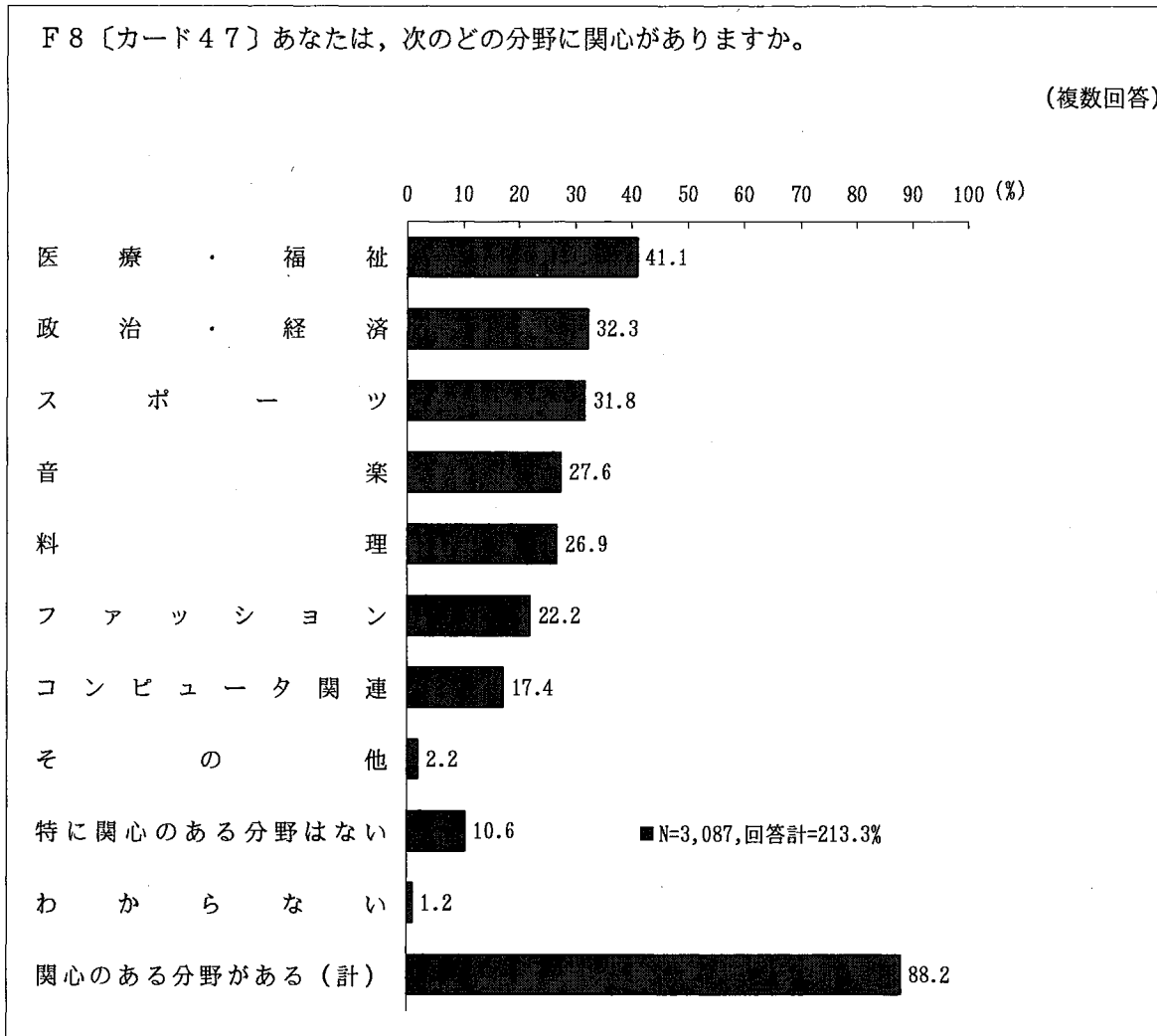
(4) 職業



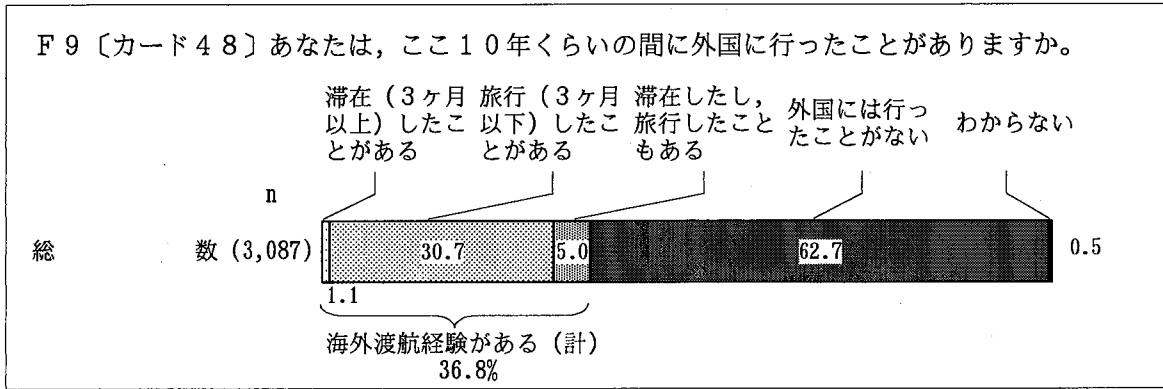
(5) 最終学歴



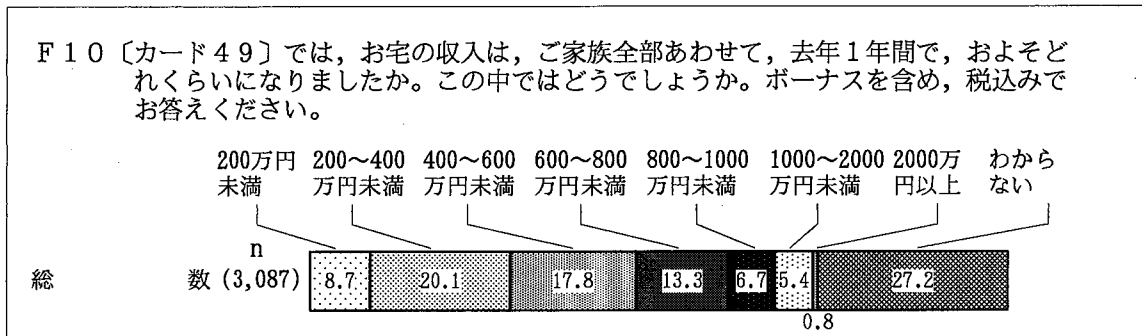
(6) 関心のある分野



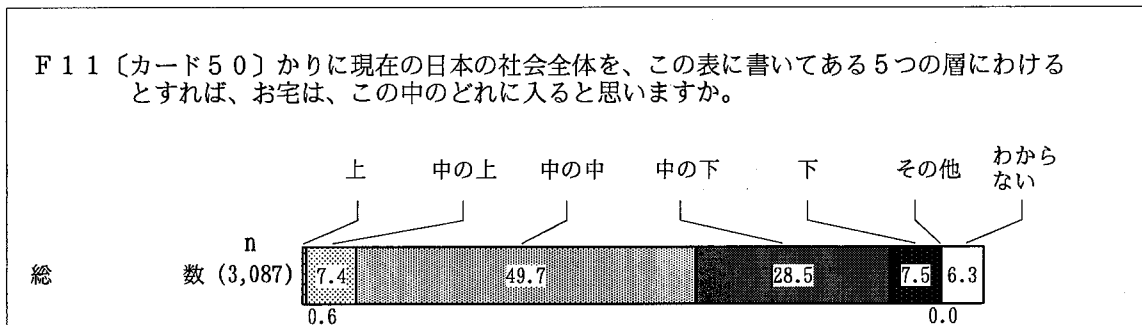
(7) 海外渡航経験



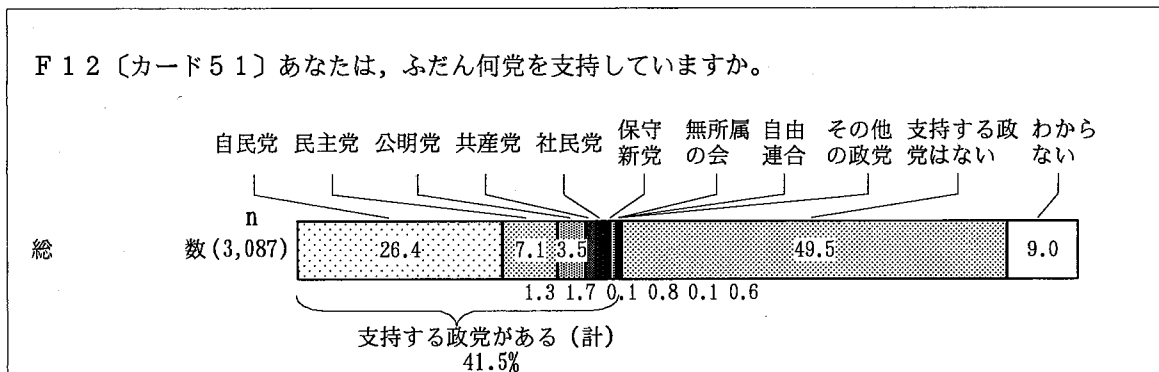
(8) 世帯年収



(9) 階層意識



(10) 支持政党



## 9 この報告書を読む際の注意

- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(3,087人)または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。
- (3) 「(複数回答)」と表示のある質問は、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超える。
- (4) [カード]の表示は、回答の選択肢を列挙したカードを対象者に示して、その中から回答を選ばせる質問を示す。
- (5) 図表中“—”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は0.05未満の数値であったことを示す。
- (6) 「II 調査結果の概要」では、分類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。

## 10 研究組織(五十音順)

- 相澤 正夫(国立国語研究所研究開発部門・部門長)  
陣内 正敬(関西学院大学総合政策学部・教授)  
杉戸 清樹(国立国語研究所日本語教育部門・部門長)  
田中ゆかり(日本大学文理学部・助教授)  
半沢 康(福島大学教育学部・助教授)  
吉岡 泰夫(国立国語研究所研究開発部門・上席研究員)  
吉野 諒三(統計数理研究所領域統計研究系・助教授)  
米田 正人(国立国語研究所情報資料部門・上席研究員, 編集責任者)

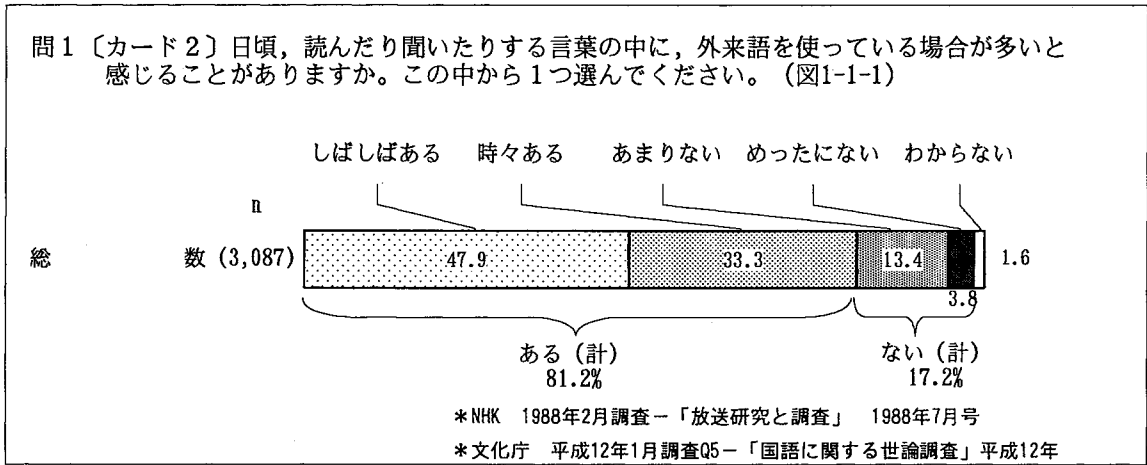
11 他調査と関連する調査項目

番号	図の番号	質問	類似	元の調査項目(出典)
問1	図1-1-1	外来語を使う機会が多いと感じること		NHK 1988年2月調査(「放送研究と調査」1988年7月号) 文化庁 平成12年1月調査Q5(「国語に関する世論調査」平成12年)
問2	図1-2-1	今以上に外来語が増えることについての意識	◎	NHK 1991年2月調査 Q3-2(「放送研究と調査」1991年8月号) NHK 1991年11月調査 Q10(「放送研究と調査」1992年4月号)
問3	図1-3-1	外来語を使うことの良い点	◎	NHK 平成12年5月調査 Q23(「放送研究と調査」2000年9月号)
問4	図1-4-1	外来語を使うことの悪い点	◎	NHK 平成12年5月調査 Q24(「放送研究と調査」2000年9月号)
問5	図2-1-1	外来語の略語の知識	◎	NHK 2002年3月調査 Q7(「放送研究と調査」2002年8月号)
問11	図2-7-1	和製外来語について	◎	NHK 昭和63年調査 Q6(「放送研究と調査」1988年7月号)
問12	図3-1-1	「漢語」や「和語」などについて	◎	文化庁 平成12年1月調査 Q4(「国語に関する世論調査」平成12年) NHK 昭和63年2月調査 Q9(「放送研究と調査」1988年7月号)
問14(1)	図3-3-1	外来語の正確な理解(インフォームドコンセント)		NHK 1999年2月調査(1次調査項目)(「放送研究と調査」1999年8月号)
問14(2)	図3-3-3	外来語の正確な理解(マルチメディア)		NHK 1999年2月調査(1次調査項目)(「放送研究と調査」1999年8月号)
問14(3)	図3-3-3	外来語の正確な理解(ライフライン)		NHK 1999年2月調査(1次調査項目)(「放送研究と調査」1999年8月号)
問14(4)	図3-3-4	外来語の正確な理解(ケア)		NHK 1999年3月調査(2次調査項目)(「放送研究と調査」1999年8月号)
問15	図3-4-1	外来語がわかりにくい分野		NHK 2002年3月調査 Q12(「放送研究と調査」2002年8月号)
問16	図4-1-1	外来語を言い換えてほしい分野	◎	国立国語研究所 2003年「外来語」の言い換え提案
問17	図4-2-1	外来語の言い換えについて	◎	国立国語研究所 2003年「外来語」の言い換え提案 第1回、第2回 NHK 2002年3月調査 Q14(1)(「放送研究と調査」2002年8月号)
問22	図5-1-1	日常生活の情報源	◎	NHK 1988年2月調査 Q1(「放送研究と調査」1988年8月号) NHK 2001年8月、12月・NHK 2002年4月、7月・2003年8月
問33	図6-1-1	自治体の広報紙やホームページの利用状況	◎	国立国語研究所 2003年「外来語」委員会 文化庁 平成12年1月調査 Q10(「平成11年度国語に関する世論調査」平成12年)
問42	図8-1-1	外来語の将来	◎	NHK 2002年3月調査 Q14、Q15(「放送研究と調査」2002年10月号)
問44	図9-1-1	日本語についての意識	◎	NHK 平成元年2月調査 Q12(「放送研究と調査」1989年2月号) 国立国語研究所「日本語観国際センサス」(「日本語観国際センサス」暫定版 1998年7月)
問45	図9-2-1	ことばの乱れ		NHK 昭和63年2月調査 Q12(「放送研究と調査」1988年7月号) 文化庁 平成14年11月調査 Q1(「国語に関する世論調査」平成15年)
問46	図9-3-1	敬語の使い方への気づかい		文化庁 平成13年調査(「国語に関する世論調査」平成13年)
問48(1)	図9-5-1	英語についての意識	◎	国立国語研究所「日本語観国際センサス」Q22(2)(「日本語観国際センサス」暫定版 1998年7月) NHK 1991年2月調査 Q12(「放送研究と調査」1991年8月号)
問48(2)	図9-5-3	英語についての意識		国立国語研究所「日本語観国際センサス」Q20~22(「日本語観国際センサス」暫定版 1998年7月)
問49	図9-6-1	これまで勉強したことがある言語		国立国語研究所「日本語観国際センサス」Q14(「日本語観国際センサス」暫定版 1998年7月)
問50	図9-7-1	英語の優位性		国立国語研究所「日本語観国際センサス」Q19(「日本語観国際センサス」暫定版 1998年7月)
問51	図9-7-3	英語の優位性		国立国語研究所「日本語観国際センサス」SQ19(「日本語観国際センサス」暫定版 1998年7月)

## II 調査結果の概要

# 第1章 外来語そのものについての意識

## 1 外来語を使う機会が多いと感じること



日頃、読んだり聞いたりする言葉の中に、外来語を使っている場合が多いと感じることがあるかを聞いたところ(図1-1-1)、「しばしばある」という者が47.9%で、「時々ある」(33.3%)という者を合わせると、日頃外来語を使うことが多いと感じることが『ある』という者が8割を上回る。一方、外来語を使っている場合が多いと感じることが「あまりない」という者は13.4%で、「めったにない」(3.8%)という者を合わせると、2割弱の者は外来語を使うことが多いとは感じていない。

性別にみると(図1-1-2)、日頃、外来語を使っている場合が多いと感じることが『ある』という者は、男女(男性80.8%、女性81.6%)とも8割を上回り、大きな男女差はみられない。

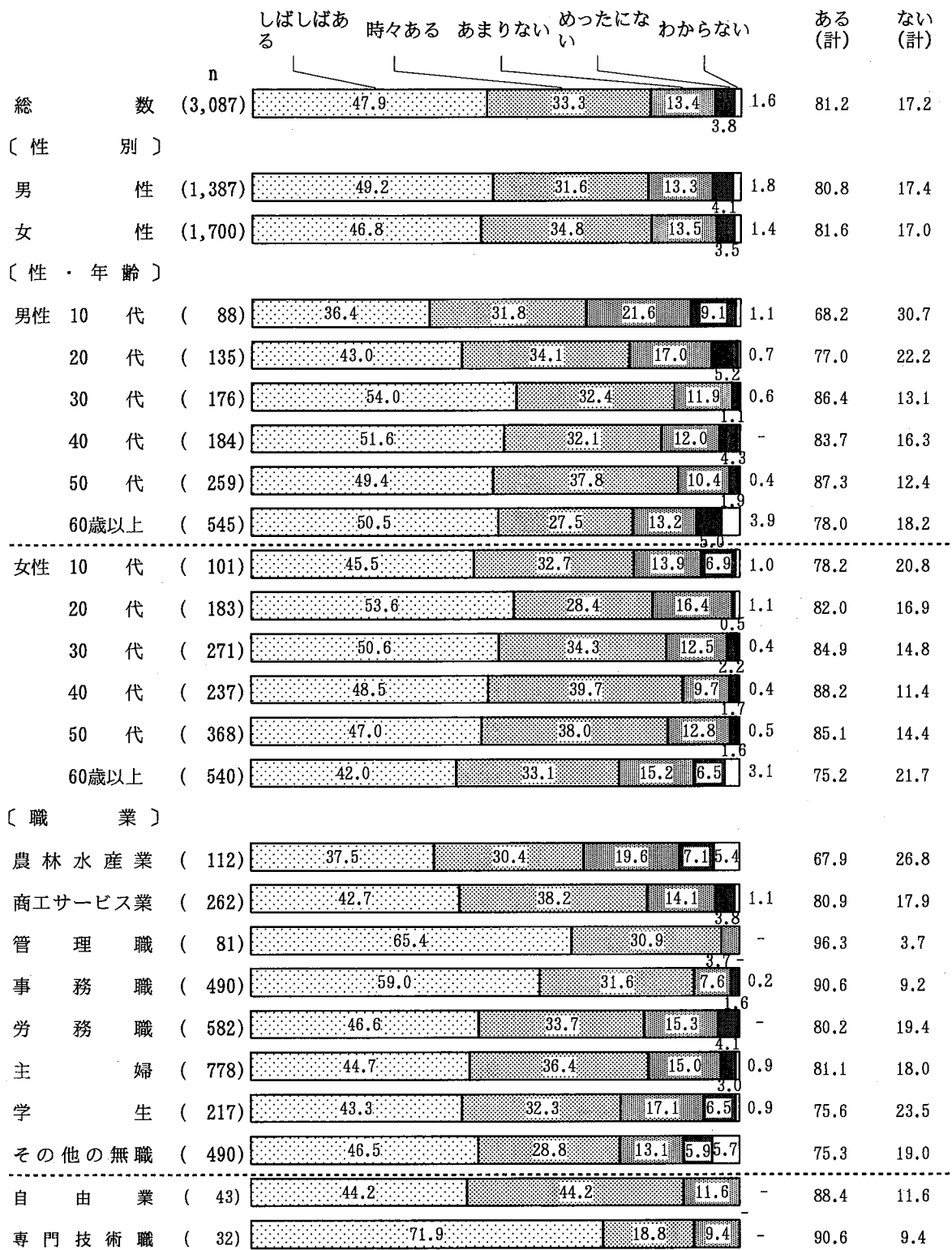
性・年齢別にみると(図1-1-2)、「しばしばある」もしくは「時々ある」という者を合わせた、外来語を使っている場合が多いと感じることが『ある』者の割合は、男性の50代(87.3%)と30代(86.4%)、女性の40代(88.2%)で9割近くと、特に高くなっている。

一方、男性の10代では21.6%が「あまりない」と答えており、「めったにない」(9.1%)という者を合わせると、3割は日頃外来語を使っている場合が多いと感じることが『ない』という意識を持っている。

さらに職業別にみると(図1-1-2)、管理職では「しばしばある」という者が65.4%おり、「時々ある」(30.9%)という者を合わせると、外来語を使っている場合が多いと感じている者が全数近くを占めている。また、事務職でも、「しばしばある」(59.0%)もしくは「時々ある」(31.6%)という者を合わせた、外来語を使っている場合が多いと感じることが『ある』と言う者は9割である。

一方、農林水産業と学生では、「あまりない」(農林水産業19.6%、学生17.1%)という者が2割近くおり、「めったにない」(同7.1%、6.5%)という者を合わせると、日頃、外来語を使っている場合が多いと感じることの『ない』者が2割を上回っている。

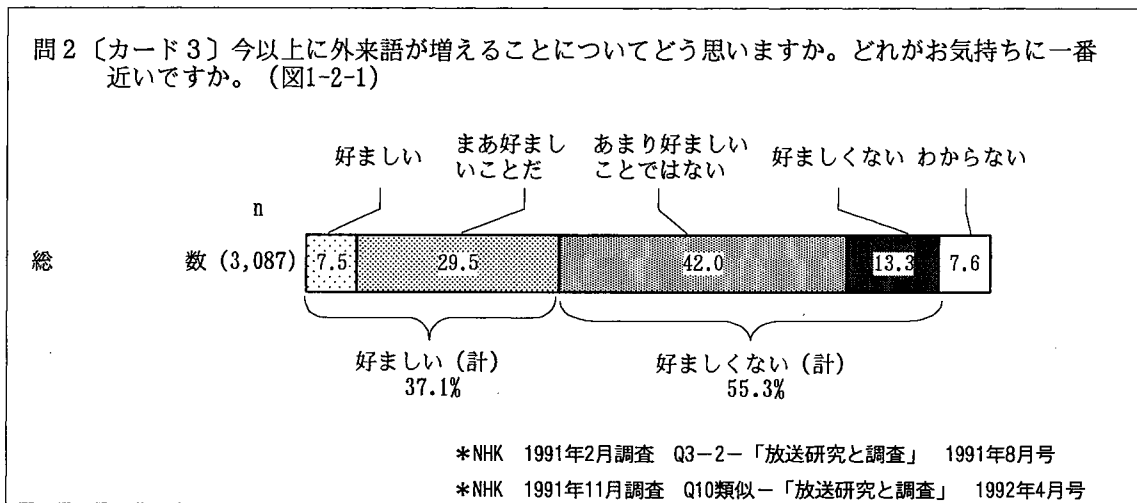
図 1-1-2 外来語を使う機会が多いと感じること (性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照することども、分析の対象からは外してある。



## 2 今以上に外来語が増えることについての意識



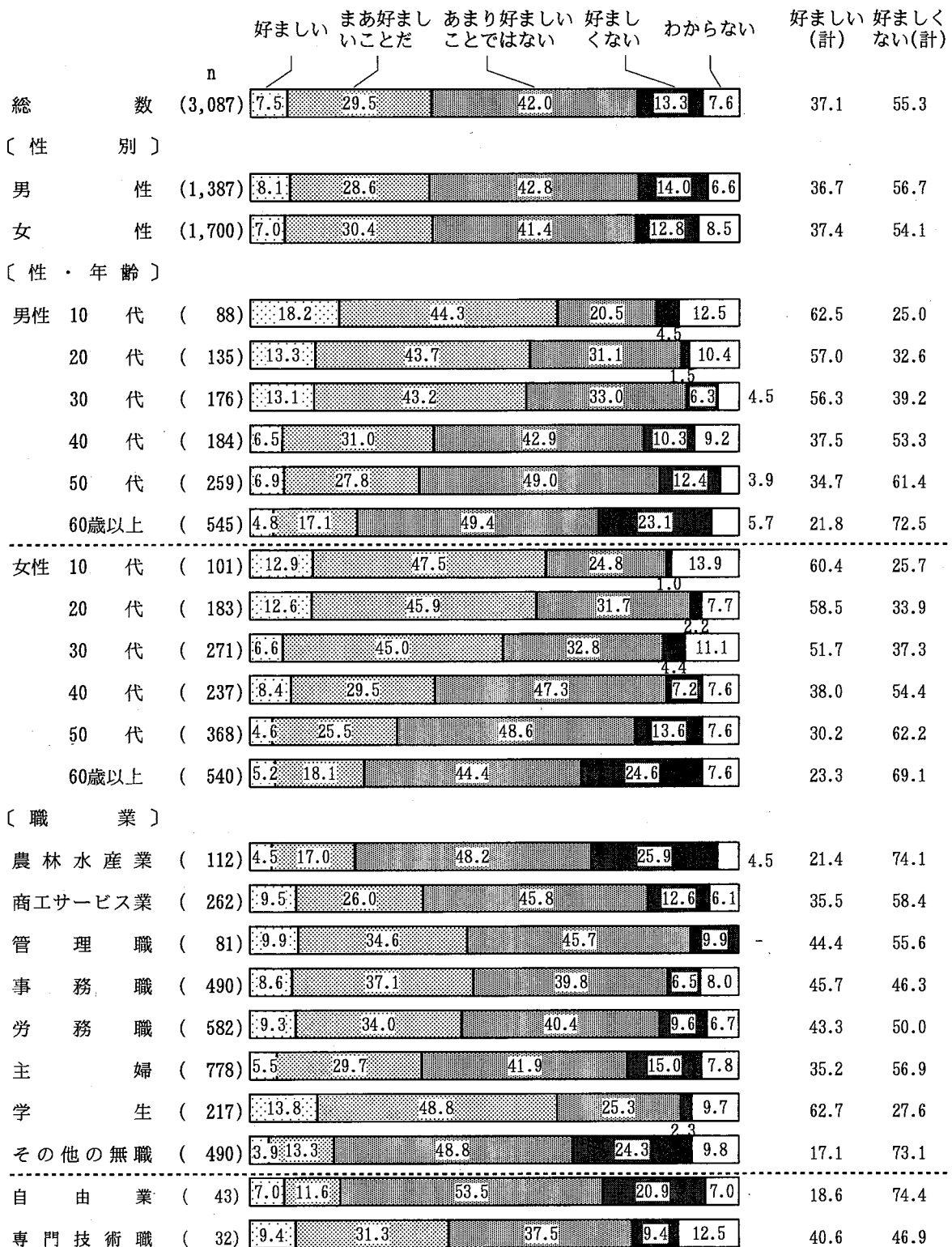
今以上に外来語が増えることについての意識を聞いたところ (図 1-2-1) , 今以上に外来語が増えることが「好きじゃない」と考える者は 13.3%で, 「あまり好きではない」 (42.0%) という者を合わせると, 過半数が『好きじゃない』と感じている。一方, 外来語が増えることを「好き」と考える者は 7.5%で, 「まあ好き」 (29.5%) という者を合わせると, 『好き』と感じている者は 37.1%である。

性別にみると (図 1-2-2) , 男女とも「好きじゃない」 (男性 14.0%, 女性 12.8%) もしくは「あまり好きではない」 (同 42.8%, 41.4%) を合わせた, 今以上に外来語が増えることは『好きじゃない』と考える者が過半数を占め, 大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると (図 1-2-2) , 男女とも, 今以上に外来語が増えることについて「好きじゃない」もしくは「あまり好きではない」と感じている者は, 年齢が高くなるほど多くなっており, 60 歳以上の年齢層では 7 割前後が『好きじゃない』 (男性 72.5%, 女性 69.1%) と感じている。一方, 男女とも 10 代から 30 代の年齢層では「好き」もしくは「まあ好き」と答えた, 外来語の増加を『好き』と感じている者の割合が, 『好きじゃない』という者の割合より高くなっている。

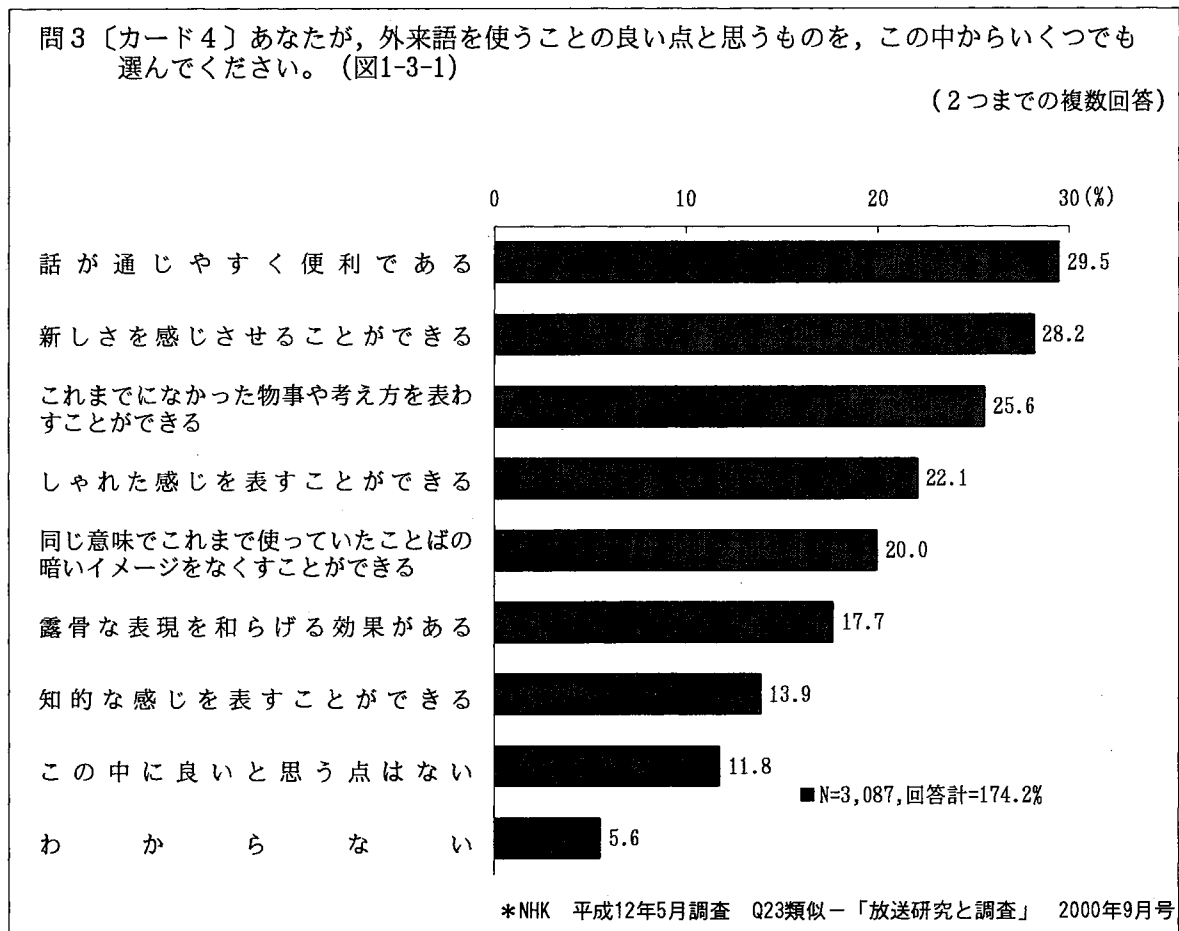
職業別にみると (図 1-2-2) , 農林水産業で, 外来語の増加は『好きじゃない』と考える者が 74.1%と特に多くなっている。これに対して, 学生では「好き」 (13.8%) と, 外来語の増加を積極的に肯定する者が 1 割を上回り, 「まあ好き」 (48.8%) という者を合わせると, 6 割以上が, 今以上の外来語の増加を『好き』と捉えている。

図 1-2-2 今以上に外来語が増えることについての意識 (性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

### 3 外来語を使うことの良い点



外来語を使うことの良い点としては(図1-3-1)、「話が通じやすく便利である」(29.5%)、「新しさを感じさせることができる」(28.2%)、「これまでになかった物事や考え方を表すことができる」(25.6%)、「しゃれた感じを表すことができる」(22.1%)、「同じ意味でこれまで使っていた言葉の暗いイメージをなくすことができる」(20.0%)などがあげられたが、いずれも2割台である。

「この中に良いと思う点はない」という者は11.8%である。

性別にみると(表1-3-1)、男女とも「話が通じやすく便利である」(男性30.3%、女性28.9%)と「新しさを感じさせることができる」(同28.3%、28.1%)がもっとも多くあげられ、次いで男性では「これまでになかった物事や考え方を表すことができる」(27.6%)、「しゃれた感じを表すことができる」(19.7%)、「同じ意味でこれまで使っていた言葉の暗いイメージをなくすことができる」(18.2%)の順に、女性では「しゃれた感じを表すことができる」(24.1%)、「同じ意味でこれまで使っていた言葉の暗いイメージをなくすことができる」(21.4%)、「これまでになかった物事や考え方を表すことができる」(23.9%)の順にあげられている。女性では、「露骨な表現を和らげる効果がある」(19.3%)という点もほぼ2割あげられている。

性・年齢別にみると(表1-3-1)、「話が通じやすく便利である」は、男女とも若年齢層ほど多くあげられ、10代から20代では4割以上となっている。また、「新しさを感じさせることができる」

「しゃれた感じを表すことができる」「知的な感じを表すことができる」も、男女とも10代で他の年齢層より多くあげられている。

さらに、「これまでになかった物事や考え方を表すことができる」は、男性の30代から50代と女性の20代から40代で、他の年齢層より多くあげられている。

一方、男女とも60歳以上では、「この中に良いと思う点はない」（男性23.5%、女性22.4%）という者が2割以上を占めている。

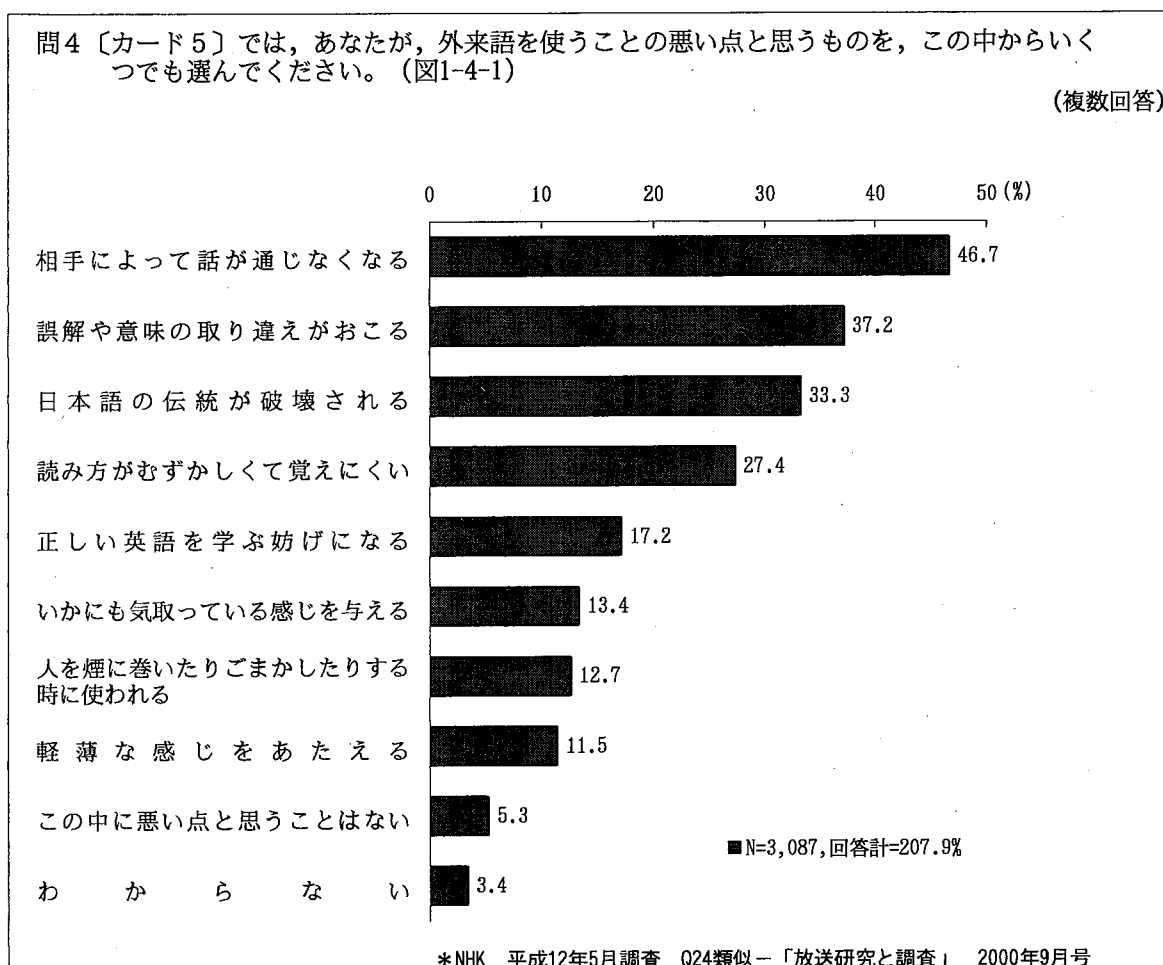
職業別にみると（表1-3-1）、「話が通じやすく便利である」は、学生（47.5%）、管理職（38.3%）、事務職（36.7%）に、「新しさを感じさせることができる」は、学生（34.1%）と商工サービス業（34.0%）に、「これまでになかった物事や考え方を表すことができる」は管理職（38.3%）と事務職（37.1%）に、「しゃれた感じを表すことができる」は学生（33.6%）に、それぞれ多くあげられている。

農林水産業とその他の無職の層では、「この中に良いと思う点はない」（農林水産業31.3%、無職23.1%）という者の割合が、他の職業層より高い。

表 1-3-1 外来語を使うことの良いと思う点 (性別, 性・年齢別, 職業別)

	該 当 数	話 が 通 じ や す く 便 利 な 点 が あ る	新 し さ を 感 じ さ せ る こ と が で き る	こ れ ま で に な い 物 事 や 考 え 方 を 表 す	し や れ た 感 じ を 表 す こ と が で き る	こ れ ま で の 暗 い イ メ ー ジ を な く す	露 骨 な 表 現 を 和 ら げ る 効 果 が あ る	知 的 な 感 じ を 表 す こ と が で き る	こ の 中 に 良 い と 思 う 点 は な い	わ か ら な い	良 い 点 が あ る (計)	計 (M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総 数	3,087	29.5	28.2	25.6	22.1	20.0	17.7	13.9	11.8	5.6	82.6	174.2
[ 性 別 ]												
男 性	1,387	30.3	28.3	27.6	19.7	18.2	15.7	13.8	13.4	4.5	82.0	171.7
女 性	1,700	28.9	28.1	23.9	24.1	21.4	19.3	13.9	10.5	6.4	83.1	176.4
[ 性・年齢 ]												
男性 10 代	88	46.6	35.2	20.5	31.8	17.0	8.0	22.7	5.7	3.4	90.9	190.9
20 代	135	43.0	34.8	29.6	25.9	23.7	22.2	11.1	2.2	2.2	95.6	194.8
30 代	176	37.5	27.8	37.5	16.5	26.7	21.6	11.4	5.7	0.6	93.8	185.2
40 代	184	31.0	33.7	35.3	25.0	26.1	15.8	15.8	8.2	0.5	91.3	191.3
50 代	259	28.2	29.3	32.0	19.3	17.0	17.0	13.5	9.7	4.2	86.1	170.3
60歳以上	545	22.9	23.5	20.4	15.6	12.3	12.8	13.4	23.5	8.1	68.4	152.5
女性 10 代	101	42.6	35.6	22.8	38.6	26.7	23.8	20.8	1.0	4.0	95.0	215.8
20 代	183	48.6	27.9	35.0	26.8	21.3	19.1	14.8	2.2	1.1	96.7	196.7
30 代	271	33.6	31.0	30.6	26.2	25.1	23.2	14.8	3.3	2.6	94.1	190.4
40 代	237	30.4	29.1	32.5	25.7	29.1	22.4	13.9	4.6	2.1	93.2	189.9
50 代	368	25.3	30.4	24.5	23.1	23.4	22.0	17.9	8.7	5.4	85.9	180.7
60歳以上	540	19.1	23.3	12.8	19.3	13.7	13.3	9.1	22.4	13.1	64.4	146.1
[ 職 業 ]												
農 林 水 産 業	112	16.1	25.0	11.6	15.2	8.9	6.3	13.4	31.3	11.6	57.1	139.3
商 工 サービス 業	262	23.7	34.0	25.2	25.6	19.1	16.4	15.3	10.7	6.9	82.4	176.7
自 由 業	43	16.3	32.6	39.5	25.6	20.9	37.2	7.0	11.6	4.7	83.7	195.3
管 理 職	81	38.3	27.2	38.3	21.0	18.5	14.8	16.0	11.1	-	88.9	185.2
専 門 技 術 職	32	34.4	15.6	31.3	12.5	34.4	18.8	15.6	6.3	3.1	90.6	171.9
事 務 職	490	36.7	29.0	37.1	22.7	23.3	22.0	15.5	4.3	1.2	94.5	191.8
労 務 職	582	30.2	31.1	24.9	21.1	22.5	17.2	14.8	9.3	3.6	87.1	174.7
主 婦	778	28.9	27.1	22.4	23.5	22.2	19.4	12.1	11.3	6.3	82.4	173.3
学 生	217	47.5	34.1	25.8	33.6	22.6	18.0	19.4	4.1	2.3	93.5	207.4
そ の 他 の 無 職	490	20.0	21.4	19.4	15.5	11.0	13.1	11.0	23.1	11.6	65.3	146.1

#### 4 外来語を使うことの悪い点



次に、外来語を使うことの悪い点について聞いた(図1-4-1)。

悪い点としては、「相手によって話が通じなくなる」が46.7%でもっとも多くあげられ、以下「誤解や意味の取り違えがおこる」(37.2%)、「日本語の伝統が破壊される」(33.3%)、「読み方がむずかしくて覚えにくい」(27.4%)などの順にあげられている。

「この中に悪い点と思うことはない」という者は5.3%で、9割以上の者が何らかの悪い点があると考えている。

性別にみると(表1-4-1)、外来語の悪い点としての認識に大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると(表1-4-1)、「相手によって話が通じなくなる」は、男性の20代と女性の20代から40代で5割以上があげている。また、「誤解や意味の取り違えがおこる」は男性の30代と女性の30代から40代で、悪い点としてあげる者の割合がやや高くなっている。

「日本語の伝統が破壊される」と「読み方がむずかしくて覚えにくい」は、男女とも高齢層に多くあげられる傾向がみえる。

職業別にみると(表1-4-1)、「相手によって話が通じなくなる」は事務職(54.5%)と管理職(54.3%)で、「誤解や意味の取り違えがおこる」は管理職(49.4%)、事務職(45.5%)、学生(41.5%)で、「日本語の伝統が破壊される」は農林水産業(43.8%)と商工サービス業(40.8%)

で、それぞれ他の職業層より多くあげられている。

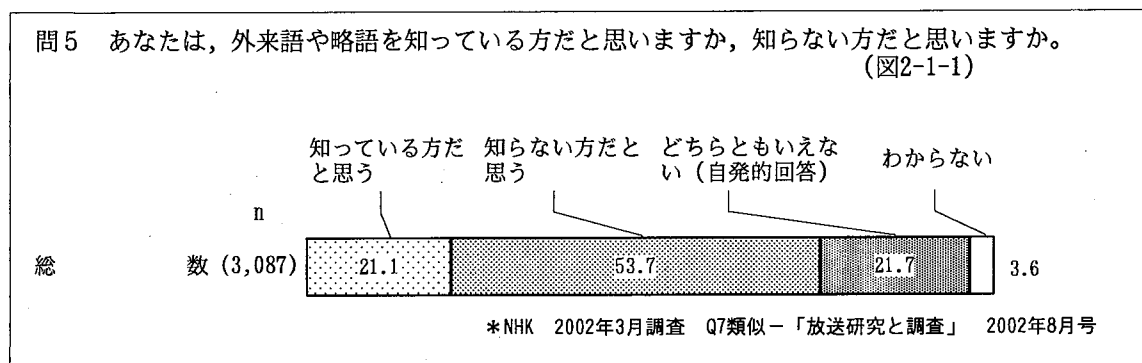
さらに、「読み方がむずかしくて覚えにくい」は、農林水産業（34.8%）とその他の無職（35.3%），主婦（31.2%）で、「正しい英語を学ぶ妨げになる」は事務職（24.1%）と学生（22.6%）で、「人を煙に巻いたりごまかしたりするときに使われる」は管理職（21.0%）で、それぞれ悪い点として認識する者の割合が高くなっている。

表 1-4-1 外来語を使うことの悪い点（性別，性・年齢別，職業別）

	該 当 数	相 手 に よ っ て 話 が 通 じ な く な る	誤 解 や 意 味 の 取 り 違 え が お こ る	日 本 語 の 伝 統 が 破 壊 さ れ る	読 み 方 が む ず か し く て 覚 え に く い	正 し い 英 語 を 学 ぶ 妨 げ に な る	い か に も 気 取 っ て い る 感 じ を 与 え る	人 を 煙 に 巻 い た り す る 時 に 使 わ れ る	軽 薄 な 感 じ を あ た え る	こ の 中 に 悪 い 点 と 思 う こ と は な い	わ か ら な い	悪 い 点 が あ る （ 計 ）	計 （ M.T.）
総 数	3,087	46.7	37.2	33.3	27.4	17.2	13.4	12.7	11.5	5.3	3.4	91.4	207.9
[ 性 別 ]													
男 性	1,387	45.1	36.5	33.6	25.2	17.1	14.8	14.3	12.2	5.7	3.2	91.1	207.6
女 性	1,700	47.9	37.7	33.0	29.2	17.3	12.2	11.4	10.9	4.9	3.5	91.5	208.1
[ 性・年 齢 ]													
男性 10 代	88	35.2	38.6	26.1	20.5	14.8	15.9	4.5	3.4	11.4	3.4	85.2	173.9
20 代	135	52.6	38.5	25.2	10.4	25.2	8.1	8.9	16.3	5.9	3.0	91.1	194.1
30 代	176	47.7	42.0	26.7	17.6	23.3	11.9	15.9	11.4	5.7	1.1	93.2	203.4
40 代	184	49.5	37.5	30.4	18.5	23.9	15.8	15.2	9.2	8.2	0.5	91.3	208.7
50 代	259	45.6	37.8	35.1	26.3	13.5	17.8	14.3	11.6	3.1	1.5	95.4	206.6
60歳以上	545	42.4	32.8	39.4	33.9	12.8	15.4	16.3	14.1	5.1	5.5	89.4	218.0
女性 10 代	101	46.5	39.6	29.7	14.9	23.8	5.9	8.9	8.9	7.9	3.0	89.1	189.1
20 代	183	52.5	38.8	30.1	17.5	21.3	10.9	10.4	11.5	7.1	1.1	91.8	201.1
30 代	271	53.1	43.9	25.8	18.8	25.1	10.3	11.8	10.7	3.3	2.2	94.5	205.2
40 代	237	53.6	43.9	32.1	23.2	22.4	13.5	15.2	13.5	4.2	2.1	93.7	223.6
50 代	368	48.6	40.8	38.0	36.7	16.0	13.6	14.9	12.5	4.3	1.9	93.8	227.4
60歳以上	540	41.1	29.1	35.2	38.5	9.4	13.3	7.8	9.1	5.2	6.9	88.0	195.6
[ 職 業 ]													
農 林 水 産 業	112	40.2	32.1	43.8	34.8	8.0	12.5	9.8	10.7	6.3	8.9	84.8	207.1
商 工 サ ー ビ ス 業	262	48.9	29.8	40.8	26.3	16.0	15.3	10.3	11.1	5.7	2.3	92.0	206.5
自 由 業	43	60.5	51.2	32.6	18.6	11.6	20.9	27.9	14.0	-	2.3	97.7	239.5
管 理 職	81	54.3	49.4	30.9	23.5	19.8	11.1	21.0	12.3	4.9	-	95.1	227.2
専 門 技 術 職	32	50.0	40.6	15.6	31.3	12.5	12.5	15.6	15.6	9.4	-	90.6	203.1
事 務 職	490	54.5	45.5	27.1	18.0	24.1	12.2	15.1	11.4	4.1	0.8	95.1	212.9
労 務 職	582	46.2	34.9	30.4	28.0	15.8	12.4	11.2	9.3	6.2	3.1	90.7	197.4
主 婦	778	47.8	36.6	34.6	31.2	16.1	13.0	11.8	11.7	5.0	2.2	92.8	210.0
学 生	217	41.5	41.5	31.3	15.7	22.6	11.1	8.8	10.1	7.4	3.2	89.4	193.1
そ の 他 の 無 職	490	37.6	32.0	36.7	35.3	14.5	16.3	14.1	14.3	4.7	8.4	86.9	213.9

## 第2章 外来語と略語についての意識

### 1 外来語や略語の知識



外来語や略語を「知っている方だと思ふ」者は 21.1%で、過半数は「知らない方だと思ふ」(53.7%)と答えている(図2-1-1)。

性別にみると(図2-1-2)、外来語や略語を「知っている方だと思ふ」者(男性 26.2%、女性 16.9%)は、男性が3割弱と女性を9ポイント上回っている。一方、「知らない方だと思ふ」者(同 48.4%、58.0%)は女性の6割近くになっている。

性・年齢別にみると(図2-1-2)、外来語や略語を「知っている方だと思ふ」者は、男女とも若年齢層ほど多く、男性の10代から40代と女性の10代では3割を上回っている。これに対して、男女とも高齢になるほど「知らない方だと思ふ」と答える者が多くなり、特に女性の60歳以上(75.0%)では4人に3人の割合となっている。

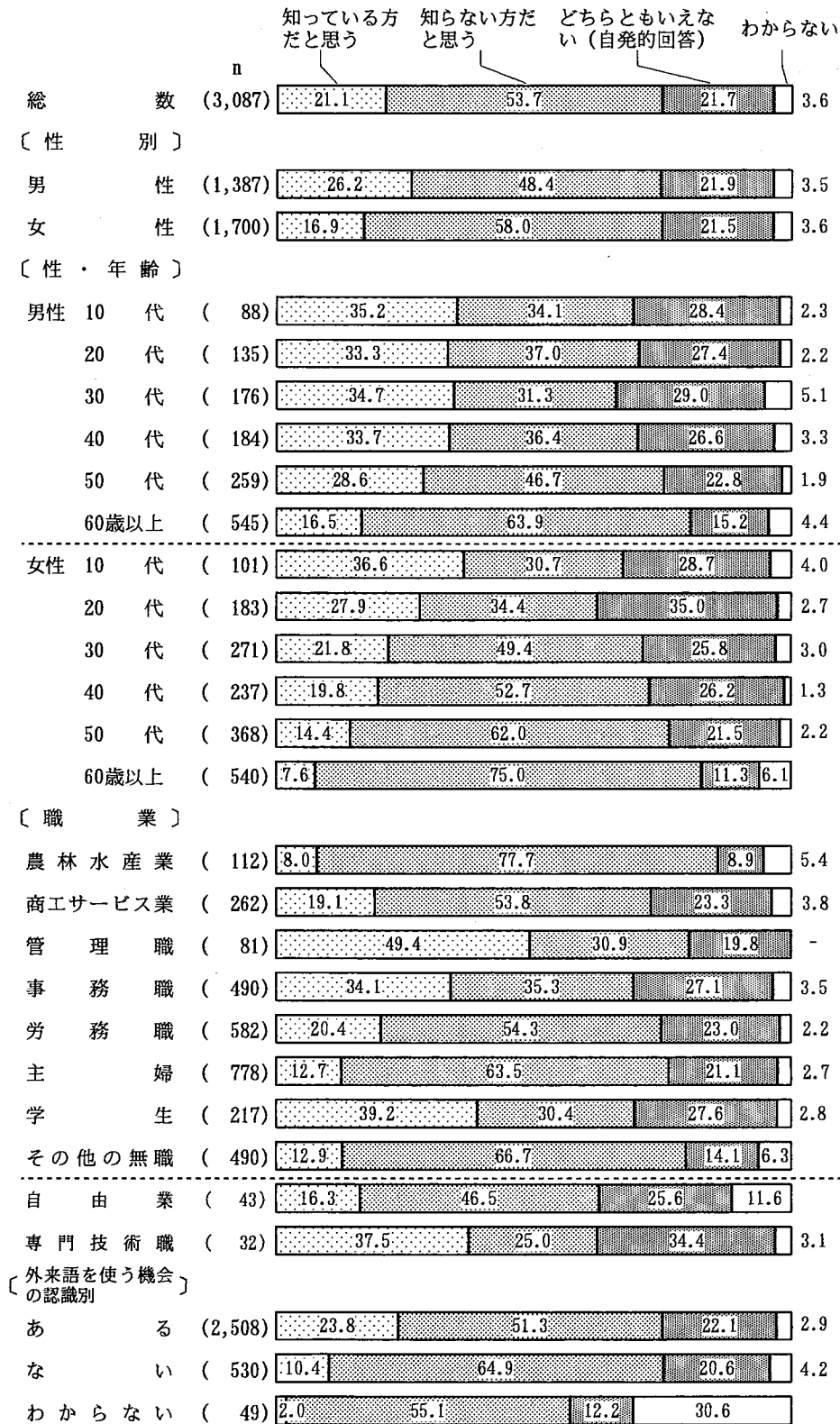
職業別にみると(図2-1-2)、管理職で「知っている方だと思ふ」者が49.4%とほぼ半数を占め、学生(39.2%)と事務職(34.1%)でも3割台となっている。一方、「知らない方だと思ふ」者は、農林水産業(77.7%)の8割近く、その他の無職(66.7%)と主婦(63.5%)の6割台にのぼる。

さらに、外来語を使う機会についての認識別にみると(図2-1-2)、日頃外来語を使っている場合が多いと感じることのある者の方が、外来語や略語を「知っている方だと思ふ」(ある 23.7%、ない 10.4%)と考える割合も高くなっている。



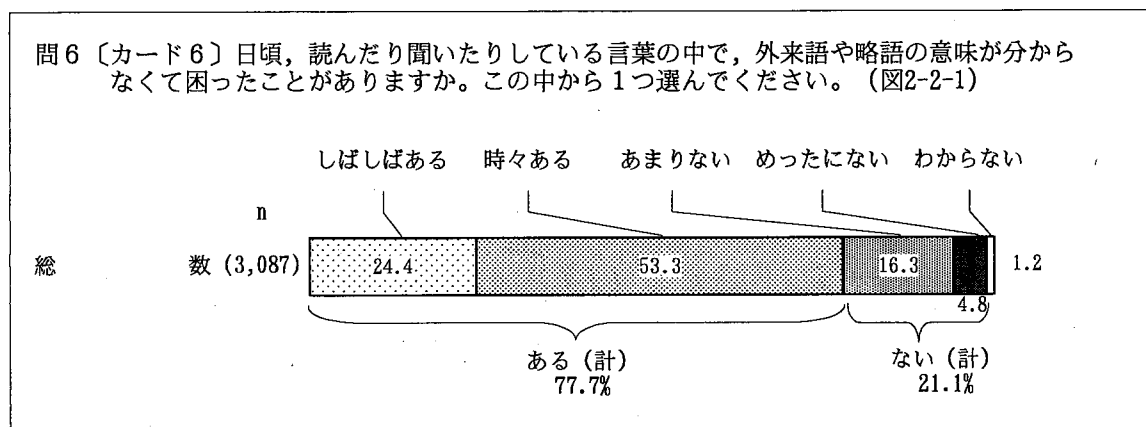
図 2-1-2 外来語や略語の知識

(性別、性・年齢別、職業別、外来語の使用量についての認識別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 2 外来語や略語の意味が分からず困ったこと



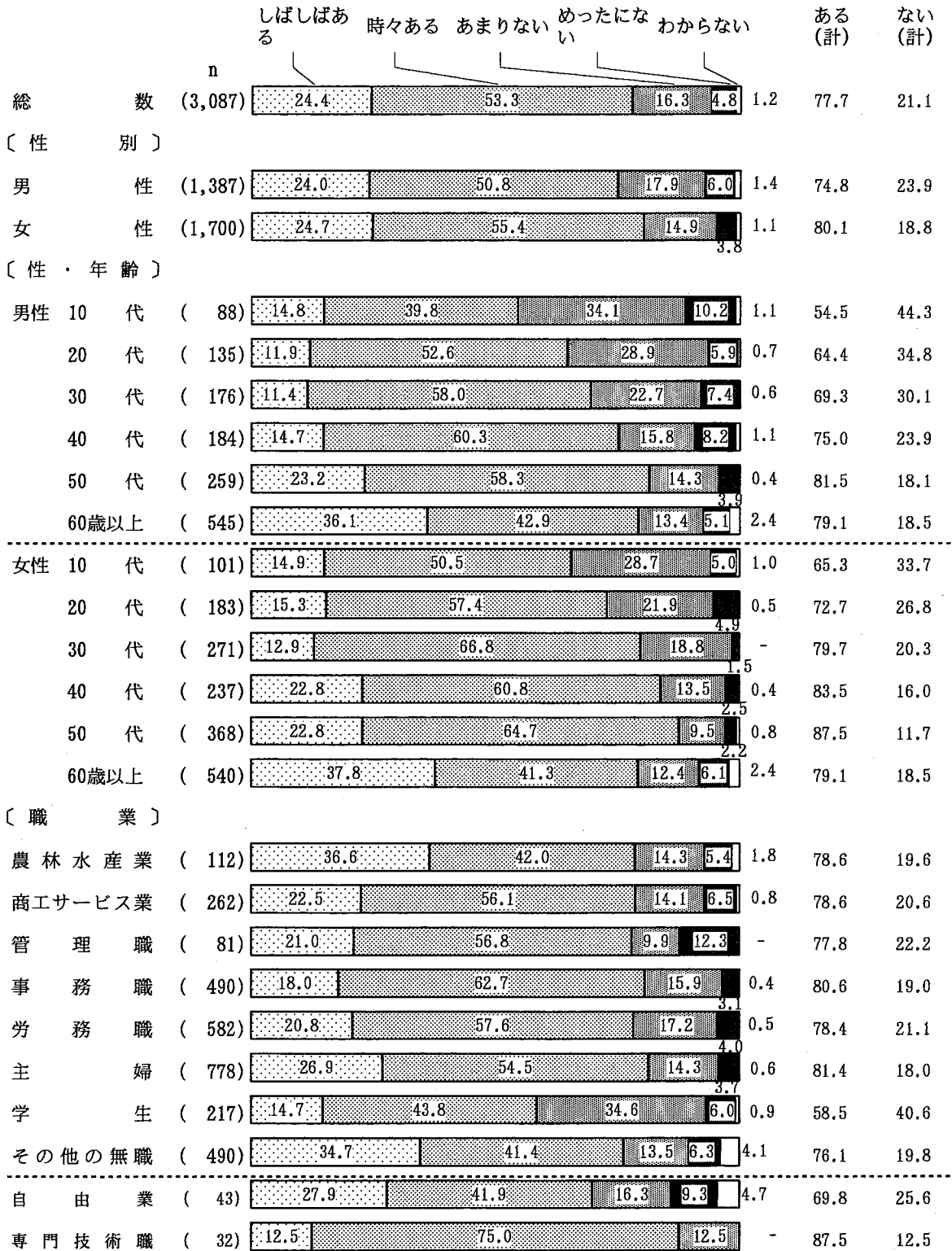
日頃、読んだり聞いたりしている言葉の中で、外来語や略語の意味が分からなくて困ったことが「しばしばある」という者は 24.4%で、「時々ある」(53.3%)という者を合わせると、8割近くが、意味が分からなくて困った経験を持っている(図2-2-1)。

性別にみると(図2-2-2)、困ったことが『ある』(「しばしばある」+「時々ある」)という者(男性74.8%、女性80.1%)は女性の8割と、男性を5ポイント上回っている。

性・年齢別にみると(図2-2-2)、男女とも高齢層ほど、外来語や略語の意味が分からなくて困ったことの『ある』者が多い傾向にあり、特に60歳以上では「しばしばある」(男性36.1%、女性37.8%)という者が男女とも4割近くになっている。

職業別にみると(図2-2-2)、外来語や略語の意味が分からなくて困ったことが「しばしばある」者は、農林水産業(36.6%)とその他の無職(34.7%)で3割台となっている。一方、学生は、困ったことが「あまりない」という者が34.6%で、「めったにない」者(6.0%)を合わせると、4割は、意味が分からなくて困ったことは『ない』と答えている。

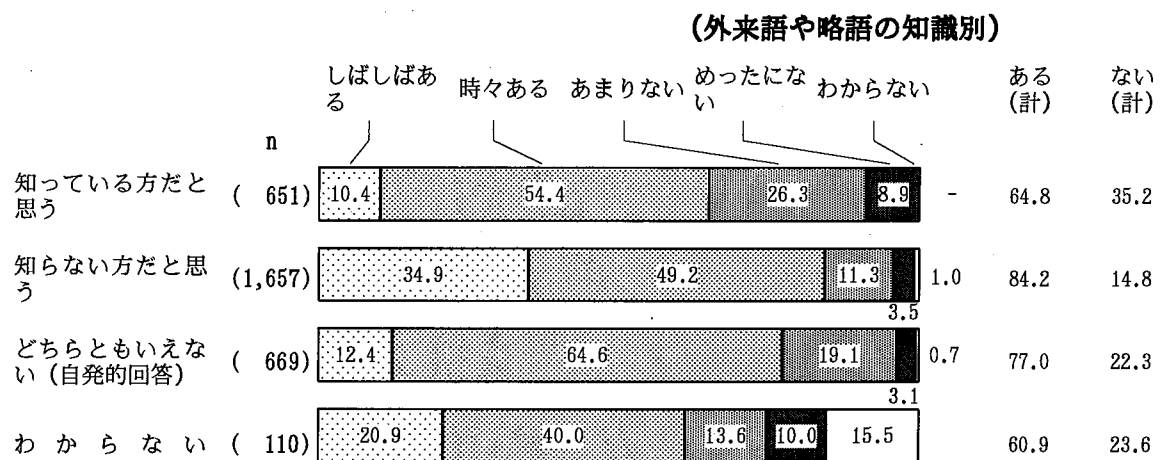
図 2-2-2 外来語や略語の意味が分からず困ったこと  
(性別、性・年齢別、職業別)



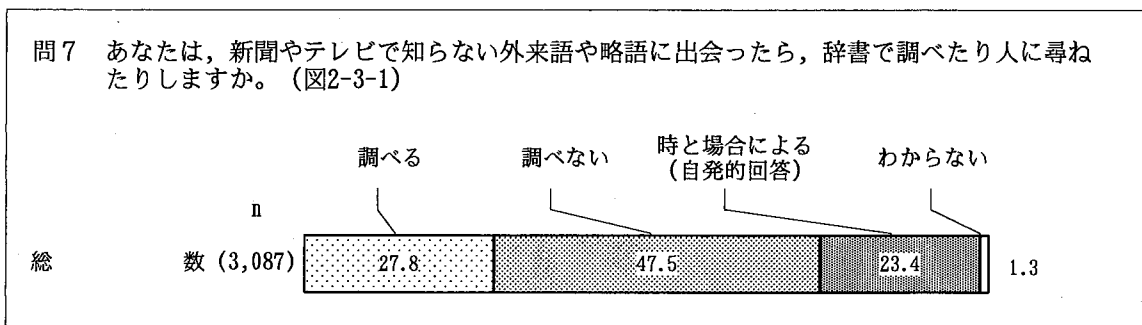
\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

さらに、外来語や略語の知識別にみると（図 2-2-3）、外来語や略語を知らない方だと感じている者の 3 割以上は、意味が分からなくて困ったことが「しばしばある」（34.9%）と答えており、「時々ある」（49.2%）を合わせると、困った経験を持つ者は 8 割を上回る。一方、外来語や略語を知っている方だと認識している者でも、1 割は意味が分からずに困ったことが「しばしばある」（10.4%）と答えており、ほぼ 3 人に 2 人は困った経験が『ある』（64.8%）ことになる。

図 2-2-3 外来語や略語の意味が分からず困ったこと



### 3 知らない外来語や略語への対応



新聞やテレビで知らない外来語や略語に出会ったとき（図 2-3-1）、辞書などで、あるいは人に聞くなどして「調べる」という者が 27.8%で、半数近くは「調べない」（47.5%）と答えている。

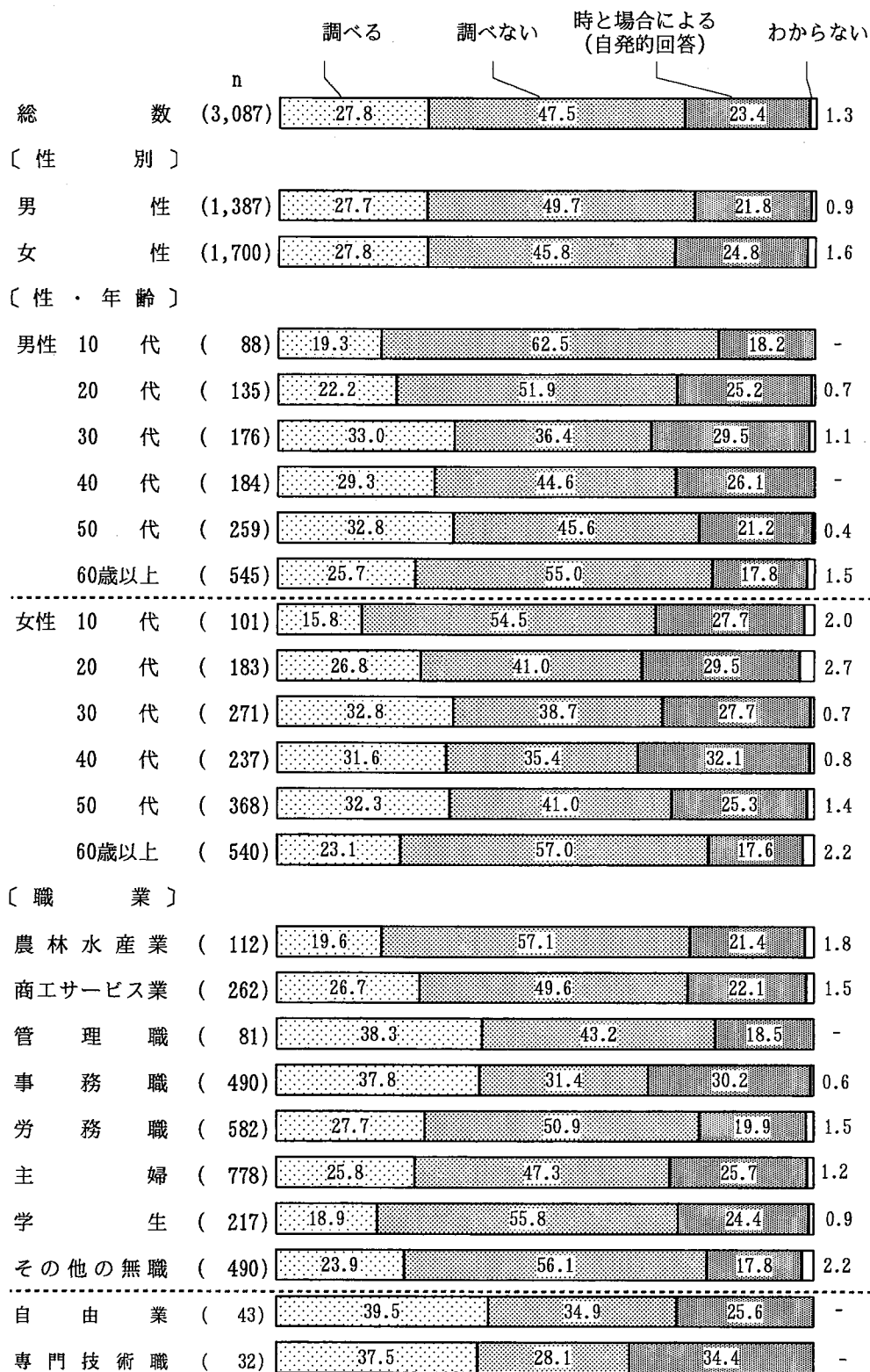
「時と場合による」と自発的に回答した者は 23.4%である。

性別にみると（図 2-3-2）、男女とも知らない外来語や略語を「調べる」（男性 27.7%、女性 27.8%）という者は 3 割弱で、男女差はみられない。

性・年齢別にみると（図 2-3-2）、男女とも 30 代から 50 代の年齢層で、外来語や略語を「調べる」という者が 3 割を上回って、他の年齢層より多くなっている。一方、男女とも 10 代と 60 歳以上では「調べない」という者が半数を上回って多くなっている。

職業別にみると（図 2-3-2）、「調べる」という者は、管理職（38.3%）と事務職（37.8%）の者に 4 割弱と、他の職業層より多くなっている。一方、「調べない」という者は、農林水産業（57.1%）とその他の無職（56.1%）、学生（55.8%）に多くなっている。

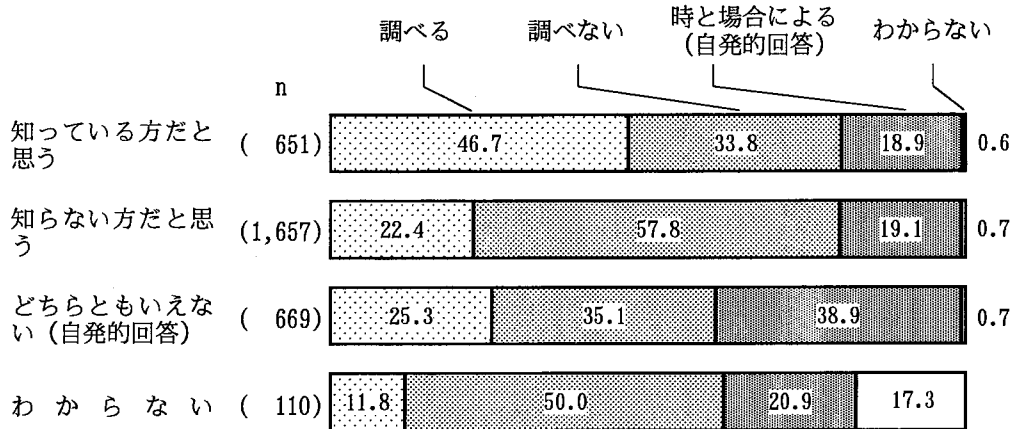
図 2-3-2 知らない外来語や略語への対応  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



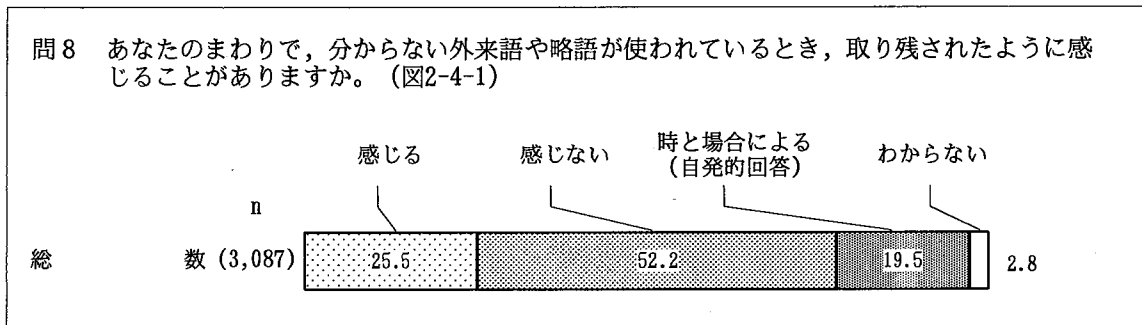
\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとり、分析の対象からは外してある。

さらに、外来語や略語の知識別にみると（図 2-3-3）、外来語や略語を知っている方だと思  
 者（46.7%）の半数近くは、知らない外来語や略語を「調べる」と答えているが、外来語や略語を知  
 らない方だという者（22.4%）では 2 割強で、6 割近くが「調べない」（57.8%）と答えている。

図 2-3-3 知らない外来語や略語への対応（外来語や略語の知識別）



#### 4 分からない外来語や略語が使われていたときの気持ち



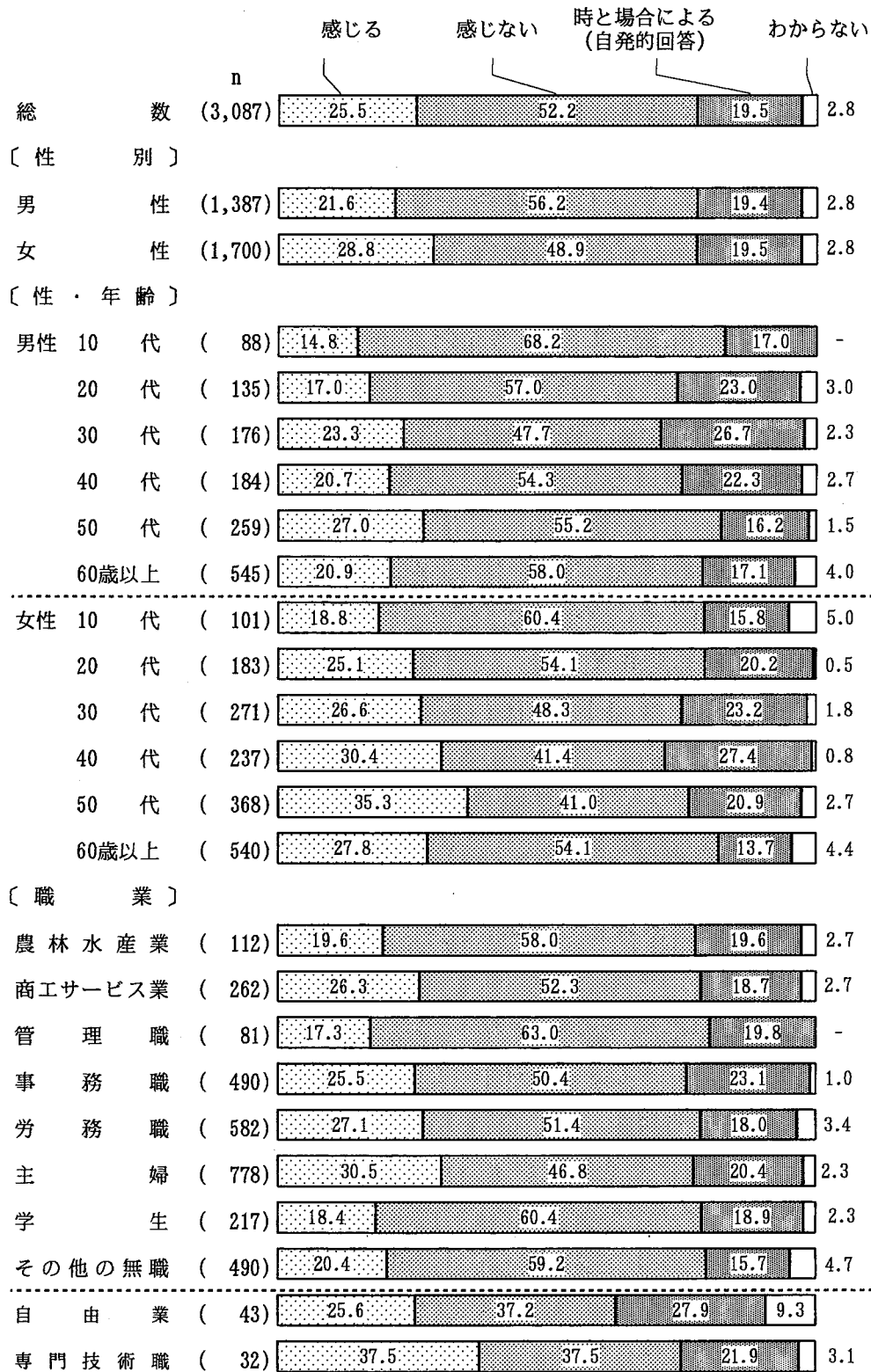
自分のまわりで分からない外来語や略語が使われているとき、取り残されたように「感じる」  
 (25.5%) という者はほぼ 4 人に 1 人で、過半数の者は「感じない」(52.2%) と回答している（図  
 2-4-1）。

性別にみると（図 2-4-2）、取り残されたように「感じる」者（男性 21.6%、女性 28.8%）は、男  
 性より女性に多くなっている。

性・年齢別にみると（図 2-4-2）、男性の 50 代と女性の 40 代から 50 代で、取り残されたように  
 「感じる」という者が他の年齢層に比べ多くなっている。一方、男女とも 10 代では「感じない」（男  
 性 68.2%、女性 60.4%）という者が 6 割を上回っている。

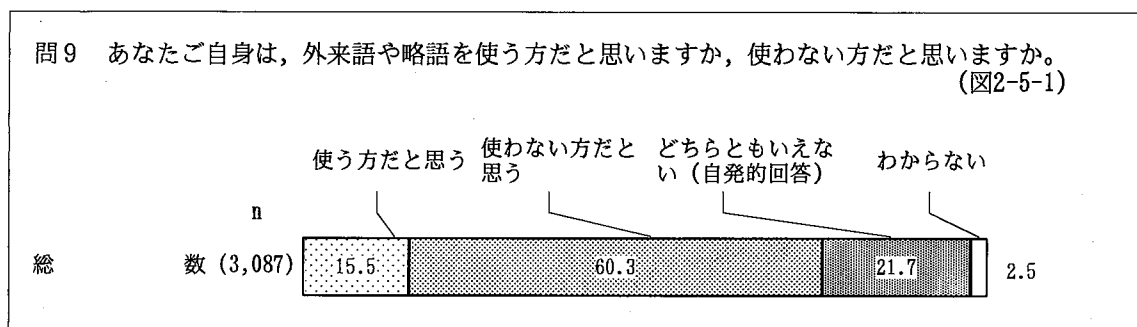
職業別にみると（図 2-4-2）、主婦層で「感じる」（30.5%）という者が 3 割程度いる。一方、「感  
 じない」という者は管理職（63.0%）、学生（60.4%）、その他の無職（59.2%）、農林水産業  
 （58.0%）で 6 割前後である。

図 2-4-2 分からない外来語や略語が使われていたときの気持ち  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\* 「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 5 外来語や略語の使用



自分自身は、外来語や略語を「使う方だと思う」という者は 15.5%で、「使わない方だと思う」(60.3%) という者が6割を占める (図 2-5-1)。

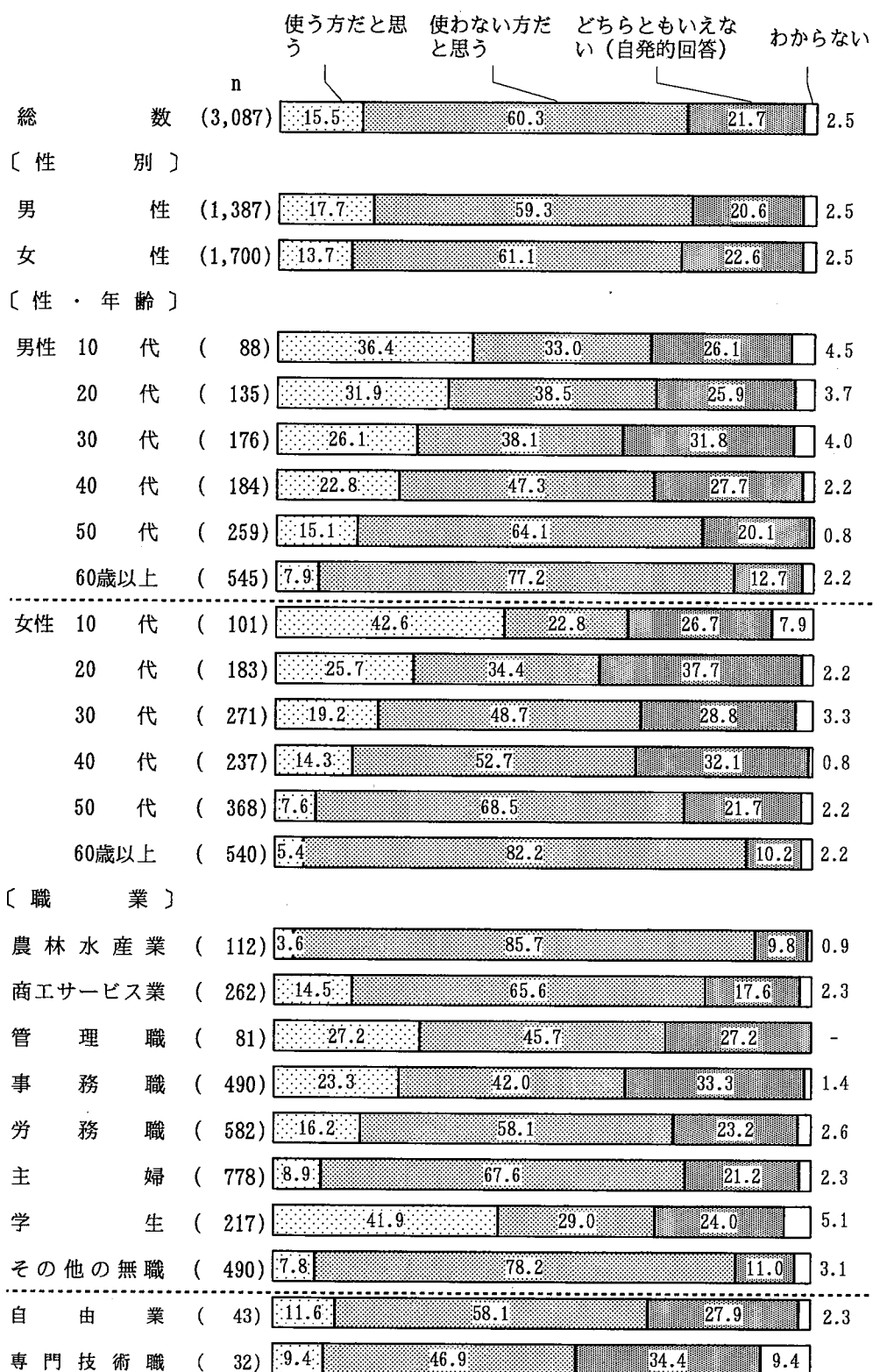
性別にみると (図 2-5-2) , 外来語や略語を「使う方だと思う」者 (男性 17.7%, 女性 13.7%) は、女性より男性にやや多くなっている。

性・年齢別にみると (図 2-5-2) , 外来語や略語を「使う方だと思う」者は、男女とも若年層ほど多く、特に 10 代 (男性 36.4%, 女性 42.6%) では4割前後である。一方、男女とも高齢層ほど、外来語や略語を「使わない方だと思う」という者が多くなり、60 歳以上 (同 77.2%, 82.2%) では8割前後となっている。

職業別にみると (図 2-5-2) , 学生の 41.9%は、外来語や略語を「使う方だと思う」と答えている。これに対して、農林水産業では 85.7%と大多数が、外来語や略語は「使わない方だと思う」と答えている。

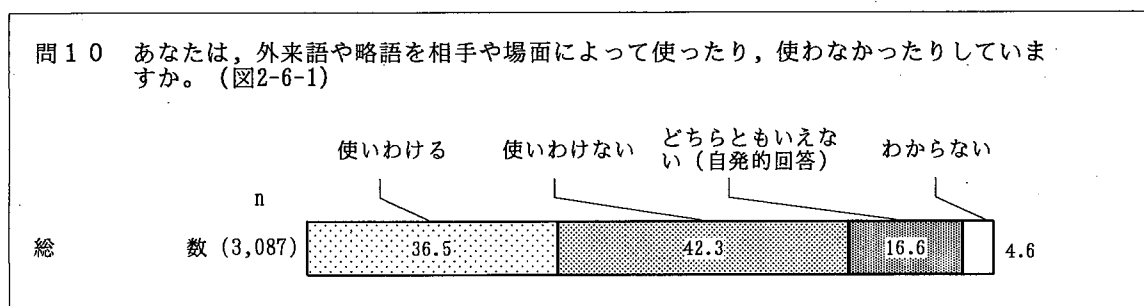


図 2-5-2 外来語や略語の使用 (性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 6 外来語や略語の使い分け



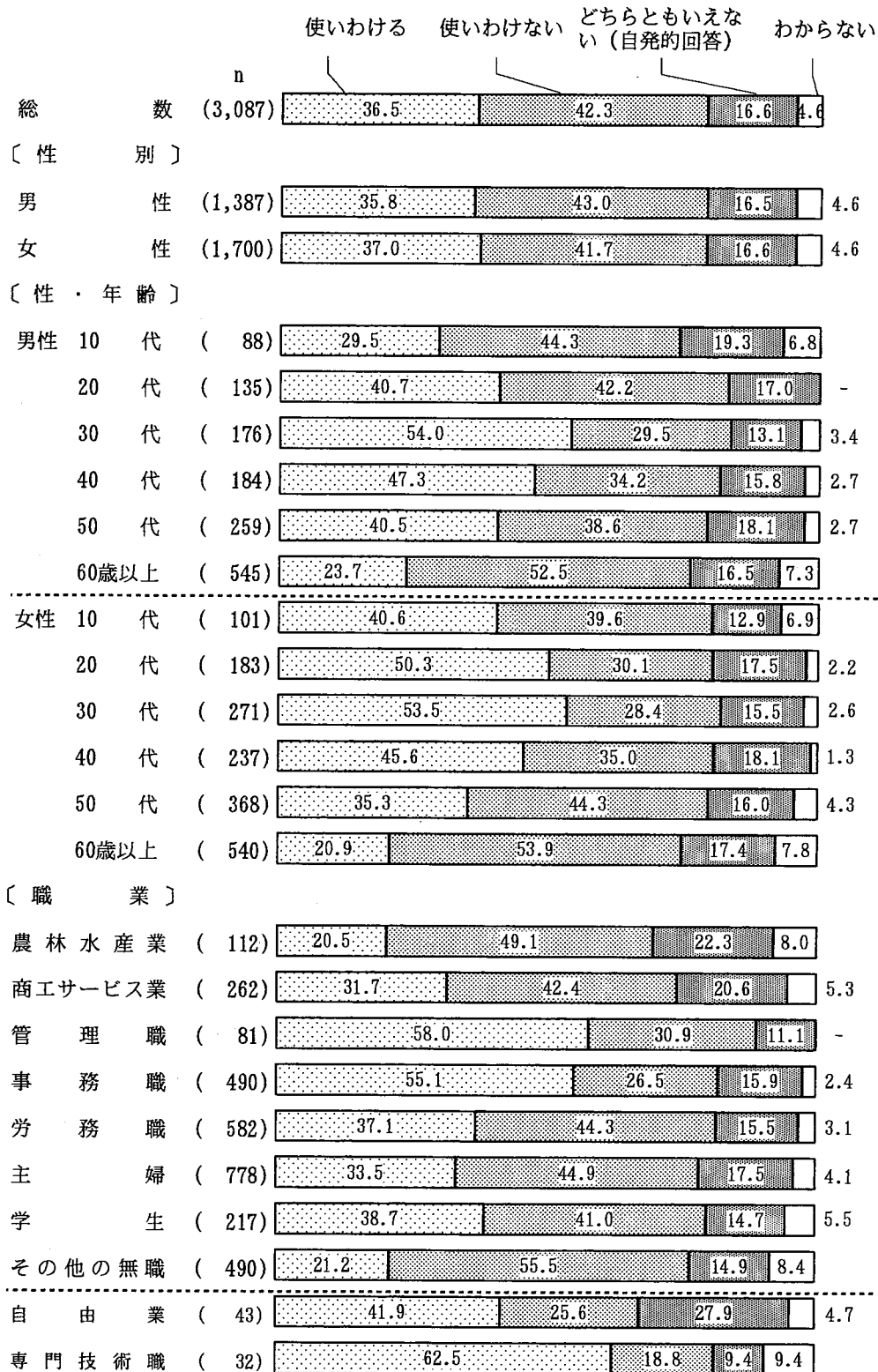
相手や場面によって外来語や略語を「使いわける」という者は 36.5%で、「使いわけない」(42.3%)という者が約6ポイント多くなっている(図2-6-1)。

性別にみると(図2-6-2)、外来語や略語の使い分けに大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図2-6-2)、相手や場面によって「使いわける」という者は男性の30代から40代と、女性の20代から30代で5割前後である。

職業別にみると(図2-6-2)、相手や場面によって「使いわける」者は、管理職(58.0%)と事務職(55.1%)の過半数である。一方、その他の無職では、「使いわけない」者が55.5%となっている。

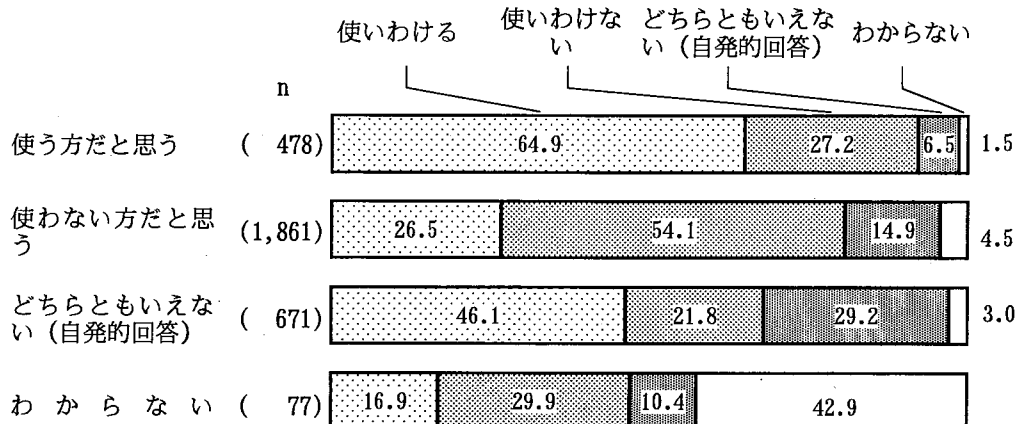
図 2-6-2 外来語や略語の使いわけ (性別, 性・年齢別, 職業別)



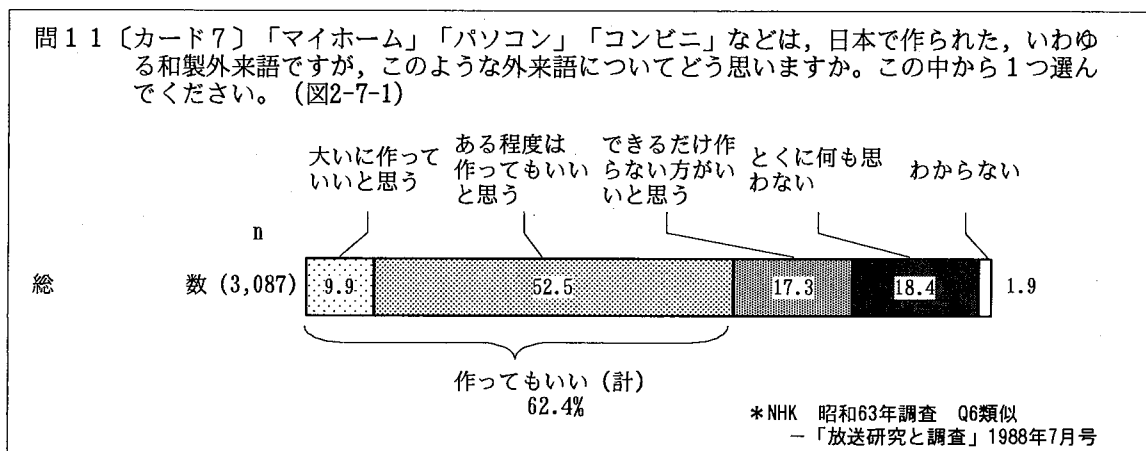
\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

さらに外来語や略語の使用状況別にみると（図 2-6-3），自分自身が外来語や略語を使う方だと認識している者のほぼ3人に2人は，相手や場面によって「使いわける」（64.9%）と答えている。これに対して，自分は外来語や略語を使わない方だと思っている者のうち「使いわけ」ているという者は26.5%で，過半数は「使いわけない」（54.1%）と答えている。

図 2-6-3 外来語や略語の使いわけ（外来語や略語の使用状況別）



## 7 和製外来語について



「マイホーム」「パソコン」「コンビニ」など，日本で作られたいわゆる和製外来語についての意見を聞いた（図 2-7-1）。

「大いに作っていいと思う」（9.9%）と積極的に肯定する者は1割で，「ある程度は作ってもいいと思う」（52.5%）という者を合わせると，『作ってもいい』とする者が6割を上回る。

一方，「できるだけ作らない方がいいと思う」という者は17.3%で，「とくに何も思わない」（18.4%）者が2割弱である。

性別にみると（図 2-7-2），和製外来語を「大いに作っていいと思う」（男性 10.6%，女性 9.4%）という者に男女差はみられないが、「ある程度は作ってもいいと思う」（同 49.6%，54.9%）という者は女性で5割を上回り，男性より5ポイント多くなっている。

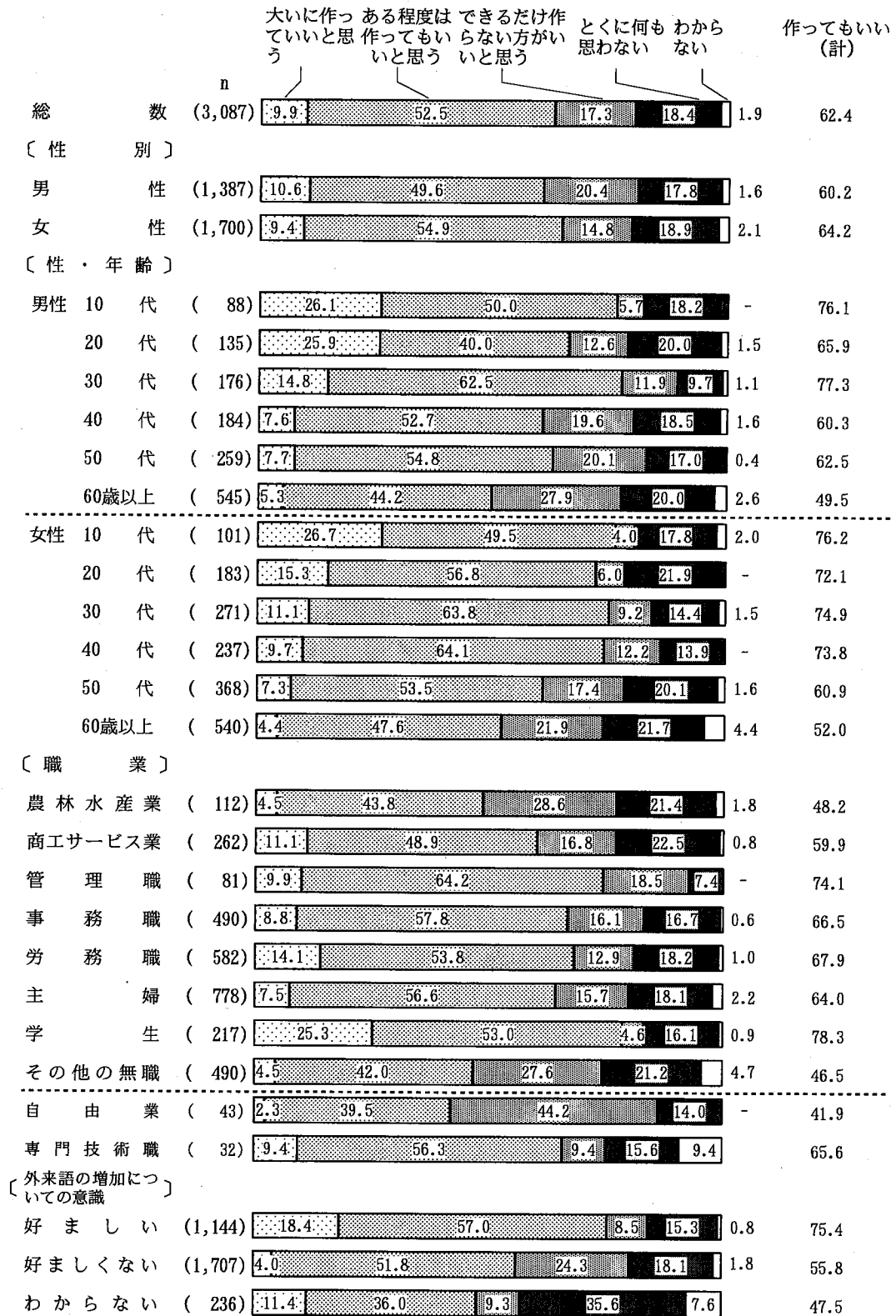
性・年齢別にみると（図 2-7-2），和製外来語を「大いに作っていいと思う」者は，男女とも若年層に多く，特に男性の10代から20代と女性の10代では，ほぼ4人に1人が積極的に肯定している。和製外来語を「大いに作っていいと思う」者に「ある程度は作ってもいいと思う」者を合わせた，和製外来語を『作ってもいい』という容認派は，男性の10代と30代，女性の10～40代で，それぞれ7割を上回っている。

職業別にみると（図 2-7-2），学生は25.3%が和製外来語を「大いに作っていいと思う」と，積極的に肯定しており，「ある程度は作ってもいいと思う」者（53.0%）を合わせると，8割近くが和製外来語を『作ってもいい』（78.3%）と考えている。また，管理職で「大いに作っていいと思う」（9.9%）という者は1割であるが，「ある程度は作ってもいいと思う」者が64.2%にのぼり，7割以上の者が和製外来語を作ることを肯定している。

さらに外来語の増加についての意識別にみると（図 2-7-2），外来語が増えることを好ましいと感じている者の2割弱は，和製外来語を「大いに作っていいと思う」（18.4%）と考えており，「ある程度は作ってもいいと思う」者（57.0%）を合わせると，和製外来語に肯定的な者が7割を上回っている。これに対して，外来語が増加することは好ましくないという者で，和製外来語を「大いに作っていい」と積極的に肯定する者は4.0%にとどまり，4人に1人は和製外来語を「できるだけ作らない方がいいと思う」と考えている。

図 2-7-2 和製外来語について

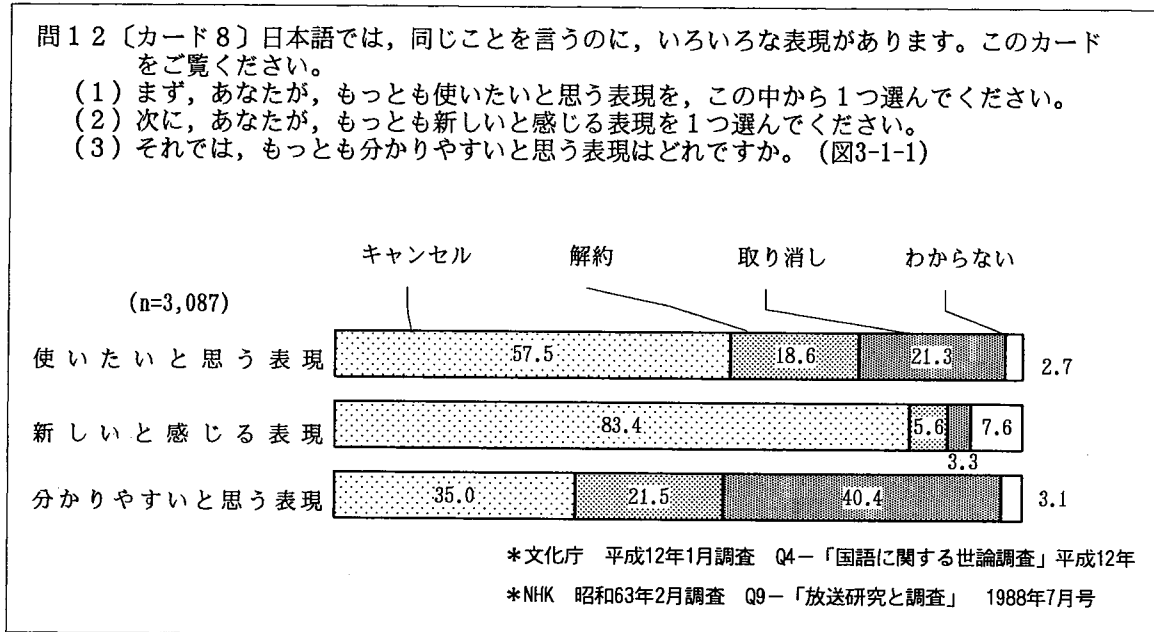
(性別, 性・年齢別, 職業別, 外来語の増加についての意識別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が9人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

### 第3章 「漢語」や「和語」などについての意識

#### 1 “キャンセル” “解約” “取り消し”



“キャンセル” “解約” “取り消し” といった3つの表現のうち、もっとも使いたいと思う表現を聞いたところ (図 3-1-1) , 「キャンセル」が 57.5%でもっとも多く、次いで「取り消し」 (21.3%) , 「解約」 (18.6%) の順であった。

同じ3つの表現のうち、もっとも新しいと感じる表現としても「キャンセル」が 83.4%で際立って多く、「解約」 (5.6%) と「取り消し」 (3.3%) を大きく上回っている (図 3-1-1) 。

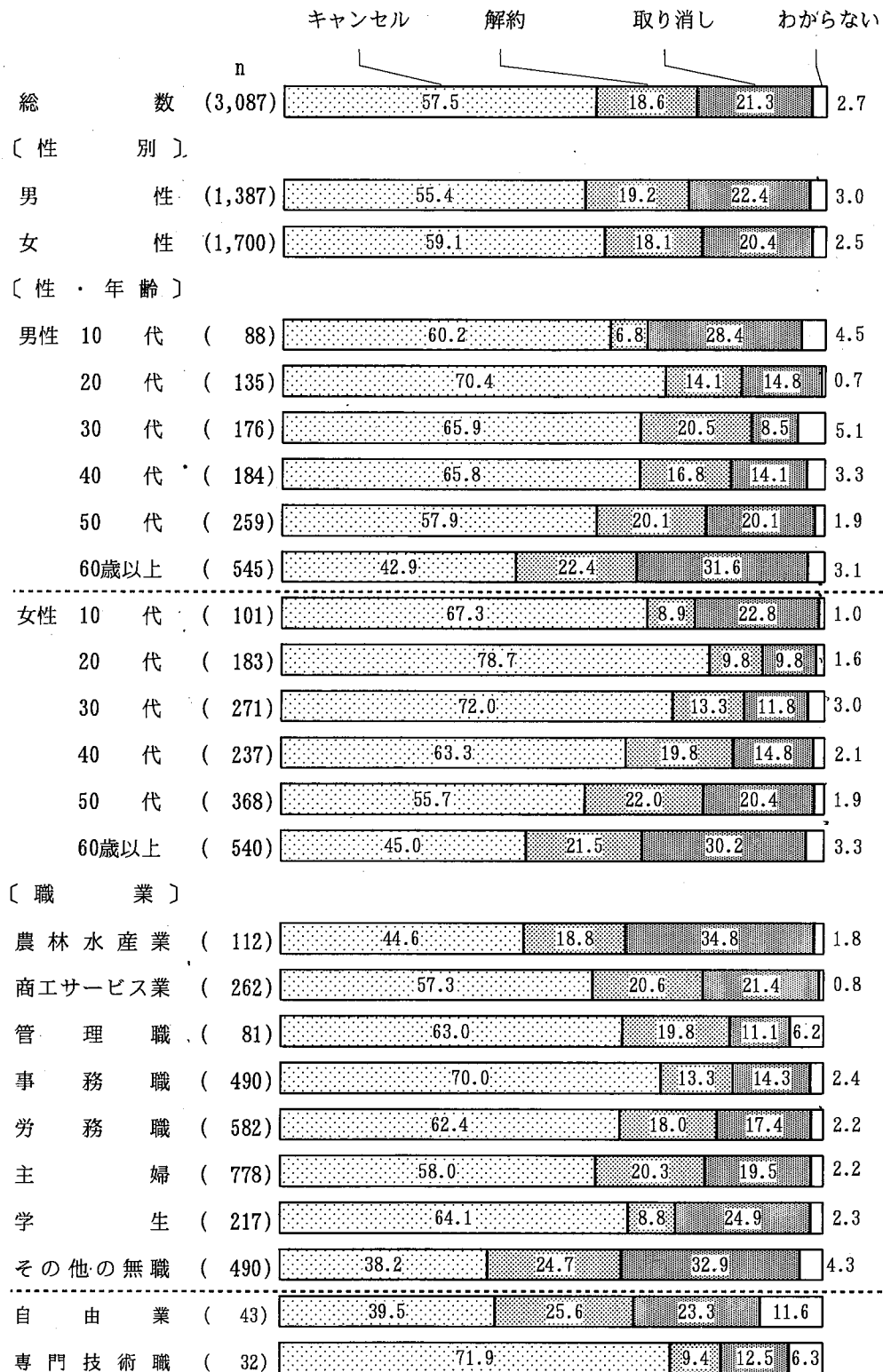
さらに、もっとも分かりやすいと思う表現を聞いたところ (図 3-1-1) , 「取り消し」が 40.4%でもっとも多くなり、次いで「キャンセル」 (35.0%) , 「解約」 (21.5%) の順であった。

“キャンセル” “解約” “取り消し” のうち、もっとも使いたいと思う表現を男女別にみると (図 3-1-2) , 「キャンセル」 (男性 55.4% , 女性 59.1%) が男女とも5割を上回って、もっとも多くあげられている。

性・年齢別にみると (図 3-1-2) , いずれの性・年齢層でも「キャンセル」が、もっとも使いたいと思う表現として多くあげられているが、男女とも 60 歳以上の年齢層では「取り消し」 (男性 31.6% , 30.2%) をあげる者が3割強と、他の年齢層より多くなっている。

職業別にみると (図 3-1-2) , いずれの職業でも「キャンセル」が支持されており、特に事務職 (70.0%) , 学生 (64.1%) , 管理職 (63.0%) , 労務職 (62.4%) で、もっとも使いたい表現としてあげる者の割合が高くなっている。一方、農林水産業とその他の無職では、「取り消し」 (農林水産業 34.8% , 無職 32.9%) を使いたいと思う者の割合が、その他の職業に比べて高い。

図 3-1-2 “キャンセル” “解約” “取り消し” —もっとも使いたい表現  
(性別、性・年齢別、職業別)



\* 「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。



次に，“キャンセル”“解約”“取り消し”のうち，もっとも新しいと感じる表現について性別にみると（図 3-1-3），男女とも「キャンセル」（男性 80.8%，女性 85.6%）が8割を上回り，女性の方が男性より5ポイント多くなっている。

性・年齢別にみても（図 3-1-3），いずれの層でも「キャンセル」をあげる者が際立って多く，大きな差はみられないが，男性の10代で「解約」をあげる者が13.6%と，他の性・年齢層よりやや多くなっている。

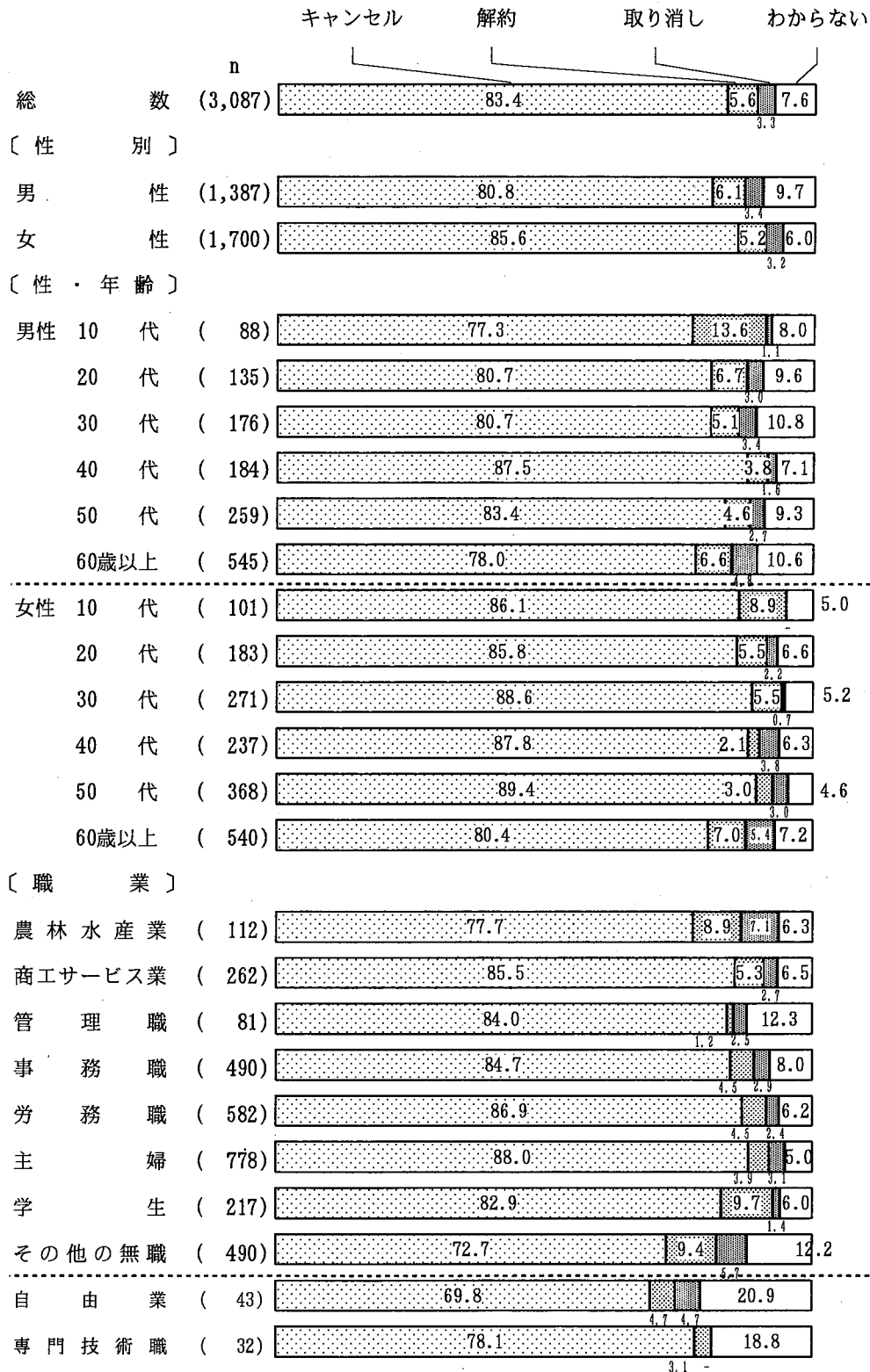
職業別にみても（図 3-1-3），いずれの職業でも「キャンセル」をあげる者が多数を占める。

さらに，“キャンセル”“解約”“取り消し”のうち，もっとも分かりやすいと思う表現を性別にみると（図 3-1-4），男女とも「取り消し」（男性 39.2%，女性 41.3%），「キャンセル」（同 35.3%，34.7%），「解約」（同 21.8%，21.3%）の順となっており，男女差はみられない。

性・年齢別にみると（図 3-1-4），男性の10代から40代，女性の10代から20代と40代では，もっとも分かりやすい表現として「取り消し」よりも「キャンセル」をあげる者が多くなっているが，男性の50歳以上と女性の30代と50歳以上では，「キャンセル」よりも「取り消し」をあげる者の方が多い。

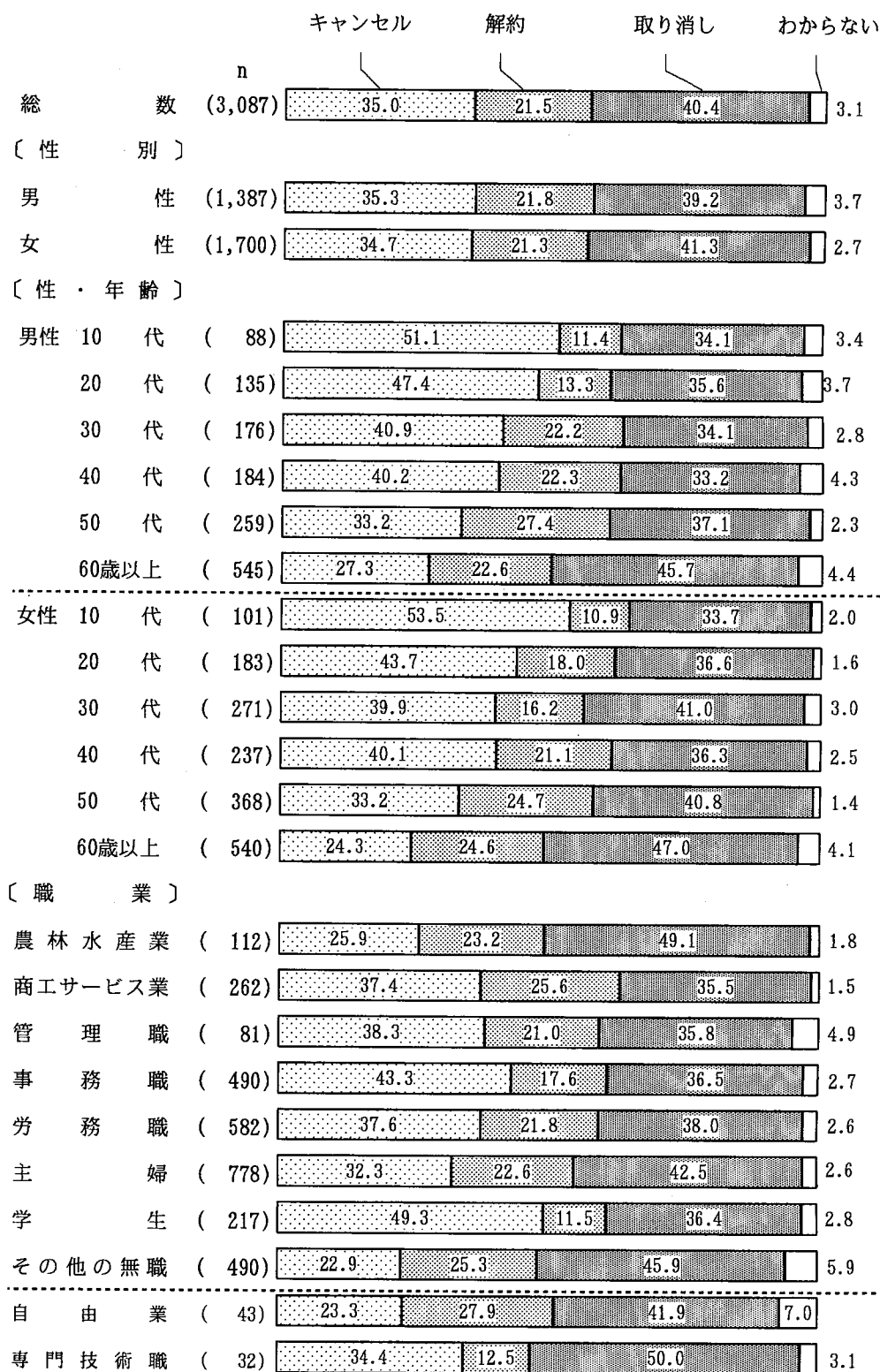
職業別にみると（図 3-1-4），「取り消し」は，農林水産業（49.1%）とその他の無職（45.9%），主婦（42.5%）で，「キャンセル」は学生（49.3%）と事務職（43.3%）で，もっとも分かりやすい表現としてあげる者が多くなっている。また，商工サービス業と管理職，労務職では，「取り消し」（商工サービス 37.4%，管理職 35.8%，労務職 38.0%）と「キャンセル」（同 35.5%，38.3%，37.6%）をあげる者の割合がともに4割弱と，差が小さい。

図 3-1-3 “キャンセル” “解約” “取り消し” —もっとも新しいと感じる表現  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



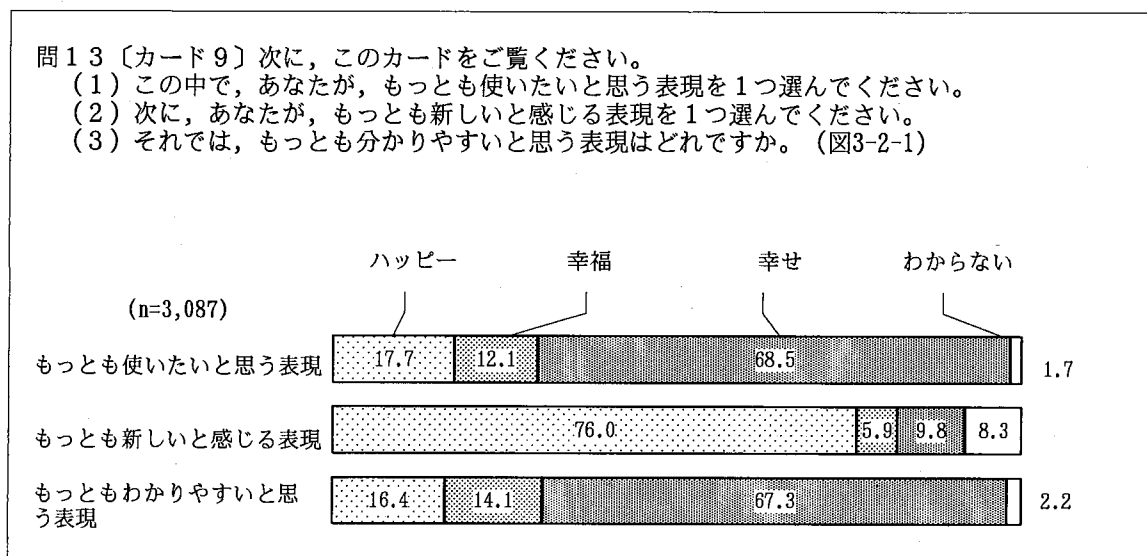
\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外して

図 3-1-4 “キャンセル” “解約” “取り消し” —もっとも分かりやすいと思う表現  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\* 「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 2 “ハッピー” “幸福” “幸せ”



次いで、「ハッピー」「幸福」「幸せ」という3つの表現についての意識を聞いた(図3-2-1)。

まず、もっとも使いたいと思う表現としては、「幸せ」が68.5%ともっとも多く、「ハッピー」(17.7%)と「幸福」(12.1%)を50ポイント以上上回っている。

もっとも新しいと感じる表現としては、「ハッピー」を76.0%があげ、多数を占める。

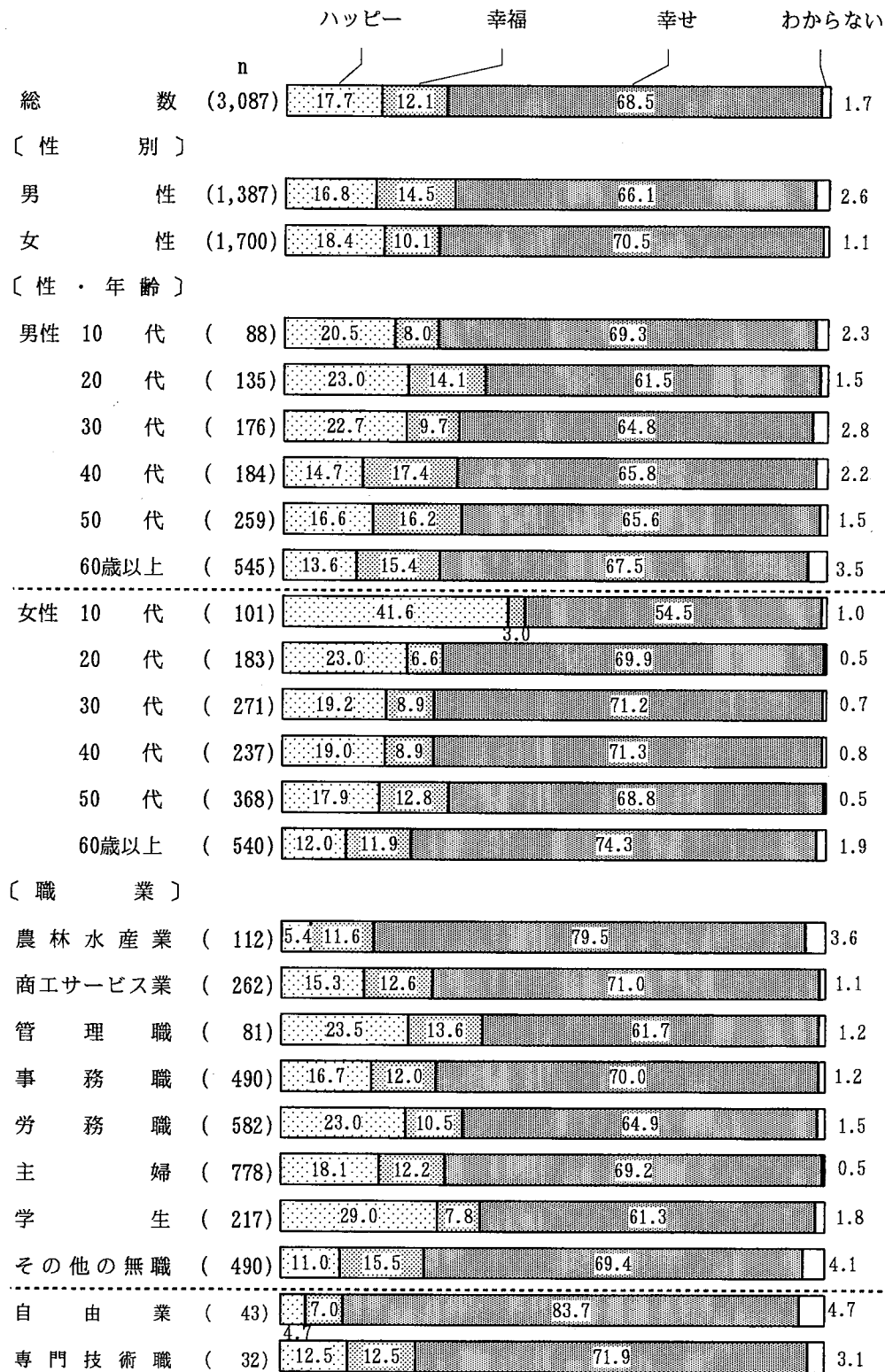
さらに、もっとも分かりやすいと思う表現としては、「幸せ」が67.3%であった。

“ハッピー” “幸福” “幸せ”のうち、もっとも使いたいと思う表現について、性別にみると(図3-2-2)、男女とも「幸せ」(男性66.1%、女性70.5%)、「ハッピー」(同16.8%、18.4%)、「幸福」(同14.5%、10.1%)の順となっており、大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図3-2-2)、いずれの層でも「幸せ」を使いたいと思う者が6割を上回っているが、女性の10代では「ハッピー」をあげる者が41.6%と、他の性・年齢層よりも多くなっている。

職業別にみると(図3-2-2)、農林水産業で「幸せ」をもっとも使いたいと思う者が79.5%と、他の職業層よりも多くなっている。一方、学生の3割は、「ハッピー」(29.0%)を使いたいと思っている。

図 3-2-2 “ハッピー” “幸福” “幸せ” —もっとも使いたいと思う表現  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

次に，“ハッピー” “幸福” “幸せ”のうち、もっとも新しいと感じる表現を男女別にみると（図 3-2-3），男女とも「ハッピー」（男性 72.1%，女性 79.1%）をあげる者がもっとも多くなっており、特に女性ではほぼ8割と多数を占める。

性・年齢別にみると（図 3-2-3），すべての層で「ハッピー」をもっとも新しいと感じている者が多くなっているが、男女とも 60 歳以上になると「幸せ」（男性 13.4%，女性 12.6%）を新しい表現としてあげる者が、それぞれ1割以上いる。

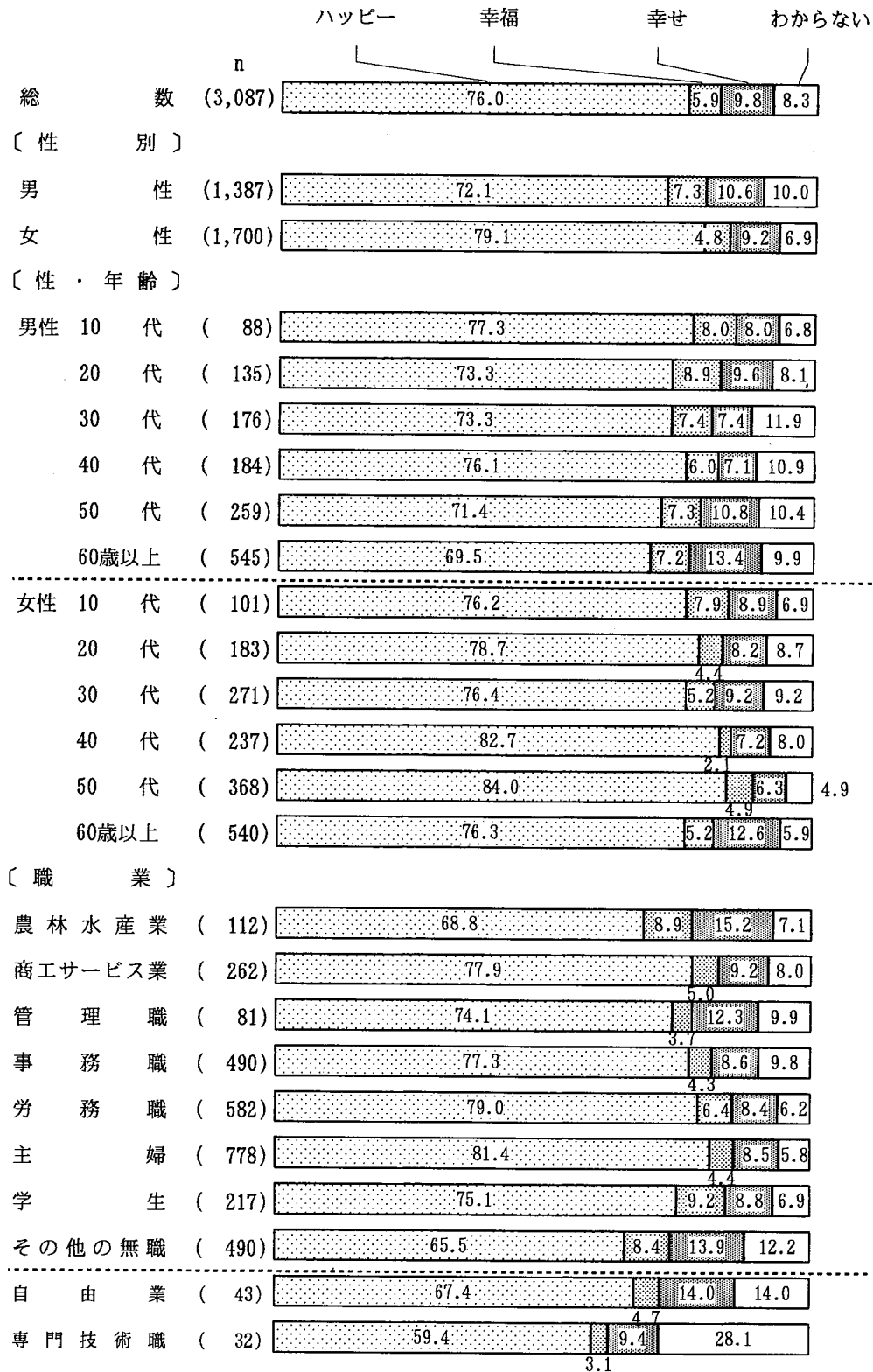
職業別にみても（図 3-2-3），いずれの職業でも「ハッピー」を新しい表現としてあげる者がもっとも多くなっているが、農林水産業や学生、その他の無職の層で「幸せ」（農林水産業 15.2%，無職 13.9%）が新しいという者が、やや多くなっている。

さらに，“ハッピー” “幸福” “幸せ”のうち、もっとも分かりやすいと思う表現を性別にみると（図 3-2-4），男女とも「幸せ」（男性 65.2%，女性 69.1%）という者が7割近くを占めている。

性・年齢別にみると（図 3-2-4），女性の 20 代から 30 代で「幸せ」という表現が分かりやすいという者の割合が7割を超えて、高くなっている。また、女性の 10 代では、ほぼ4人に1人が「ハッピー」（23.8%）を分かりやすい表現としてあげている。

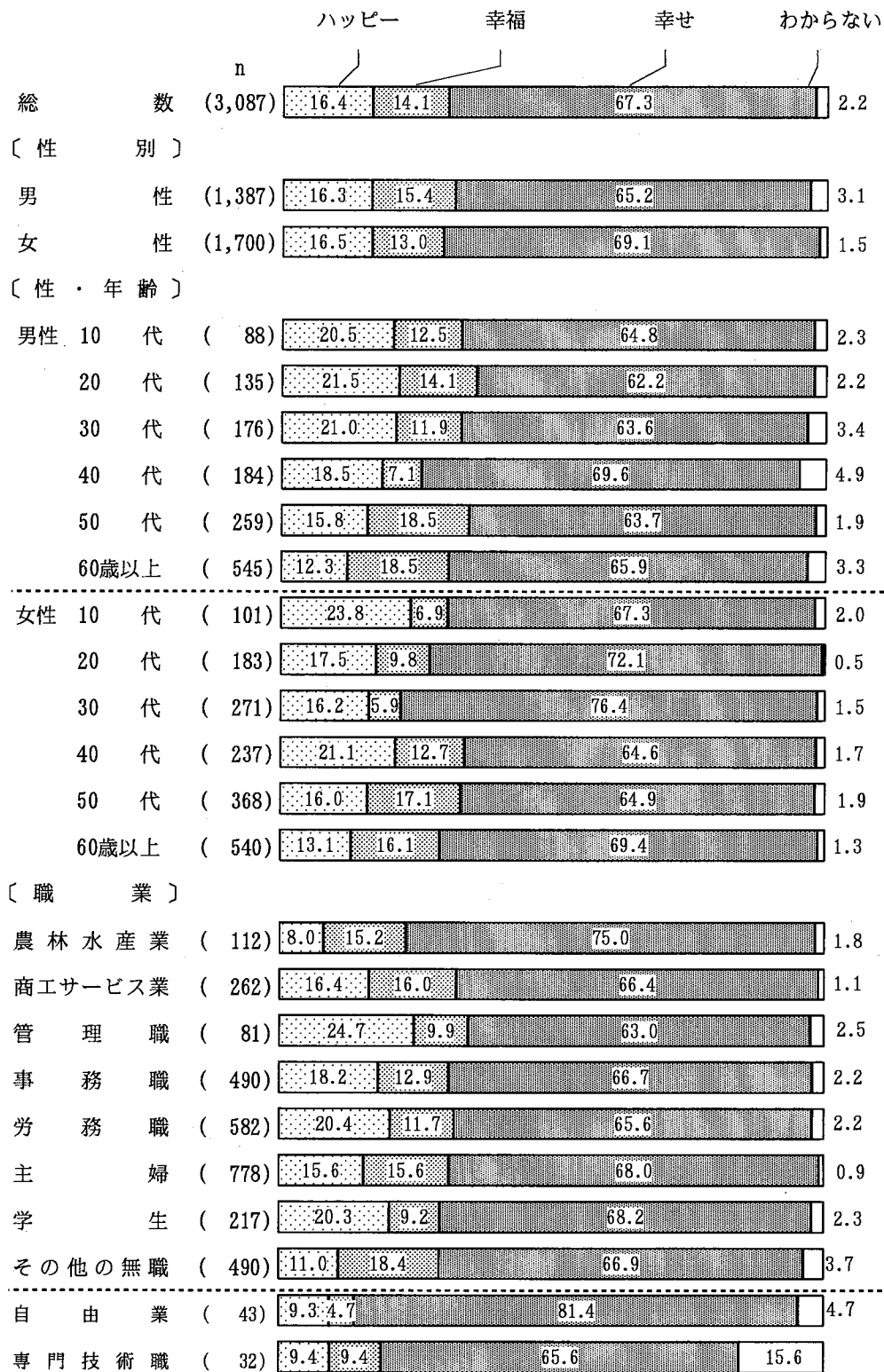
職業別にみると（図 3-2-4），農林水産業の 75.0%は「幸せ」が、もっとも分かりやすいと答えている。一方、管理職では「ハッピー」（24.7%）を分かりやすいと思う者が、他の職業層に比べやや多くなっている。

図 3-2-3 “ハッピー” “幸福” “幸せ” —もっとも新しいと感じる表現  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

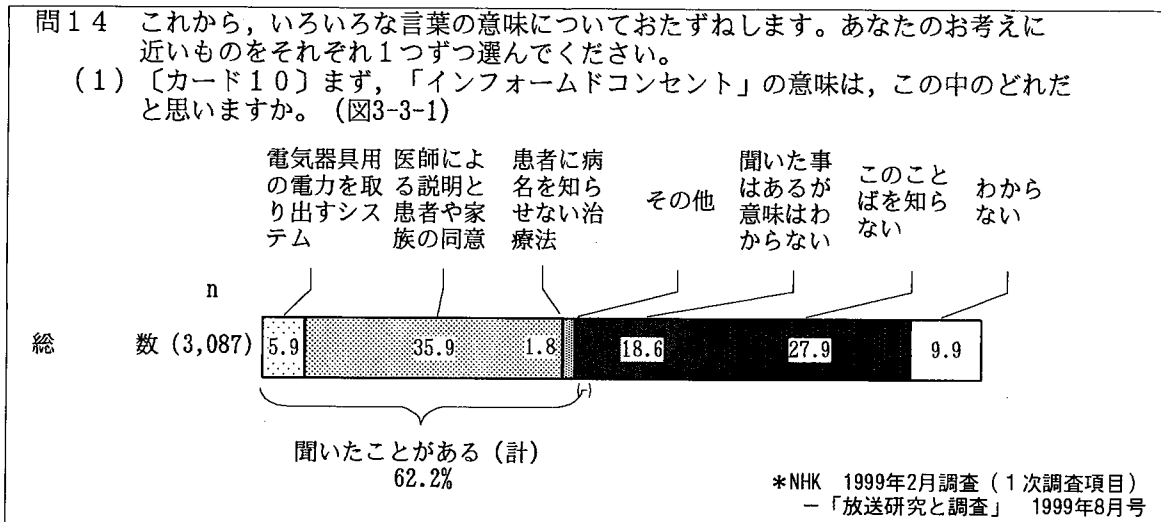
図 3-2-4 “ハッピー” “幸福” “幸せ” —もっとも分かりやすいと思う表現  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。



### 3 外来語の正確な理解



外来語の意味を正確に理解しているかどうかを、“インフォームドコンセント” “マルチメディア” “ライフライン” “ケア” の4つの言葉をあげて聞いた (図 3-3-1)。

まず、“インフォームドコンセント” の意味として、「医師による説明と患者や家族の同意」と正しく答えた者は 35.9% で、2割弱は「聞いたことはあるが意味は分からない」 (18.6%) と答えている。

「この言葉を知らない」 (27.9%) という者は、3割近い。

“インフォームドコンセント” の意味を性別にみると (図 3-3-2) 、意味の理解度に男女差はみられない。

性・年齢別にみると (図 3-3-2) 、 “インフォームドコンセント” の意味を正しく理解している者の割合は、男女とも 30代から 40代で5割前後である。

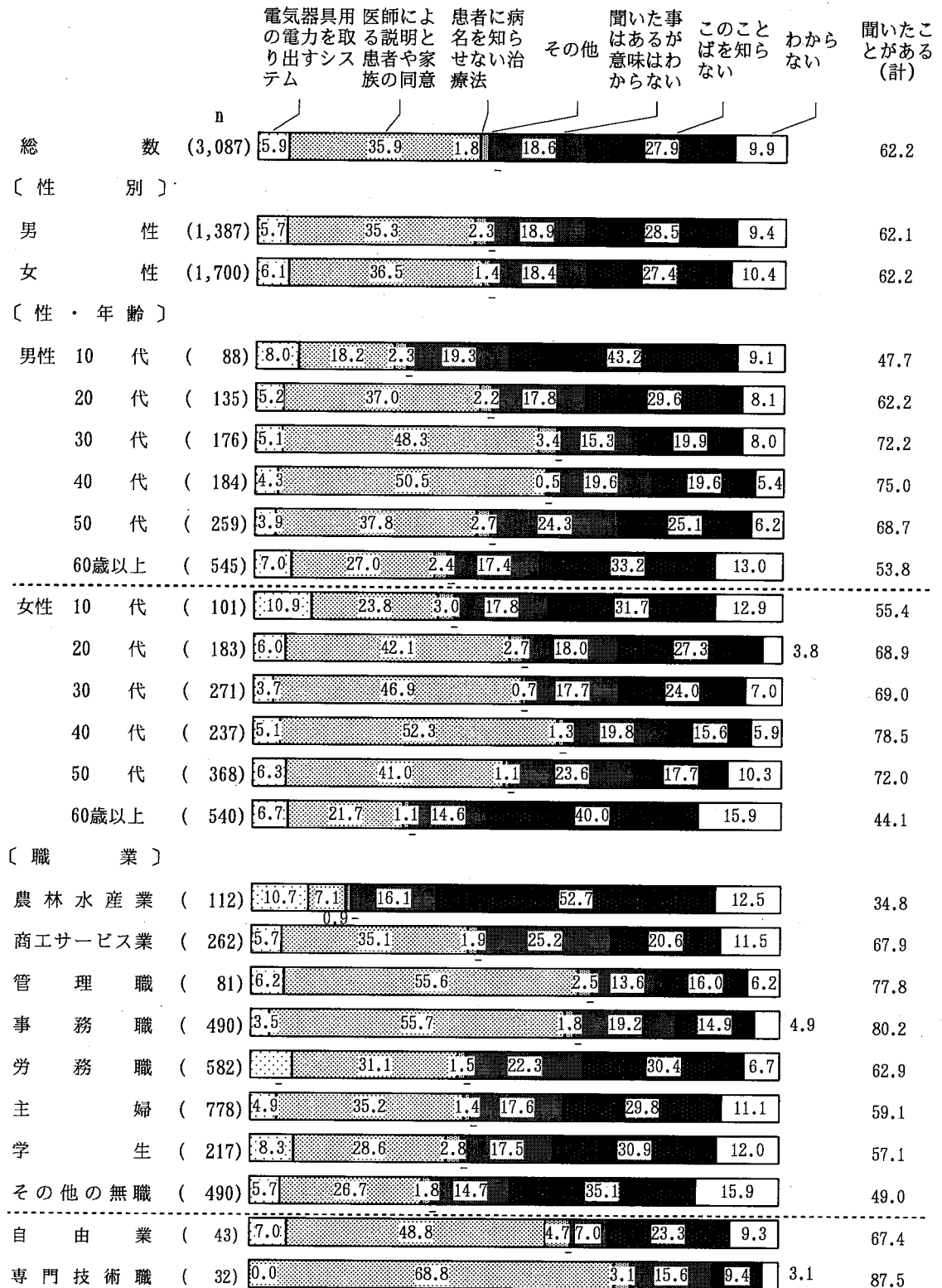
「この言葉を知らない」という者は、男性の 10代 (43.2%) と女性の 60歳以上 (40.0%) で4割台、男性の 60歳以上 (33.2%) と女性の 10代 (31.7%) で3割台となっている。

職業別にみると (図 3-3-2) 、 “インフォームドコンセント” の意味を正しく理解している者は、管理職 (55.6%) と事務職 (55.7%) で過半数となっている。

一方、農林漁業の過半数の者は、「この言葉を知らない」 (52.7%) と答えている。

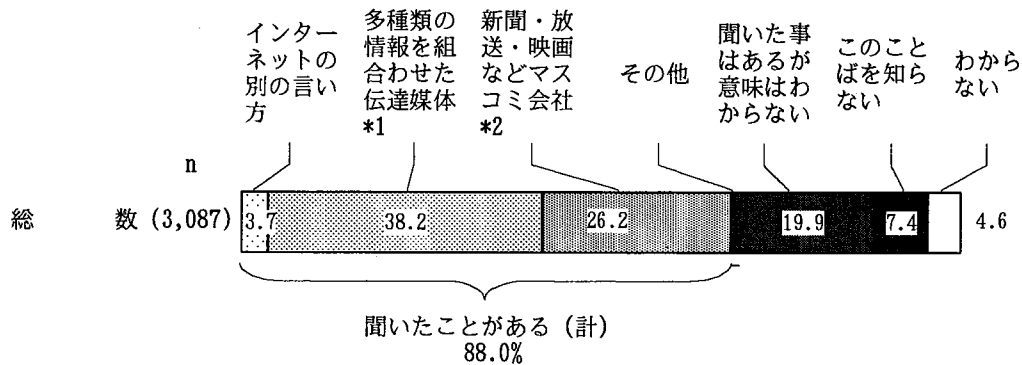
図 3-3-2 “インフォームドコンセント”の意味

(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

問14 これから、いろいろな言葉の意味についておたずねします。あなたのお考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。  
 (2) [カード11]では、「マルチメディア」の意味は、どれでしょうか。(図3-3-3)



\*1 音声・文字・映像など多種類の情報を組み合わせた伝達媒体  
 \*2 新聞・出版・放送・映画などマスコミの会社

\*NHK 1999年2月調査 (1次調査項目)  
 - 「放送研究と調査」 1999年8月号

次に、「マルチメディア」の意味を聞いたところ (図 3-3-3)、「音声・文字・映像など多種類の情報を組み合わせた伝達媒体」(38.2%)と、正しく答えた者は4割弱で、「新聞・出版・放送・映画などマスコミの会社」(26.2%)であると答えた者が3割近くいる。

「聞いたことはあるが意味は分からない」という者は19.9%、「この言葉を知らない」者は7.4%であった。

“マルチメディア”の意味を性別にみると (図 3-3-4)、「音声・文字・映像など多種類の情報を組み合わせた伝達媒体」(男性43.7%、女性33.8%)と正しく答えた者は、男性で4割を上回り、女性より約10ポイント多くなっている。一方、女性では「聞いたことはあるが意味は分からない」という者が22.6%と、男性より6ポイント多くなっている。

性・年齢別にみると (図 3-3-4)、男性の10代では、「マルチメディア」とは「新聞・出版・放送・映画などマスコミの会社」(44.3%)のことでありと回答した者が4割を超え、「音声・文字・映像など多種類の情報を組み合わせた伝達媒体」(35.2%)という正解を答えた者より多くなっている。

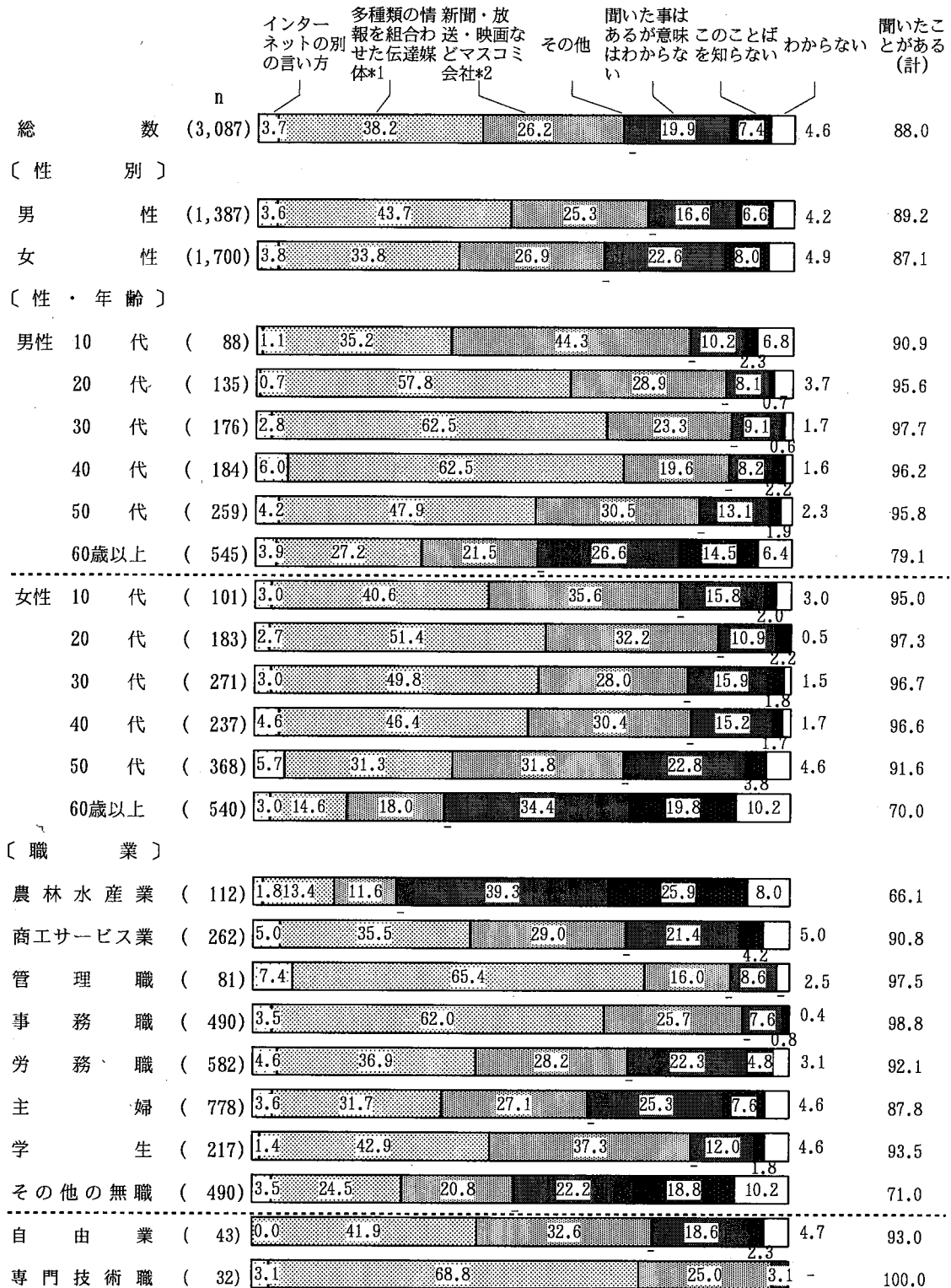
“マルチメディア”の意味を正しく理解している者は、男性の20代から40代で、6割前後と多くなっている。

職業別にみると (図 3-3-4)、「マルチメディア」の意味は、管理職(65.4%)と事務職(62.0%)で6割以上が正しく理解している。一方、学生では「音声・文字・映像など多種類の情報を組み合わせた伝達媒体」の42.9%に次いで、「新聞・出版・放送・映画などマスコミの会社」(37.3%)が4割弱と、その差が小さい。

「聞いたことはあるが意味は分からない」という者は、農林水産業で39.3%いる。

図 3-3-4 “マルチメディア” の意味

(性別、性・年齢別、職業別)

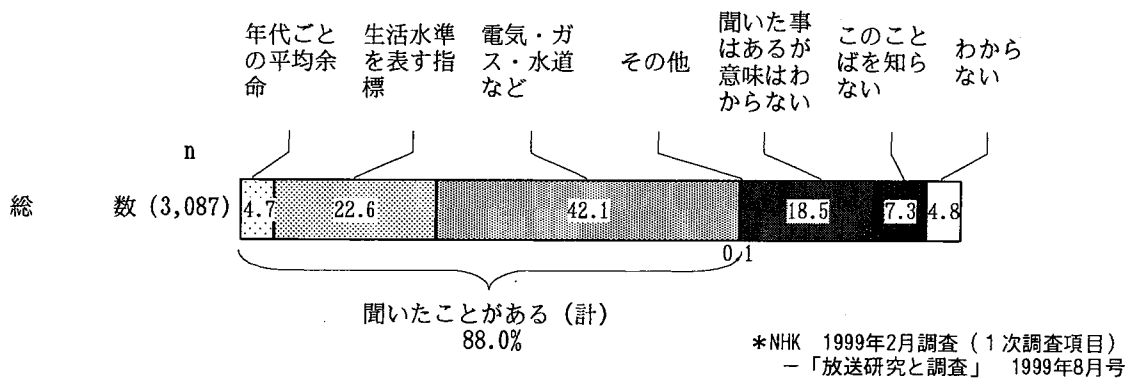


\*1 音声・文字・映像など多種類の情報を組み合わせた伝達媒体

\*2 新聞・出版・放送・映画などマスコミの会社

\* 「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

問14 これから、いろいろな言葉の意味についておたずねします。あなたのお考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。  
 (3)〔カード12〕「ライフライン」の意味は、どれだと思いますか。(図3-3-5)



“ライフライン”の意味を聞いたところ(図3-3-5)、「電気・ガス・水道など」と正しく答えた者は42.1%で、次いで「生活水準を表す指標」(22.6%)という者が2割強である。

「聞いたことはあるが意味は分からない」という者は18.5%、「この言葉を知らない」者は7.3%である。

“ライフライン”の意味について性別にみると(図3-3-6)、「電気・ガス・水道など」(男性49.6%、女性36.0%)と答えた正解者は男性でほぼ半数となっており、女性を14ポイント上回っている。一方、女性のほぼ4人に1人は、「生活水準を表す指標」(25.9%)と答えており、男性より7ポイント多い。「聞いたことはあるが意味は分からない」(男性16.4%、女性20.2%)という者も男性より女性に多くなっている。

性・年齢別にみると(図3-3-6)、男女とも10代で、“ライフライン”とは「生活水準を表す指標」(男性28.4%、女性31.7%)であると答えた者が3割前後で、「電気・ガス・水道など」(同29.5%、18.8%)と正しく答えた者の割合とほぼ同率が高くなっている。また、この年代では、“ライフライン”は「年代ごとの平均余命」(同14.8%、11.9%)であると答えた者が1割を上回っている。

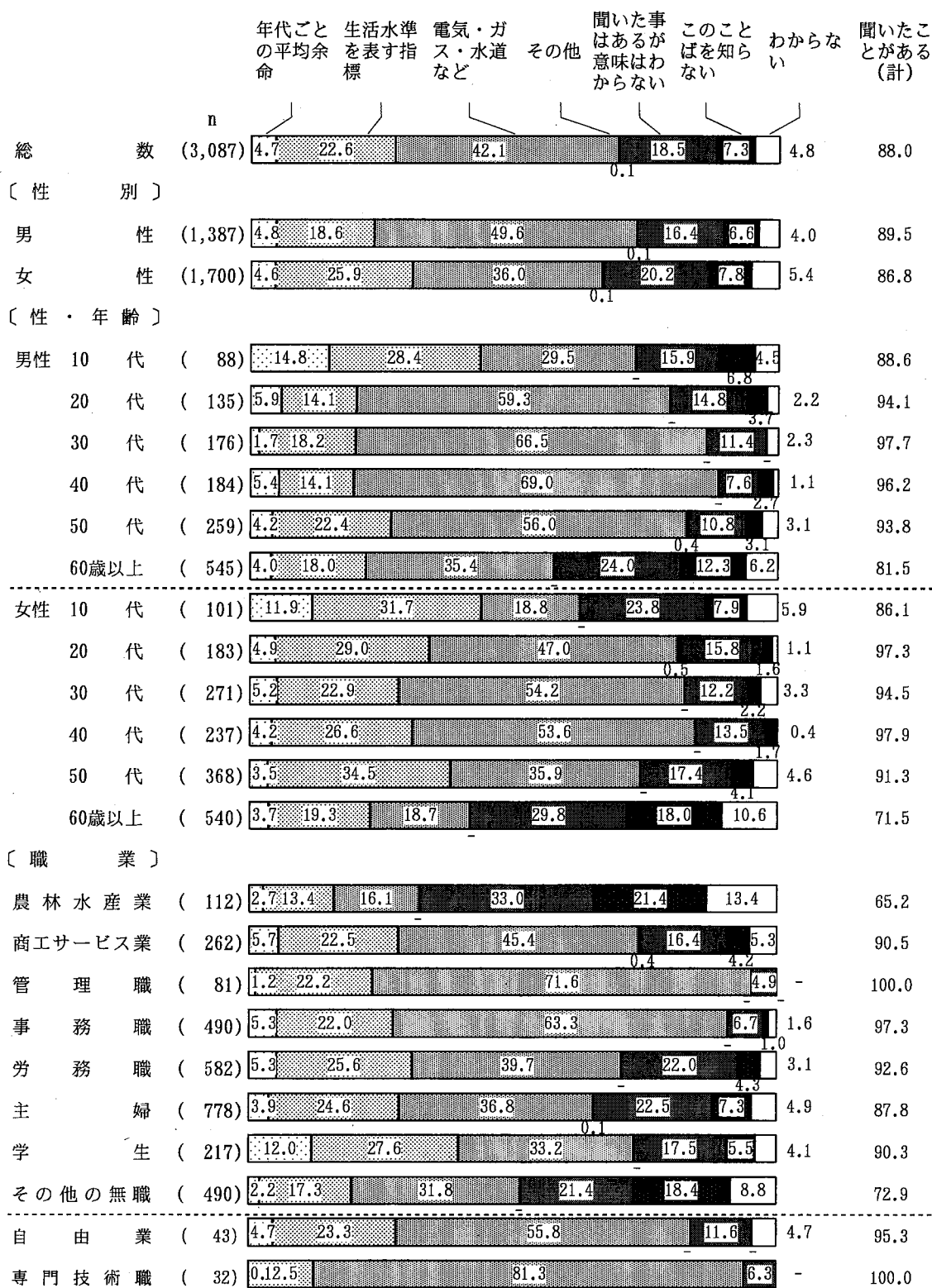
“ライフライン”の意味を正しく答えた者は、男性の30代から40代で7割弱と、目立って多くなっている。

一方、女性の60歳以上では、「聞いたことはあるが意味は分からない」(29.8%)という者が3割である。

職業別にみると(図3-3-6)，“ライフライン”の意味を正しく答えた者は、管理職で71.6%と多くなっている。学生の1割強は、「年代ごとの平均余命」(12.0%)と答え、回答が分散している。

また、農林水産業では「聞いたことはあるが意味は分からない」という者が33.0%いる。さらに、「この言葉を知らない」者は、農林漁業(21.4%)とその他の無職(18.4%)で2割前後である。

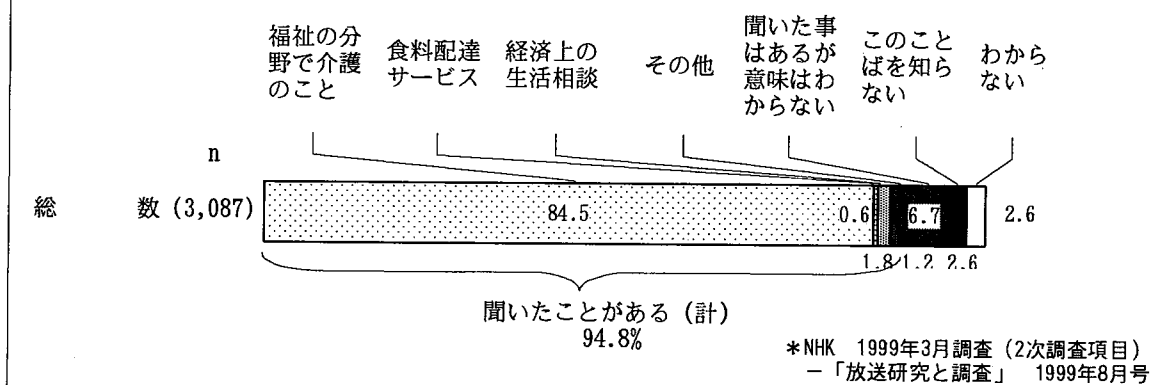
図 3-3-6 “ライフライン” の意味  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとめ、分析の対象からは外してある。

問14 これから、いろいろな言葉の意味についておたずねします。あなたのお考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

(4)〔カード13〕それでは、「ケア」の意味は、どれだと思えますか。(図3-3-7)



最後に、「ケア」の意味を聞いたところ (図 3-3-7)、「福祉の分野で介護のこと」と正しく答えた者が 84.5%で、この言葉の定着度がうかがえる。

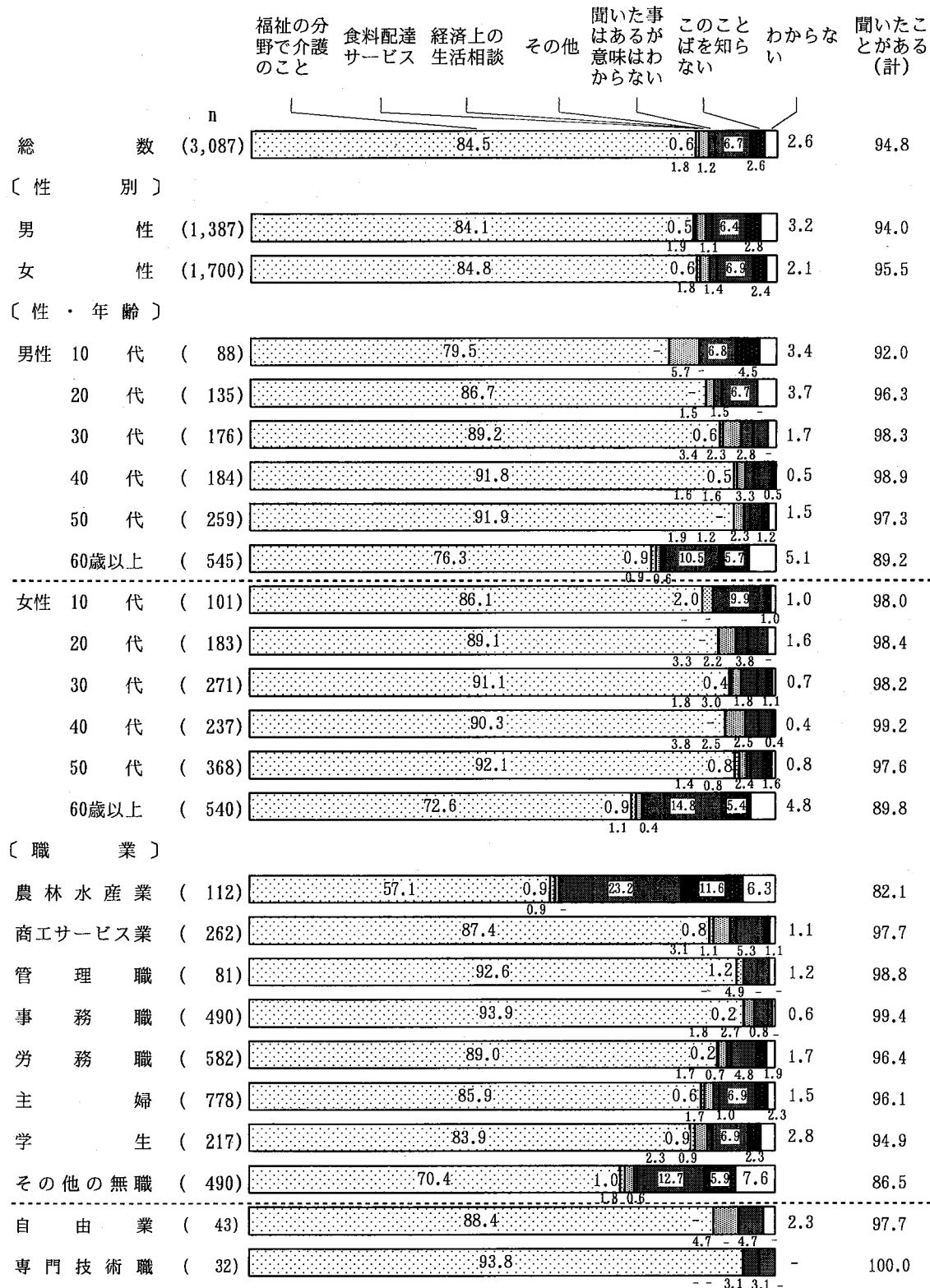
「聞いたことはあるが意味は分からない」という者は 6.7%、「この言葉を知らない」者は 2.6%である。

性別にみると (図 3-3-8)、「ケア」の意味の認識に男女差はみられない。

性・年齢別にみても (図 3-3-8)、いずれの層でも正解者が多数を占めているが、男女とも 60 歳以上になると「聞いたことはあるが意味は分からない」(男性 10.5%、女性 14.8%)という者が 1 割を超え、やや多くなっている。

職業別にみると (図 3-3-8)、農林水産業で「聞いたことはあるが意味は分からない」という者が 23.2%と、他の職業層に比べ多くなっている。

図 3-3-8 “ケア” の意味 (性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

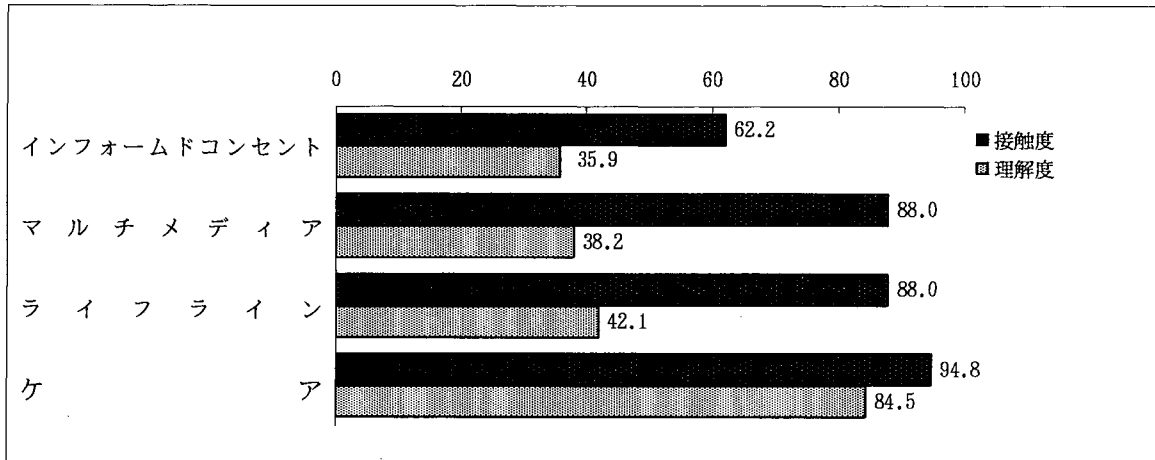


最後に、これまでにみた4つの外来語の接触度と理解度の差をみる（図3-3-9）。

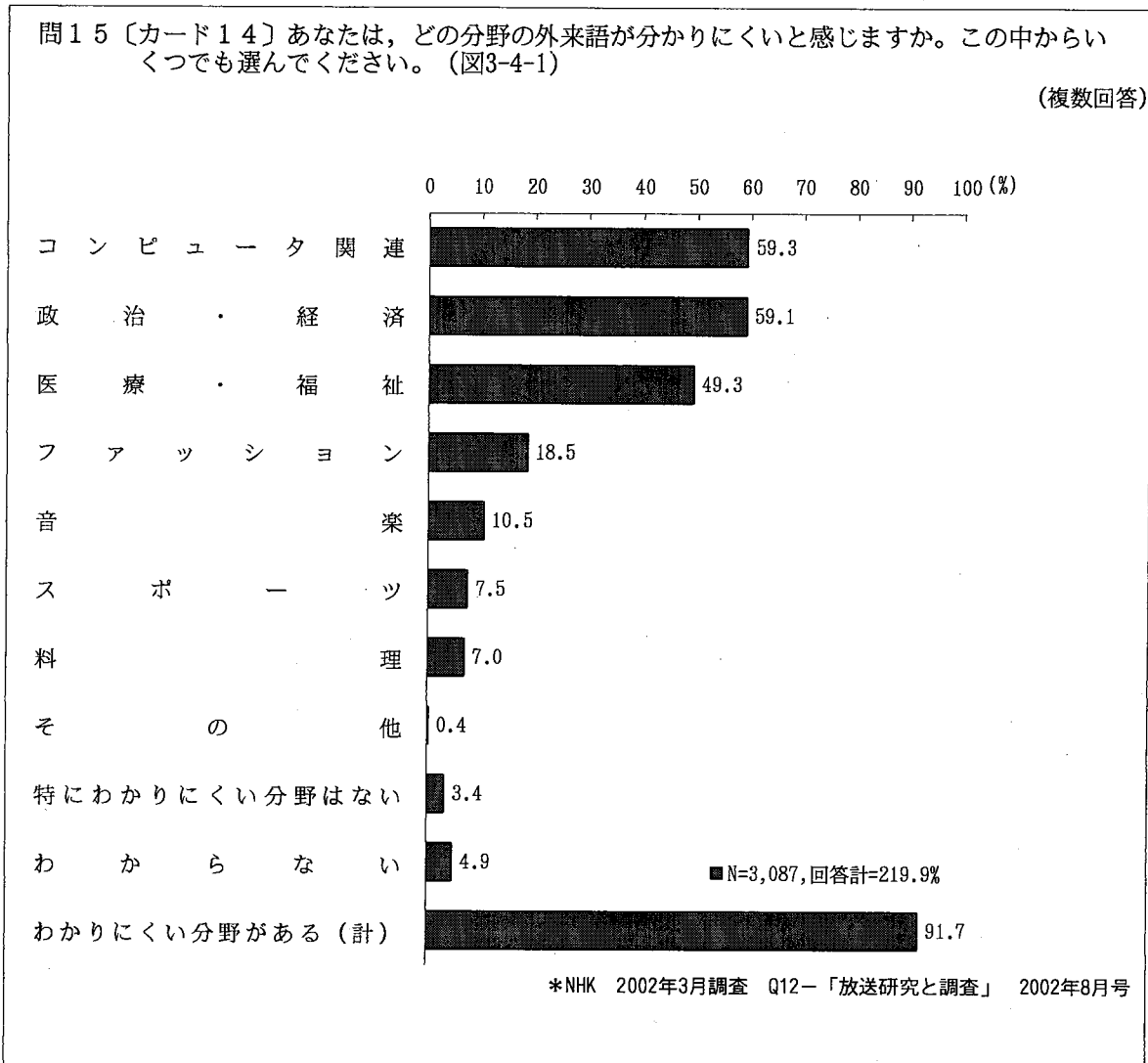
接触度がもっとも低いのは、“インフォームドコンセント”で62.2%であるが、その理解度は“マルチメディア”や“ライフライン”と比較すると、目立って低いものではない。

また、接触度がもっとも高い“ケア”（94.8%）は、言葉の理解度も84.5%と、言葉として定着しているものと思われる。

図 3-3-9 外来語の接触度と理解度



#### 4 外来語が分かりにくい分野



外来語が分かりにくい分野としては(図 3-4-1),「コンピュータ関連」(59.3%)と「政治・経済」(59.1%)がほぼ6割となっており,次いで「医療・福祉」が49.3%となっている。以下,「ファッション」(18.5%),「音楽」(10.5%),「スポーツ」(7.5%),「料理」(7.0%)の順となっている。

外来語が「特に分かりにくい分野はない」という者は3.4%で,9割以上は『「分かりにくい分野がある』と感じている。

性別にみると(表 3-4-1),男女とも「コンピュータ関連」(男性 53.6%,女性 63.9%)と「政治・経済」(同 53.3%,63.8%)が,ほぼ同率でもっとも高くなっており,いずれも女性が男性を10ポイント上回っている。次いで「医療・福祉」(同 48.7%,49.8%)は,男女とも5割で差はみられないが,「ファッション」(同 23.1%,14.8%)と「音楽」(同 12.0%,9.4%)は女性より男性の割合が高い。

性・年齢別にみると(表 3-4-1),「コンピュータ関連」は女性の20代から50代で,「政治・経

済」は男性の20代と女性の20代から40代で、それぞれ7割前後と多くあげられている。

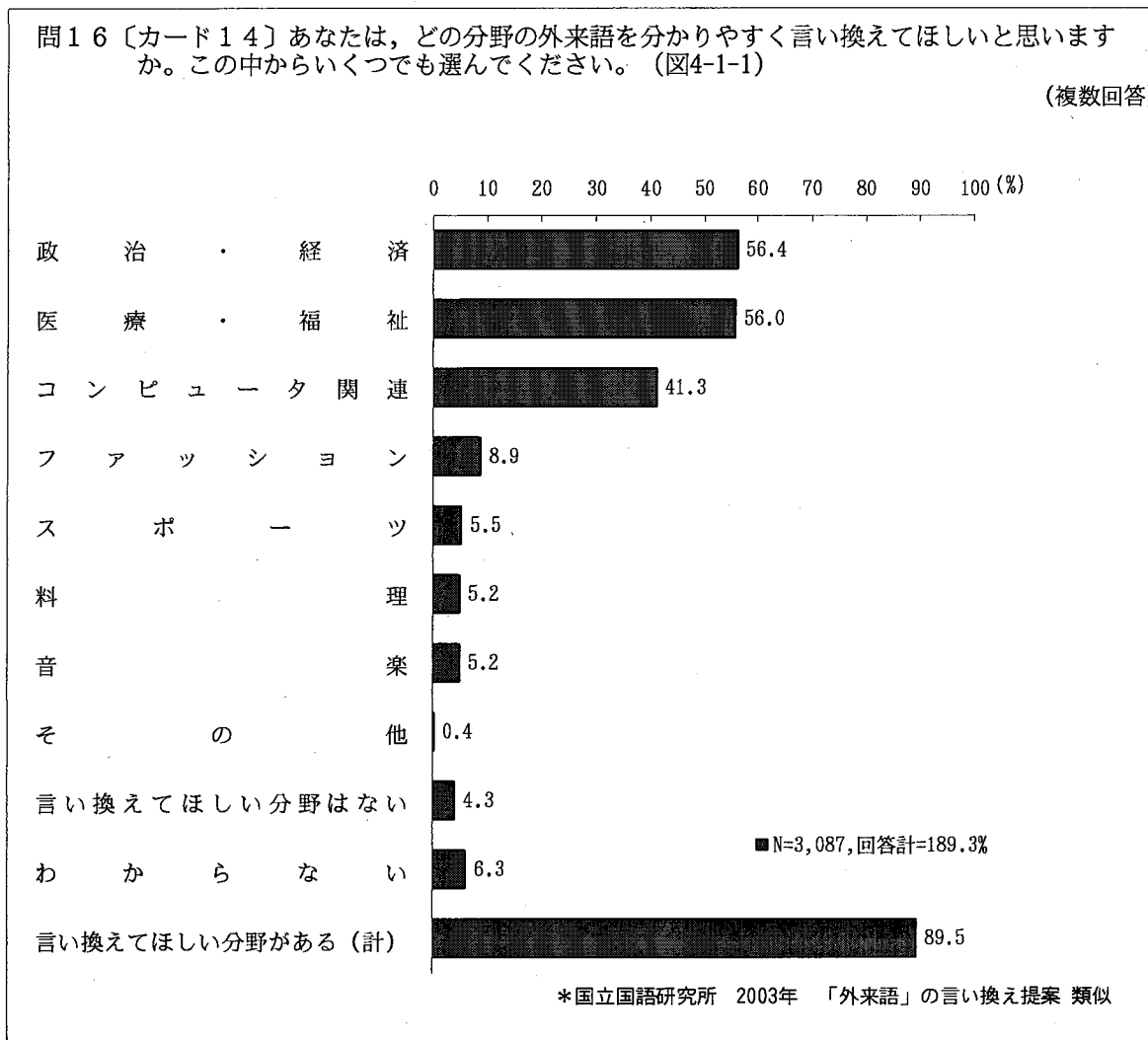
職業別にみると(表3-4-1)、「コンピュータ関連」は主婦(65.7%)、商工サービス業(63.7%)、労務職(62.2%)で、「政治・経済」は主婦(65.0%)、労務職(64.4%)、事務職(63.1%)で、それぞれ6割を上回っている。また、「医療・福祉」は労務職(56.2%)で、「ファッション」は管理職(33.3%)で、それぞれ他の職業層より多くなっている。

表3-4-1 外来語が分かりにくい分野(性別, 性・年齢別, 職業別)

	総 数	コ ン ピ ユ ー タ 関 連	政 治 ・ 経 済	医 療 ・ 福 祉	フ ア ッ シ ョ ン	音 楽	ス ポ ー ツ	料 理	そ の 他	野 特 は な い わ か り に く い 分 野	わ か ら な い	あ わ か り に く い 分 野 ( 計 )	計 ( M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	3,087	59.3	59.1	49.3	18.5	10.5	7.5	7.0	0.4	3.4	4.9	91.7	219.9
[性別]													
男性	1,387	53.6	53.3	48.7	23.1	12.0	6.7	9.0	0.6	4.0	4.3	91.7	215.3
女性	1,700	63.9	63.8	49.8	14.8	9.4	8.2	5.4	0.3	2.9	5.4	91.7	223.7
[性・年齢]													
男性 10代	88	46.6	53.4	43.2	13.6	6.8	6.8	5.7	-	4.5	4.5	90.9	185.2
20代	135	47.4	67.4	49.6	22.2	7.4	7.4	7.4	0.7	3.0	4.4	92.6	217.0
30代	176	50.0	61.4	54.0	22.7	8.5	5.7	8.5	1.7	1.1	2.3	96.6	215.9
40代	184	58.2	56.0	47.3	26.6	8.7	2.2	6.5	-	4.3	1.6	94.0	211.4
50代	259	56.4	52.5	49.4	25.9	14.7	5.4	10.8	0.4	3.9	0.4	95.8	219.7
60歳以上	545	54.7	46.6	47.9	22.4	14.9	9.0	10.1	0.6	5.0	7.7	87.3	218.7
女性 10代	101	52.5	64.4	46.5	13.9	9.9	6.9	4.0	-	3.0	5.9	91.1	206.9
20代	183	66.7	74.3	48.6	12.6	4.9	7.7	2.7	-	2.7	2.2	95.1	222.4
30代	271	73.4	71.6	45.4	12.5	5.2	5.5	3.3	-	2.2	1.1	96.7	220.3
40代	237	67.9	71.3	45.6	19.4	8.4	8.0	5.1	-	2.1	2.1	95.8	230.0
50代	368	72.6	63.9	55.2	14.9	11.7	7.1	4.9	-	2.2	2.4	95.4	234.8
60歳以上	540	52.6	52.8	51.1	14.6	11.7	10.9	8.0	0.9	4.1	12.0	83.9	218.7
[職業]													
農林水産業	112	43.8	48.2	49.1	12.5	8.9	5.4	5.4	0.9	5.4	15.2	79.5	194.6
商工サービス業	262	63.7	58.4	49.2	19.1	11.5	8.4	5.3	0.8	1.5	2.3	96.2	220.2
自由業	43	51.2	58.1	53.5	25.6	4.7	9.3	7.0	2.3	-	4.7	95.3	216.3
管理職	81	53.1	50.6	51.9	33.3	16.0	3.7	12.3	-	2.5	2.5	95.1	225.9
専門技術職	32	40.6	53.1	18.8	18.8	12.5	6.3	15.6	-	12.5	3.1	84.4	181.3
事務職	490	58.8	63.1	43.5	21.4	7.6	6.3	4.9	-	3.1	0.8	96.1	209.4
労務職	582	62.2	64.4	56.2	17.7	11.7	6.7	8.6	0.3	2.6	2.9	94.5	233.3
主婦	778	65.7	65.0	51.8	15.0	10.0	8.0	5.3	0.4	2.7	4.8	92.5	228.7
学生	217	48.8	56.7	46.1	14.7	7.8	6.5	4.1	0.5	4.1	5.5	90.3	194.9
その他の無職	490	54.9	44.9	45.7	21.6	13.5	10.2	11.0	0.6	5.7	11.0	83.3	219.2

## 第4章 外来語を言い換えることの必要性

### 1 外来語を言い換えてほしい分野



分かりやすく言い換えてほしい外来語の分野としては(図4-1-1)、「政治・経済」(56.4%)と「医療・福祉」(56.0%)がともに5割を上回り、次いで「コンピュータ関連」が41.3%である。

「言い換えてほしい分野はない」という者は4.3%で、9割の者は「言い換えてほしい分野がある」(89.5%)と考えている。

性別にみると(表4-1-1),男女とも「政治・経済」(男性55.6%,女性57.0%)と「医療・福祉」(同53.0%,58.5%),「コンピュータ関連」(同41.0%,41.6%)が上位3項目にあげられ,そのうち「医療・福祉」は男性より女性にやや多くなっている。

性・年齢別にみると(表4-1-1),「政治・経済」は女性の20代から40代で,「医療・福祉」は女性の40代以上で,それぞれ6割以上と多くあげられている。また,「コンピュータ関連」は,男性の40代(51.1%)と,女性の20代から40代で5割以上の者が,分かりやすく言い換えてほしい分

野としてあげている。

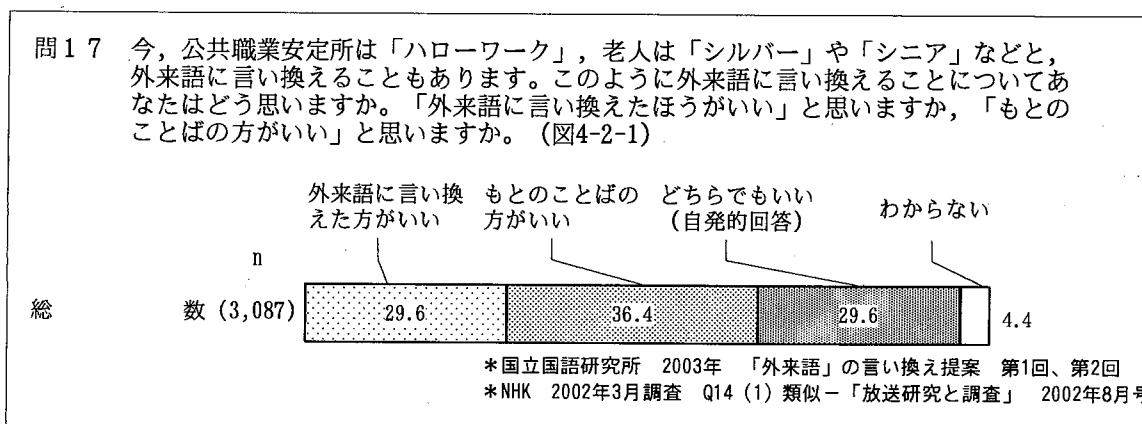
全体では、5%程度であった「スポーツ」と「音楽」の分野は、男性の10代（スポーツ10.2%、音楽11.4%）で1割強と、他の年齢層よりやや多くあげられている。

職業別にみると（表4-1-1）、「政治・経済」と「医療・福祉」は、商工サービス業（政治61.5%、56.1%）、管理職（同63.0%、61.7%）、労務職（同57.4%、61.2%）、主婦（同58.4%、60.8%）で、それぞれ6割前後が言い換えてほしい分野としてあげている。また、管理職のほぼ半数は「コンピュータ関連」（50.6%）についても、分かりやすく言い換えてほしい分野としてあげている。

表4-1-1 外来語を言い換えてほしい分野（性別、性・年齢別、職業別）

	総 数	政 治 ・ 経 済	医 療 ・ 福 祉	コ ン ピ ュ ー タ 関 連	フ ァ ッ シ ョ ン	ス ポ ー ツ	料 理	音 楽	そ の 他	野特 はに わか りに くい 分	わ か ら な い	あ わ か り に く い 分 野 が	計 (M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	3,087	56.4	56.0	41.3	8.9	5.5	5.2	5.2	0.4	4.3	6.3	89.5	189.3
[性別]													
男性	1,387	55.6	53.0	41.0	9.2	6.6	5.1	6.3	0.7	5.2	5.4	89.4	188.0
女性	1,700	57.0	58.5	41.6	8.6	4.6	5.2	4.2	0.1	3.5	6.9	89.5	190.4
[性・年齢]													
男性10代	88	42.0	33.0	47.7	12.5	10.2	6.8	11.4	-	6.8	6.8	86.4	177.3
20代	135	57.8	45.2	43.7	10.4	7.4	3.0	5.2	0.7	6.7	5.2	88.1	185.2
30代	176	59.1	56.3	37.5	9.1	6.3	6.3	4.0	2.3	3.4	4.0	92.6	188.1
40代	184	57.6	52.2	51.1	8.2	2.7	3.8	5.4	-	4.9	1.6	93.5	187.5
50代	259	58.7	57.5	40.2	9.3	6.6	4.6	5.4	0.4	4.6	3.1	92.3	190.3
60歳以上	545	53.9	55.2	37.2	8.6	7.2	5.7	7.2	0.7	5.5	8.1	86.4	189.4
女性10代	101	56.4	43.6	40.6	10.9	5.9	3.0	6.9	-	5.0	8.9	86.1	181.2
20代	183	62.3	49.2	50.8	8.2	3.8	1.6	3.3	-	3.8	4.4	91.8	187.4
30代	271	63.5	56.8	50.2	9.2	2.2	4.4	2.2	-	1.8	2.6	95.6	193.0
40代	237	62.0	59.9	52.7	9.3	5.5	3.8	4.6	-	2.5	2.1	95.4	202.5
50代	368	59.5	63.6	44.0	8.2	5.2	6.3	3.8	-	3.0	3.8	93.2	197.3
60歳以上	540	48.1	61.1	27.8	8.1	5.2	7.0	5.2	0.4	4.8	13.9	81.3	181.7
[職業]													
農林水産業	112	50.0	55.4	25.0	6.3	5.4	6.3	5.4	0.9	10.7	12.5	76.8	177.7
商工サービス業	262	61.5	56.1	44.3	8.8	5.0	5.3	7.3	0.4	3.8	5.0	91.2	197.3
自由業	43	65.1	60.5	39.5	11.6	7.0	7.0	2.3	2.3	-	7.0	93.0	202.3
管理職	81	63.0	61.7	50.6	12.3	6.2	7.4	8.6	-	2.5	-	97.5	212.3
専門技術職	32	62.5	40.6	18.8	-	-	3.1	-	3.1	9.4	3.1	87.5	140.6
事務職	490	59.0	52.2	46.3	7.8	3.3	2.2	3.7	0.2	4.1	1.6	94.3	180.4
労務職	582	57.4	61.2	41.4	7.7	7.4	6.4	5.5	0.3	4.0	5.0	91.1	196.2
主婦	778	58.4	60.8	41.0	9.5	4.6	5.5	3.5	0.1	2.8	6.3	90.9	192.5
学生	217	47.9	40.6	46.1	10.6	6.9	4.1	7.4	0.5	6.5	7.8	85.7	178.3
その他の無職	490	49.6	52.7	36.7	10.0	6.7	5.7	6.7	0.6	5.3	12.0	82.7	186.1

## 2 外来語の言い換えについて



公共職業安定所を「ハローワーク」、老人を「シルバー」や「シニア」などと、外来語に言い換えることについては、「もとの言葉の方がいい」という者が 36.4%で、「外来語に言い換えた方がいい」(29.6%)という者を7ポイント上回っている。また、3割の者は、自発的に「どちらでもいい」と答えている(図4-2-1)。

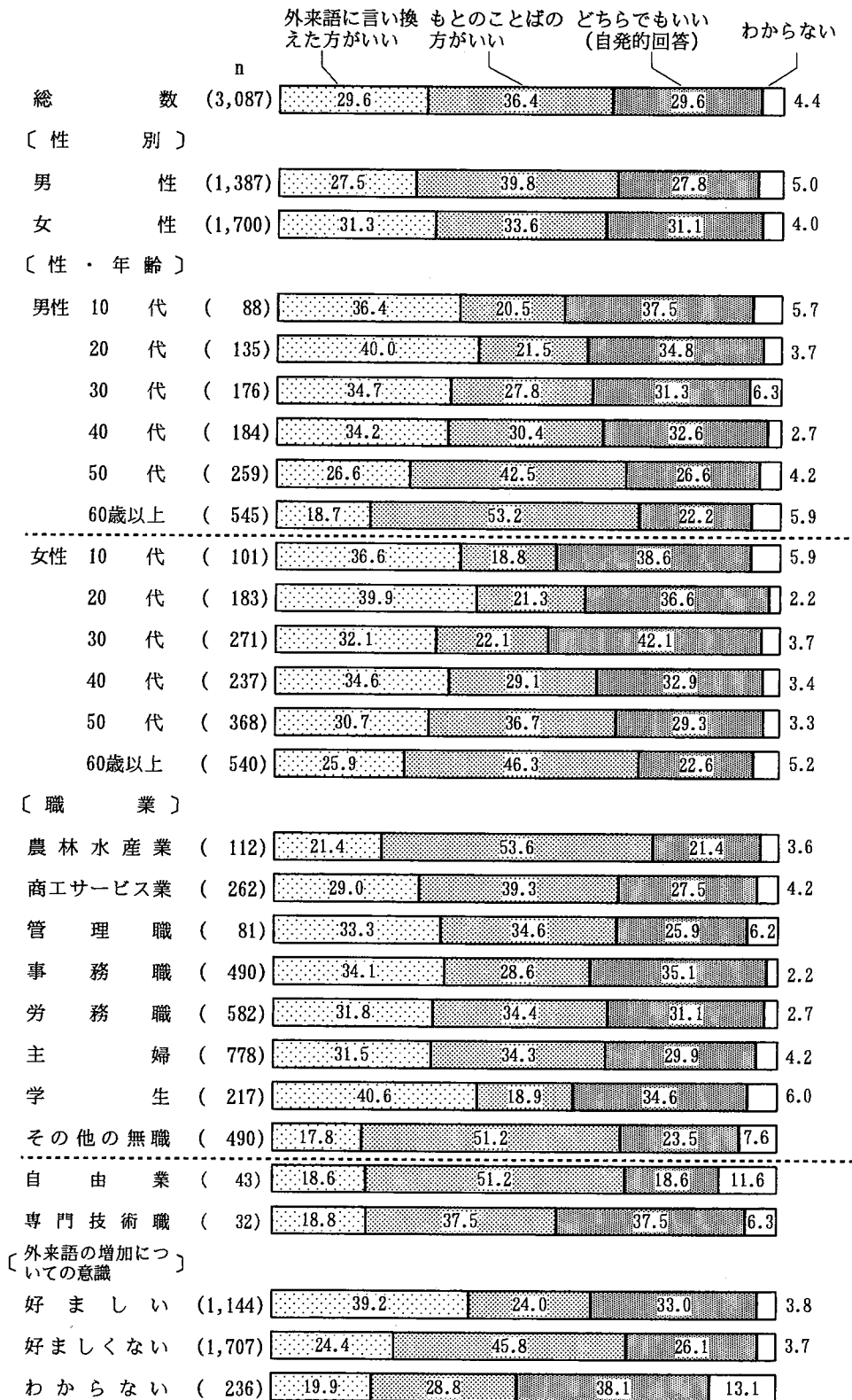
性別にみると(図4-2-2)、男性では、外来語を言い換えることについて「もとの言葉の方がいい」(39.8%)と思う者が4割で、「外来語に言い換えた方がいい」(27.5%)という者を12ポイント上回っている。一方、女性では「もとの言葉の方がいい」(33.6%)という者と「外来語に言い換えた方がいい」(31.3%)という者が、ともに3割強で差が小さい。

性・年齢別にみると(図4-2-2)、外来語に言い換えず「もとの言葉の方がいい」と思う者は、男女とも高齢層ほど多く、60歳以上(男性53.2%、女性46.3%)では5割前後となる。これに対して、「外来語に言い換えた方がいい」という者は若年層に多く、特に男女とも20代(同40.0%、39.9%)では4割が、外来語への言い換えを支持している。

職業別にみると(図4-2-2)、外来語よりも「もとの言葉の方がいい」と思う者は、農林水産業(53.6%)とその他の無職(51.2%)で過半数を占める。一方、学生の4割は「外来語に言い換えた方がいい」(40.6%)と答えている。

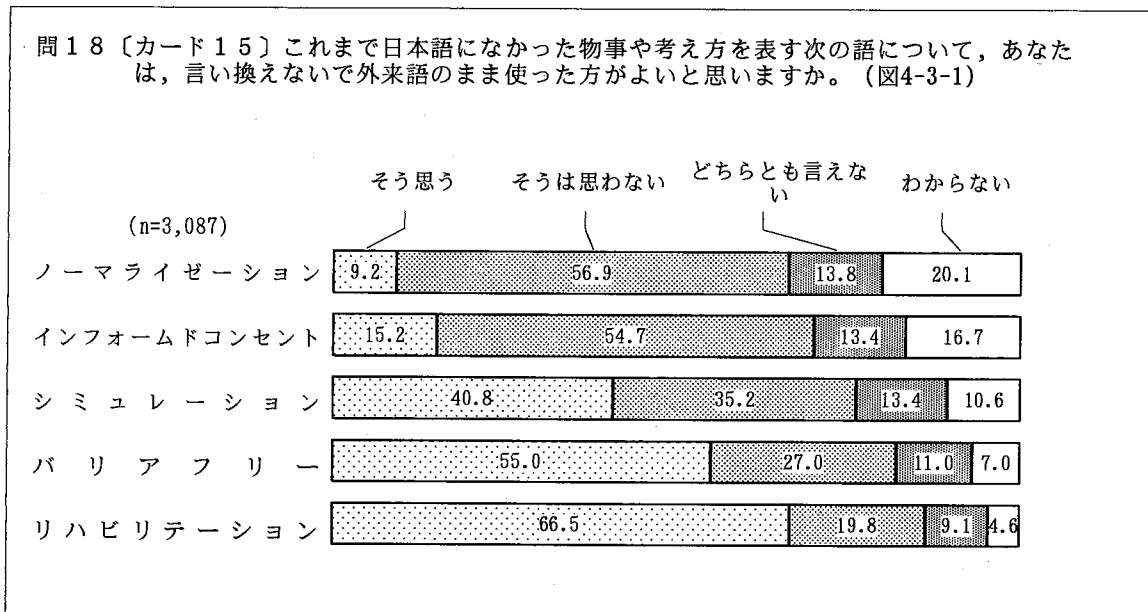
さらに、外来語の増加についての意識別にみると(図4-2-2)、今以上に外来語が増えることは好ましくないと考える者では半数近くが、外来語より「もとの言葉の方がいい」(45.8%)と答え、「外来語に言い換えた方がいい」(24.4%)という者を21ポイント上回っている。一方、外来語が増えることを好ましいと考える者では、4割が「外来語に言い換えた方がいい」(39.2%)と答えているが、外来語よりも「もとの言葉の方がいい」(24.0%)という者も、4人に1人はいる。

図 4-2-2 外来語の言い換えについて  
(性別、性・年齢別、職業別、外来語の増加についての意識別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

### 3 日本語になかった物事や考え方を表す言葉の言い換え



これまで日本語になかった物事や考え方として、“ノーマライゼーション” “インフォームドコンセント” “シミュレーション” “バリアフリー” “リハビリテーション” といった5つの言葉をあげて、外来語のまま使うことの是非を聞いた(図4-3-1)。

例としてあげた5つの言葉について、言い換えをしないで外来語のまま使った方がよいと思うかという問に対して、「そう思う」という者がもっとも多いのは“リハビリテーション”(66.5%)で、7割近くが外来語のままでよいと考えており、言い換えたほうがよいと考える者(「そうは思わない」19.8%)を47ポイント上回っている。

次いで“バリアフリー”も、過半数が外来語のままでよいと考えており(「そう思う」55.0%)、外来語として定着している。

これに対して、“ノーマライゼーション”と“インフォームドコンセント”については、「そうは思わない」と答えた、言い換えを支持する者がそれぞれ56.9%、54.7%と半数を上回っている。

“シミュレーション”は、「そう思う」(40.8%)と答えた外来語のままの使用を支持する者が4割で、言い換える方がよいと思う者(「そうは思わない」35.2%)との差が、他の4つの言葉に比べ小さくなっている。

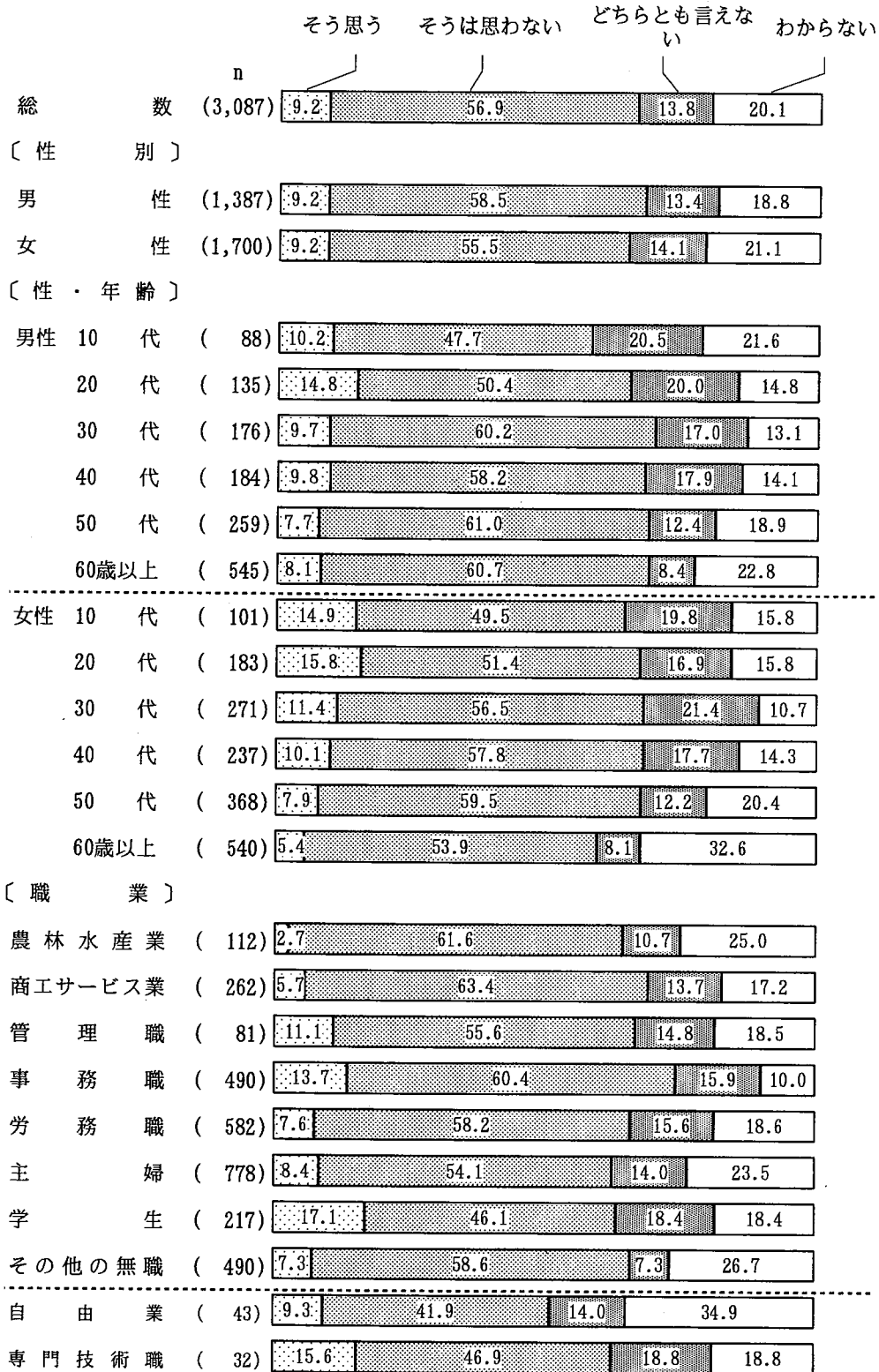
“ノーマライゼーション”の言い換えについて性別にみると(図4-3-2)、男女とも「そうは思わない」(男性58.5%、女性55.5%)と答えた、外来語の言い換えを支持する者が過半数で、男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図4-3-2)、いずれの層でも、外来語のままの使用について「そうは思わない」という者が「そう思う」という者を35ポイント以上上回っているが、若年層ほど「そう思う」と答えた外来語の使用を支持する者がやや多くなる傾向がある。

職業別にみると(図4-3-2)、外来語からの言い換えを支持する者(「そうは思わない」)は、商工サービス業(63.4%)、農林水産業(61.6%)、事務職(60.4%)で6割を上回っている。一方、学生の2割弱は「そう思う」(17.1%)と答え、外来語のままの使用の方がよいと考えている。



図 4-3-2 日本語になかった物事や考え方を表す言葉の言い換え  
 - “ノーマライゼーション” (性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

“インフォームドコンセント”の言い換えについて性別にみると（図 4-3-3），男女とも半数以上が「そうは思わない」（男性 56.7%，女性 53.1%）と答え、外来語から言い換える方がよいと考えている。

性・年齢別にみると（図 4-3-3），女性の 20 代では，4 人に 1 人が「そう思う」（24.6%）と答え、外来語のままの使用を支持している。

職業別にみると（図 4-3-3），事務職では，外来語のままでよいと考える者（「そう思う」22.2%）が 2 割を上回っている。

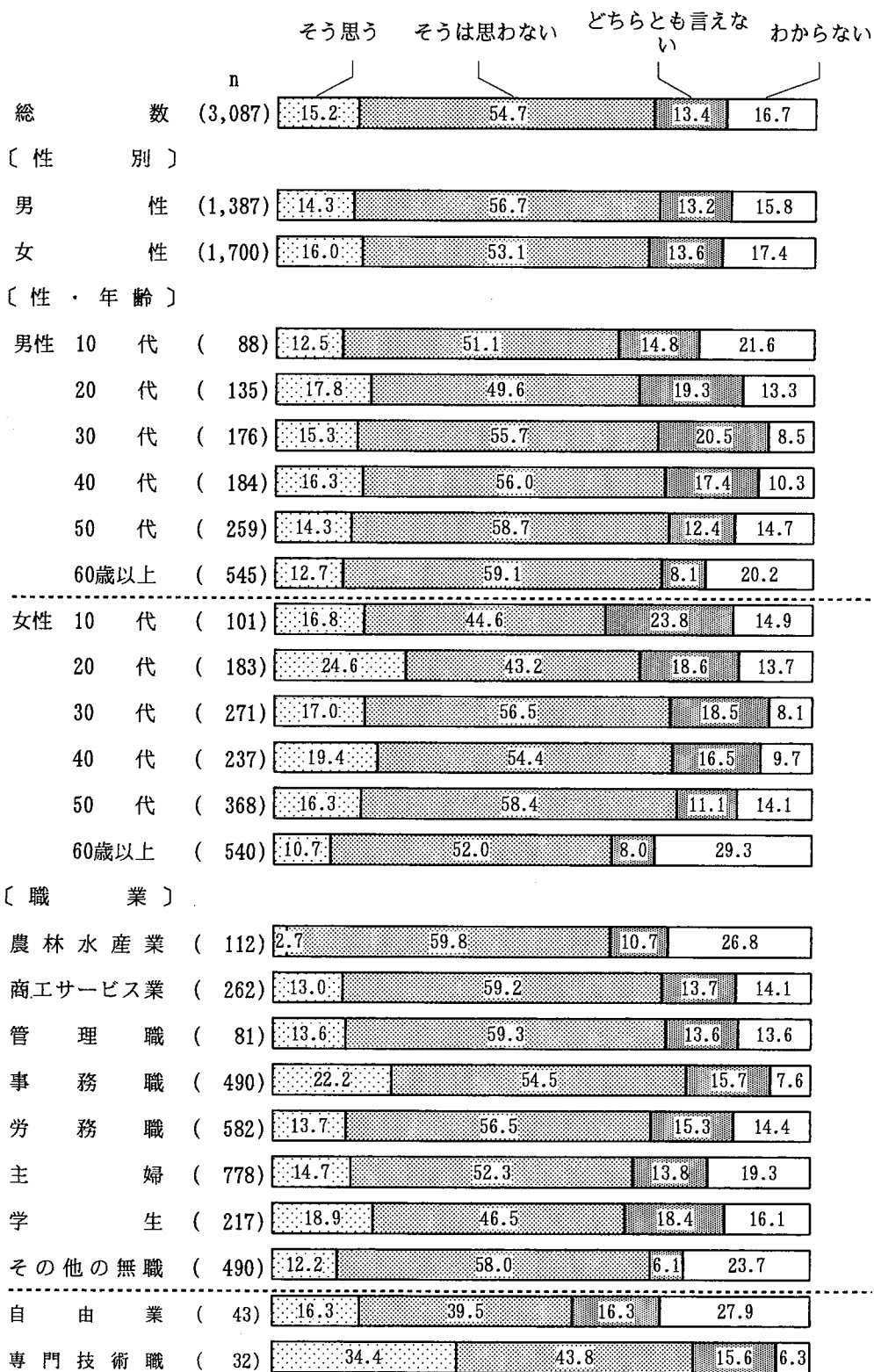
“シミュレーション”の言い換えについて性別にみると（図 4-3-4），「そう思う」（男性 44.8%，女性 37.5%）と答えた，外来語のままでよいと思う者は男性で 4 割を超え，女性を 7 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると（図 4-3-4），男女とも高齢層ほど「そうは思わない」と答えた，外来語から言い換える方がよいと思う者が多くなる傾向にあり，特に男性の 60 歳以上と女性の 50 歳以上の層では 4 割を上回っている。

一方，“シミュレーション”を外来語のまま使う方がよいと思う者（「そう思う」）は，男性の 30 代（67.0%）と女性の 20 代（60.1%）で 6 割台と，他の年齢層より多くなっている。

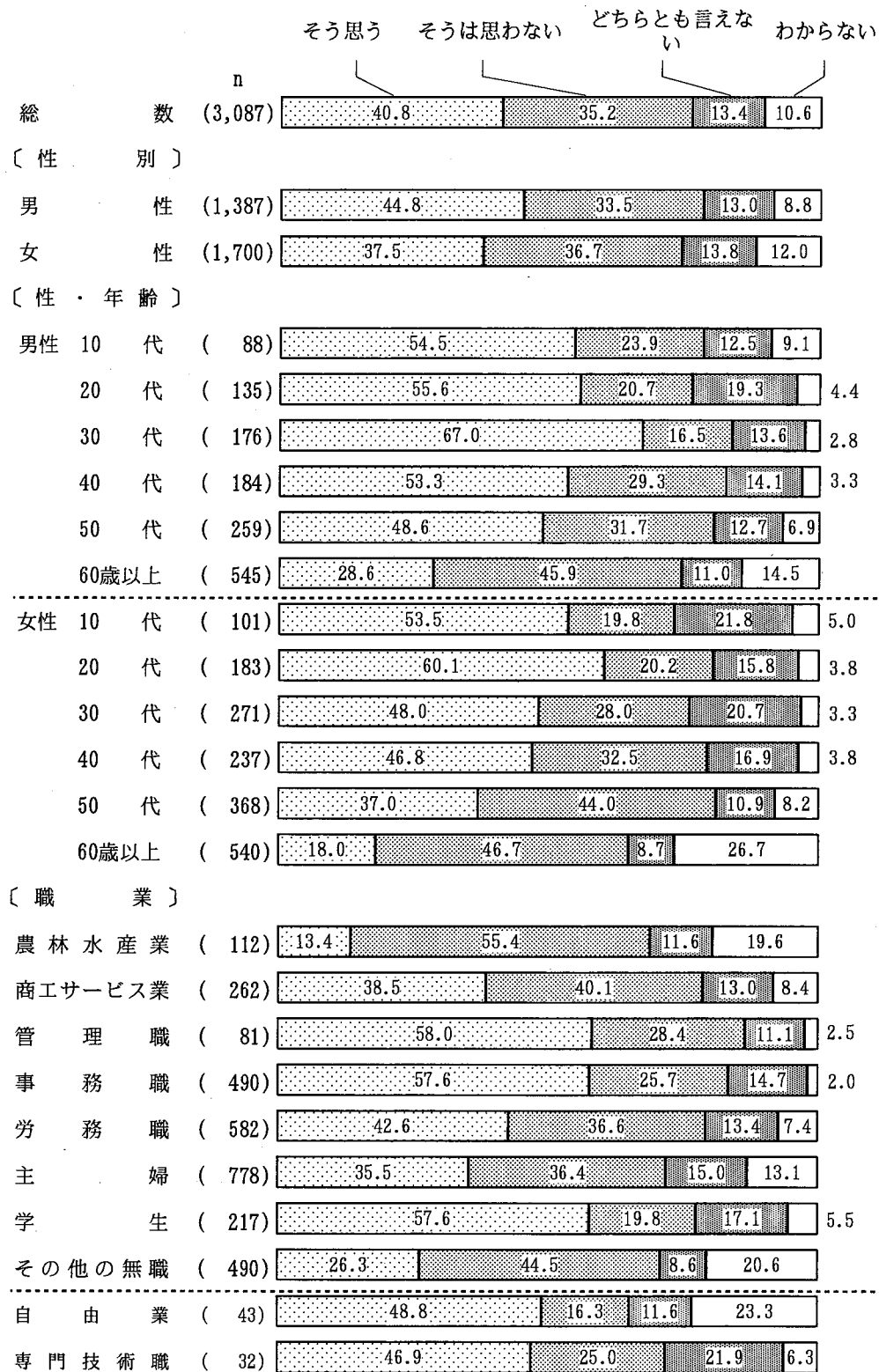
職業別にみると（図 4-3-4），外来語のまま使う方がよいと思う者（「そう思う」）は，管理職（58.0%），事務職（57.6%），学生（57.6%）で 6 割近い。一方，農林水産業とその他の無職の層では，「そうは思わない」（農林水産業 55.4%，無職 44.5%）という者の割合が高くなっている。

図 4-3-3 日本語になかった物事や考え方を表す言葉の言い換え  
 - “インフォームドコンセント” (性別, 性・年齢別, 職業別)



\* 「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

図 4-3-4 日本語になかった物事や考え方を表す言葉の言い換え  
 - “シミュレーション” (性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

“バリアフリー”の言い換えについて性別にみると(図 4-3-5), 男女とも「そう思う」(男性 53.4%, 女性 56.3%)と答えた, 外来語のままの使用を支持する者が5割を超え, 大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図 4-3-5), いずれの層でも外来語の使用を支持する者(「そう思う」)が多くなっているが, 特に男性の20代(69.6%)と女性の30代(68.3%)では, 7割近くなっている。一方, 外来語から言い換えた方がよいと考える者(「そうは思わない」)は, 男女とも高齢層ほど多くなっており, 60歳以上(男性 35.8%, 女性 35.4%)になると3割を上回って, 外来語のままでの使用を支持する者の割合との差が小さくなっている。

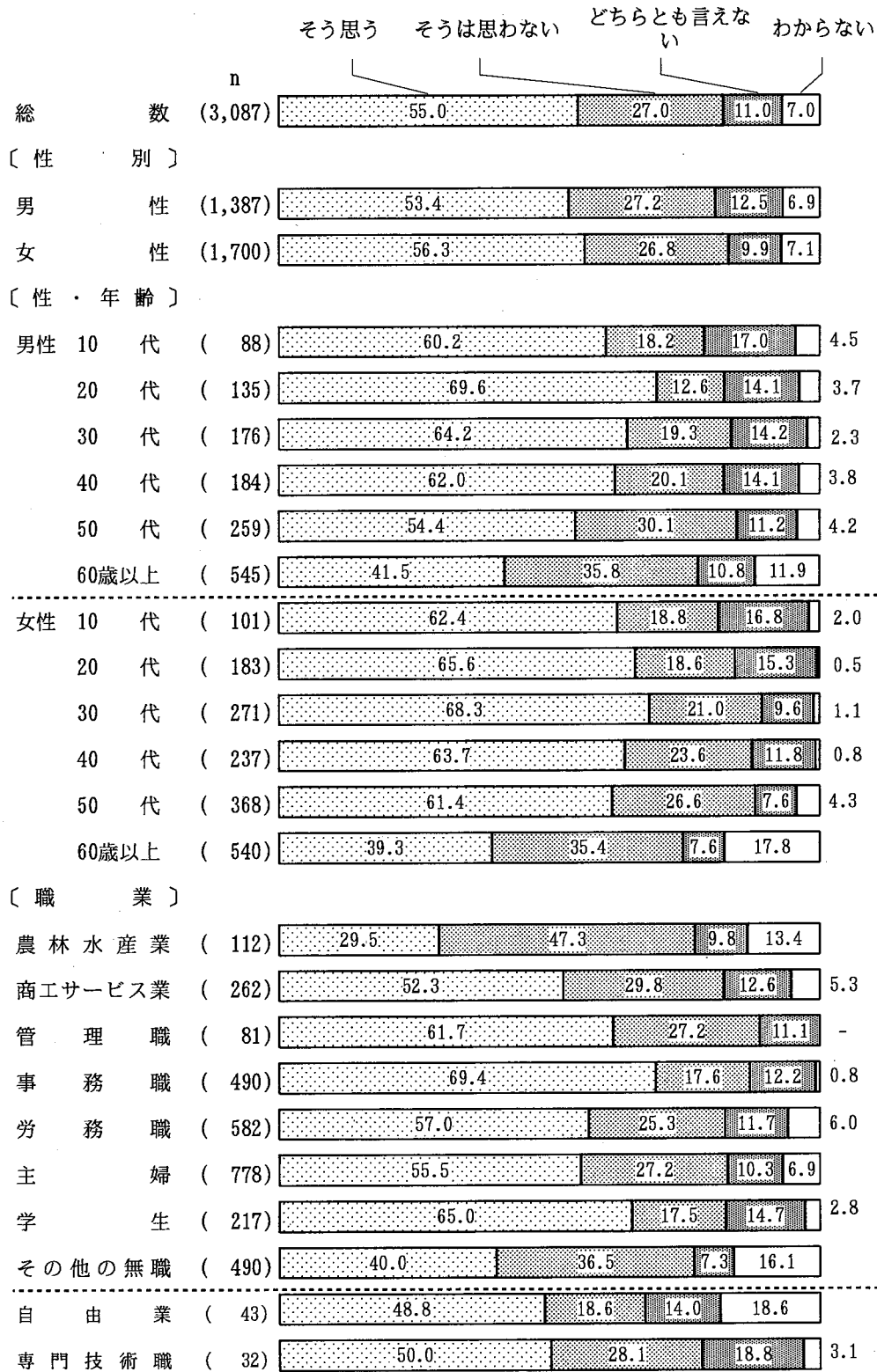
職業別にみると(図 4-3-5), 「そう思う」と答えた, 外来語のまま使用の方がよいと考える者は, 事務職(69.4%), 学生(65.0%), 管理職(61.7%)で6割を超えて多くなっている。一方, 外来語から言い換える方がよいと思う者(「そうは思わない」)は, 農林水産業(47.3%)とその他の無職(36.5%)で, 他の職業より多い。

“リハビリテーション”の言い換えについて性別にみると(図 4-3-6), 男女とも3人に2人が外来語のままでよいと考えており(「そう思う」男性 66.0%, 女性 67.0%), 言い換えを支持する者(「そうは思わない」同 20.0%, 19.6%)は2割である。

性・年齢別にみると(図 4-3-6), いずれの層でも外来語のままで使用する方がよいと考える者(「そう思う」)が多くなっているが, 特に男性の30代(79.5%)では8割を占めている。一方, 外来語から言い換える方がよいと思う者(「そうは思わない」)は, 男女とも高齢層ほど多くなっている。

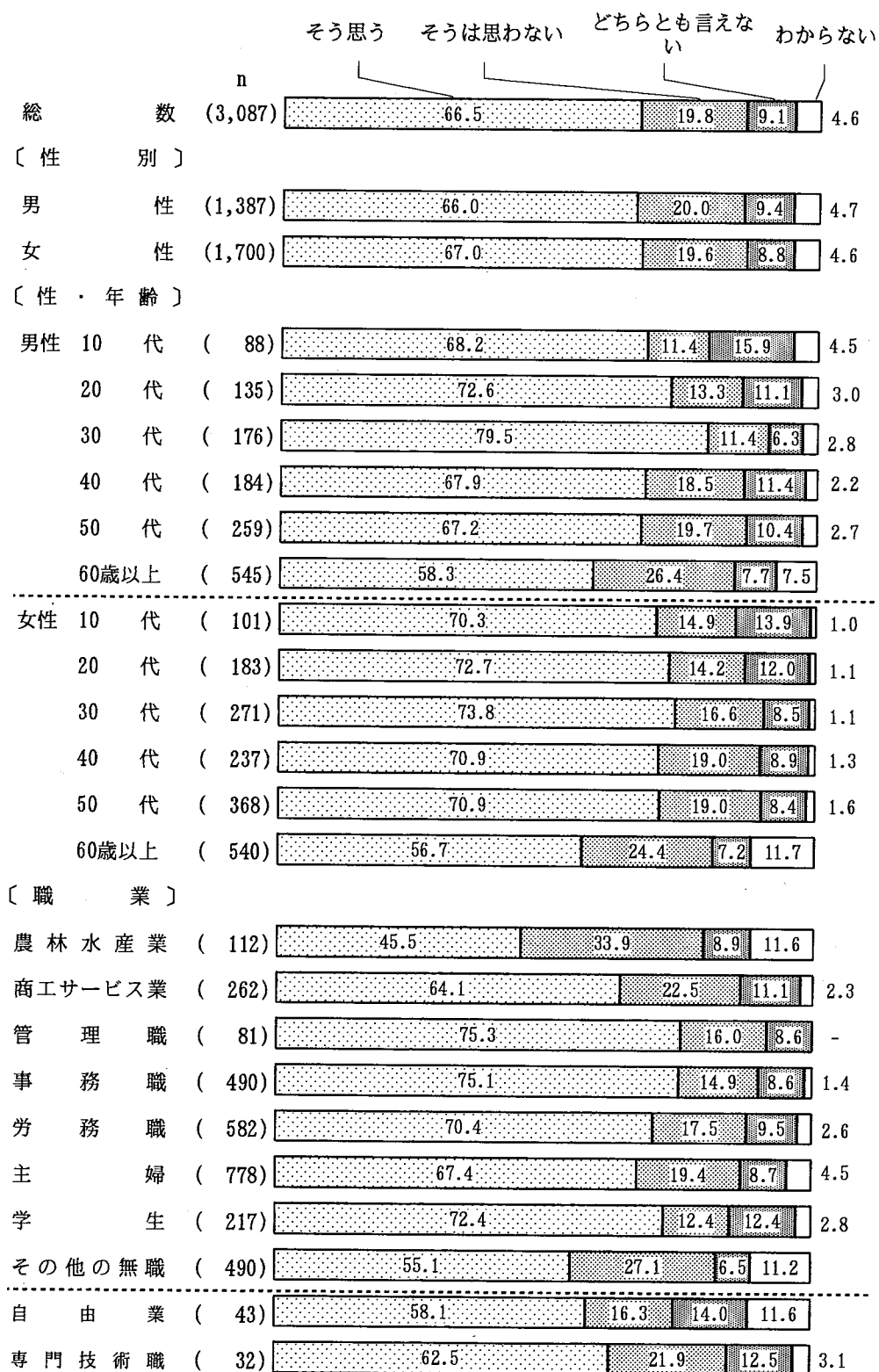
職業別にみると(図 4-3-6), “リハビリテーション”という外来語のままの使用がよいと思う者(「そう思う」)は, 管理職(75.3%), 事務職(75.1%), 学生(72.4%), 労務職(70.4%)で7割を上回り, 特に多くなっている。一方, 外来語からの言い換えを望む者(「そうは思わない」)は, 農林水産業(33.9%)とその他の無職(27.1%)で, 3割前後である。

図 4-3-5 日本語になかった物事や考え方を表す言葉の言い換え  
 - “バリアフリー” (性別、性・年齢別、職業別)



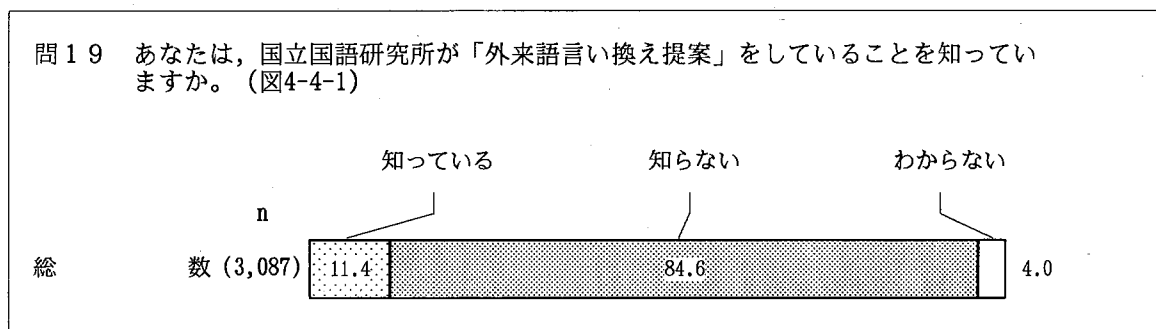
\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が10人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

図 4-3-6 日本語になかった物事や考え方を表す言葉の言い換え  
 - “リハビリテーション” (性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

#### 4 「外来語言い換え提案」の周知度



国立国語研究所の“外来語言い換え提案”を「知っている」という者は 11.4%で、8割以上は「知らない」と答えている(図 4-4-1)。

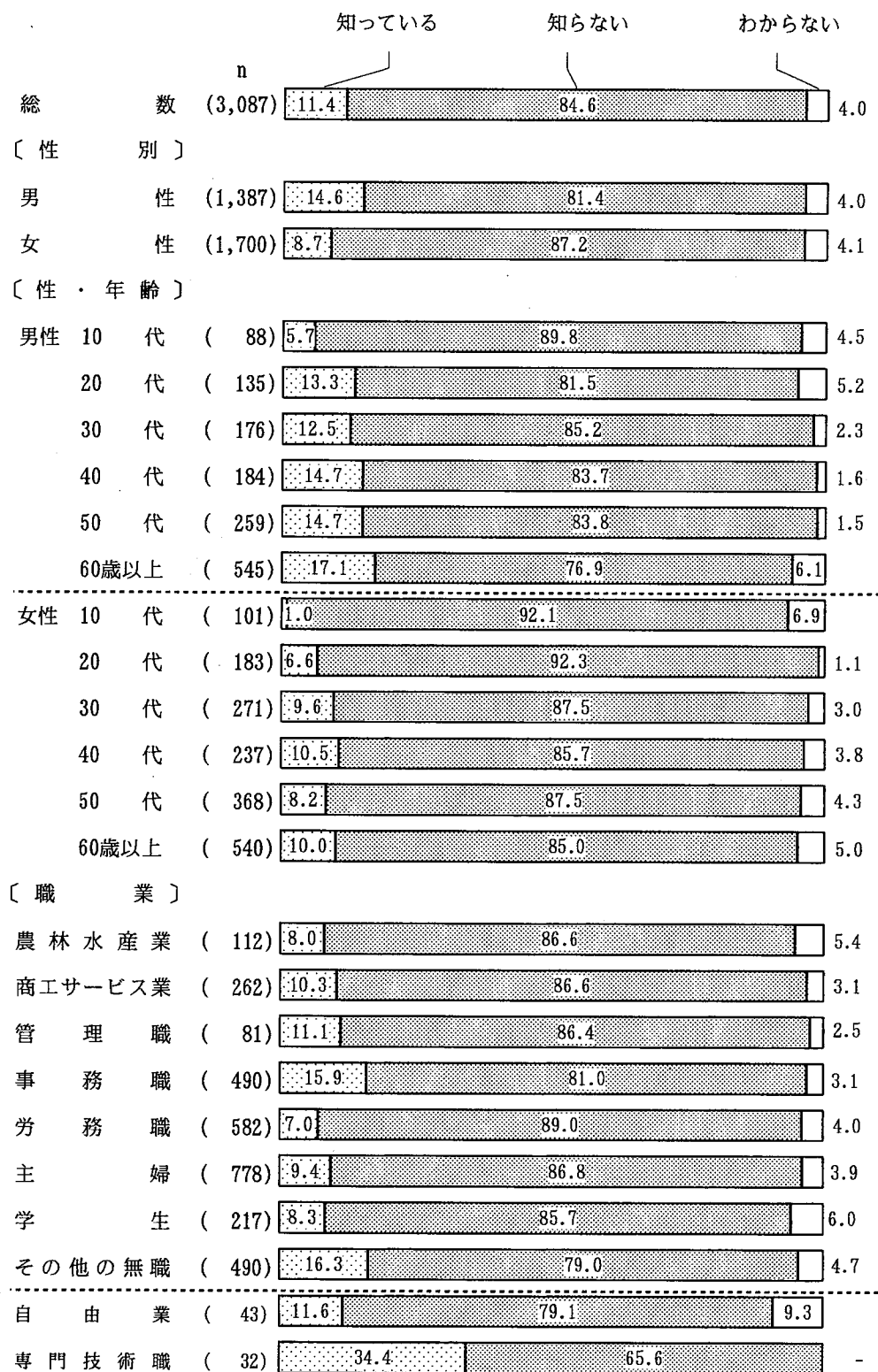
性別にみると(図 4-4-2)，“外来語言い換え提案”を「知っている」者(男性 14.6%，女性 8.7%)は、男性が女性を6ポイント上回って、やや周知度が高くなっている。

性・年齢別にみると(図 4-4-2)，男性の60歳以上(17.1%)では“外来語言い換え提案”を「知っている」者が2割近くと、他の性・年齢層より多くなっている。

職業別にみると(図 4-4-2)，“外来語言い換え提案”を「知っている」者は、その他の無職(16.3%)と事務職(15.9%)で、やや多くなっている。

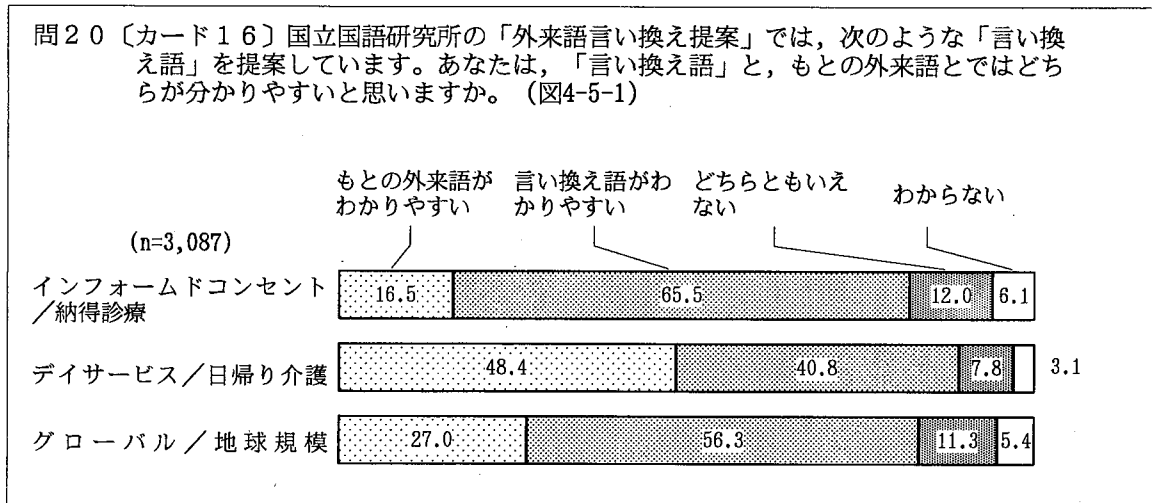


図 4-4-2 「外来語言い換え提案」の周知度  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 5 「言い換え語」の分かりやすさ



国立国語研究所が提案する“言い換え語”の例として、“インフォームドコンセント”“デイサービス”“グローバル”の3つの言葉をあげ、その分かりやすさを聞いた(図4-5-1)。

まず、“インフォームドコンセント”の言い換え語である“納得診療”については、3人に2人は「言い換え語が分かりやすい」(65.5%)と答え、「もとの外来語が分かりやすい」(16.5%)という者を49ポイント上回っている。

“デイサービス”の言い換え語は“日帰り介護”であるが、これについては「もとの外来語が分かりやすい」(48.4%)という者が半数近くで、「言い換え語が分かりやすい」(40.8%)という者を8ポイント上回っている。

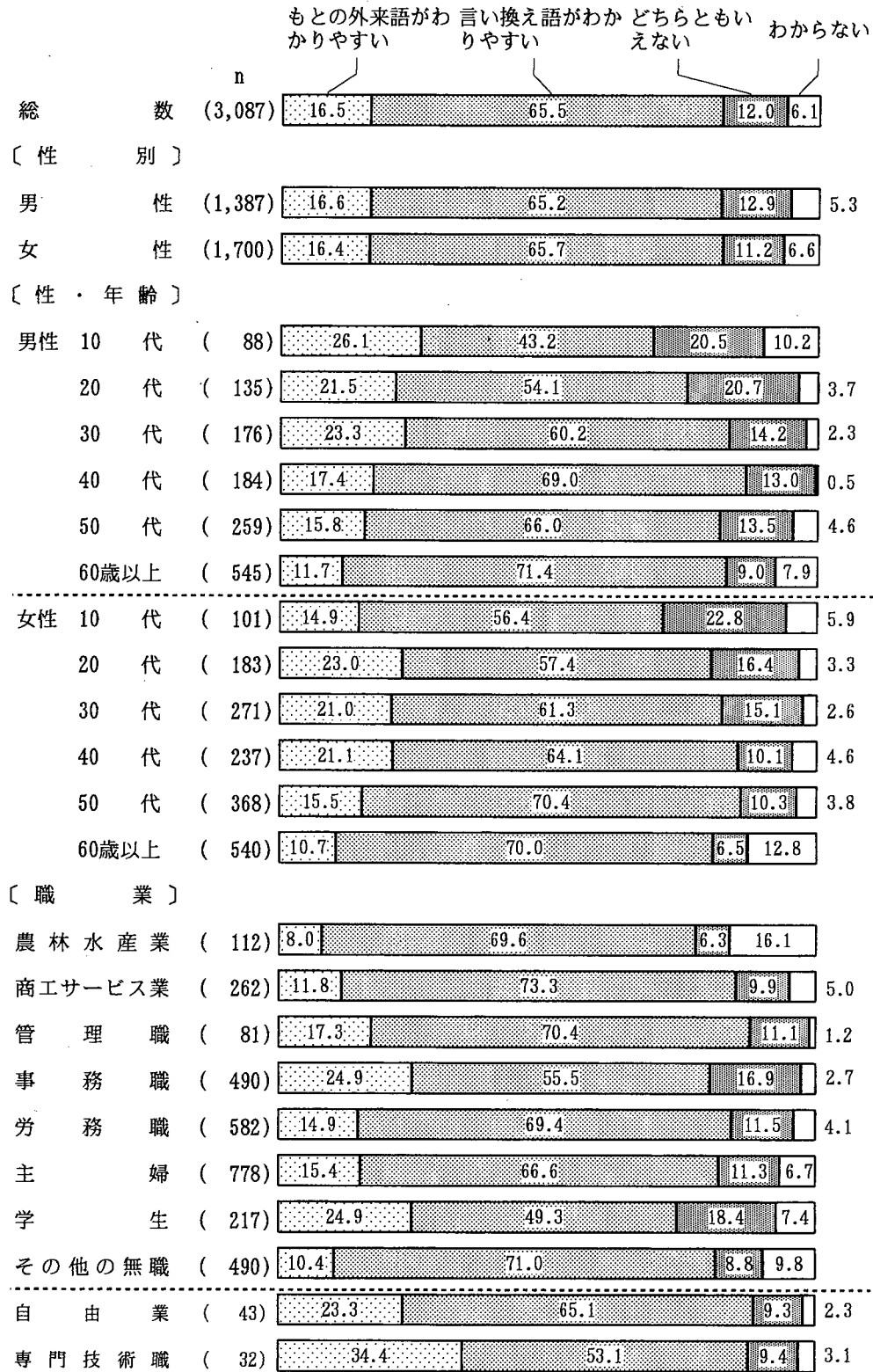
さらに、“グローバル”の言い換え語である“地球規模”は、6割近くが「言い換え語が分かりやすい」(56.3%)と答えており、「もとの外来語が分かりやすい」(27.0%)という者より29ポイント多くなっている。

“インフォームドコンセント”の言い換え語(“納得診療”)の分かりやすさについての意識を性別にみると(図4-5-2)、男女とも「言い換え語が分かりやすい」(男性65.2%、女性65.7%)という者が3分の2を占めている。

性・年齢別にみると(図4-5-2)、男女とも高齢層ほど「言い換え語が分かりやすい」と答えている。一方、男性の10代では「もとの外来語が分かりやすい」という者が26.1%と、他の年齢層よりやや多い。

職業別にみると(図4-5-2)、いずれの職業でも「言い換え語が分かりやすい」という者が多数を占めているが、事務職と学生では「もとの外来語が分かりやすい」という者がともに24.9%と、他の職業に比べて多くなっている。

図 4-5-2 「言い換え語」の分かりやすさー“インフォームドコンセント”  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

“デイサービス”について性別にみると(図 4-5-3), 男性では「言い換え語が分かりやすい」という者が 44.9%と, 「もとの外来語が分かりやすい」(43.9%)という者とほぼ同率になっている。一方, 女性では「もとの外来語が分かりやすい」(52.0%)という者が半数以上で, 「言い換え語が分かりやすい」という者を 15 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると(図 4-5-3), 男性の 10 代と 40 代, 60 歳以上では「言い換え語が分かりやすい」と思う者が, 「もとの外来語が分かりやすい」という者より多くなっている。一方, 女性はすべての年齢層で「もとの外来語が分かりやすい」という者が多くなっているが, 10 代と 60 歳以上の年齢層では, 「言い換え語が分かりやすい」と思う者の割合との差が小さくなっている。

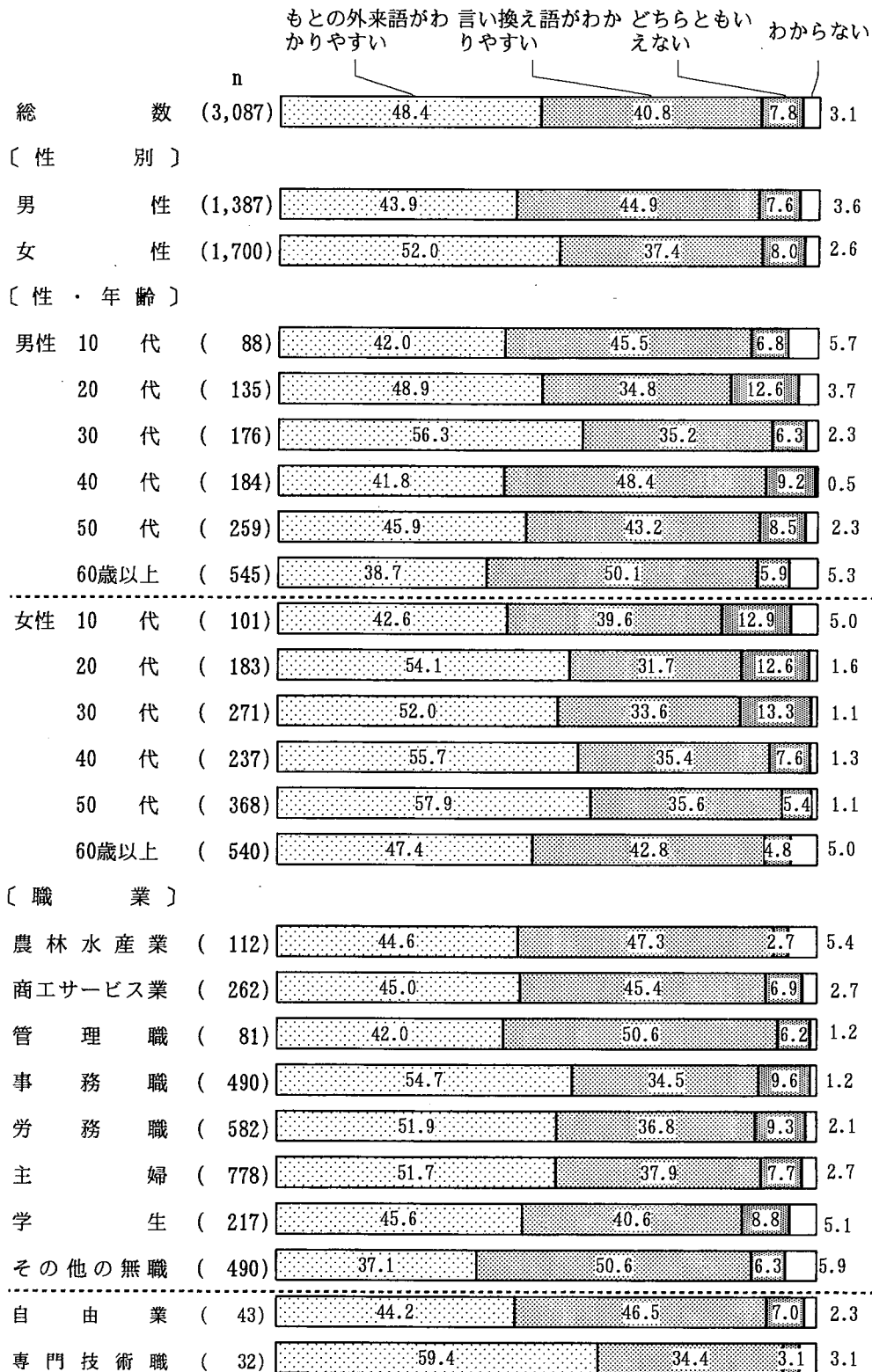
職業別にみると(図 4-5-3), その他の無職, 管理職, 農林水産業では, 「言い換え語が分かりやすい」という者の方が, 「もとの外来語が分かりやすい」という者より多い。

“グローバル”の言い換え語である“地球規模”についての意見を性別にみると(図 4-5-4), 男女とも「言い換え語が分かりやすい」(男性 54.0%, 女性 58.2%)という者が 5 割を超えているが, 男性より女性にやや多く, 男性では 3 割強が「もとの外来語が分かりやすい」(31.1%)と答えており, 女性(23.6%)より多くなっている。

性・年齢別にみると(図 4-5-4), 男女とも高齢層ほど「言い換え語が分かりやすい」という者が多くなる傾向がみられ, とくに男性の 60 歳以上と女性の 50 歳以上の年齢層では, 6 割以上の者が“地球規模”の方が分かりやすいと感じている。一方, 男女とも若年層は「もとの外来語が分かりやすい」と答えており, 特に男性の 20 代では 45.2%と多くなっている。

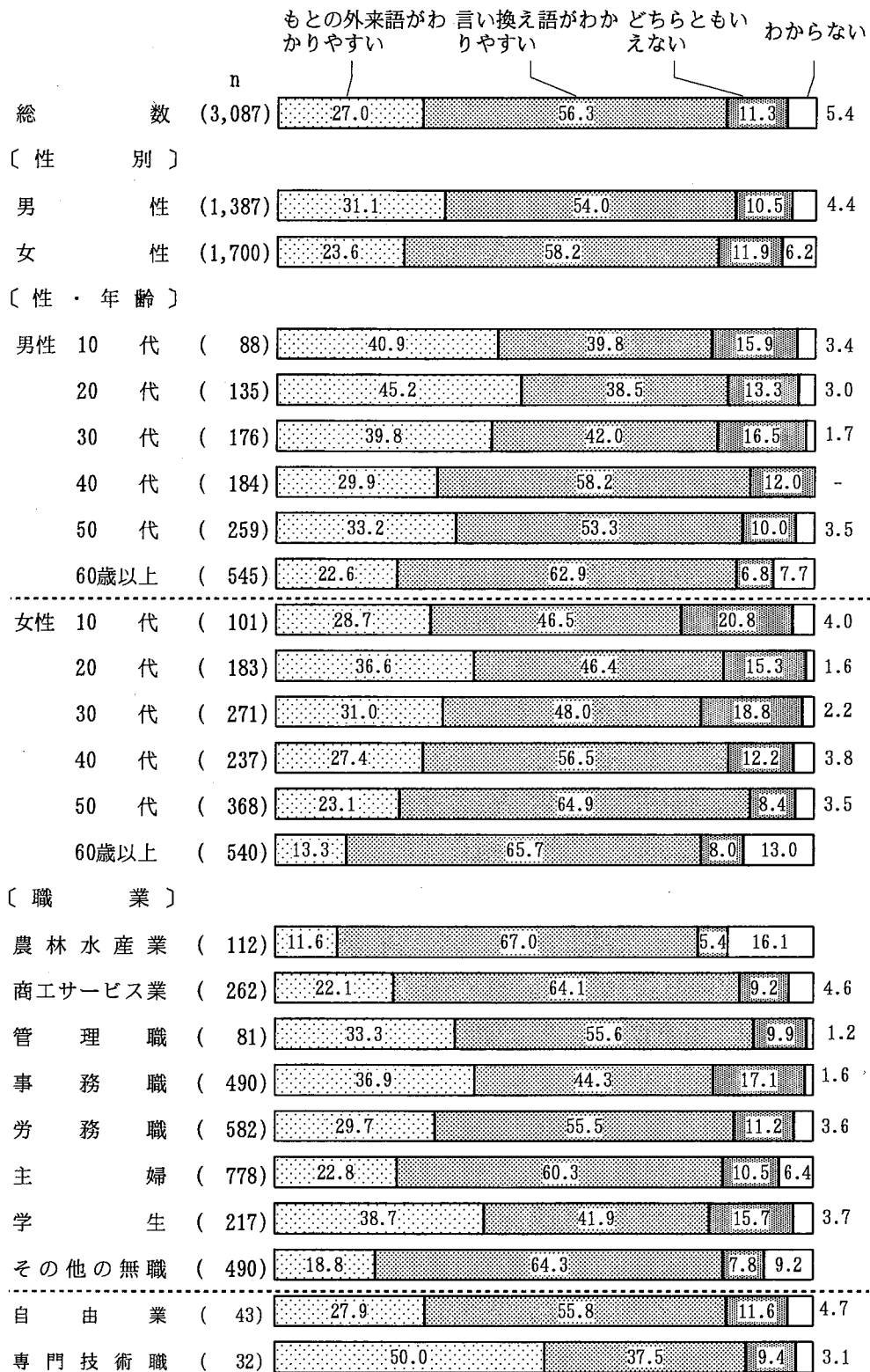
職業別にみると(図 4-5-4), 「言い換え語が分かりやすい」と感じている者は, 農林水産業(67.0%), その他の無職(64.3%), 商工サービス業(64.1%), 主婦(60.3%)に多く, 6 割を上回っている。一方, 「もとの外来語が分かりやすい」という者は, 学生(38.7%), 事務職(36.9%), 管理職(33.3%)で 3 割以上と, 他の職業より多くなっている。

図 4-5-3 「言い換え語」の分かりやすさ－“ディサービス”  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



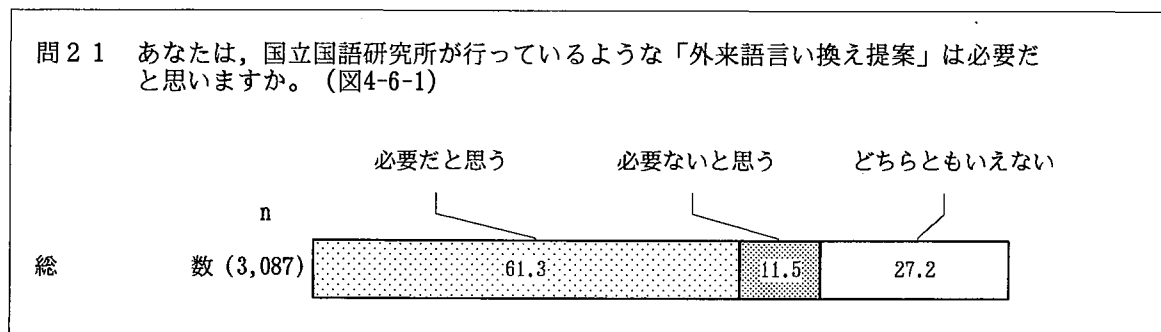
\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

図 4-5-4 「言い換え語」の分かりやすさ－“グローバル”  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 6 「外来語言い換え提案」の必要性



国立国語研究所が行っているような“外来語言い換え提案”が「必要だと思う」者は 61.3%で、「必要ないと思う」者 (11.5%) を大きく上回っている (図 4-6-1)。

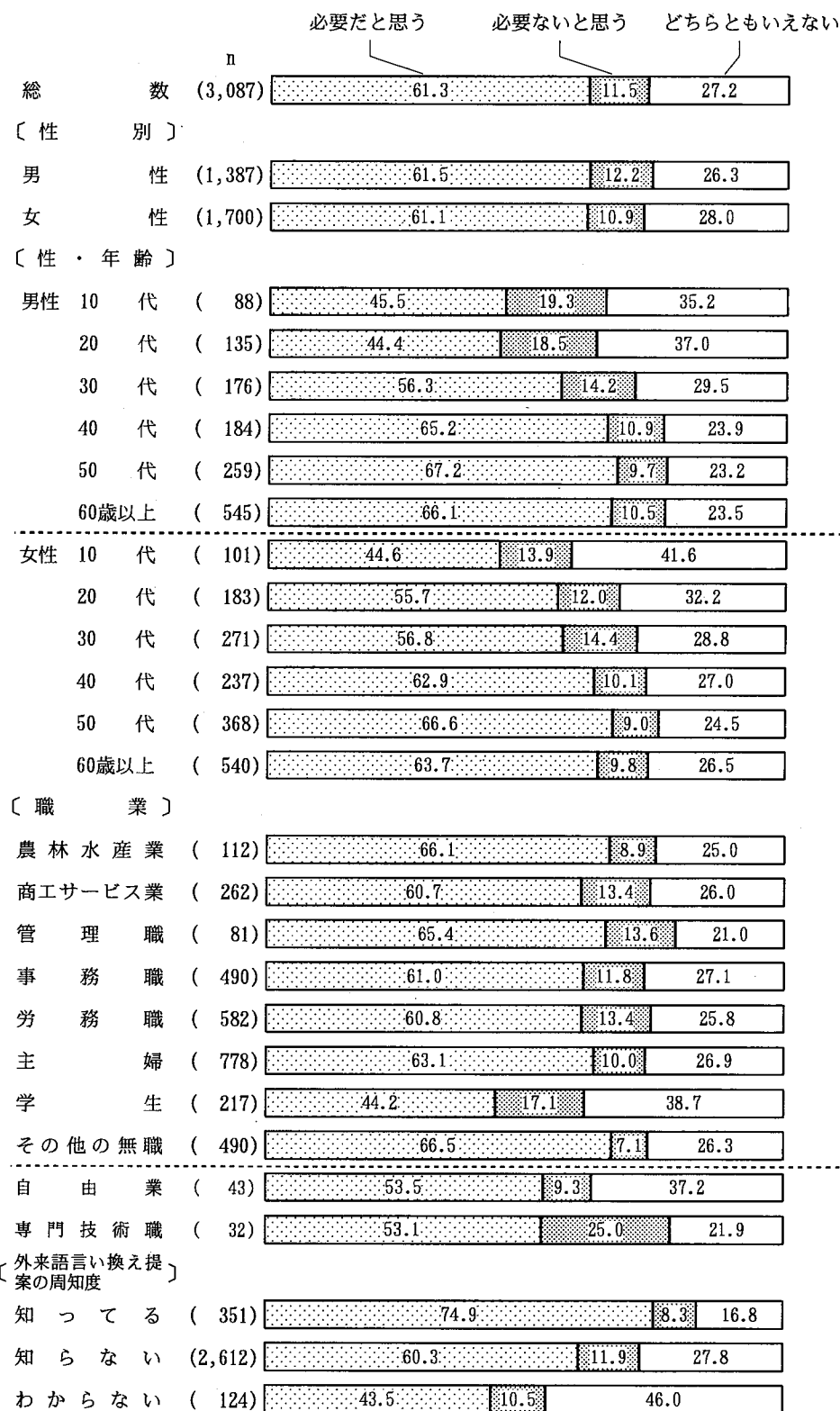
性別にみると (図 4-6-2)，男女とも“外来語言い換え提案”は「必要だと思う」者 (男性 61.5%，女性 61.1%) が 6 割強となっている。

性・年齢別にみると (図 4-6-2)，“外来語言い換え提案”が「必要だと思う」者は、男女とも高齢層の方が多くなる傾向にあり、男性の 50 歳以上と女性の 50 代では 7 割近い。一方，“言い換え提案”が「必要ないと思う」者は、男女とも若い方の世代に多く、男性の 10 代と 20 代ではほぼ 2 割である。

職業別にみると (図 4-6-2)，“外来語言い換え提案”が「必要だと思う」者は、その他の無職 (66.5%)，農林水産業 (66.1%)，管理職 (65.4%) で、それぞれ他の職業よりやや多くなっている。

さらに“外来語言い換え提案”の周知度別にみると (図 4-6-2)，言い換え提案を知っている者の 4 人に 3 人は「必要だと思う」 (74.9%) と答えている。また、言い換え提案を知らない者でも、6 割が「必要だ」 (60.3%) と回答している。

図 4-6-2 「外来語言い換え提案」の必要性  
(性別、性・年齢別、職業別、外来語言い換え提案の周知度別)

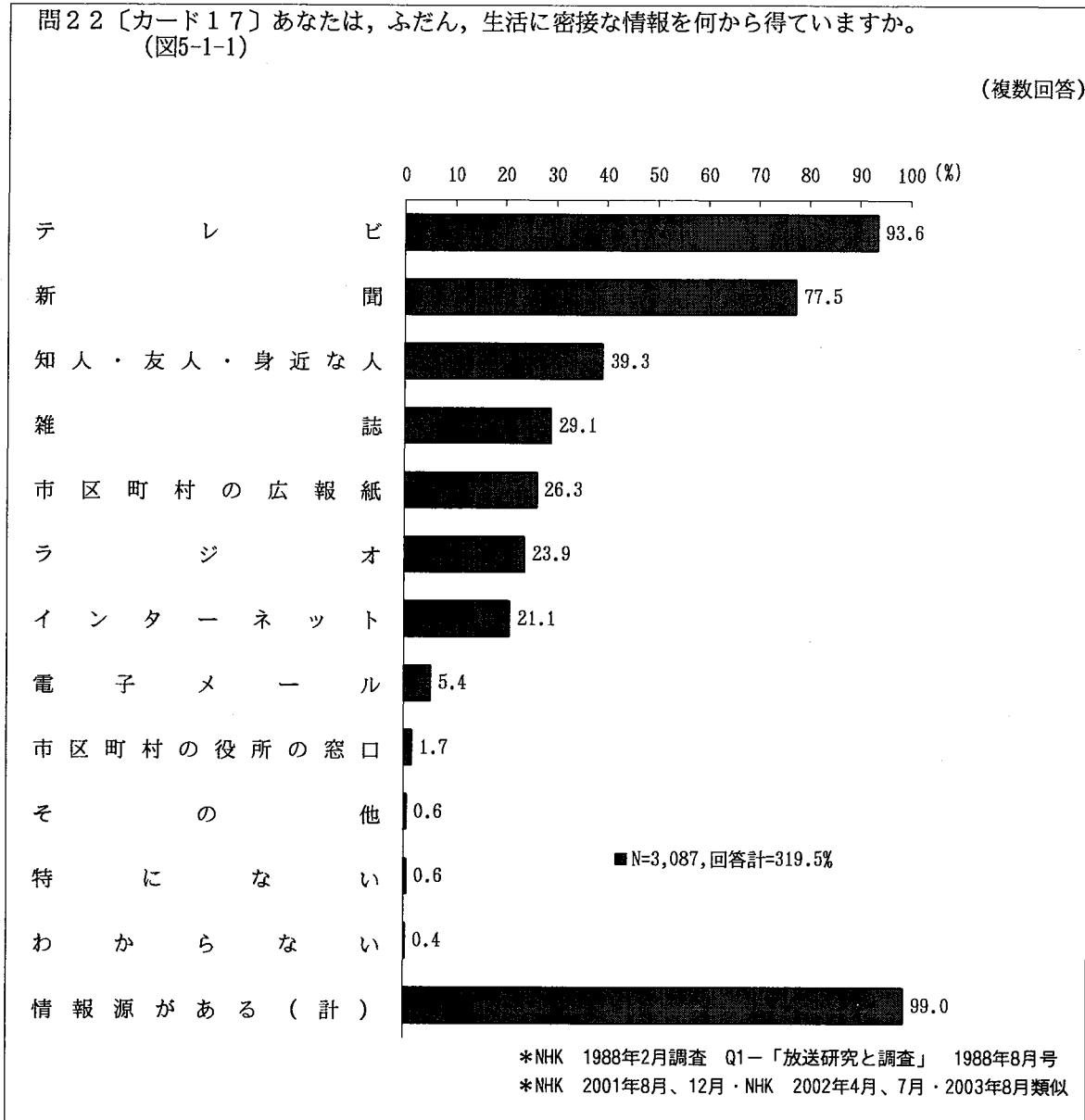


\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照することとめ、分析の対象からは外してある。



## 第5章 情報通信について

### 1 日常生活の情報源



ふだん、生活に密接な情報を得ているものとしては(図5-1-1)、「テレビ」が93.6%と際立って多くあげられ、次いで「新聞」が77.5%である。以下、情報源としては「知人・友人・身近な人」(39.3%)、「雑誌」(29.1%)、「市区町村の広報紙」(26.3%)、「ラジオ」(23.9%)、「インターネット」(21.1%)などの順にあげられた。

性別にみると(表5-1-1)、男女とも「テレビ」(男性93.1%、女性94.1%)が9割を超えてもっとも多くあげられ、次いで「新聞」(同82.0%、73.8%)、「知人・友人・身近な人」(同33.3%、44.2%)の順となっているが、「新聞」は女性より男性に、「知人・友人・身近な人」は男性より女性に、それぞれ多くなっている。さらに、男性では、以下「雑誌」(28.8%)と「ラジオ」

(27.5%) が3割弱で続いているが、女性では「市区町村の広報紙」(30.1%) が「雑誌」(29.3%) と並んで3割となっている。また、男性では「インターネット」(男性 24.4%, 女性 18.4%) も、女性より情報源として多くあげられている。

性・年齢別にみると(表 5-1-1), いずれの層でも「テレビ」が9割以上あげられ、情報源としての第1位となっている。次いで、男女とも 20 歳以上では「新聞」となっているが、10 代では「知人・友人・身近な人」が「新聞」より多くあげられている。また、「雑誌」は、女性の若年層ほど多く、10代から 20代ではほぼ5割である。

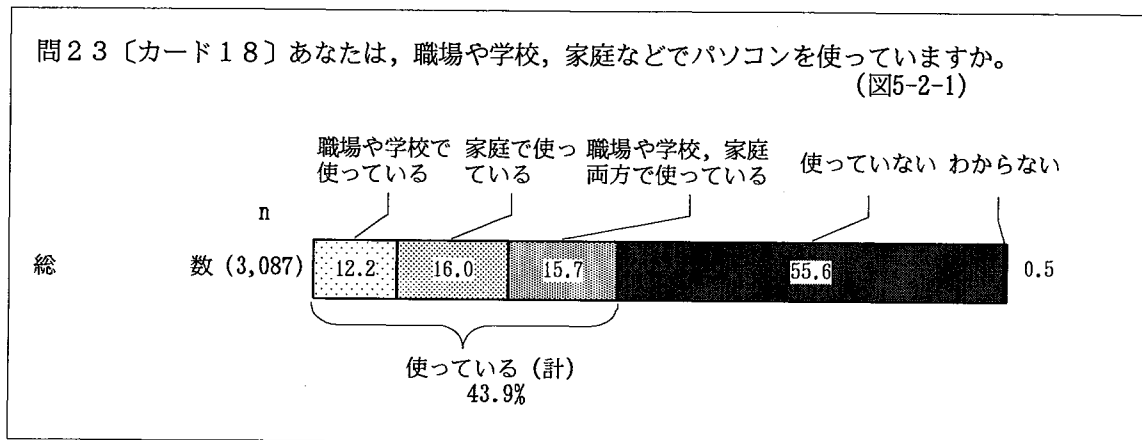
「市区町村の広報紙」は、男性は 60 歳以上で、女性は 30 代から、情報源としての活用が3割を上回っている。「インターネット」は、男性の 20 代から 30 代、女性の 20 代で4割前後があげている。

職業別にみると(表 5-1-1), 管理職では「新聞」が 97.5%と際立って多くあげられ、「テレビ」(93.8%) を上回っている。また、学生は「テレビ」(88.9%) に次いで「知人・友人・身近な人」(54.8%) が多くあげられた。「市区町村の広報紙」は主婦(35.0%) と農林水産業(32.1%) に、「インターネット」は管理職(44.4%) と事務職(41.0%) に、「雑誌」は事務職(38.0%) と学生(37.8%) に、それぞれ多くなっている。

表 5-1-1 日常生活の情報源(性別, 性・年齢別, 職業別)

	総 数	テ レ ビ	新 聞	人 人 知 身 近 な 友 人	雑 誌	広 報 紙 市 区 町 村 の	ラ ジ オ	ネ ッ ト イ ン タ ー ネ ッ ト	電 子 メ ー ル	市 区 町 村 の 役 所 の 窓 口	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	情 報 源 が あ る ( 計 )	計 ( M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総 数	3,087	93.6	77.5	39.3	29.1	26.3	23.9	21.1	5.4	1.7	0.6	0.6	0.4	99.0	319.5
[ 性 別 ]															
男 性	1,387	93.1	82.0	33.3	28.8	21.7	27.5	24.4	7.3	1.8	0.4	0.4	0.5	99.1	321.3
女 性	1,700	94.1	73.8	44.2	29.3	30.1	21.0	18.4	3.8	1.7	0.6	0.8	0.4	98.9	318.1
[ 性・年 齢 ]															
男性 10 代	88	90.9	46.6	51.1	28.4	3.4	11.4	28.4	13.6	-	2.3	1.1	-	98.9	277.3
20 代	135	90.4	57.0	53.3	33.3	6.7	24.4	42.2	8.9	1.5	-	0.7	0.7	98.5	319.3
30 代	176	91.5	79.0	36.9	35.8	11.4	33.5	43.8	12.5	-	0.6	-	1.1	98.9	346.0
40 代	184	91.8	90.8	35.9	33.7	19.0	30.4	34.8	7.6	2.7	1.1	-	-	100.0	347.8
50 代	259	95.4	90.7	31.7	30.1	23.2	33.2	23.6	7.7	0.4	-	0.4	-	99.6	336.3
60歳以上	545	93.9	87.7	24.2	23.3	31.9	25.3	10.1	3.9	3.1	0.2	0.6	0.7	98.7	305.0
女性 10 代	101	92.1	37.6	57.4	49.5	5.9	5.9	26.7	10.9	-	1.0	1.0	2.0	97.0	290.1
20 代	183	96.2	60.1	50.3	48.1	20.2	9.8	38.3	9.8	1.6	0.5	-	0.5	99.5	335.5
30 代	271	95.9	77.5	53.1	37.3	31.0	14.8	29.5	5.5	1.5	1.8	0.4	-	99.6	348.3
40 代	237	94.9	78.9	41.8	33.3	32.1	25.3	26.2	4.6	2.1	-	-	-	100.0	339.2
50 代	368	93.8	86.1	42.7	26.4	37.8	27.4	15.2	1.1	2.2	0.3	0.3	-	99.7	333.2
60歳以上	540	92.6	72.6	37.4	15.4	31.3	24.4	3.1	1.1	1.7	0.6	1.9	0.6	97.6	282.6
[ 職 業 ]															
農 林 水 産 業	112	98.2	79.5	33.9	9.8	32.1	19.6	0.9	1.8	3.6	0.9	-	-	100.0	280.4
商 工 サ ー ビ ス 業	262	93.9	81.3	34.7	28.6	25.6	33.2	18.3	4.2	2.7	-	0.8	0.4	98.9	323.7
自 由 業	43	86.0	86.0	48.8	51.2	25.6	32.6	34.9	14.0	-	-	-	-	100.0	379.1
管 理 職	81	93.8	97.5	38.3	34.6	17.3	37.0	44.4	18.5	-	-	-	-	100.0	381.5
専 門 技 術 職	32	84.4	81.3	46.9	34.4	12.5	31.3	50.0	12.5	6.3	-	-	-	100.0	359.4
事 務 職	490	93.3	81.6	41.8	38.0	22.9	23.5	41.0	9.4	1.4	1.0	0.2	-	99.8	354.1
労 務 職	582	95.0	77.1	41.2	28.0	23.7	28.4	17.5	4.1	1.7	0.3	0.5	0.3	99.1	318.0
主 婦	778	94.3	78.0	41.1	27.1	35.0	21.9	13.4	2.8	2.1	0.6	0.6	0.4	99.0	317.4
学 生	217	88.9	44.2	54.8	37.8	4.1	8.8	35.5	11.5	0.5	1.4	0.5	1.8	97.7	289.9
そ の 他 の 無 職	490	93.3	80.6	27.3	22.2	30.4	21.8	10.4	2.2	1.4	0.2	1.4	0.6	98.0	292.0

## 2 パソコンの使用状況



パソコンの使用状況を聞いたところ(図5-2-1)、「職場や学校で使っている」者が12.2%、「家庭で使っている」者が16.0%、「職場や学校、家庭の両方で使っている」者が15.7%であった。

パソコンは「使っていない」(55.6%)という者は、過半数となった。

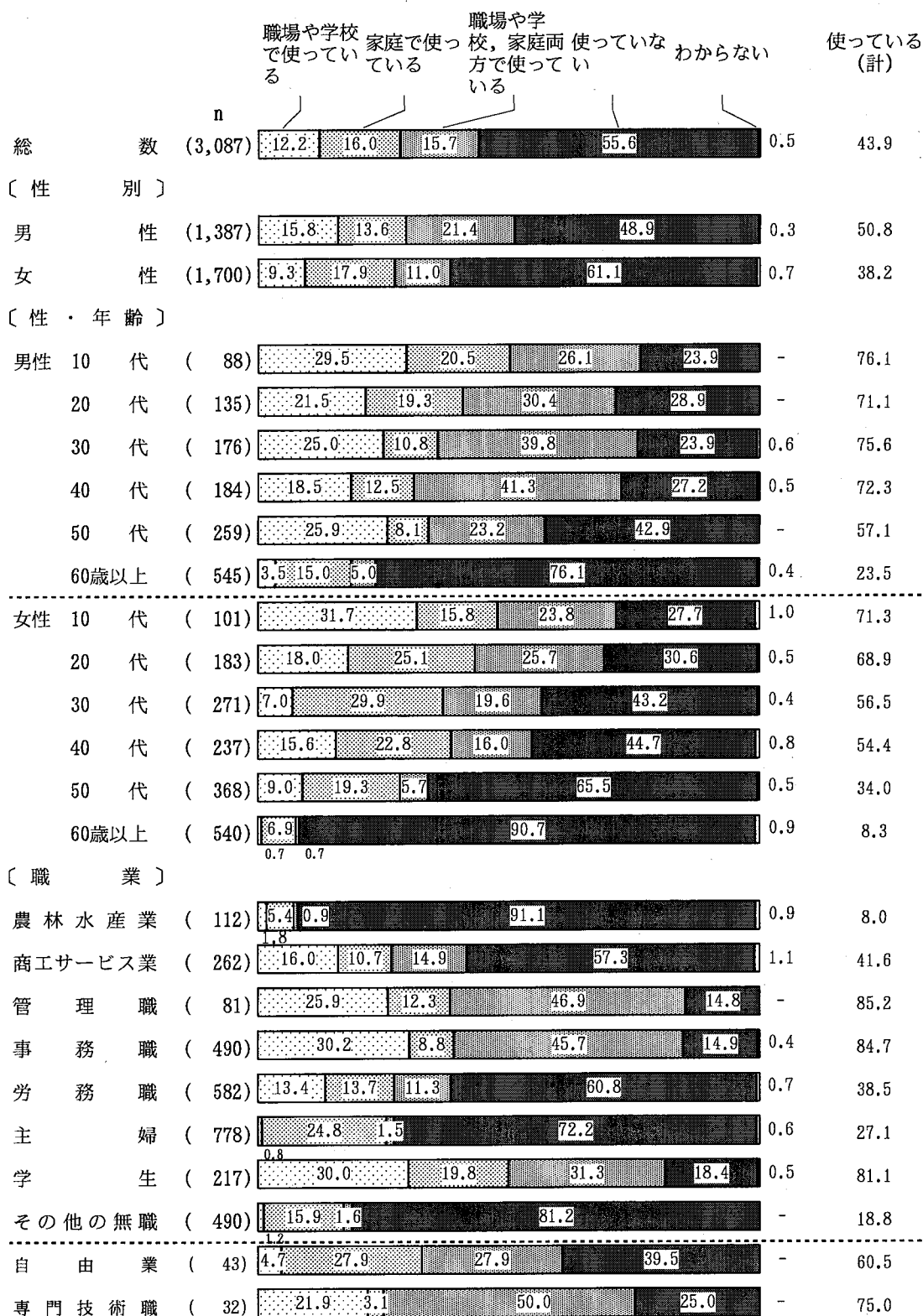
性別にみると(図5-2-2)、男性は「職場や学校、家庭の両方で使っている」者(21.4%)が2割強で、次いで「職場や学校で使っている」者が15.8%となっており、ほぼ半数がパソコンを『使っている』と答えている。一方、女性は「家庭で使っている」者(17.9%)が2割弱で、「職場や学校で使っている」者(9.3%)と「職場や学校、家庭の両方で使っている」者(11.0%)が1割前後である。パソコンを「使っていない」女性は61.1%で、男性より使用率が13ポイント低くなっている。

性・年齢別にみると(図5-2-2)、男女とも若年層でパソコンを『使っている』者が多く、特に男性の20代から40代と女性の10代から20代では、7割前後がパソコンを使用している。

職業別にみると(図5-2-2)、「職場や学校、家庭の両方で使っている」と答えたパソコンの接触度が高いと思われる者は、管理職(46.9%)と事務職(45.7%)で4割台、学生(31.3%)で3割強となっており、それらの『使っている』の回答は8割を上回る。一方、パソコンを「使っていない」という者は、農林水産業の91.1%、その他の無職では81.2%を占める。

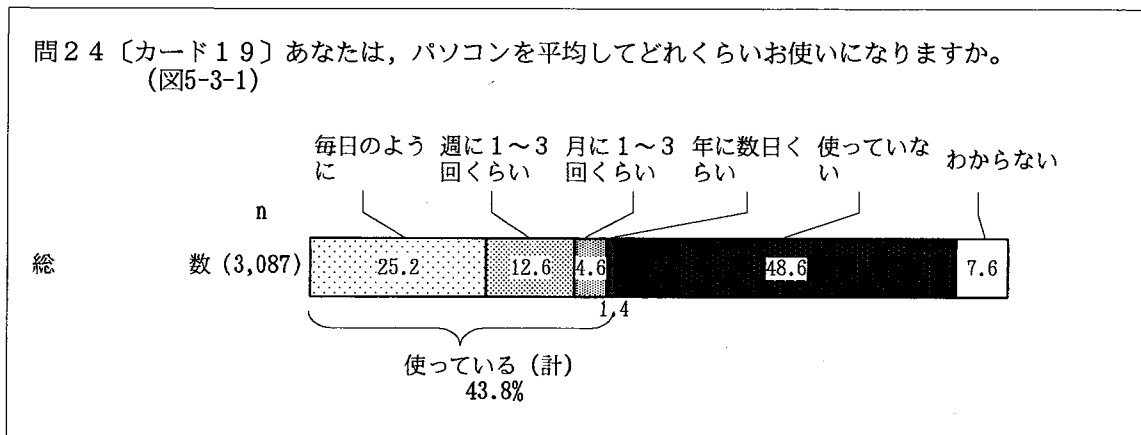
図 5-2-2 パソコンの使用状況

(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

### 3 パソコンの使用頻度



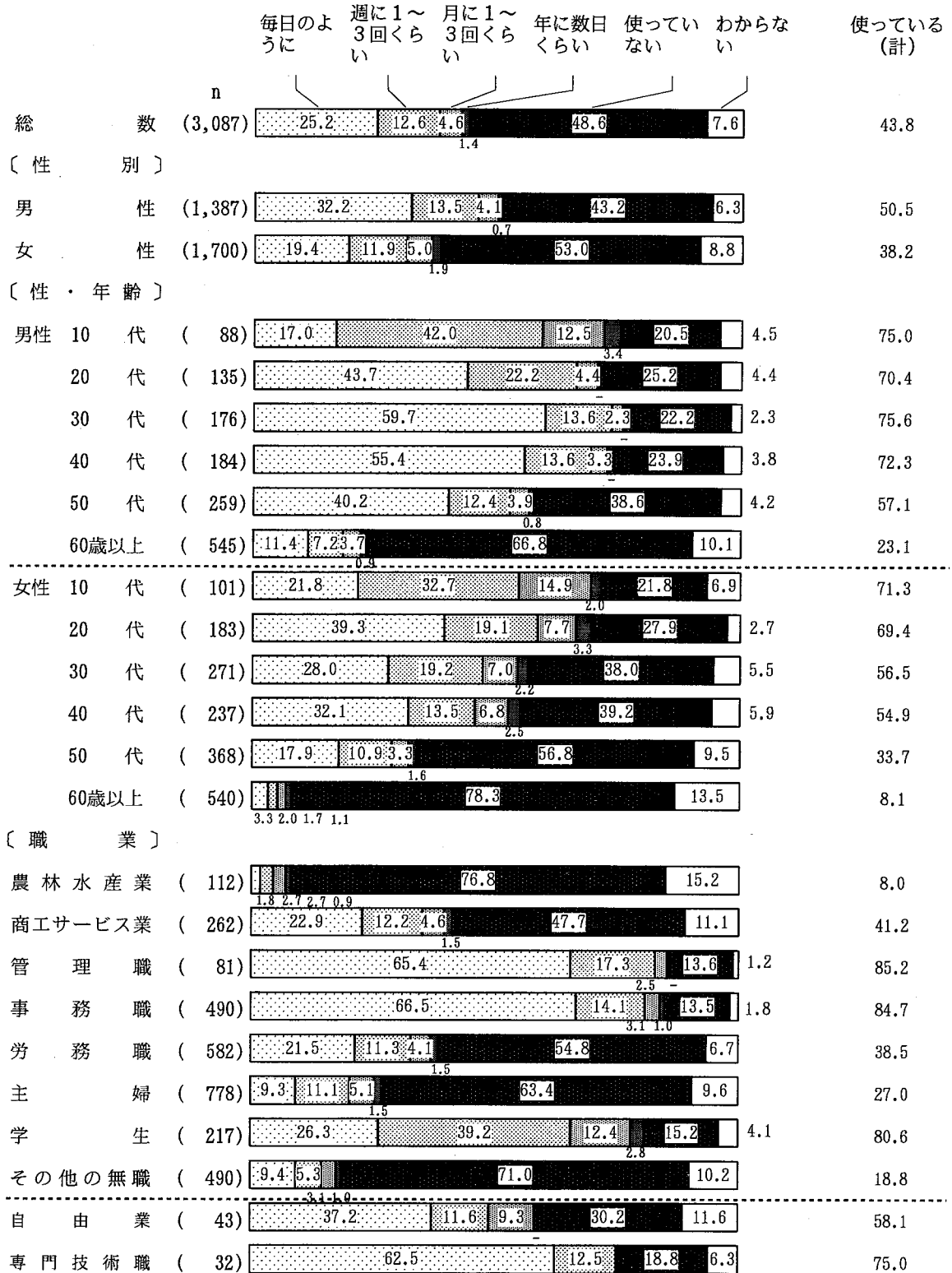
パソコンの使用頻度を聞いたところ(図5-3-1)、4人に1人は「毎日のように」(25.2%)使っており、次いで「週に1~3回くらい」(12.6%)の者が1割強と、使用頻度の高い順に多くなっている。

性別にみると(図5-3-2)、パソコンを「毎日のように」使っている者(男性32.2%、女性19.4%)は、男性で3割強と女性を13ポイント上回り、男性の使用頻度の方が高くなっている。

性・年齢別にみると(図5-3-2)、パソコンを「毎日のように」使っていると答えた使用頻度の高い者は、男性の30代から40代で6割近くを占めている。また、男性の20代と50代、女性の20代でもパソコンを「毎日のように」使っている者が4割前後いる。

職業別にみると(図5-3-2)、パソコンを「毎日のように」使っている者は、事務職(66.5%)と管理職(65.4%)でほぼ3人に2人と、多くなっている。

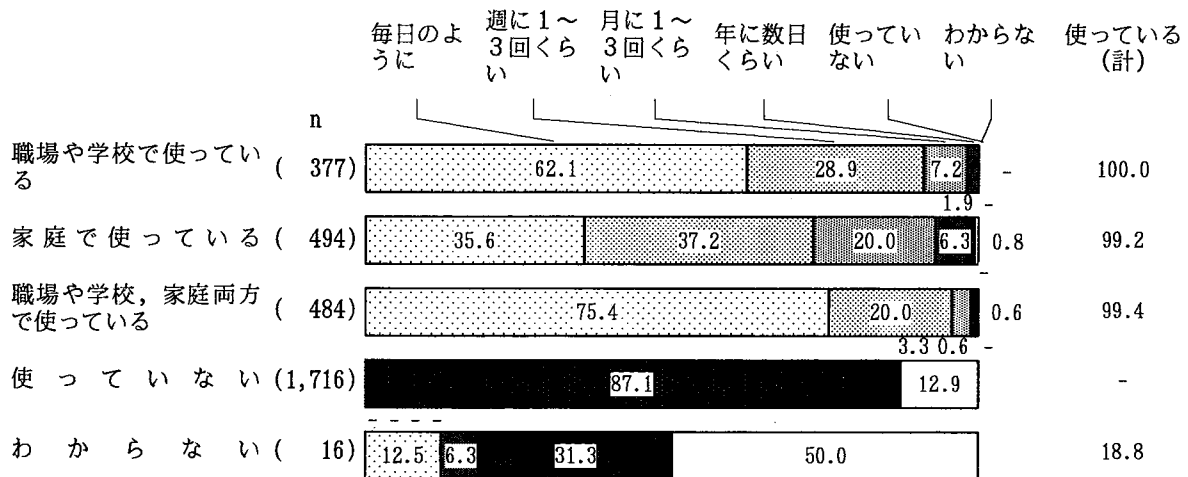
図 5-3-2 パソコンの使用頻度  
(性別、性・年齢別、職業別)



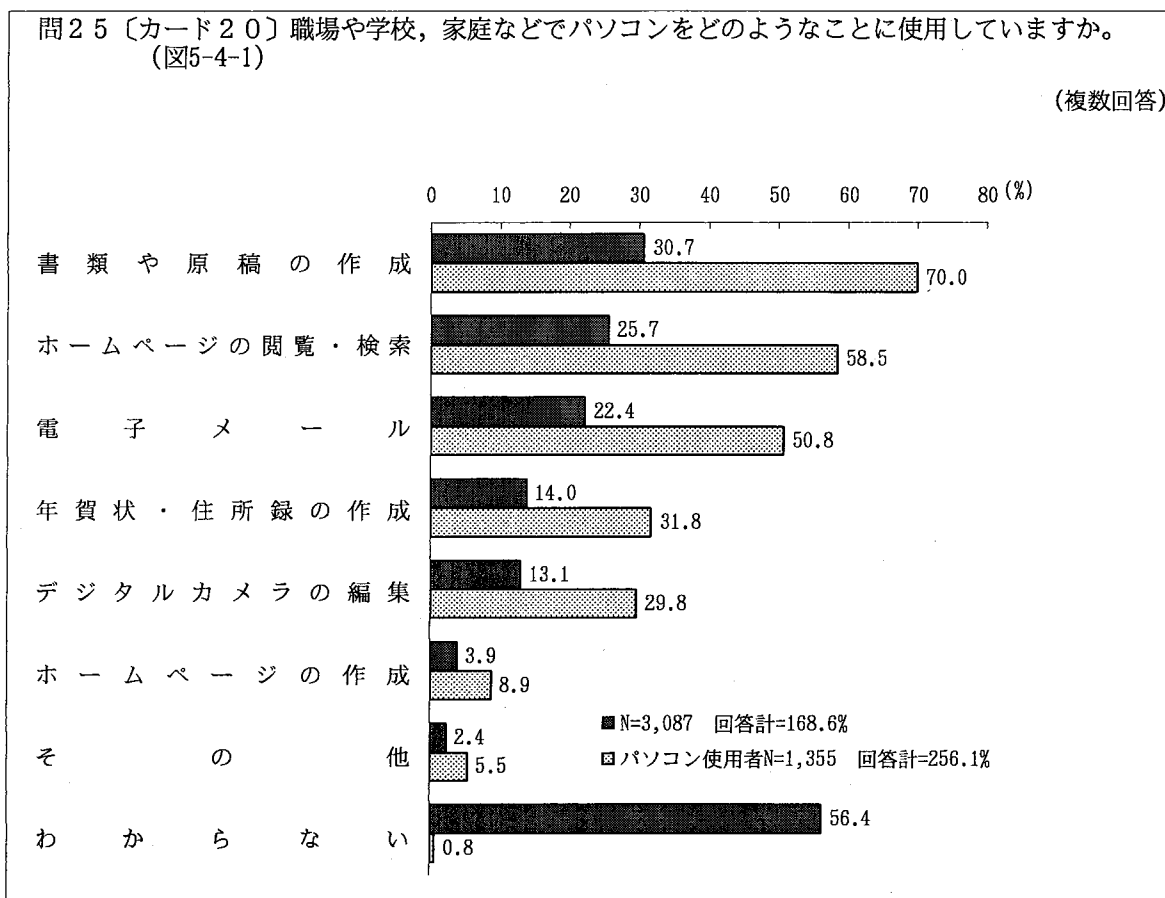
\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

さらに、パソコンの使用状況別にみると（図 5-3-3）、パソコンを職場や学校と家庭の両方で使っている者の4人に3人はパソコンを「毎日のように」（75.4%）使っていると答えており、職場や学校でのみ使っている者でも6割以上が「毎日のように」（62.1%）使っている。一方、家庭でのみパソコンを使っている者では、「毎日のように」（35.6%）もしくは「週に1～3回くらい」（37.2%）使っている者がそれぞれ4割弱、「月に1～3回」（20.0%）という者が2割で、使用頻度が分散している。

図 5-3-3 パソコンの使用頻度（パソコンの使用状況別）



#### 4 パソコンの使用目的



職場や学校、家庭などでのパソコンの使用目的を聞いたところ（図 5-4-1）、「書類や原稿の作成」が 30.7%でもっとも多く、次いで「ホームページの閲覧・検索」（25.7%）、「電子メール」（22.4%）、「年賀状・住所録の作成」（14.0%）、「デジタルカメラの編集」（13.1%）の順となっている。

この問はパソコンの非利用者を含めた全員の調査協力者に聞いたため、使用目的をパソコン利用者にしぼってみると、「書類や原稿の作成」が 70.0%と多数を占めた。次いで「ホームページの閲覧・検索」が 58.5%、「電子メール」が 50.8%となっている。

使用目的を性別にみると（表 5-4-1）, 男性の場合は「書類や原稿の作成」（39.9%）が 4 割, 次いで「ホームページの閲覧・検索」（29.1%）が 3 割, 「電子メール」（25.8%）が 3 割弱となっている。一方, 女性では「書類や原稿の作成」（23.3%）と「ホームページの閲覧・検索」（22.9%）, 「電子メール」（19.5%）が, それぞれ 2 割前後となっている。

性・年齢別にみると（表 5-4-1）, 「書類や原稿の作成」は男性の 20 代から 50 代と女性の 20 代で, 「ホームページの閲覧・検索」は男性の 10 代から 40 代と女性の 10 代から 20 代で, 「電子メール」は男性の 20 代から 40 代と女性の 20 代から 30 代で, それぞれ他の年齢層より多くあげられている。

また, 「年賀状・住所録の作成」は男性の 30 代から 40 代と女性の 20 代で, 「デジタルカメラの編集」は男性の 20 代から 40 代で, それぞれ 3 割弱である。



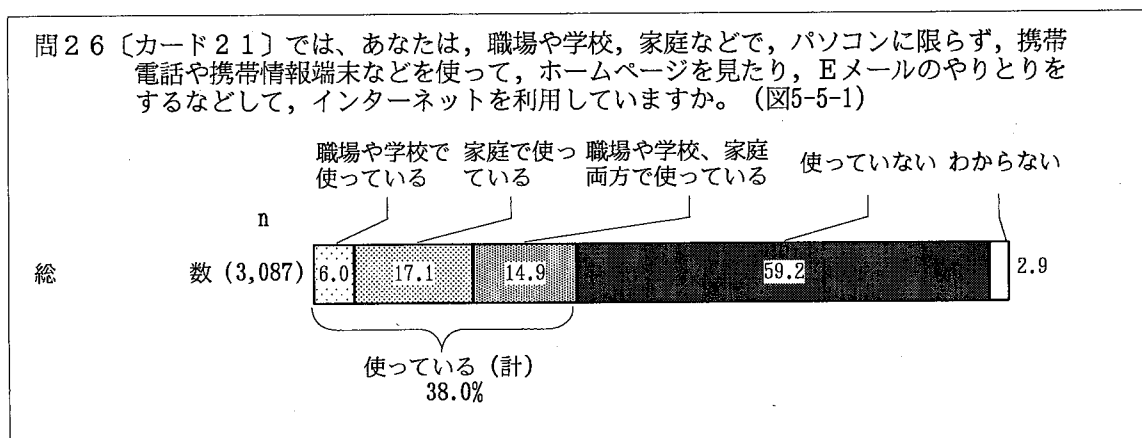
職業別にみると（表 5-4-1），管理職と事務職の7割以上が「書類や原稿の作成」（管理職 77.8%，事務職 74.7%）のためにパソコンを使用している。また，「ホームページの閲覧・検索」は管理職（60.5%）と学生（57.6%）の6割前後，「電子メール」は管理職（53.1%）の5割強が利用している。

さらにパソコンの使用状況別にみると（表 5-4-1），職場や学校で使っている者と職場や学校と家庭の両方で使っている者では，「書類や原稿の作成」が8割を超え，家庭でのみパソコンを使っている者では，「ホームページの閲覧・検索」（61.1%）がもっとも多くなっている。

表 5-4-1 パソコンの使用目的（性別，性・年齢別，職業別，パソコンの使用状況別）

	総 数	作 書 成 類 や 原 稿 の	の ホ ー ム ペ ー ジ の 浏 覧 ・ 検 索	電 子 メ ー ル	年 賀 状 ・ 住 所 の 作 成	ラ ジ オ 編 集 カ メ ラ	の ホ ー ム ペ ー ジ の 作 成	そ の 他	わ か ら な い	計 (M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	3,087	30.7	25.7	22.4	14.0	13.1	3.9	2.4	56.4	168.6
[性別]										
男性	1,387	39.9	29.1	25.8	15.7	16.0	5.3	2.5	49.7	184.1
女性	1,700	23.3	22.9	19.5	12.5	10.7	2.8	2.4	61.8	156.0
[性・年齢]										
男性 10代	88	27.3	54.5	23.9	3.4	4.5	4.5	5.7	25.0	148.9
20代	135	54.1	47.4	41.5	14.8	25.2	11.9	3.0	30.4	228.1
30代	176	65.3	48.9	48.9	27.8	29.5	10.2	2.3	24.4	257.4
40代	184	60.3	42.9	44.6	27.2	25.5	6.0	4.3	27.7	238.6
50代	259	49.8	26.6	26.3	15.1	15.8	5.0	4.2	44.0	186.9
60歳以上	545	18.5	10.6	8.3	10.5	8.1	2.0	0.6	76.9	135.4
女性 10代	101	32.7	49.5	25.7	9.9	4.0	4.0	1.0	29.7	156.4
20代	183	44.8	44.8	38.8	27.3	23.0	7.1	8.2	30.6	224.6
30代	271	35.4	37.6	34.3	19.2	22.1	5.2	1.8	43.9	199.6
40代	237	35.9	32.5	28.7	16.5	11.8	4.2	4.2	45.6	179.3
50代	368	20.7	15.8	14.7	10.6	9.8	1.4	1.4	66.0	140.2
60歳以上	540	4.4	3.9	3.7	4.3	2.2	0.4	0.7	91.7	111.3
[職業]										
農林水産業	112	4.5	0.0	2.7	3.6	0.9	-	-	92.0	103.6
商工サービス業	262	32.1	20.2	17.6	11.8	9.9	4.6	3.1	58.8	158.0
自由業	43	51.2	32.6	27.9	20.9	23.3	9.3	2.3	41.9	209.3
管理職	81	77.8	60.5	53.1	30.9	35.8	7.4	8.6	14.8	288.9
専門技術職	32	65.6	43.8	53.1	28.1	31.3	15.6	6.3	25.0	268.8
事務職	490	74.7	51.0	49.0	27.6	26.9	8.0	2.4	15.5	255.1
労務職	582	25.9	19.2	16.0	10.5	10.7	2.9	2.4	61.9	149.5
主婦	778	10.8	16.1	15.8	11.8	10.2	1.5	2.3	72.9	141.4
学生	217	40.1	57.6	32.7	9.2	9.2	6.9	4.1	19.8	179.7
その他の無職	490	13.5	10.6	8.6	9.2	7.1	2.2	0.8	81.6	133.7
[パソコンの使用]										
職場や学校で使っている	377	82.0	40.8	36.3	13.8	14.6	7.4	5.3	0.8	201.1
家庭で使っている	494	46.4	61.1	50.0	39.7	33.6	6.9	5.9	1.0	244.5
職場や学校，家庭両方で使っている	484	84.7	69.4	62.8	37.8	37.8	12.2	5.4	0.6	310.7

## 5 インターネットの利用状況



職場や学校、家庭などで、パソコンに限らず、携帯電話や携帯情報端末などを使って、ホームページを見たり、Eメールのやりとりをするなどして、インターネットを利用しているかを聞いたところ(図5-5-1)、「職場や学校で使っている」者が6.0%、「家庭で使っている」者が17.1%、「職場や学校、家庭の両方で使っている」者が14.9%で、4割近くがインターネットを『使っている』。インターネットを「使っていない」(59.2%)と答えた者は6割である。

性別にみると(図5-5-2)、「職場や学校、家庭の両方で使っている」者(男性19.0%、女性11.6%)は女性より男性に、「家庭で使っている」者(同12.7%、20.6%)は男性より女性に、それぞれ多くなっている。

インターネットを「使っていない」(男性57.0%、女性60.9%)という者は、6割前後である。

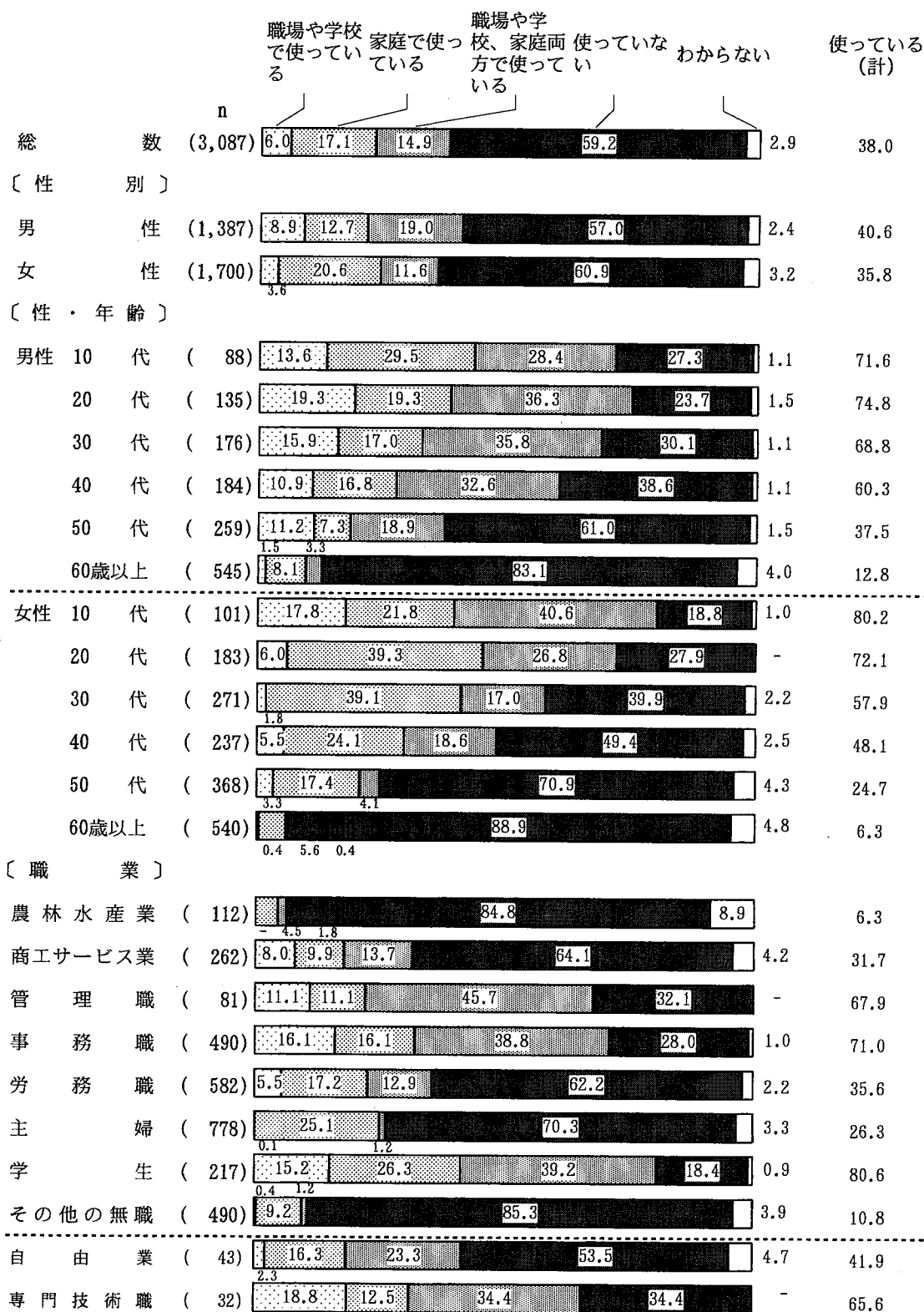
性・年齢別にみると(図5-5-2)、「職場や学校、家庭の両方で使っている」(40.6%)と答えている。また、男性の20代から40代で「職場や学校、家庭の両方で使っている」者は3割を上回る。一方、「家庭で使っている」者は、女性の20代から30代で4割、男性の10代で3割となっている。

男女とも60歳以上では、インターネットを「使っていない」者(男性83.1%、女性88.9%)が8割以上を占める。

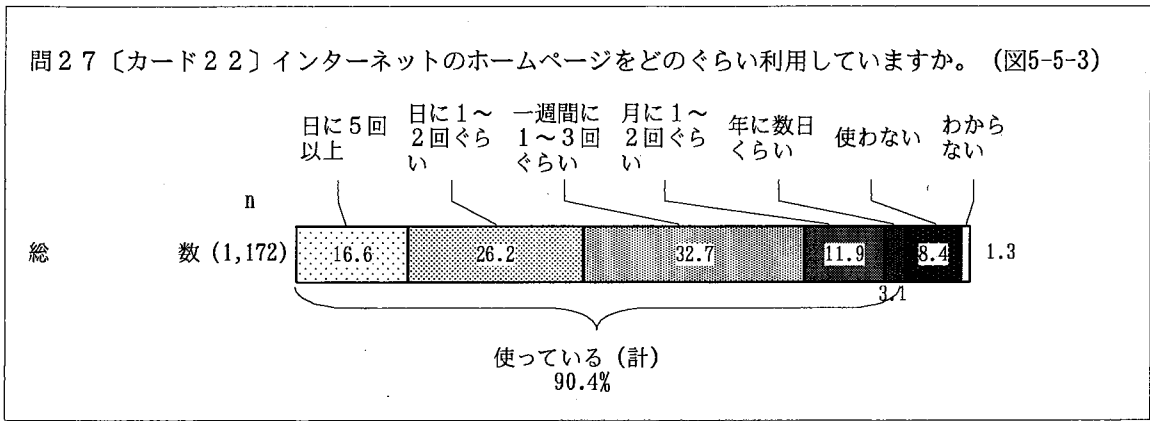
職業別にみると(図5-5-2)、「職場や学校、家庭の両方で使っている」者は管理職(45.7%)、学生(39.2%)、事務職(38.8%)などに多い。

インターネットを「使っていない」者は、その他の無職(85.3%)と農林漁業(84.8%)で8割以上、主婦(70.3%)では7割を占める。

図 5-5-2 インターネットの利用状況  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。



インターネットを利用している者(1,172人)に、インターネット上のホームページの利用頻度を聞いたところ(図5-5-3)、「一週間に1~3回ぐらい」(32.7%)という者が3人に1人でもっとも多く、次いで「日に1~2回ぐらい」(26.2%)、「日に5回以上」(16.6%)の順となっている。

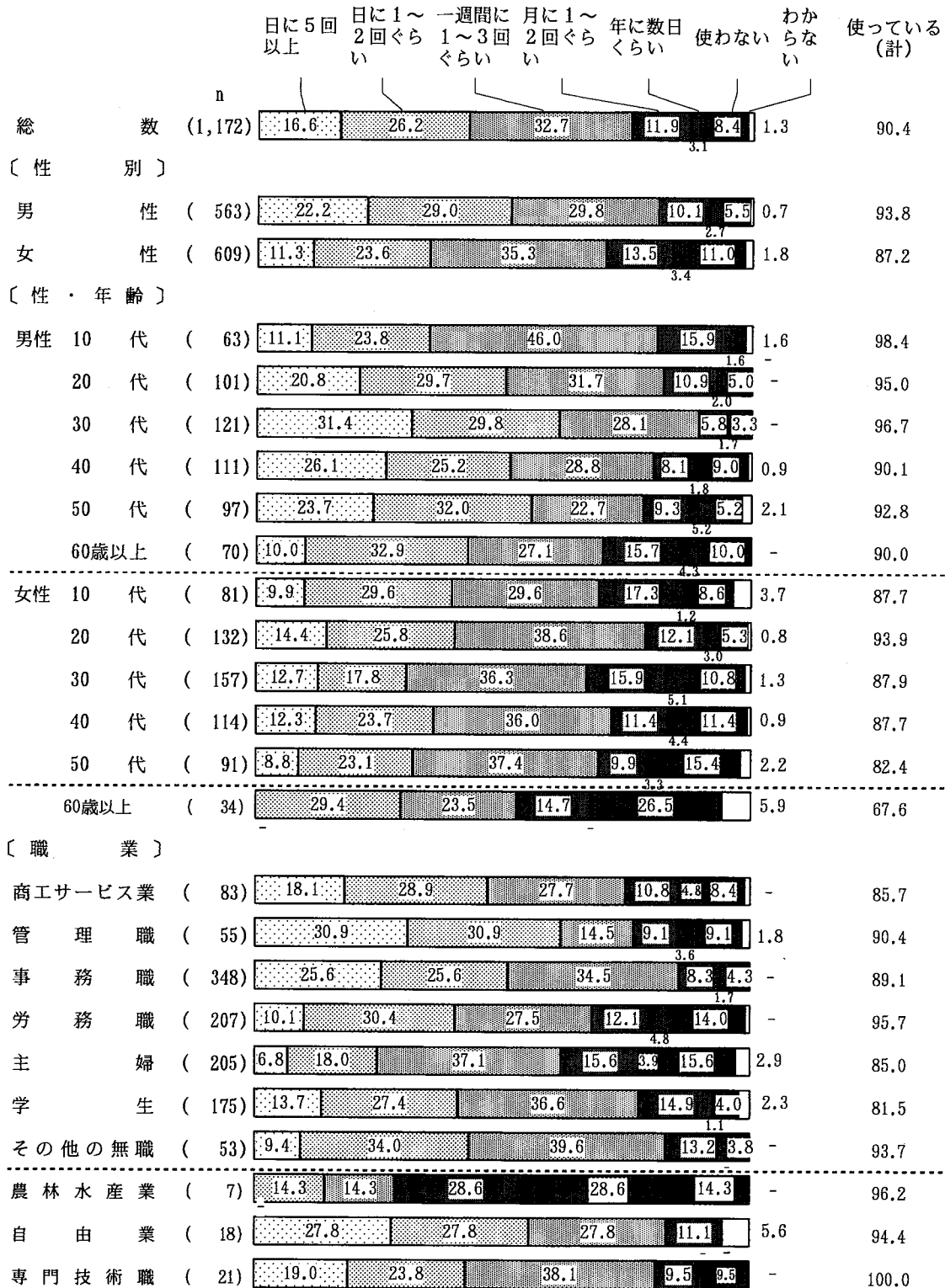
ホームページを「使わない」という者は8.4%で、インターネット利用者の9割は、ホームページを利用している。

性別にみると(図5-5-4)、男性は、「日に5回以上」(22.2%)もしくは「日に1~2回ぐらい」(29.0%)と答えた毎日ホームページを利用している者が過半数である。一方、女性のインターネット利用者は、ホームページを「一週間に1~3回ぐらい」利用する者が35.3%でもっとも多く、男性の利用頻度の方が高くなっている。

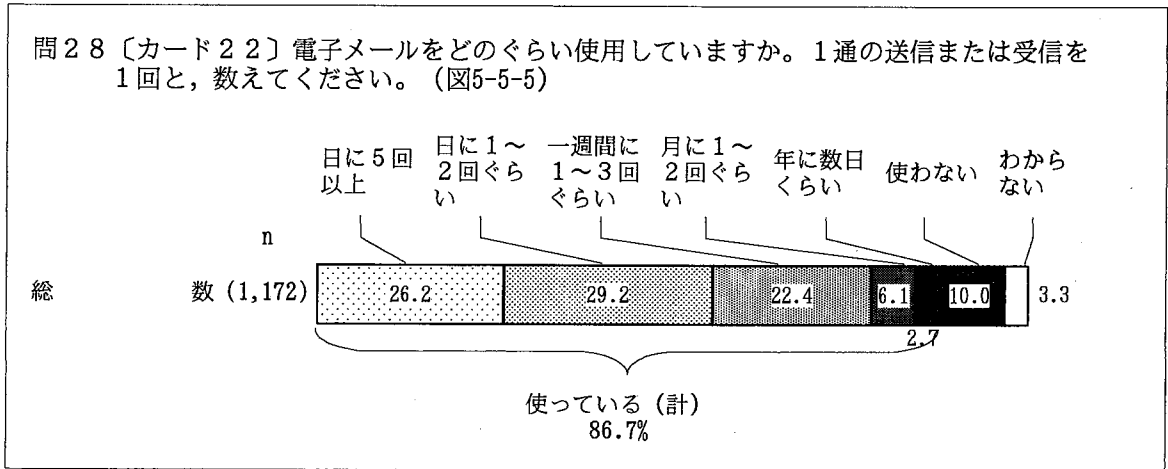
性・年齢別にみると(図5-5-4)、ホームページを「日に5回以上」利用しているという、もっとも頻度の高いインターネット利用者は、男性の30代から40代で3割前後と他の層よりおおくなっている。

職業別にみると(図5-5-4)、事務職と該当数は少ないが管理職で、インターネットのホームページを「日に5回以上」(事務職25.6%、管理職30.9%)利用している者が3割前後と、他の職業より多くなっている。

図 5-5-4 ホームページの利用頻度  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\* 「女性の60歳以上」と「農林水産業」「自由業」「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。



インターネットを利用している者(1,172人)に、電子メールの利用について聞いたところ(図5-5-5)、「日に1～2回ぐらい」利用している者が29.2%でもっとも多く、「日に5回以上」(26.2%)という者を合わせると、半数以上が毎日電子メールを利用している。

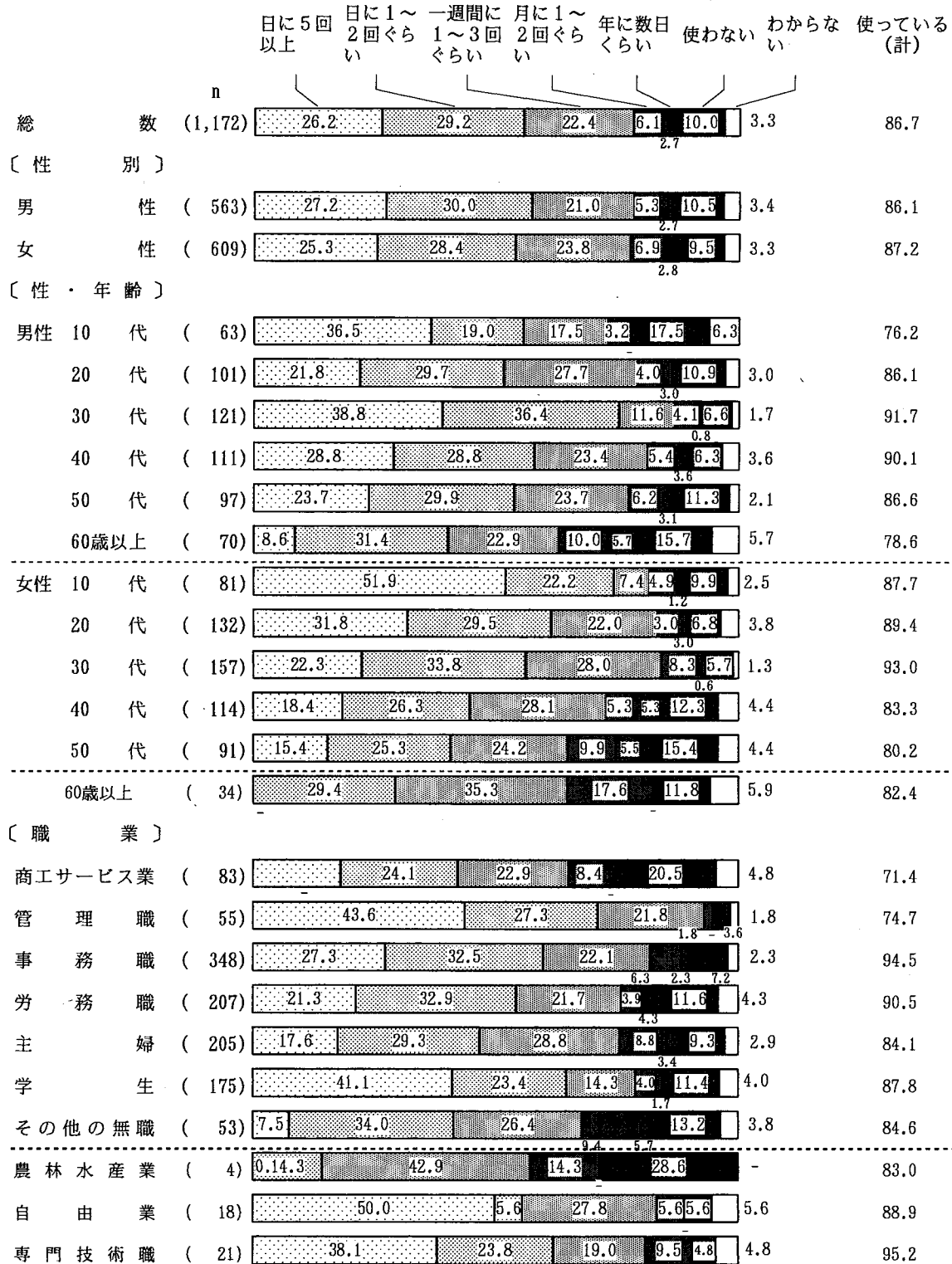
電子メールを「使わない」という者は10.0%で、インターネット利用者における電子メールの利用率は9割近い。

性別にみると(図5-5-6)、男女とも「日に1～2回ぐらい」(男性30.0%、女性28.4%)という者が3割程度でもっとも多く、次いで「日に5回以上」(同27.2%、25.3%)となっており、電子メールを毎日利用している者が5割を上回る。

性・年齢別にみると(図5-5-6)、「日に5回以上」と答えた電子メールの利用頻度の高い者は、女性では若年層に多い傾向があり、特に10代(51.9%)では過半数となっている。一方、男性で「日に5回以上」電子メールを使用している者は、10代(36.5%)と30代(38.8%)で4割弱である。

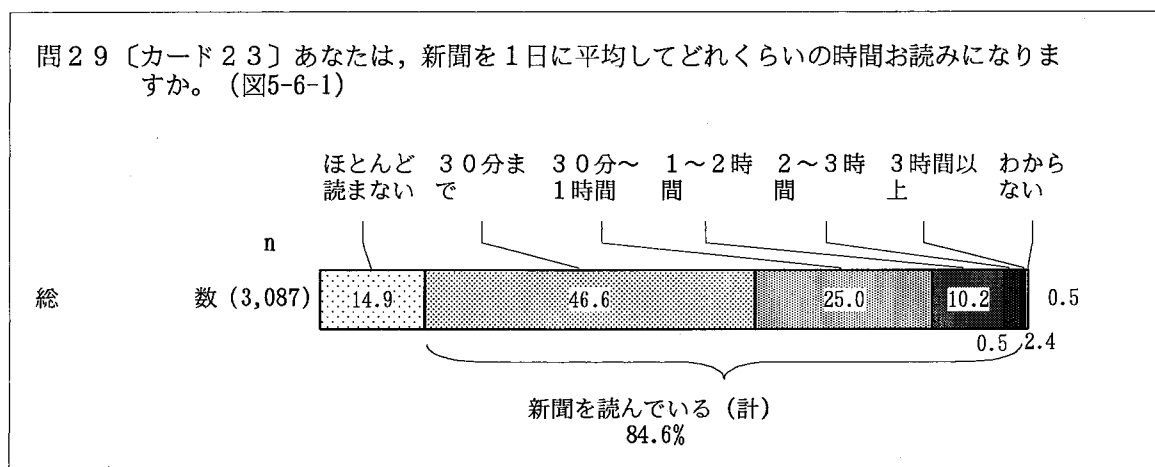
職業別にみると(図5-5-6)、「日に5回以上」電子メールを使う者は、学生(41.1%)と該当数は少ないが管理職(43.6%)で4割を超え、他の職業に比べ目立って多くなっている。

図 5-5-6 電子メールの利用頻度  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「女性の60歳以上」と「農林水産業」「自由業」「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにともな、分析の対象からは外してある。

## 6 新聞を読む時間



1日に平均して新聞をどれくらいの時間読むかを聞いたところ(図5-6-1)、「30分まで」(46.6%)という者が半数近くを占め、次いで「30分~1時間」という者が25.0%である。

新聞を「ほとんど読まない」という者は14.9%で、8割以上の者が新聞を読んでいることになる。

性別にみると(図5-6-2)、1日平均「30分まで」という者は、男性39.8%、女性52.2%で、男性より女性の方が新聞を読む平均時間が短い。

また、新聞を「ほとんど読まない」者(男性11.4%、女性17.8%)は、女性の2割弱で、男性より6ポイント多くなっている。

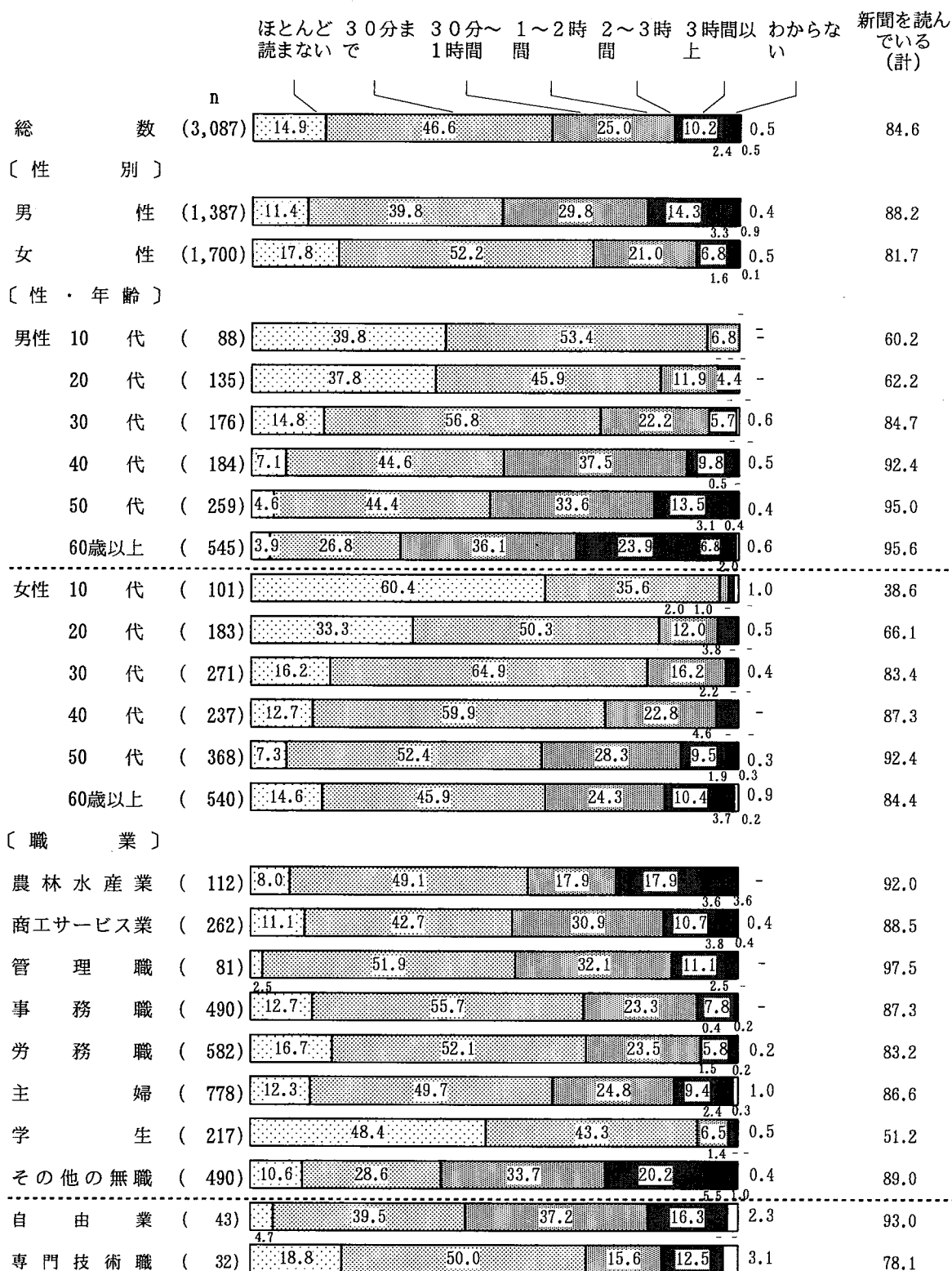
性・年齢別にみると(図5-6-2)、男女とも、年齢が高くなるにつれて新聞を1日平均「30分~1時間」または「1~2時間」と比較的長く読む者が多くなる傾向にあり、特に男性の60歳以上の4人に1人は、平均「1~2時間」(23.9%)かけて新聞を読んでいる。

一方、新聞を「ほとんど読まない」者は、男女とも10代と20代に多く、特に女性の10代の6割は「ほとんど読まない」(60.4%)と答えており、新聞を『読む』者が4割弱である。

職業別にみると(図5-6-2)、学生の半数近くは新聞を「ほとんど読まない」(48.4%)と答えており、読んでも「30分まで」(43.3%)が多数を占める。

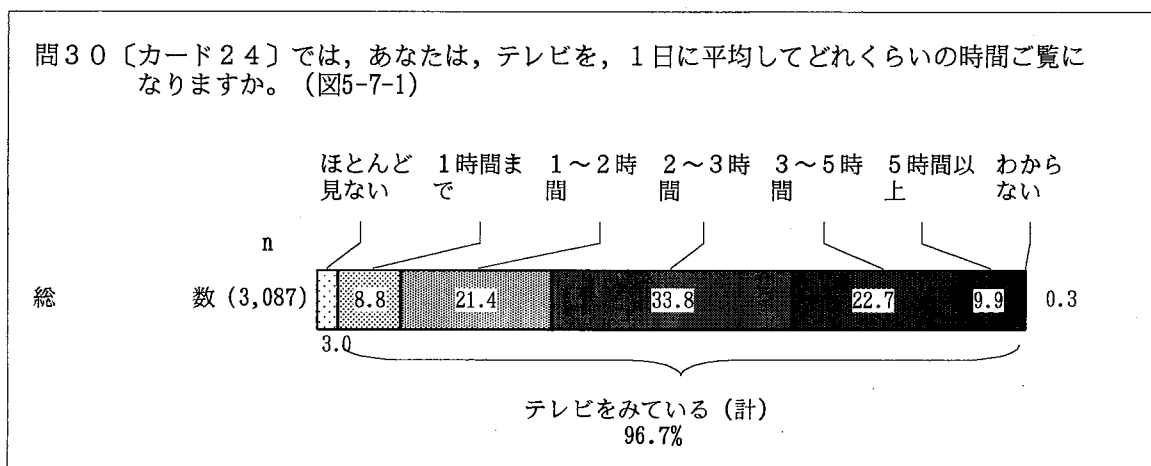


図 5-6-2 新聞を読む時間  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 7 テレビを見る時間



テレビの1日平均の視聴時間を聞いたところ(図5-7-1)、3人に1人は「2~3時間」(33.8%)と答えており、次いで「3~5時間」(22.7%)もしくは「1~2時間」(21.4%)という者がともに2割強である。

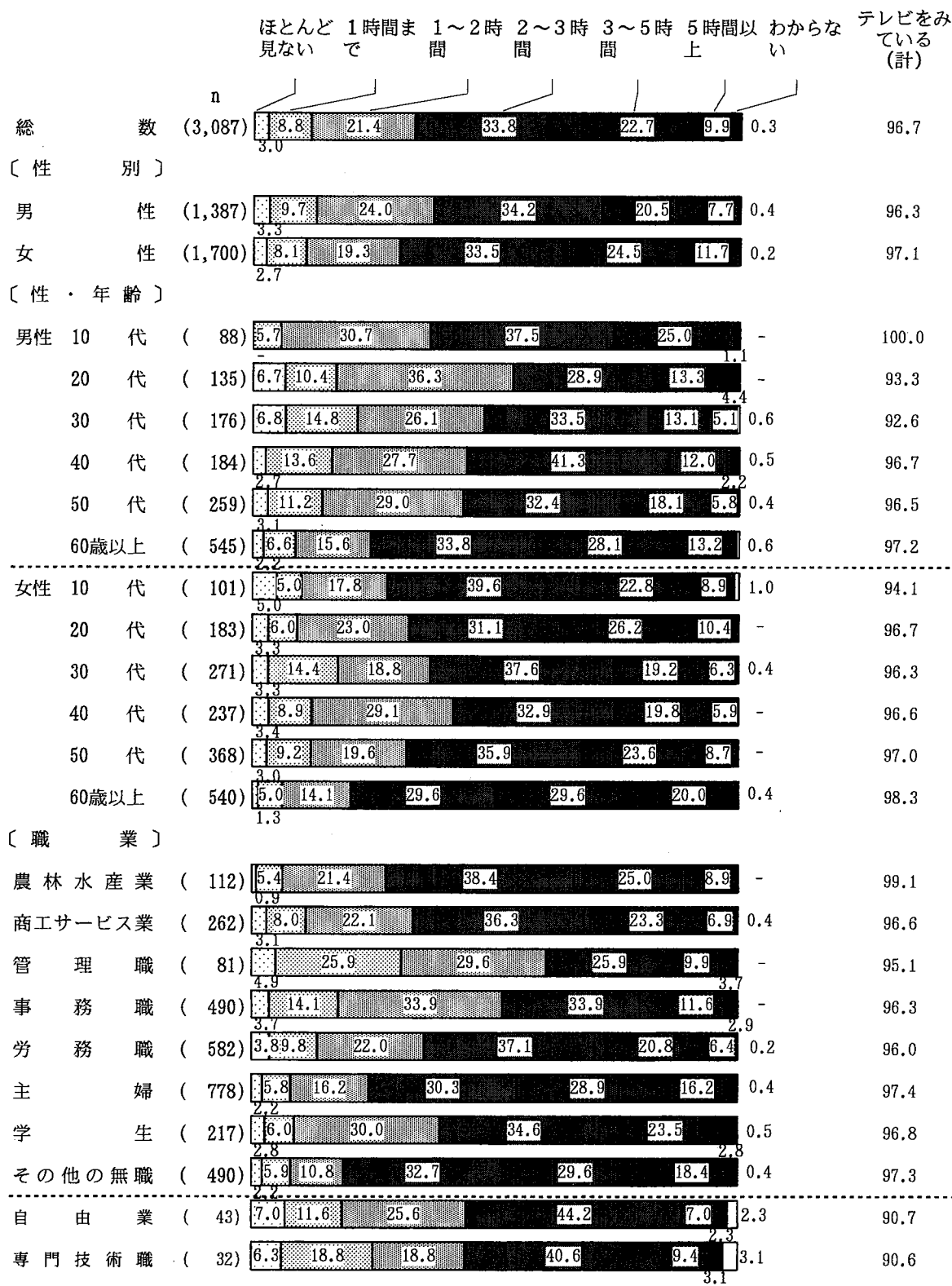
テレビを「ほとんど見ない」という者は3.0%にとどまり、全数近くが『テレビを見ている』ことになる。

性別にみると(図5-7-2)、男女とも「2~3時間」(男性34.2%、女性33.5%)が3割強でもっとも多く、次いで男性では「1~2時間」(24.0%)、女性では「3~5時間」(24.5%)となっており、女性の方が1日に平均したテレビ視聴時間は長い。

性・年齢別にみると(図5-7-2)、女性の60歳以上で、1日平均「5時間以上」テレビを見る者が20.0%と、他の年齢層より多くなっている。一方、平均「1時間まで」と、視聴時間の短い者は、男性の30代から40代と、女性の30代でやや多くなっている。

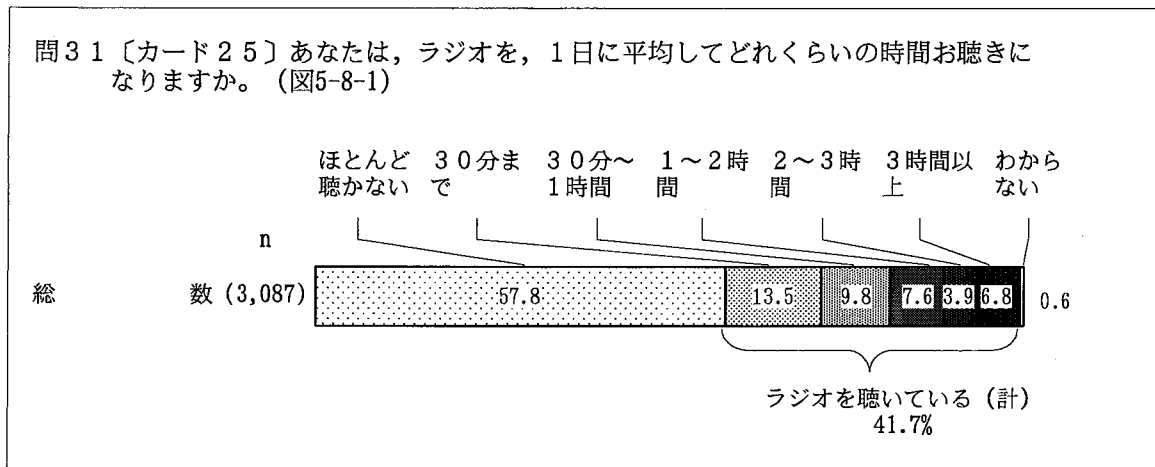
職業別にみると(図5-7-2)、その他の無職と主婦は、1日「5時間以上」(無職18.4%、主婦16.2%)テレビを見る者が、他の職業に比べ多くなっている。一方、管理職の25.9%は「1時間まで」と答え、視聴時間が短くなっている。

図 5-7-2 テレビを見る時間  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 8 ラジオを聴く時間



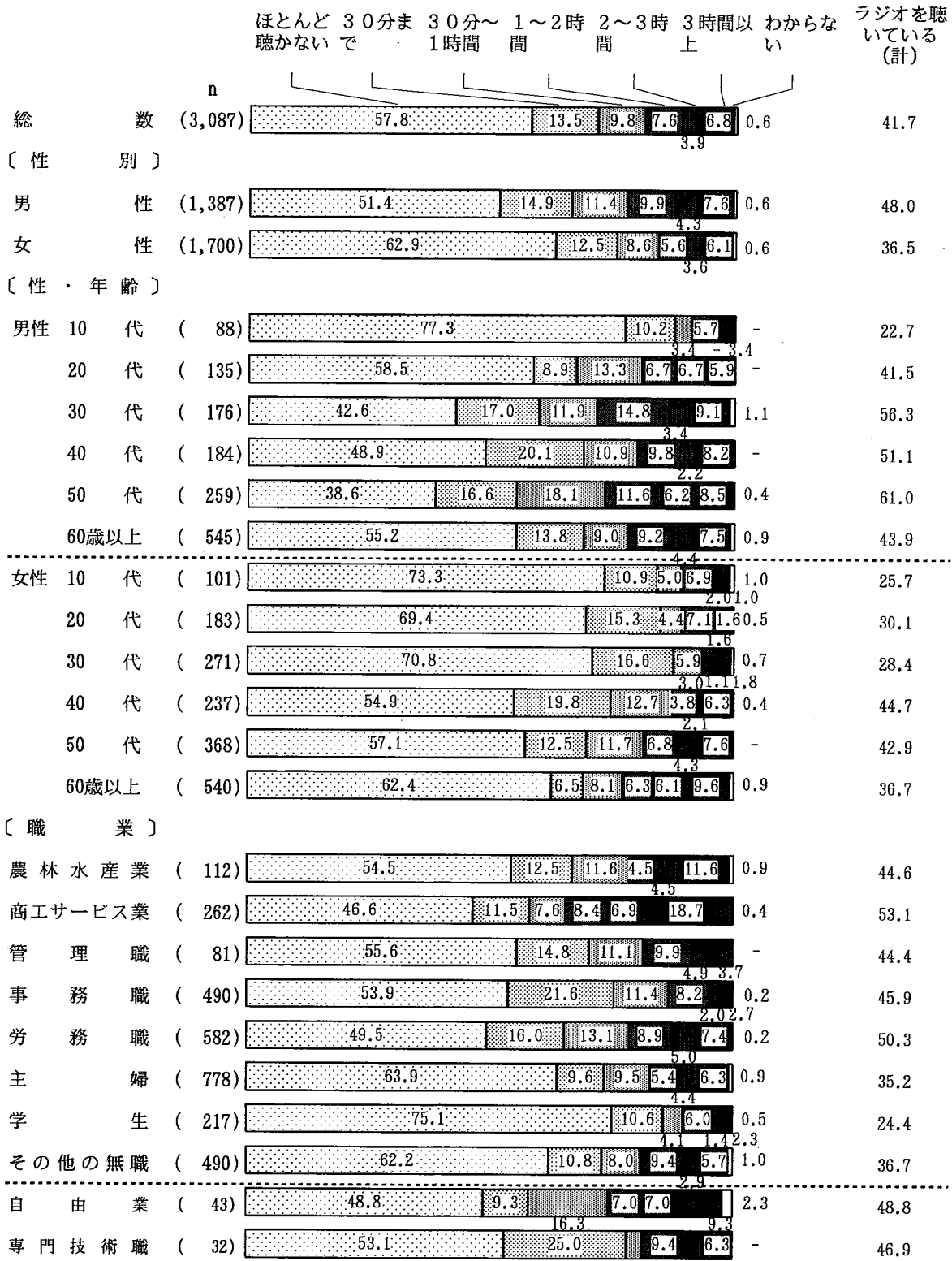
ラジオを聴く時間を1日平均で聞いたところ(図5-8-1)、「30分まで」(13.5%)、「30分～1時間」(9.8%)、「1～2時間」(7.6%)の順となっているが、いずれも1割前後で、ラジオは「ほとんど聴かない」(57.8%)という者が6割近い。

性別にみると(図5-8-2)、ラジオを「ほとんど聴かない」という者は、男性51.4%、女性62.9%で、男性の方が女性よりラジオを聴く者が多くなっている。

性・年齢別にみると(図5-8-2)、ラジオを「ほとんど聴かない」という者は、男女とも若年層に多く、特に男性の10代では8割弱、女性の10代から30代では7割前後にのぼっている。一方、男性の50代では2割近くが、平均して「30分～1時間」(18.1%)ラジオを聴くと答えている。

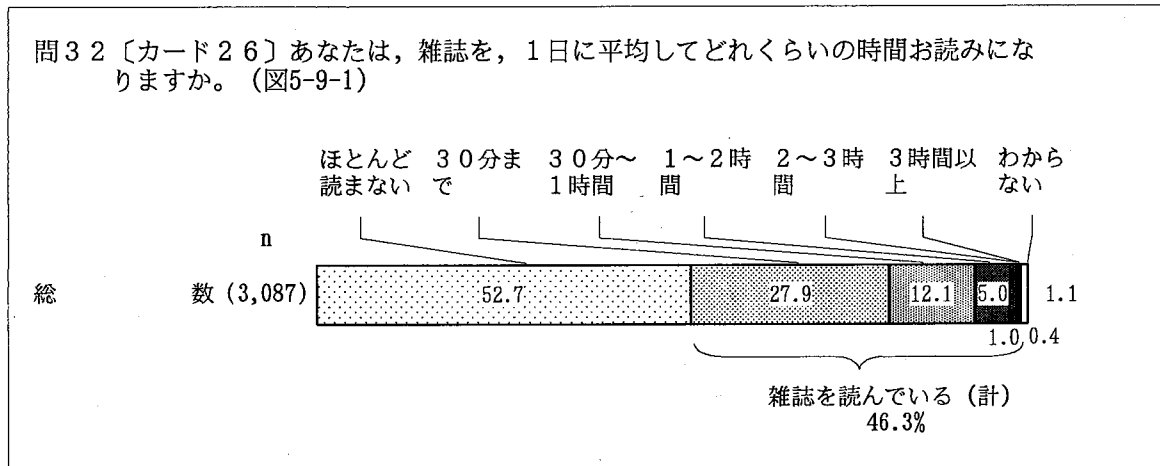
職業別にみると(図5-8-2)、事務職では、1日平均「30分まで」ラジオを聴くという者が21.6%いる。一方、ラジオを「ほとんど聴かない」という者は、学生(75.1%)、主婦(63.9%)、その他の無職(62.2%)で多くなっている。

図 5-8-2 ラジオを聴く時間  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 9 雑誌を読む時間



雑誌を1日に平均して読む時間を聞いたところ(図5-9-1)、「30分まで」(27.9%)という者が3割弱、「30分～1時間」(12.1%)が1割強である。

雑誌を「ほとんど読まない」者(52.7%)は半数以上となっている。

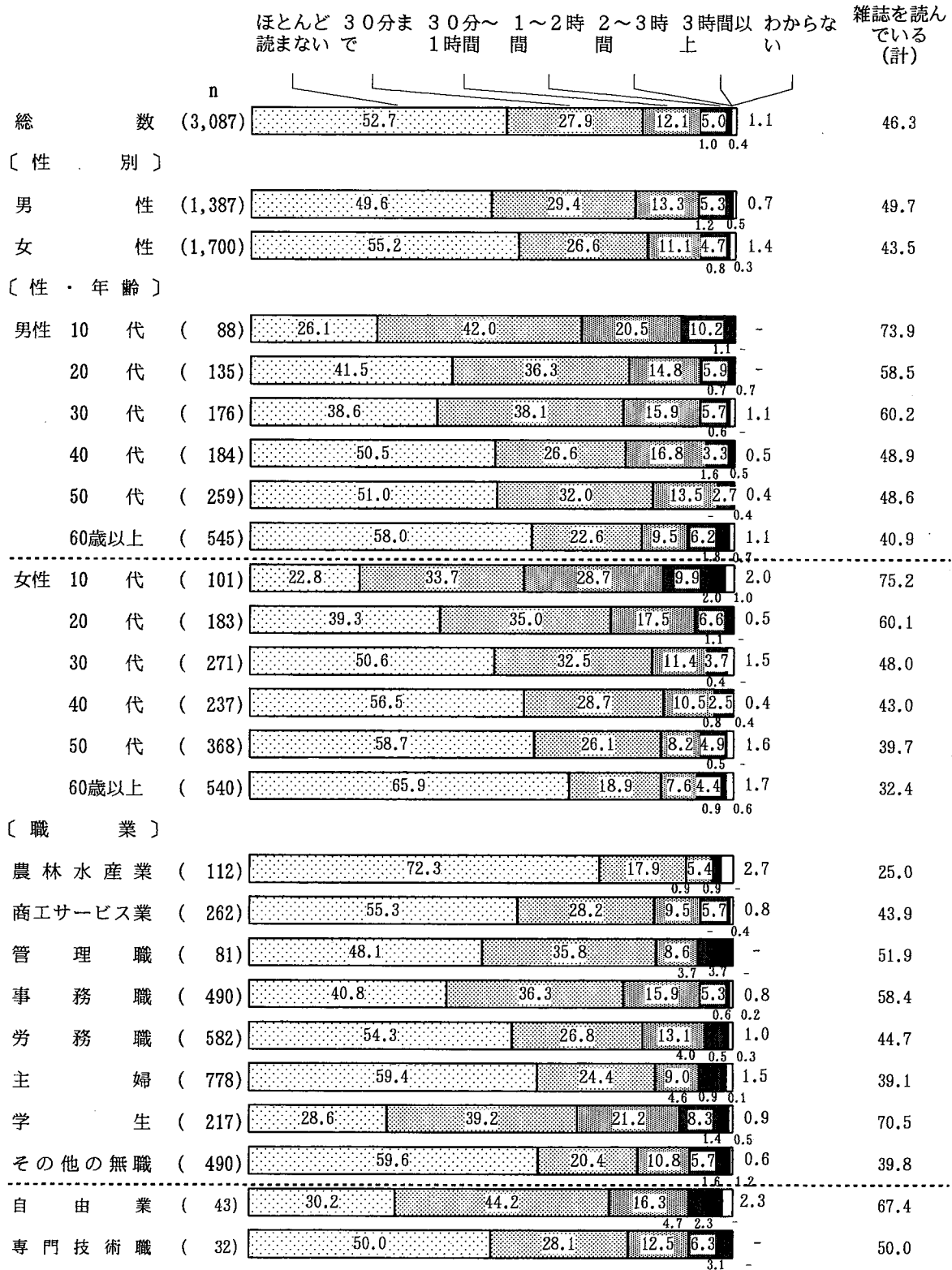
性別にみると(図5-9-2)、雑誌を「ほとんど読まない」(男性49.6%、女性55.2%)という者は女性で過半数と、男性より6ポイント多くなっている。

性・年齢別にみると(図5-9-2)、雑誌を「ほとんど読まない」者は、男女とも高齢層ほど多く、若年層の方が雑誌を読んでいる。特に男女とも10代は、雑誌を『読んでいる』者が7割を超え、男性の10代の4割強は1日平均「30分まで」(42.0%)雑誌を読んでいると答えている。また、女性の10代は3割前後が、「30分まで」(33.7%)もしくは「30分～1時間」(28.7%)雑誌を読んでいると答えている。

職業別にみると(図5-9-2)、1日平均「30分まで」雑誌を読む者は、学生(39.2%)と事務職(36.3%)、管理職(35.8%)で4割強と、他の職業より多くなっている。

雑誌を「ほとんど読まない」という者は農林水産業で72.3%を占め、雑誌の購読率が低い。これに対して、学生で雑誌を「ほとんど読まない」者(28.6%)は3割弱で、7割は雑誌を読んでいることになる。

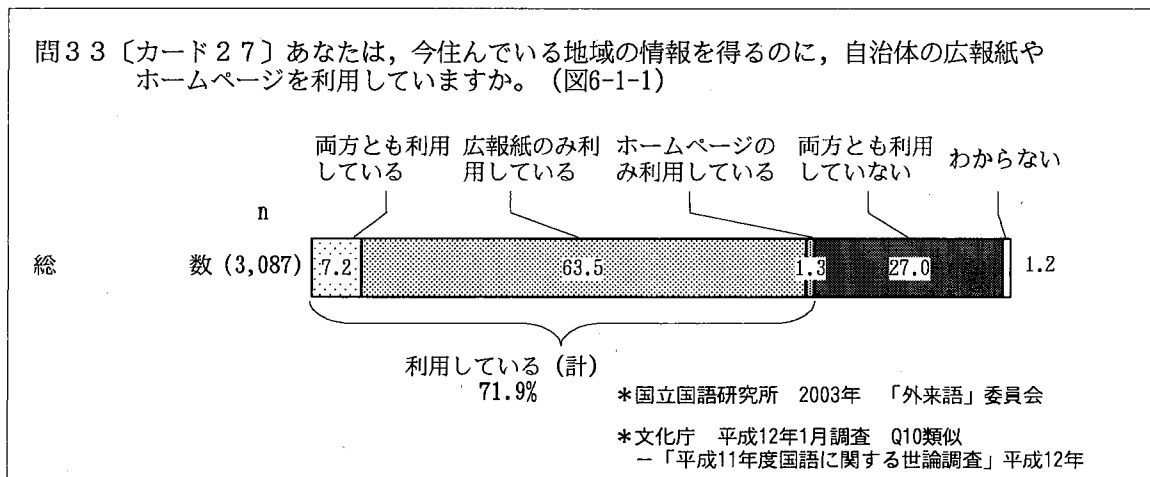
図 5-9-2 雑誌を読む時間  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 第6章 自治体の広報紙やホームページの利用

### 1 自治体の広報紙やホームページの利用状況



今住んでいる地域の情報を得るために自治体の広報紙やホームページを利用しているかを聞いた(図6-1-1)。

広報紙やホームページの「両方とも利用している」(7.2%)という者は1割弱で、「広報紙のみ利用している」(63.5%)という者が6割を超えている。「ホームページのみ利用している」という者は1.3%である。

また、広報紙やホームページの「両方とも利用していない」者は27.0%となっている。

性別にみると(図6-1-2)、広報紙やホームページの「両方とも利用している」(男性7.8%、女性6.6%)という者は、男女とも1割足らずで差はみられないが、「広報紙のみ利用している」(同55.6%、69.9%)という者は、女性の7割を占め、男性より14ポイント多くなっている。

一方、広報紙やホームページの「両方とも利用していない」者(同33.2%、21.8%)は、男性の3人に1人にあたり、女性より多くなっている。

性・年齢別にみると(図6-1-2)、「広報紙のみ利用している」者は、男女とも高齢層ほど多くなり、男性の60歳以上と女性の40歳以上では、利用者が7割を上回る。

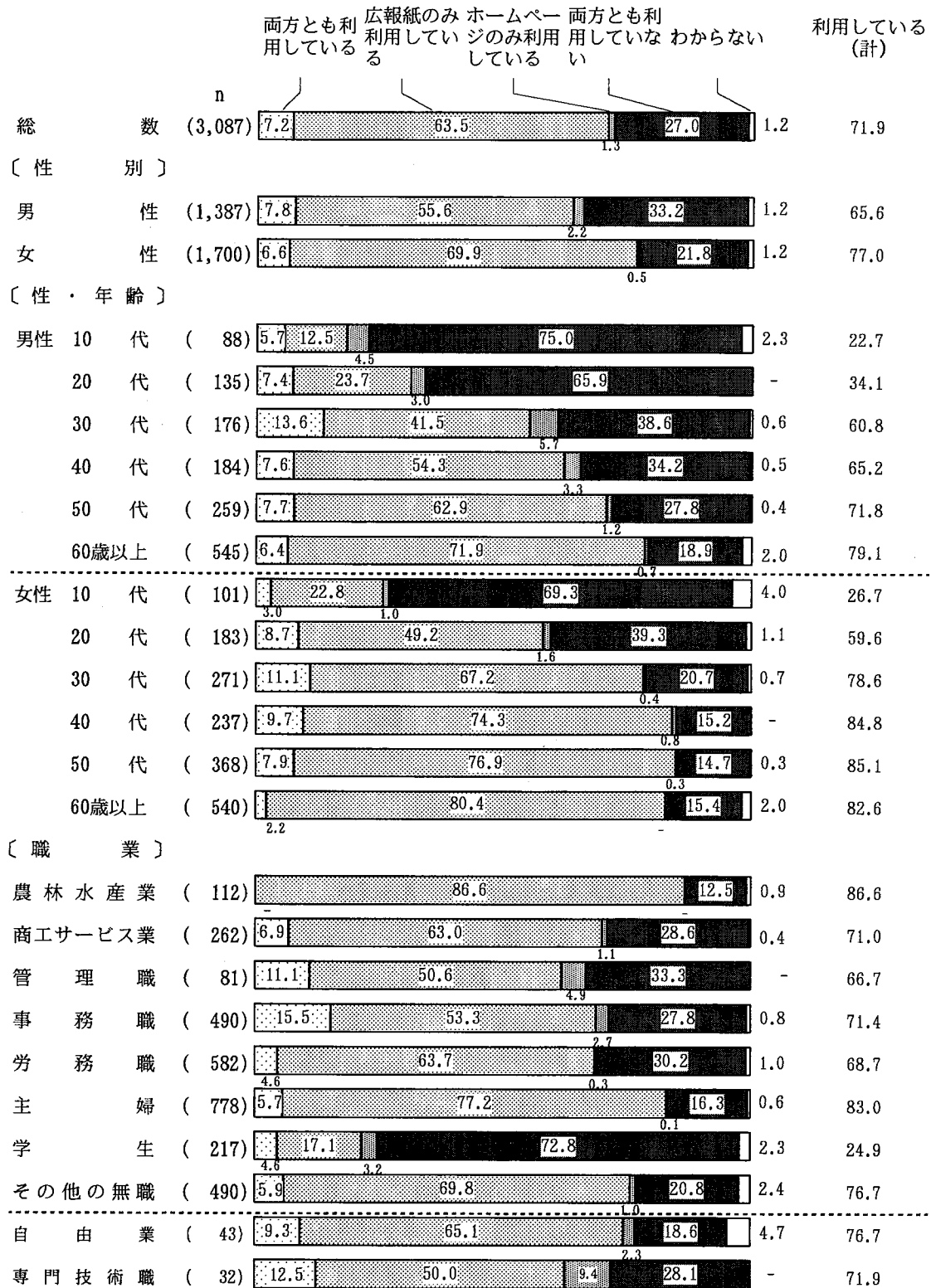
また、広報紙やホームページの「両方とも利用している」者は、男性の30代(13.6%)でややおおくくなっている。

一方、広報紙やホームページの「両方とも利用していない」者は、男女とも若年層に多くなり、男性の10代では75.0%、女性の10代の69.3%は、自治体が発信する情報を利用していない。

職業別にみると(図6-1-2)、農林水産業では「広報紙のみ利用している」者が86.6%と多数を占め、ホームページは全く利用していない。また、広報紙やホームページの「両方とも利用している」者は、事務職(15.5%)と管理職(11.1%)でやや多くなっている。これに対して、学生の72.8%は、広報紙やホームページの「両方とも利用していない」と答えている。

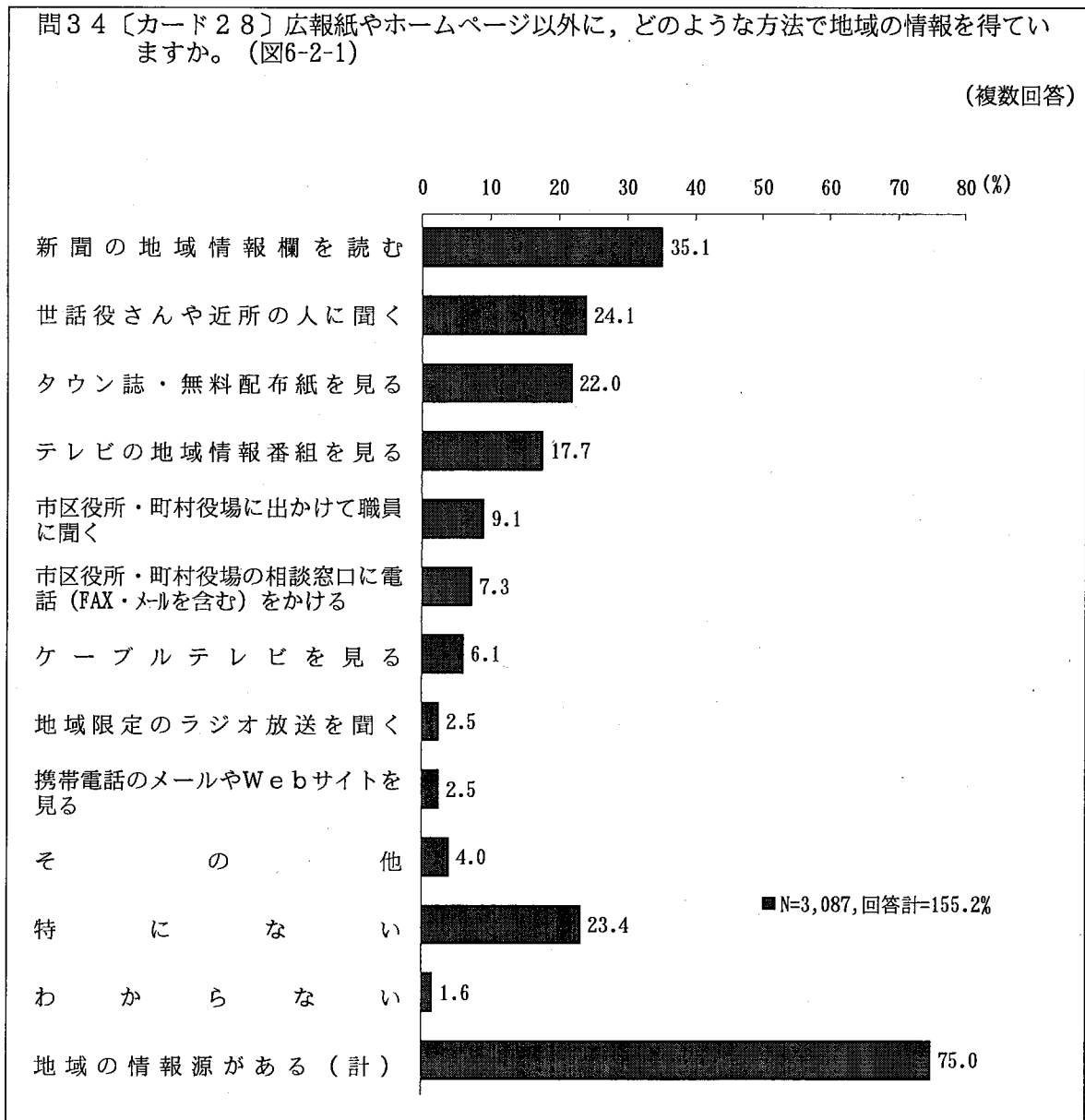


図 6-1-2 自治体の広報紙やホームページの利用状況  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照することとめ、分析の対象からは外してある。

## 2 広報紙やホームページ以外の情報源



居住する地域の情報を得るために、広報紙やホームページ以外に利用しているものとしては(図6-2-1)、「新聞の地域情報欄を読む」が35.1%でもっとも多くあげられ、以下「世話役さんや近所の人に聞く」(24.1%)、「タウン誌・無料配布紙を見る」(22.0%)、「テレビの地域情報番組を見る」(17.7%)などの順となっている。

「特にない」という者は23.4%である。

性別にみると(表6-2-1)、男女とも「新聞の地域情報欄を読む」(男性39.3%、女性31.6%)がもっとも多くあげられ、特に男性では4割と、女性を8ポイント上回っている。一方、「世話役さんや近所の人に聞く」(同19.3%、27.9%)と「タウン誌・無料配布紙を見る」(同18.3%、25.0%)は、男性より女性に多くあげられている。

性・年齢別にみると(表6-2-1)、「新聞の地域情報欄を読む」「世話役さんや近所の人に聞く」

「テレビの地域情報番組を見る」は、男女とも高齢層ほど多くあげられている。特に、「新聞の地域情報欄を読む」は男性の30歳以上の層で4割台、「世話役さんや近所の人に聞く」は女性の50歳以上の層で3割台と、他の年齢層より多くなっている。「タウン誌・無料配布紙を見る」は、女性の20代から50代で3割前後となっている。

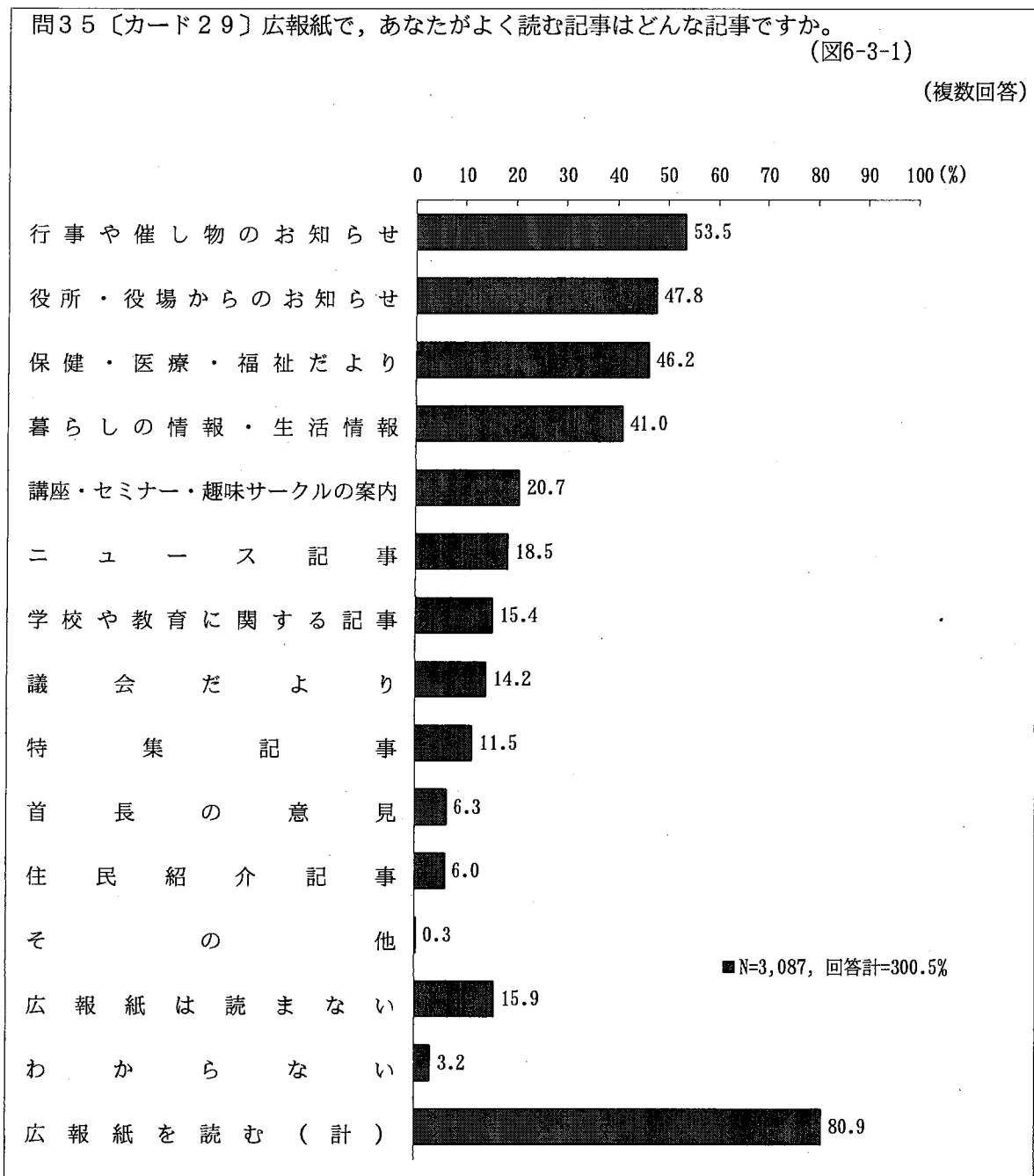
一方、「特にない」という者は、男女とも若年層ほど多く、男性の10代(50.0%)では5割である。

職業別にみると(表6-2-1)、農林漁業では「世話役さんや近所の人に聞く」が47.3%、「テレビの地域情報番組を見る」が27.7%と、他の職業より多くあげられている。また、「タウン誌・無料配布紙を見る」は、主婦(28.1%)と事務職(26.3%)で、やや多くなっている。

表6-2-1 広報紙やホームページ以外の情報源(性別、性・年齢別、職業別)

	総 数	を新聞の 地域情報 欄	の世話役 さんや近 所	タウン誌・ 無料配 布紙	テレビの 地域情報 番組	市区役所 などに 出	市区役所 などの 相	見 る	放送 を聞 く	イ メ ール や W e b サ イ ト	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	地 域 の 情 報 源 が あ る ( 計 )	計 ( M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	3,087	35.1	24.1	22.0	17.7	9.1	7.3	6.1	2.5	2.5	4.0	23.4	1.6	75.0	155.2
[性別]															
男性	1,387	39.3	19.3	18.3	18.2	9.7	7.1	6.6	3.0	2.7	3.0	25.9	1.9	72.2	155.2
女性	1,700	31.6	27.9	25.0	17.3	8.5	7.5	5.6	2.0	2.2	4.8	21.4	1.4	77.2	155.3
[性・年齢]															
男性 10代	88	18.2	8.0	6.8	14.8	2.3	1.1	6.8	2.3	5.7	2.3	50.0	6.8	43.2	125.0
20代	135	22.2	5.2	18.5	14.1	7.4	6.7	5.2	3.7	4.4	1.5	43.7	3.7	52.6	136.3
30代	176	43.8	15.9	18.2	14.2	4.0	9.7	4.0	2.8	8.0	2.3	23.3	1.7	75.0	147.7
40代	184	40.8	17.4	17.9	17.4	8.2	7.6	9.2	2.7	2.2	2.2	28.3	0.5	71.2	154.3
50代	259	43.6	20.8	17.8	18.1	11.6	6.2	8.5	2.3	1.5	3.5	22.4	0.8	76.8	157.1
60歳以上	545	42.9	25.7	20.6	21.5	13.0	7.5	5.9	3.5	0.9	3.9	19.3	1.8	78.9	166.4
女性 10代	101	19.8	7.9	14.9	14.9	2.0	2.0	4.0	1.0	5.0	1.0	42.6	5.9	51.5	120.8
20代	183	20.8	15.3	31.1	15.3	7.7	8.2	5.5	2.2	6.6	2.2	29.0	1.1	69.9	144.8
30代	271	33.2	25.8	29.9	15.1	8.1	8.1	7.7	0.7	2.6	5.2	18.1	1.1	80.8	155.7
40代	237	35.0	21.9	31.6	19.4	12.2	11.4	6.3	2.1	2.1	5.5	15.6	0.4	84.0	163.7
50代	368	35.6	33.2	28.0	14.7	9.5	9.5	5.7	2.4	0.8	5.2	19.8	0.8	79.3	165.2
60歳以上	540	32.4	36.1	17.4	20.4	8.0	4.8	4.6	2.4	1.1	5.7	20.2	1.5	78.3	154.6
[職業]															
農林水産業	112	33.0	47.3	12.5	27.7	11.6	5.4	1.8	3.6	-	4.5	14.3	2.7	83.0	164.3
商工サービス業	262	34.0	26.0	16.8	16.4	10.7	6.9	6.9	4.2	1.5	4.6	26.3	1.1	72.5	155.3
自由業	43	39.5	18.6	25.6	11.6	16.3	11.6	4.7	7.0	4.7	7.0	9.3	-	90.7	155.8
管理職	81	35.8	16.0	21.0	11.1	12.3	7.4	7.4	3.7	-	3.7	29.6	1.2	69.1	149.4
専門技術職	32	50.0	21.9	21.9	9.4	9.4	15.6	12.5	-	15.6	3.1	21.9	-	78.1	181.3
事務職	490	38.0	17.8	26.3	16.7	8.4	9.8	6.7	2.0	3.7	2.4	21.8	0.6	77.6	154.3
労務職	582	34.7	22.7	20.6	17.7	8.9	7.0	6.5	3.3	3.1	4.0	25.3	1.5	73.2	155.3
主婦	778	34.3	30.6	28.1	18.1	8.7	8.1	5.3	1.5	1.7	5.0	17.5	1.2	81.4	160.2
学生	217	21.2	6.5	12.9	13.4	1.8	1.8	5.5	1.8	5.5	1.8	47.5	6.0	46.5	125.8
その他の無職	490	39.4	25.1	18.4	20.6	11.0	5.9	6.3	2.0	0.8	4.5	22.4	1.8	75.7	158.4

### 3 広報紙の中でよく読む記事



広報紙の中でよく読む記事としては(図6-3-1)、「行事や催し物のお知らせ」が53.5%でもっとも多く、次いで「役所・役場からのお知らせ」(47.8%)、「保健・医療・福祉だより」(46.2%)、「暮らしの情報・生活情報」(41.0%)が4割台となっている。

「広報紙は読まない」という者は15.9%である。

性別にみると(表6-3-1)、男女とも「行事や催し物のお知らせ」(男性46.6%、女性59.2%)、「役所・役場からのお知らせ」(同44.9%、50.2%)、「保健・医療・福祉だより」(同35.2%、55.1%)、「暮らしの情報・生活情報」(同33.2%、47.4%)などがよく読む記事の上位にあげられ

ているが、いずれも男性より女性が多くあげている。

一方、「ニュース記事」（同 20.4%、16.9%）と「議会だより」（同 17.5%、11.5%）は、ともに女性より男性に多くあげられている。

「広報紙は読まない」という者は、男性 21.2%、女性 11.6%で、男性の方が女性より広報紙を利用していない。

性・年齢別にみると（表 6-3-1）、いずれの記事も男女とも高齢層ほどよく読んでいる傾向があり、特に 20 代までと 30 代以降の格差が大きくなっている。

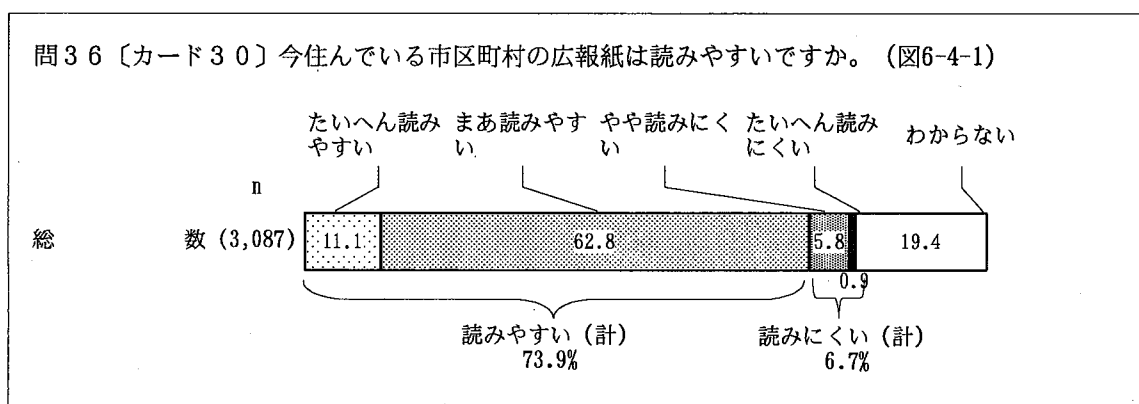
一方、「広報紙は読まない」者は、男女とも若年層に多く、特に男性の 10 代では 59.1%が「読まない」と答えている。

職業別にみると（表 6-3-1）、農林水産業と主婦は、よく読む記事として、他の職業よりも多く広範囲にあげており、広報紙をよく読んでいる層だといえる。

表 6-3-1 広報紙の中でよく読む記事（性別、性・年齢別、職業別）

	総 数	お 知 ら せ	行 事 や 催 し 物 の	役 所 ・ 役 場 か ら の お 知 ら せ	社 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 だ よ り	暮 ら し の 情 報 ・ 生 活 情 報	講 座 ・ 趣 味 サ ー クル な ど の 案 内	ニ ュ ー ス 記 事	学 校 や 教 育 に 関 する 記 事	議 会 だ よ り	特 集 記 事	首 長 の 意 見	住 民 紹 介 記 事	そ の 他	い 広 報 紙 は 読 ま な い	わ か ら な い	広 報 紙 を 読 む (計)	計 (M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総 数	3,087	53.5	47.8	46.2	41.0	20.7	18.5	15.4	14.2	11.5	6.3	6.0	0.3	15.9	3.2	80.9	300.5	
[ 性 別 ]																		
男 性	1,387	46.6	44.9	35.2	33.2	14.6	20.4	10.8	17.5	10.3	7.4	5.4	0.2	21.2	4.5	74.3	272.2	
女 性	1,700	59.2	50.2	55.1	47.4	25.7	16.9	19.2	11.5	12.4	5.4	6.5	0.4	11.6	2.1	86.3	323.6	
[ 性・年齢 ]																		
男性 10 代	88	14.8	4.5	2.3	10.2	1.1	13.6	10.2	1.1	8.0	-	-	1.1	59.1	8.0	33.0	134.1	
20 代	135	28.1	17.8	7.4	17.0	6.7	14.8	3.0	2.2	10.4	3.0	3.7	-	46.7	8.1	45.2	168.9	
30 代	176	42.0	31.3	30.1	29.5	9.7	13.6	15.3	6.8	6.8	4.0	3.4	-	23.9	5.7	70.5	222.2	
40 代	184	47.3	40.8	30.4	35.9	15.8	20.7	15.8	14.1	7.6	4.3	3.3	-	19.6	2.2	78.3	257.6	
50 代	259	53.7	52.9	35.1	34.4	14.7	20.8	10.4	23.9	12.0	6.6	6.9	-	18.1	3.9	78.0	293.4	
60歳以上	545	54.1	60.2	50.6	40.7	19.8	24.8	9.9	25.5	11.9	12.3	7.3	0.4	9.9	3.7	86.4	331.2	
女性 10 代	101	21.8	5.9	8.9	9.9	9.9	14.9	17.8	2.0	5.0	-	-	-	49.5	5.0	45.5	150.5	
20 代	183	42.1	25.1	41.5	33.9	14.8	9.8	14.8	3.3	6.6	1.1	1.1	0.5	22.4	5.5	72.1	222.4	
30 代	271	65.7	43.2	57.9	47.2	23.2	11.4	35.8	7.7	11.1	3.3	5.5	0.7	11.1	1.1	87.8	325.1	
40 代	237	63.7	54.4	55.3	52.3	27.8	14.8	33.8	10.1	14.3	5.9	7.2	-	8.0	1.7	90.3	349.4	
50 代	368	69.8	64.4	60.1	55.4	35.1	21.2	12.5	14.4	15.8	4.9	7.3	-	4.9	-	95.1	365.8	
60歳以上	540	59.4	59.1	63.5	51.3	26.3	20.4	10.7	16.7	13.3	9.1	9.3	0.6	7.2	2.6	90.2	349.4	
[ 職 業 ]																		
農 林 水 産 業	112	67.9	73.2	56.3	42.9	19.6	24.1	14.3	25.9	19.6	11.6	15.2	-	5.4	3.6	91.1	379.5	
商 工 サ ー ビ ス 業	262	53.4	48.5	42.4	38.9	15.6	22.1	13.7	18.7	11.8	8.0	6.5	0.8	17.2	2.3	80.5	300.0	
自 由 業	43	55.8	53.5	55.8	44.2	20.9	23.3	27.9	23.3	18.6	11.6	9.3	-	4.7	4.7	90.7	353.5	
管 理 職	81	51.9	42.0	23.5	23.5	16.0	17.3	12.3	14.8	9.9	4.9	6.2	-	25.9	8.6	65.4	256.8	
専 門 技 術 職	32	46.9	43.8	31.3	40.6	15.6	12.5	6.3	12.5	3.1	3.1	-	-	21.9	-	78.1	237.5	
事 務 職	490	52.7	44.7	41.6	40.6	22.4	16.9	18.2	12.9	10.2	5.3	3.7	0.4	16.9	2.2	80.8	288.8	
労 務 職	582	49.1	45.7	40.4	37.5	16.8	17.7	14.3	13.7	9.5	4.0	5.7	-	18.6	2.7	78.7	275.6	
主 婦	778	65.7	56.4	64.7	53.6	29.4	17.9	20.2	11.6	13.8	5.8	7.3	0.3	5.1	1.2	93.7	352.8	
学 生	217	21.2	5.5	5.1	12.0	5.5	12.4	12.0	1.4	6.9	1.4	0.5	0.5	53.9	8.8	37.3	147.0	
そ の 他 の 無 職	490	51.8	53.3	50.0	41.8	20.4	21.4	9.2	20.2	11.6	11.0	6.9	0.4	12.7	4.9	82.4	315.7	

#### 4 居住地の広報紙の読みやすさ



今住んでいる市区町村の広報紙の読みやすさを聞いたところ(図6-4-1)、「たいへん読みやすい」という者は11.1%で、「まあ読みやすい」(62.8%)と答え者を合わせると、7割以上が『読みやすい』と感じている。

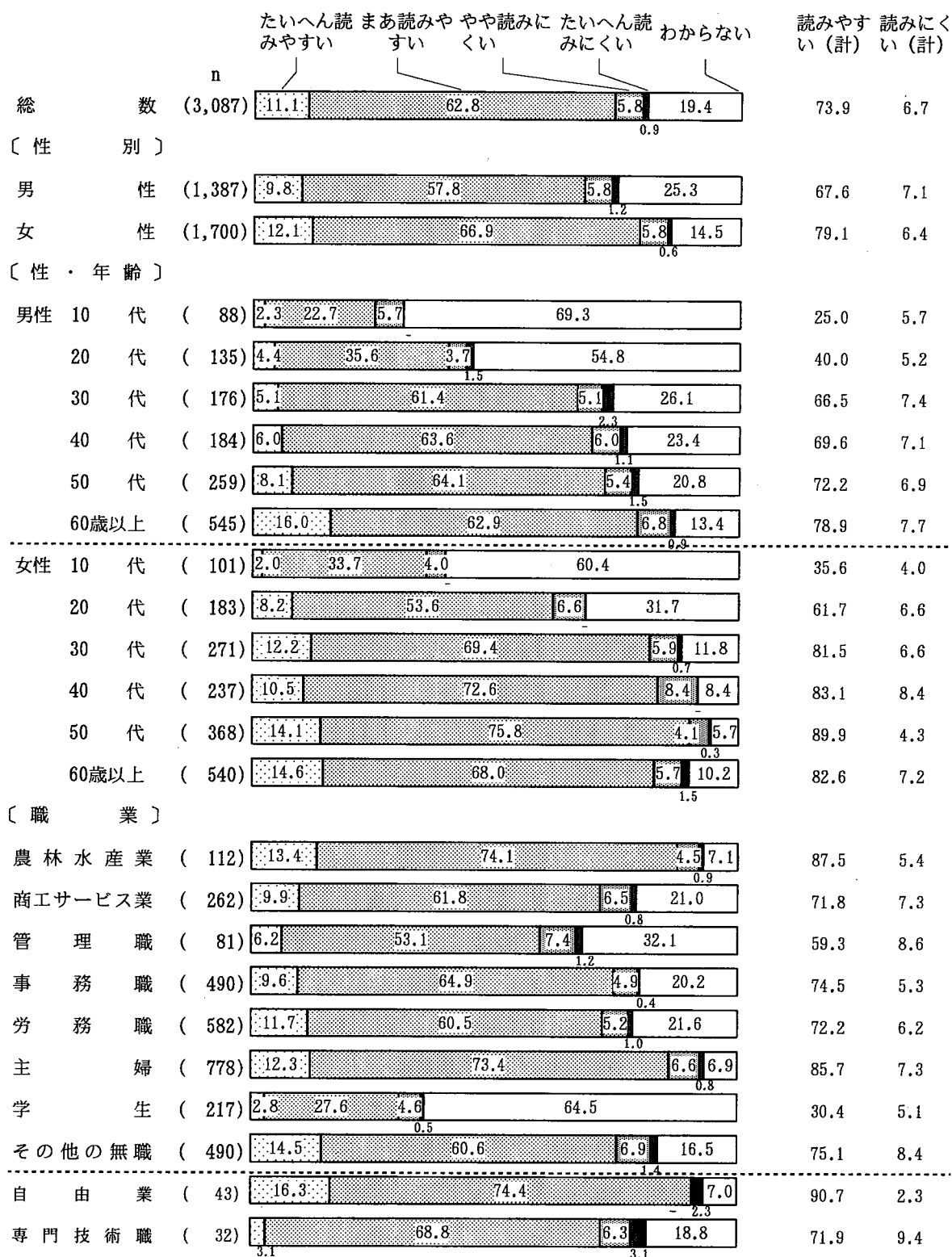
性別にみると(図6-4-2)、「たいへん読みやすい」(男性9.8%、女性12.1%)もしくは「まあ読みやすい」(同57.8%、66.9%)と答えた者を合わせた、市区町村の広報紙を『読みやすい』と評価する者は、女性の8割にのぼり、男性より12ポイント多くなっている。

男性の4人に1人は「分からない」(25.3%)と答えている。

性・年齢別にみると(図6-4-2)、「たいへん読みやすい」もしくは「まあ読みやすい」という者は、男女とも高齢層ほど多くなる傾向がある。一方、男女とも若年層では「分からない」と答える者が多く、特に「広報紙は読まない」という者が多数を占める男性の10代では69.3%、女性の10代では60.4%が、広報紙の読みやすさについては「分からない」と答えている。

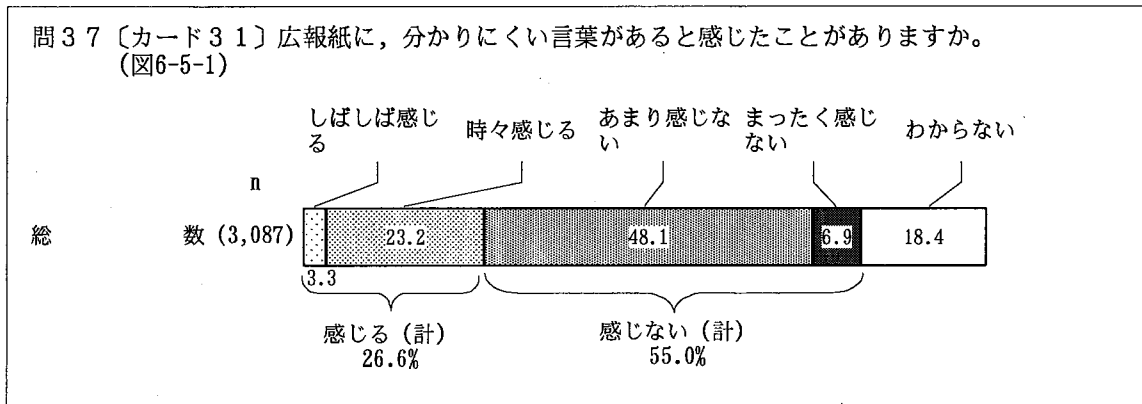
職業別にみると(図6-4-2)、広報紙をよく読んでいると思われる農林水産業と主婦で、市区町村の広報紙は『読みやすい』と評価する者が9割近くなっている。

図 6-4-2 広報紙の読みやすさ  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにともめ、分析の対象からは外してある。

## 5 広報紙の中に分かりにくい言葉があると感じること



広報紙に、分かりにくい言葉があると「しばしば感じる」者は 3.3%であるが、「時々感じる」(23.2%)という者を合わせると4分の1以上の者が、分かりにくい言葉があると『感じて』いる(図6-5-1)。

一方、「あまり感じない」という者は 48.1%でもっとも多く、「まったく感じない」者(6.9%)を合わせると、分かりにくいと『感じない』者が過半数である。

性別にみると(図6-5-2)、分かりにくい言葉があると『感じる』者は男女とも2割台で、大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図6-5-2)、分かりにくい言葉があると「しばしば感じる」者は、いずれの層でも5.0%に満たないが、「時々感じる」を合わせると、分かりにくい言葉があると『感じる』者は、男女とも高齢層にやや多くなる傾向がある。

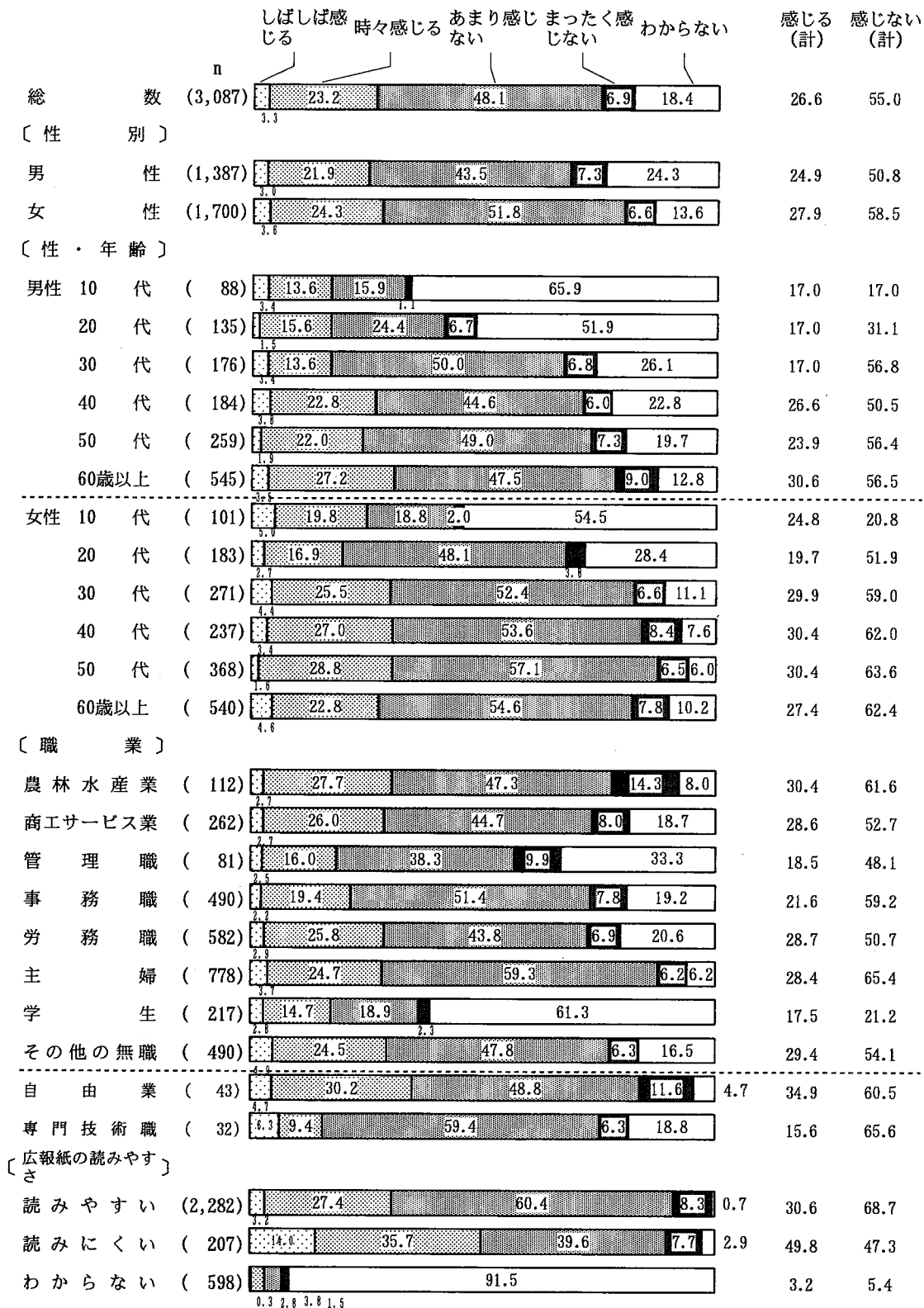
広報紙を読まない者の多い、10代の若年層では「分からない」という者が、男女とも半数以上を占めている。

さらに、広報紙の読みやすさへの評価別にみると(図6-5-2)、広報紙は読みやすいと思って者では、分かりにくい言葉があると『感じる』者(30.6%)が3割であるが、読みにくいと思っている者では、半数が分かりにくい言葉があると『感じて』いる(49.7%)。



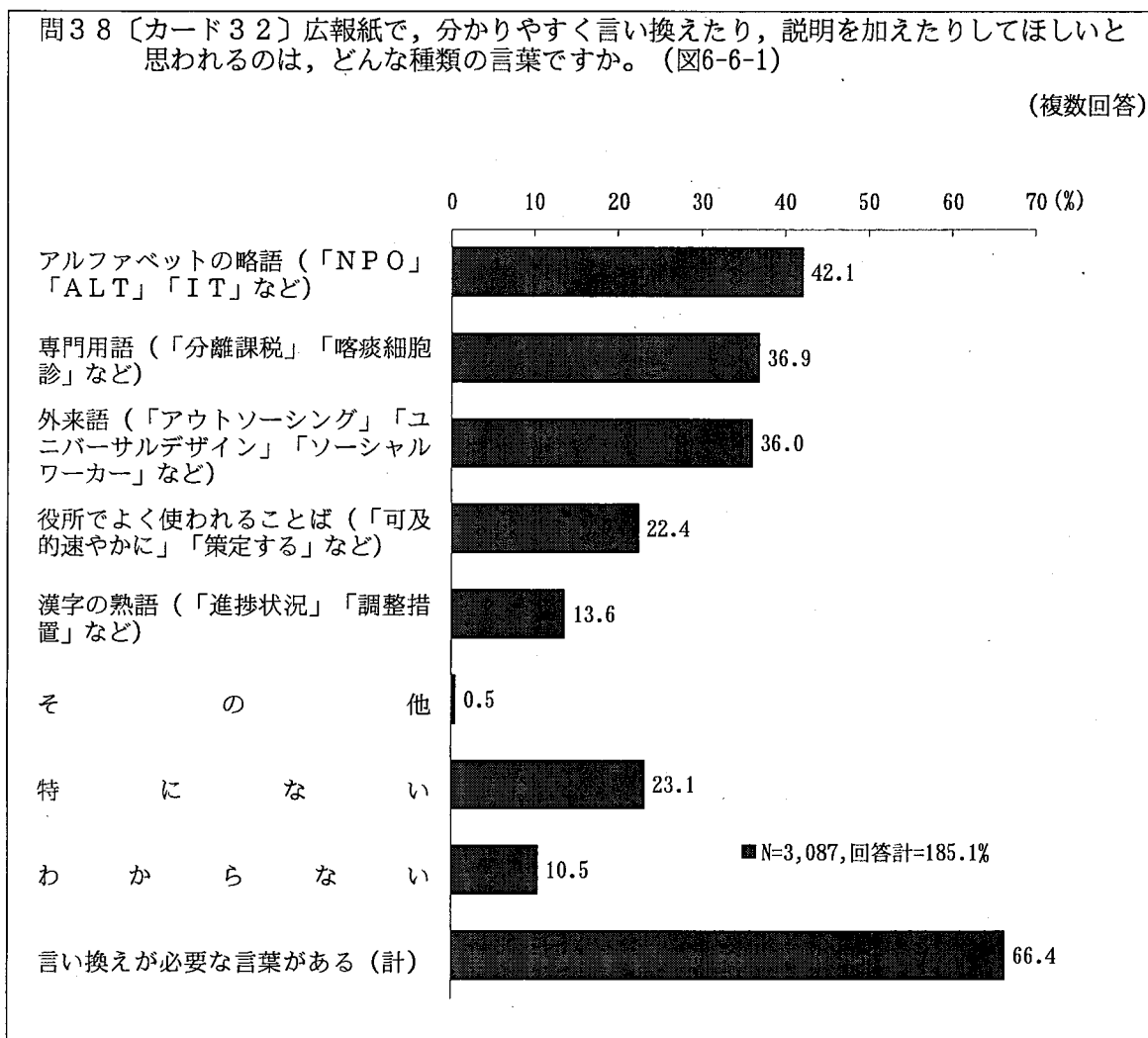
図 6-5-2 広報紙の中に分かりにくい言葉があると感ずること

(性別、性・年齢別、職業別、広報紙の読みやすさへの評価別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が5人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 6 広報紙の中で言い換えてほしい言葉



広報紙で、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしいと思う言葉としては(図6-6-1)、「アルファベットの略語(「NPO」「ALT」「IT」など)」が42.1%でもっとも多くあげられ、次いで「専門用語(「分離課税」「喀痰細胞診」など)」(36.9%)、「外来語(「アウトソーシング」「ユニバーサルデザイン」「ソーシャルワーカー」など)」(36.0%)、「役所でよく使われる言葉(「可及的速やかに」「策定する」など)」(22.4%)、「漢字の熟語(「進捗状況」「調整措置」など)」(13.6%)の順となっている。

「特にない」という者は23.1%である。

性別にみると(表6-6-1)、大きな男女差はみられないが、「アルファベットの略語」(男性39.4%、女性44.4%)や「専門用語」(同33.7%、39.5%)などは、男性より女性に多くあげられている。

性・年齢別にみると(表6-6-1)、「アルファベットの略語」は女性の30代で5割、「専門用語」は男性の30代から40代と女性の20代から40代で4割台と、それぞれ他の年齢層より多くあげられている。

また、「外来語」は、男女とも高齢層ほど多くあげられる傾向があり、男女とも40歳以上になると4割前後が言い換えてほしいと感じている。

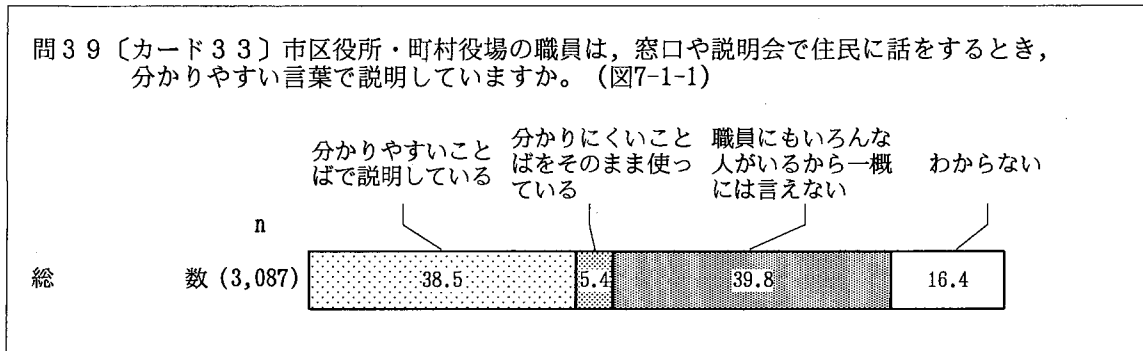
職業別にみると(表6-6-1)、「専門用語」は事務職(45.4%)で、「外来語」はその他の無職(42.7%)と商工サービス業(41.2%)で、「役所でよく使われることば」は管理職(32.1%)で、それぞれ他の職業より多くあげられている。

表6-6-1 広報紙の中で言い換えてほしい言葉(性別、性・年齢別、職業別)

	総 数	アル ファ ベッ トの 略	専 門 用 語	外 来 語	役所 でよ く使 われ る	漢 字 の 熟 語	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	言 い 換 え が 必 要 な 言 葉 (計)	計 (M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	3,087	42.1	36.9	36.0	22.4	13.6	0.5	23.1	10.5	66.4	185.1
[性別]											
男性	1,387	39.4	33.7	36.6	21.2	11.2	0.6	22.4	12.8	64.8	177.9
女性	1,700	44.4	39.5	35.6	23.5	15.5	0.4	23.7	8.5	67.8	191.0
[性・年齢]											
男性 10代	88	17.0	22.7	17.0	6.8	8.0	1.1	29.5	34.1	36.4	136.4
20代	135	31.1	28.9	22.2	17.8	11.9	-	26.7	25.9	47.4	164.4
30代	176	36.9	42.0	31.8	27.8	11.4	0.6	21.0	14.8	64.2	186.4
40代	184	45.7	43.5	37.5	24.5	10.9	0.5	19.0	8.7	72.3	190.2
50代	259	41.3	32.4	37.1	25.5	12.0	0.8	18.9	11.2	69.9	179.2
60歳以上	545	42.9	31.2	44.2	19.1	11.4	0.7	23.3	7.7	69.0	180.6
女性 10代	101	31.7	36.6	21.8	20.8	11.9	-	24.8	23.8	51.5	171.3
20代	183	43.2	48.1	25.7	25.1	18.6	-	17.5	12.0	70.5	190.2
30代	271	50.9	46.5	33.6	30.6	16.6	0.7	14.8	7.0	78.2	200.7
40代	237	45.6	43.5	40.5	27.8	10.5	0.4	20.3	4.2	75.5	192.8
50代	368	47.0	34.8	39.7	19.0	14.4	-	26.9	4.3	68.8	186.1
60歳以上	540	41.5	35.0	37.6	20.9	17.4	0.7	29.4	10.0	60.6	192.6
[職業]											
農林水産業	112	41.1	22.3	33.9	28.6	11.6	0.9	32.1	8.9	58.9	179.5
商工サービス業	262	42.0	35.5	41.2	24.4	15.3	0.8	24.0	9.2	66.8	192.4
自由業	43	60.5	39.5	30.2	30.2	16.3	-	9.3	2.3	88.4	188.4
管理職	81	34.6	29.6	35.8	32.1	17.3	1.2	22.2	12.3	65.4	185.2
専門技術職	32	34.4	40.6	21.9	28.1	9.4	3.1	15.6	12.5	71.9	165.6
事務職	490	42.7	45.5	31.6	25.1	12.4	0.4	17.3	8.8	73.9	183.9
労務職	582	43.1	37.6	35.7	20.8	12.4	0.3	21.6	11.7	66.7	183.3
主婦	778	46.0	39.2	38.9	23.4	16.8	0.3	24.6	6.7	68.8	195.9
学生	217	24.9	28.1	19.4	15.7	10.6	0.5	26.3	30.0	43.8	155.3
その他の無職	490	42.4	32.2	42.7	18.2	11.2	0.8	26.1	9.4	64.5	183.1

## 第7章 自治体の窓口や説明会での職員の話し言葉

### 1 自治体職員の話し言葉の分かりやすさ



市区役所・町村役場の職員は、窓口や説明会で住民に話をするとき、「分かりやすい言葉で説明している」という者は38.5%で、「分かりにくい言葉をそのまま使っている」(5.4%)と感じている者を33ポイント上回っている(図7-1-1)。

また、「職員にもいろんな人がいるから一概には言えない」という者は39.8%である。

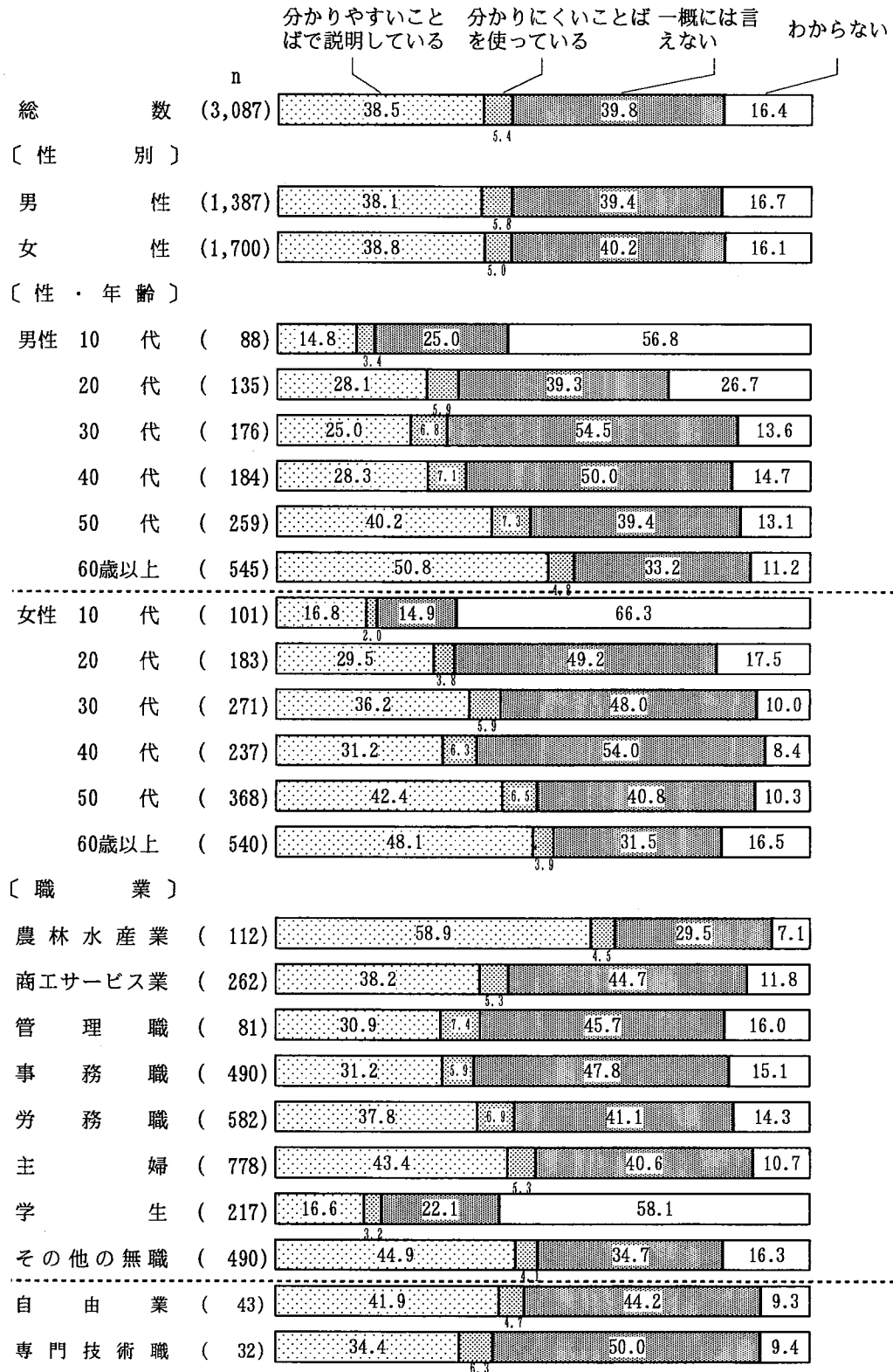
性別にみると(図7-1-2)、男女とも「分かりやすい言葉で説明している」(男性38.1%、女性38.8%)と「職員にもいろんな人がいるから一概には言えない」(同39.4%、40.2%)という者がともに4割程度で、男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図7-1-2)、男女とも、市区役所・町村役場の職員は「分かりやすい言葉で説明している」という者が高齢層ほど多くなっており、60歳以上(男性50.8%、女性48.1%)では5割前後が評価している。

一方、男女とも10代は、「わからない」(同56.8%、66.3%)という者が多数を占める。

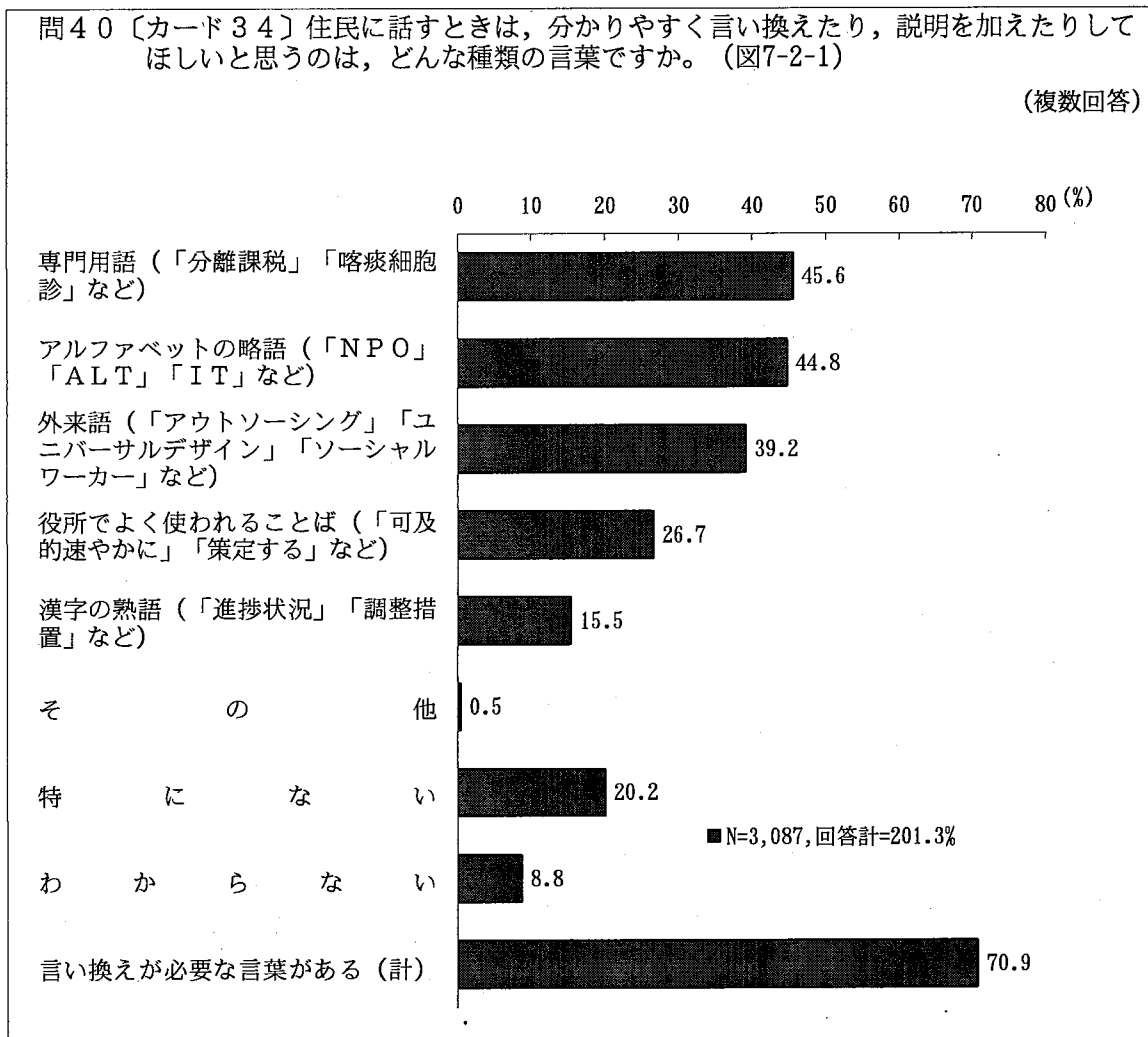
職業別にみると(図7-1-2)、農林水産業は6割近くが「分かりやすい言葉で説明している」(58.9%)と感じている。

図 7-1-2 自治体職員の話し言葉の分かりやすさ  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある

## 2 話し言葉の中で言い換えてほしい言葉



住民に話すときに、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしいと思う言葉としては(図7-2-1)、「専門用語(「分離課税」「喀痰細胞診」など)」(45.6%)と「アルファベットの略語(「NPO」「ALT」「IT」など)」(44.8%)が4割台でほぼ同率にあげられ、次いで「外来語(「アウトソーシング」「ユニバーサルデザイン」「ソーシャルワーカー」など)」(39.2%)、「役所でよく使われる言葉(「可及的速やかに」「策定する」など)」(26.7%)、「漢字の熟語(「進捗状況」「調整措置」など)」(15.5%)の順となっている。

「特にない」という者は20.2%で、7割の者は話し言葉の中で言い換えてほしいものがあると感じている。

性別にみても(表7-2-1)、大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると(表7-2-1)、「専門用語」は40代の男性と20代から40代の女性で、「アルファベットの略語」は50代の女性で、「外来語」は40代と60歳以上の男性と50代の女性で、それぞれ他の層より、言い換えてほしい種類の言葉として多くあげられている。

職業別にみると(表7-2-1)、「専門用語」は事務職(54.5%)で、「外来語」はその他の無職

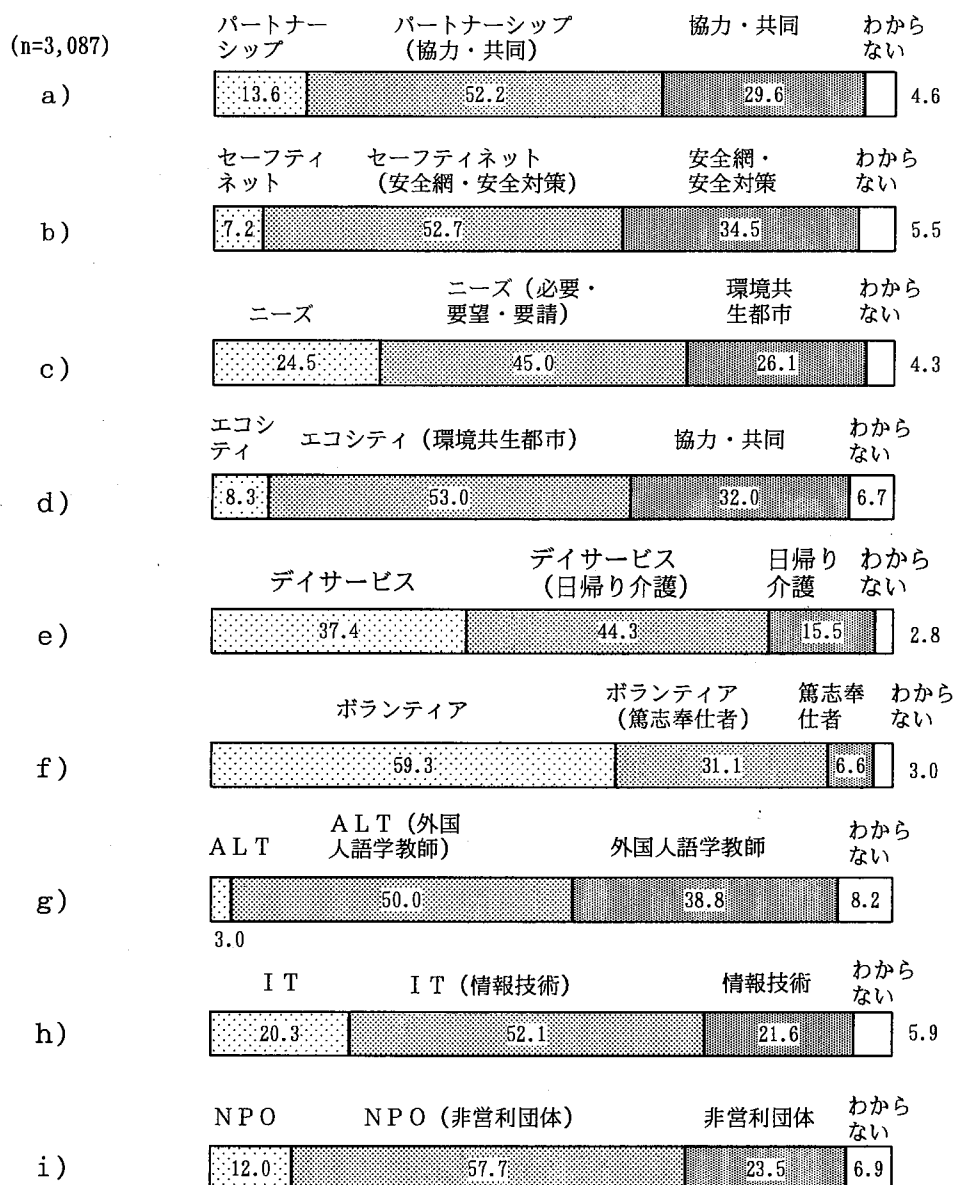
(45.5%)で、「役所でよく使われる言葉」と「漢字の熟語」は管理職（「役所言葉」40.7%、「熟語」23.5%）で、それぞれ他の職業より多くあげられている。

表 7-2-1 話し言葉の中で言い換えてほしい言葉  
(性別、性・年齢別、職業別)

	総 数	専 門 用 語	語アル ファ ベットの 略	外 来 語	こ と ば 役 所 で よ く 使 わ れ る	漢 字 の 熟 語	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	言 い 換 え が 必 要 な 言 葉 が あ る (計)	計 (M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総 数	3,087	45.6	44.8	39.2	26.7	15.5	0.5	20.2	8.8	70.9	201.3
[ 性 別 ]											
男 性	1,387	43.3	44.6	40.3	25.8	14.3	0.5	20.4	8.7	70.9	197.8
女 性	1,700	47.5	45.0	38.2	27.4	16.5	0.5	20.1	8.9	70.9	204.2
[ 性・年 齢 ]											
男性 10 代	88	31.8	23.9	17.0	15.9	9.1	-	22.7	28.4	48.9	148.9
20 代	135	46.7	42.2	36.3	28.9	19.3	-	23.0	11.1	65.9	207.4
30 代	176	49.4	45.5	38.1	31.8	15.3	0.6	19.3	9.1	71.6	209.1
40 代	184	52.7	48.9	45.1	29.9	14.7	0.5	13.6	6.0	80.4	211.4
50 代	259	42.5	45.9	35.5	30.5	14.7	0.4	18.5	6.2	75.3	194.2
60歳以上	545	39.4	46.2	46.4	21.1	13.2	0.7	22.9	6.8	70.3	196.9
女性 10 代	101	38.6	29.7	23.8	18.8	11.9	2.0	16.8	30.7	52.5	172.3
20 代	183	58.5	40.4	28.4	31.1	23.0	-	13.7	8.7	77.6	203.8
30 代	271	55.0	48.7	35.8	34.3	18.5	0.4	16.6	4.1	79.3	213.3
40 代	237	55.3	48.1	40.5	32.1	12.7	0.4	16.9	4.2	78.9	210.1
50 代	368	47.6	50.8	45.9	25.3	16.0	0.3	19.0	4.1	76.9	209.0
60歳以上	540	38.1	42.2	39.3	23.7	16.3	0.6	26.9	12.8	60.4	199.8
[ 職 業 ]											
農 林 水 産 業	112	20.5	38.4	39.3	26.8	12.5	-	31.3	13.4	55.4	182.1
商 工 サ ー ビ ス 業	262	49.6	46.6	41.2	29.4	16.8	0.8	19.1	5.3	75.6	208.8
自 由 業	43	46.5	48.8	30.2	32.6	16.3	2.3	16.3	7.0	76.7	200.0
管 理 職	81	48.1	43.2	39.5	40.7	23.5	-	17.3	3.7	79.0	216.0
専 門 技 術 職	32	56.3	43.8	28.1	28.1	21.9	-	12.5	3.1	84.4	193.8
事 務 職	490	54.5	45.5	37.6	29.4	15.1	0.4	14.9	6.1	79.0	203.5
労 務 職	582	46.6	45.4	40.0	27.7	15.1	0.2	20.4	8.9	70.6	204.3
主 婦	778	47.6	46.8	40.7	28.1	17.0	0.4	21.3	6.6	72.1	208.5
学 生	217	37.8	29.0	21.2	21.7	11.5	0.9	19.8	27.6	52.5	169.6
そ の 他 の 無 職	490	38.2	48.0	45.5	18.4	14.1	0.8	23.3	8.8	68.0	196.9

### 3 広報紙での適切な表記

問41〔カード35〕自治体の広報紙などでは、同じことを言うのに、いろいろな表現が使われています。あなたは、a～iのそれぞれについて、広報紙などで表記する際に1～3のどの表現を使った方がよいと思いますか。(図7-3-1)



自治体の広報紙に外来語や略語を表記する例を9つあげて、それぞれについて“外来語や略語などだけの単独表記”“言い換え語などの併記”“言い換え語などの単独表記”のうち、どれがもっともよいと思うかを答えてもらった(図7-3-1)。

“外来語や略語などの単独表記”を支持する者がもっとも多い言葉は、9例のうち「ボランティア」だけで、59.3%が「ボランティア」だけの表記がよいと判断している。

他の8つの言葉については、いずれも“言い換え語などの併記”がもっとも分かりやすいとされ、



それぞれ「パートナーシップ（協力・共同）」52.2%、「セーフティネット（安全網・安全対策）」52.7%、「ニーズ（必要・要望・要請）」45.0%、「エコシティ（環境共生都市）」53.0%、「デイサービス（日帰り介護）」44.3%、「ALT（外国人語学教師）」50.0%、「IT（情報技術）」52.1%、「NPO（非営利団体）」57.7%であった。

また、併記の表現以外で、“言い換え語単独”を支持する割合が、外来語や略語単独の表記よりも高かったものとしては、「協力・共同」29.6%（パートナーシップ 13.6%）、「安全網・安全対策」34.5%（セーフティネット 7.2%）、「必要・要望・要請」26.1%（ニーズ 24.5%）、「環境共生都市」32.0%（エコシティ 8.3%）、「外国人語学教師」38.8%（ALT 3.0%）、「情報技術」21.6%（IT 20.3%）、「非営利団体」23.5%（NPO 12.0%）などとなっている。

性別にみると（表 7-3-1）、上記 9 例の表記についての認識に、男女差はみられない。

性・年齢別に特徴的な結果をみていく（表 7-3-1）。

「パートナーシップ」については、すべての層で「パートナーシップ（協力・共同）」と表記することがもっとも分かりやすいとされており、次いで「協力・共同」という“言い換え語単独”が支持されているが、男性の 30 代では、「パートナーシップ」という“外来語や略語などの単独表記”（21.6%）の方が“言い換え語単独”（15.9%）よりも分かりやすいと答えている。

「ニーズ」は、全体では「ニーズ（必要・要望・要請）」という併記を支持する者がもっとも多く、「必要・要望・要請」と「ニーズ」をよいとする者がほぼ同率となっていたが、性・年齢別にみると、男性の 30 代と女性の 20 代は、「ニーズ」の方が「ニーズ（必要・要望・要請）」よりも分かりやすいと答えている。また、男性の 60 歳以上と女性の 50 歳以上の年齢層以外は、「ニーズ（必要・要望・要請）」の併記に次いで、「ニーズ」の方が「必要・要望・要請」より分かりやすいと答えている。

「デイサービス」については、男性の 30 代と女性の 20 代が、「デイサービス（日帰り介護）」と併記するよりも、“外来語や略語などの単独表記”である「デイサービス」の方がよいと答えている。

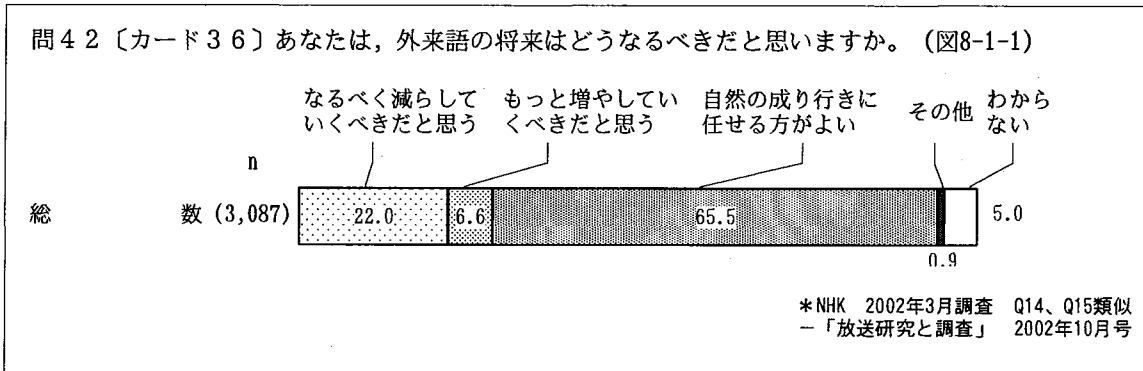
「ALT」は、男女とも 50 代までは、広報紙などに表記する場合は、「ALT（外国人語学教師）」という“言い換え語などの併記”がもっともよく、次いで“言い換え語単独”の「外国人語学教師」がよいという者が多くなっているが、男女とも若年層の 10 代で、「ALT」の単独表記を支持する者（男性 17.0%、女性 15.8%）が 2 割弱と、他の年齢層より多くなっている。

「IT」は、全体では「IT（情報技術）」（52.1%）の併記を支持する者が過半数で、「情報技術」（21.6%）と「IT」（20.3%）の表記はほぼ同率となっているが、男女とも 10 代から 40 代までは「IT」という“外来語や略語などの単独表記”の方が、“言い換え語単独”の表記よりも支持されている。



## 第8章 外来語の将来

### 1 外来語の将来



外来語の将来としての意見を聞いたところ(図8-1-1)、「なるべく減らしていくべきだと思う」者は22.0%、「もっと増やしていくべきだと思う」者は6.6%で、3人に2人の者は「自然の成り行きに任せる方がよい」(65.5%)と答えている。

性別にみると(図8-1-2)、大きな男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図8-1-2)、男女とも高齢層ほど、外来語は将来、「なるべく減らしていくべきだと思う」者が多くなっており、特に男性の60歳以上では35.0%が「減らしていくべきだ」と答えている。

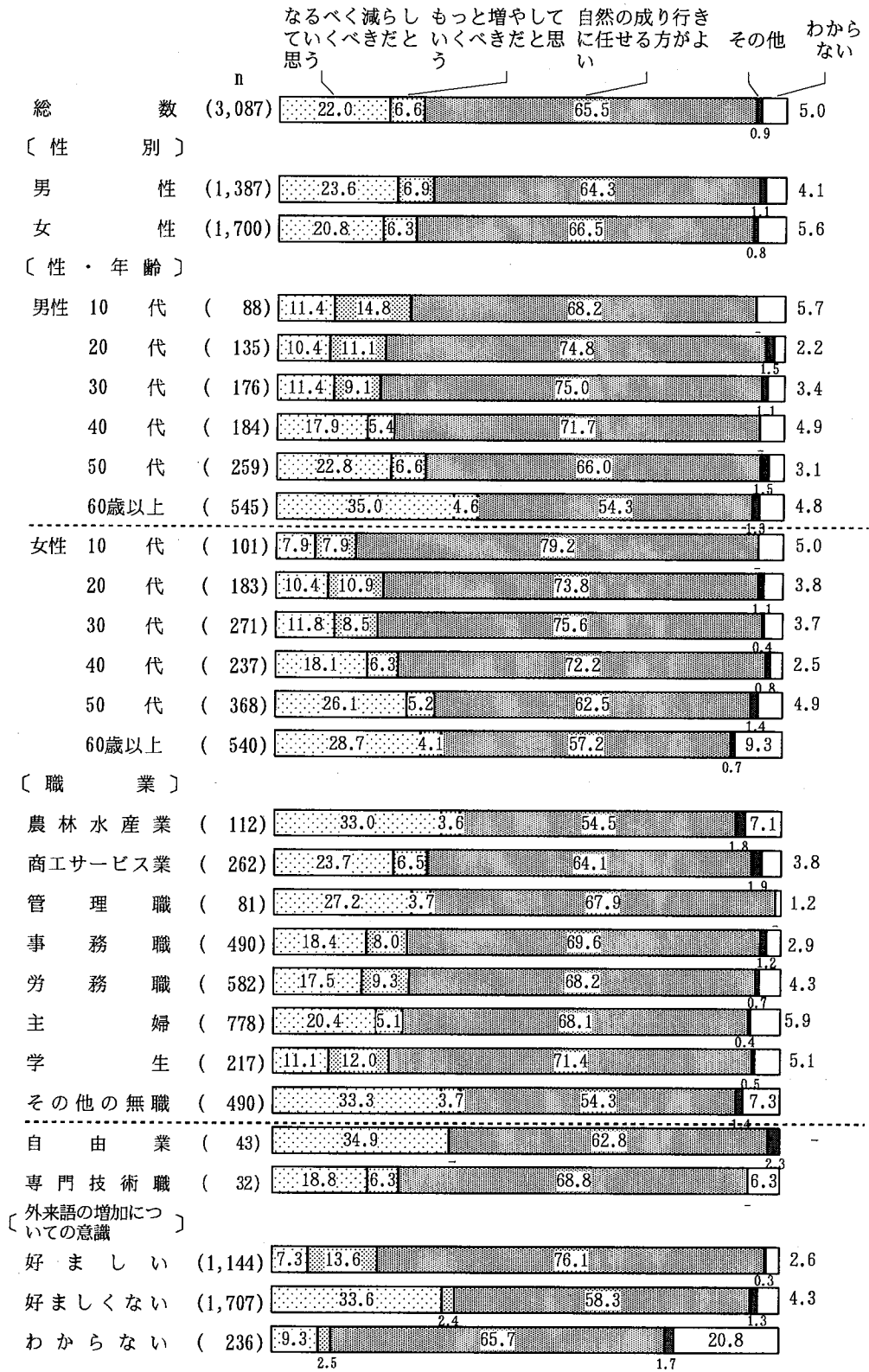
これに対して、男性の10代は「もっと増やしていくべきだと思う」者が14.8%と、他の年齢層より多くなっている。

職業別にみると(図8-1-2)、外来語は「なるべく減らしていくべきだと思う」者は、その他の無職(33.3%)と農林漁業(33.0%)で、それぞれ3人に1人と、他の職業より多くなっている。

さらに、外来語の増加についての意識別にみると、いずれにしても過半数は「自然の成り行きに任せる方がよい」という意見であるが、今以上に外来語が増えることを好ましいと思っている者で、外来語は将来、「もっと増やしていくべきだと思う」者は13.6%で、「なるべく減らしていくべきだと思う」者が7.3%である。一方、外来語が増えることを好ましくないと思っている者では、将来、外来語を「なるべく減らしていくべきだと思う」者が33.6%で、「もっと増やしていくべきだと思う」者は2.4%にとどまっている。

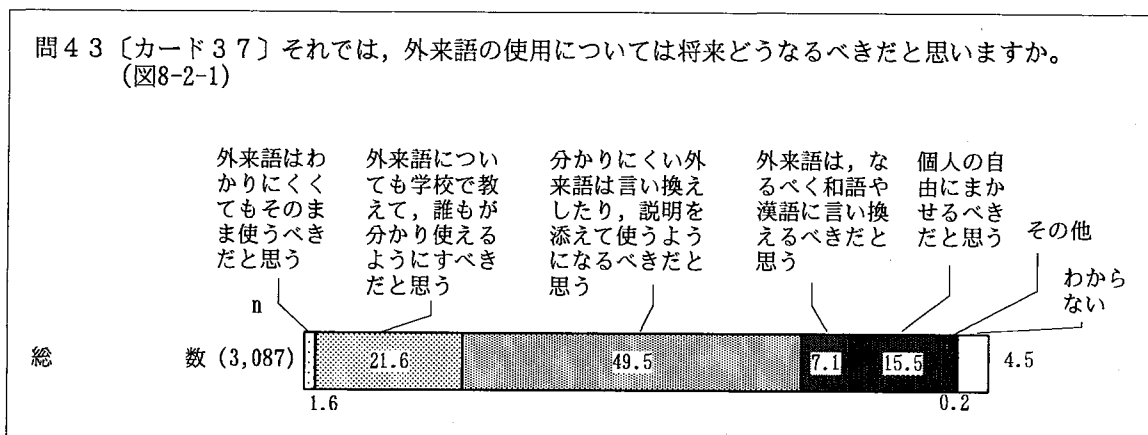
図 8-1-2 外来語の将来

(性別, 性・年齢別, 職業別, 外来語の増加についての意識別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 2 将来の外来語の使用



外来語の将来の使用については(図8-2-1)、「分かりにくい外来語は言い換えしたり、説明を添えて使うようになるべきだと思う」(49.5%)という者が半数で、次いで「外来語についても学校で教えて、誰もが分かり使えるようにすべきだと思う」(21.6%)、「個人の自由にまかせるべきだと思う」(15.5%)という者が続いている。

性別にみると(図8-2-2)、将来の外来語使用についての意識に、男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図8-2-2)、「分かりにくい外来語は言い換えしたり、説明を添えて使うようになるべきだと思う」という者は、女性の30代で63.1%と特に多くなっている。

また、「外来語についても学校で教えて、誰もが分かり使えるようにすべきだと思う」者は、男性の10代から20代と女性の10代といった若年層で3割弱と、やや多くなっている。

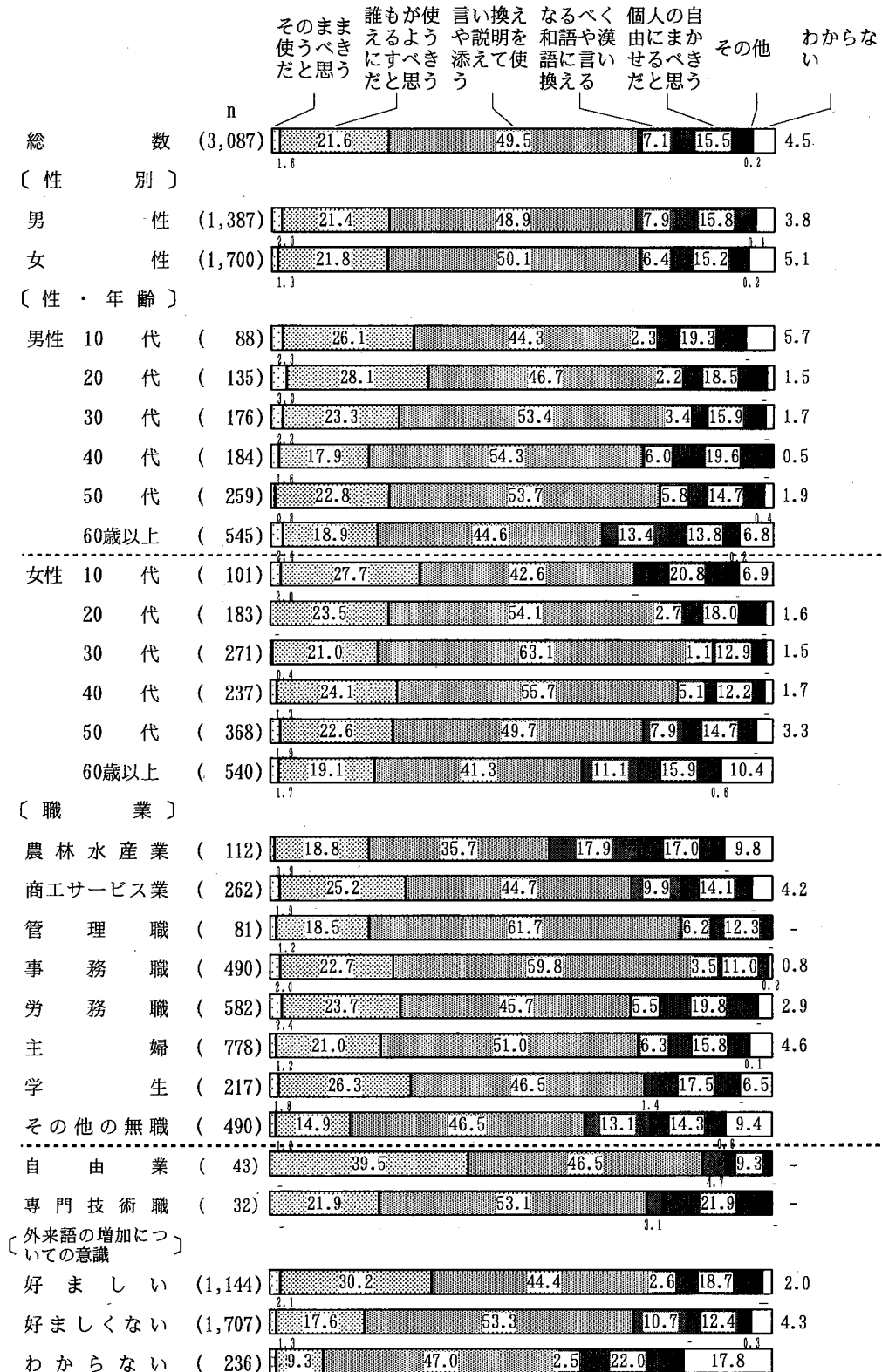
職業別にみると(図8-2-2)、「分かりにくい外来語は言い換えしたり、説明を添えて使うようになるべきだと思う」者は、管理職(61.7%)と事務職(59.8%)で6割前後となっている。

また、農林漁業に「外来語は、なるべく和語や漢語に言い換えるべきだと思う」者(17.9%)が2割弱と、他の職業より多くなっている。

さらに、外来語の増加についての意識別にみると(図8-2-2)、「分かりにくい外来語は言い換えしたり、説明を添えて使うようになるべきだと思う」者(好ましい44.4%、好ましくない53.3%)と「外来語は、なるべく和語や漢語に言い換えるべきだと思う」者(同2.6%、10.7%)は、今以上に外来語が増えることを好ましくないと思っている者の方が、「外来語についても学校で教えて、誰もが分かり使えるようにすべきだと思う」者(同30.2%、17.6%)と「個人の自由にまかせるべきだと思う」者(同18.7%、12.4%)は、外来語が増えることを好ましいと思っている者の方が、それぞれ多くなっている。

図 8-2-2 将来の外来語の使用

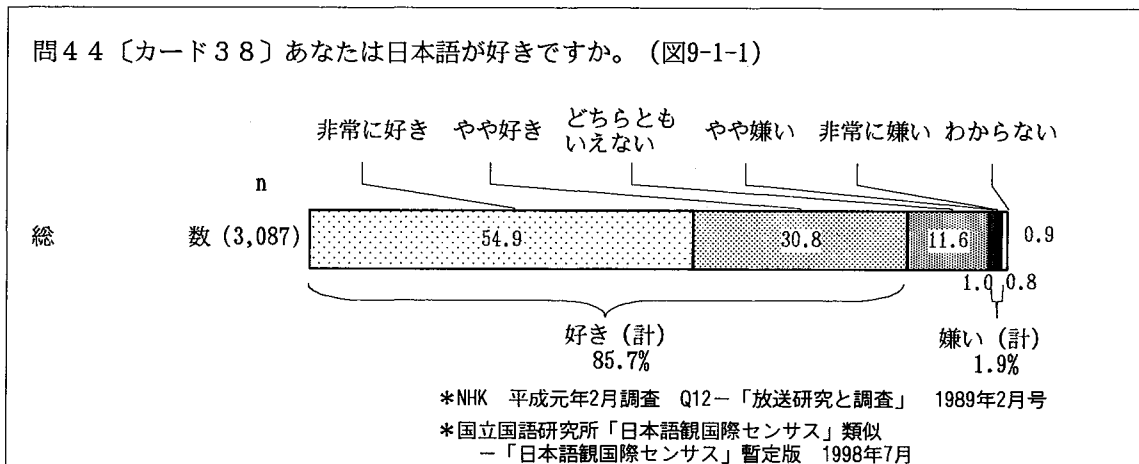
(性別、性・年齢別、職業別、外来語の増加についての意識別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとり、分析の対象からは外してある。

## 第9章 言葉一般について

### 1 日本語についての意識



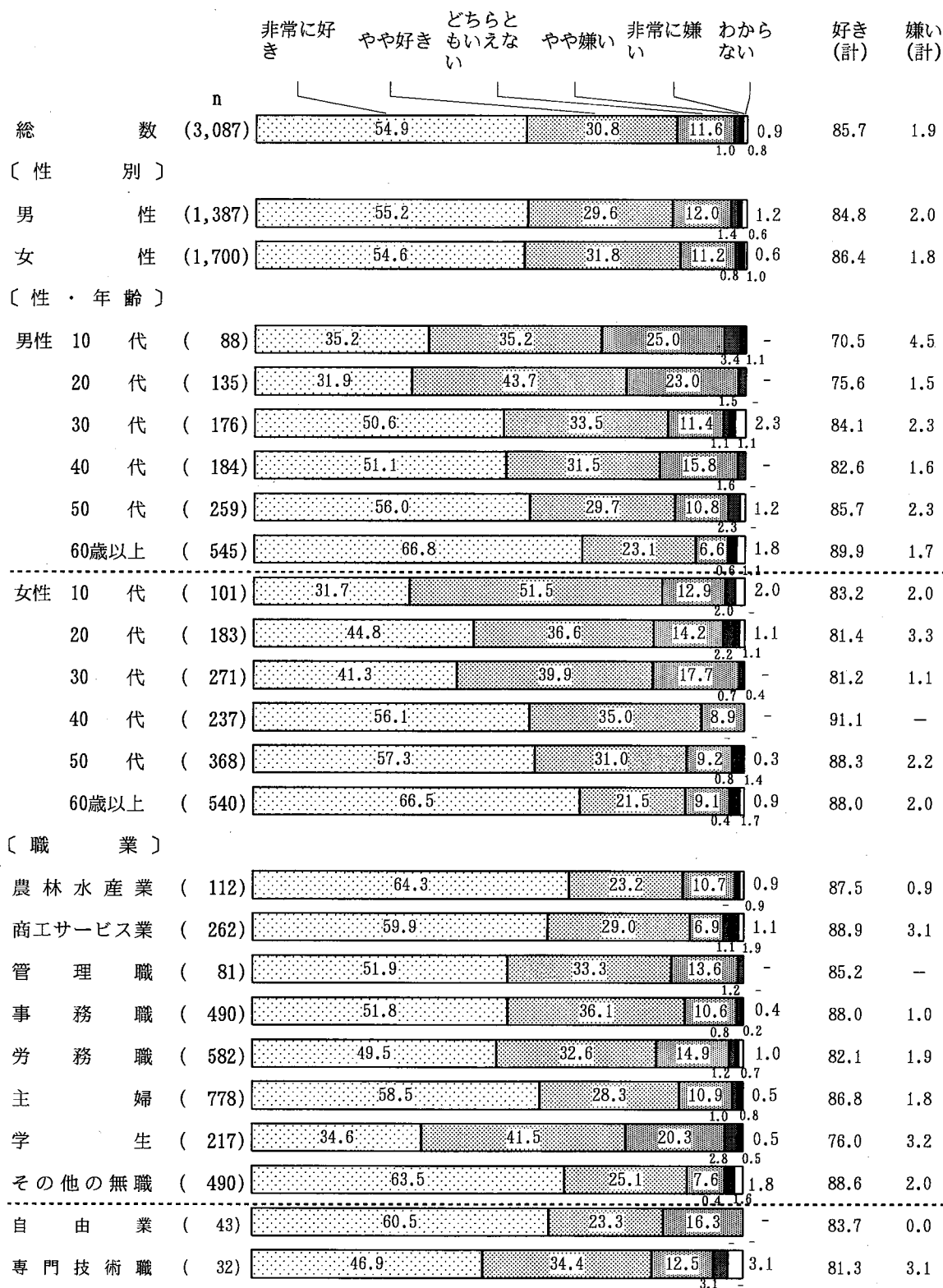
日本語が好きであるかどうかを聞いたところ (図 9-1-1) , 「非常に好き」という者が 54.9%と多数を占め, 「やや好き」 (30.8%) と答えた者を合わせると, 日本語が『好き』だという者が8割を超えている。

性別にみると (図 9-1-2) , 日本語に対する意識に男女差はみられない。

性・年齢別にみると (図 9-1-2) , 日本語が「非常に好き」という者は, 男女とも高齢層ほど多くなっており, 60歳以上 (男性 66.8%, 女性 66.5%) になると7割近い。一方, 男女とも10代の若年層では, 日本語が「非常に好き」という者は3割台と少なくなっているが, 「やや好き」という者を合わせると, 日本語が『好き』であるという者が7割を上回る。

職業別にみると (図 9-1-2) , 日本語が「非常に好き」という者は, 農林漁業 (64.3%) とその他の無職 (63.5%) で6割を上回っている。

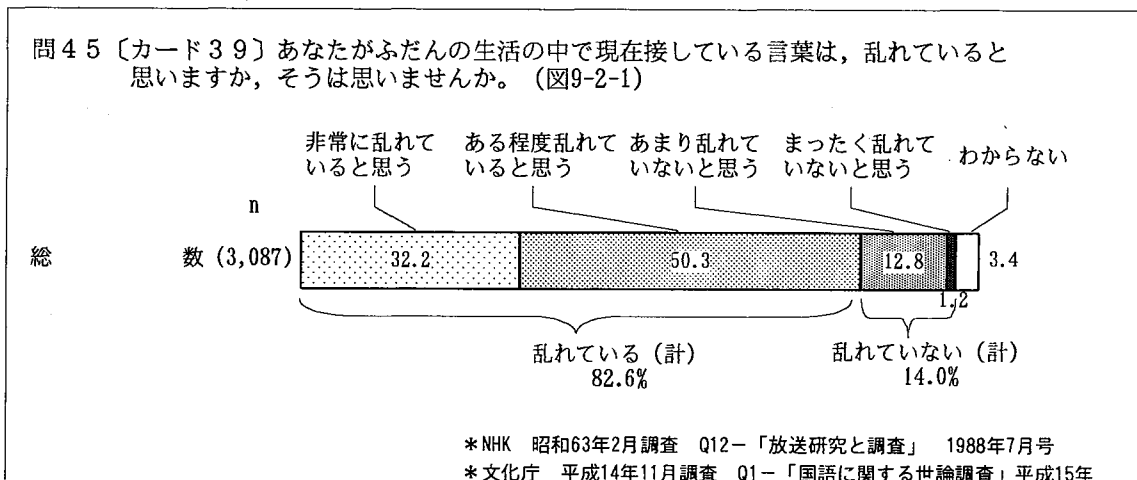
図 9-1-2 日本語についての意識  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。



## 2 言葉の乱れ



ふだんの生活の中で現在接している言葉が、「非常に乱れていると思う」者（32.2％）は3割強で、「ある程度乱れていると思う」（50.3％）という者を合わせると、8割以上が言葉の乱れを感じている（図9-2-1）。

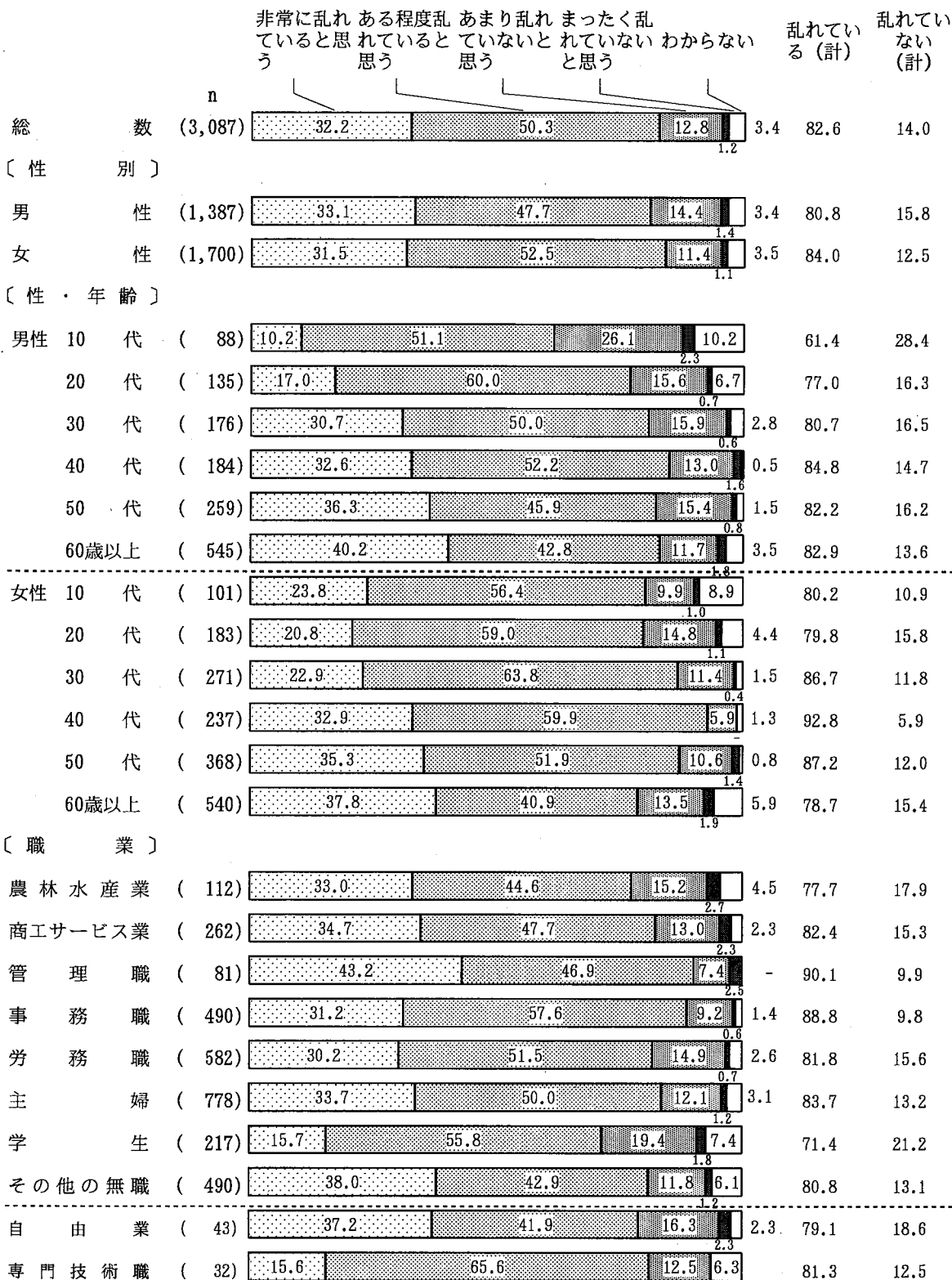
性別にみると（図9-2-2），日常生活の中で接する言葉が『乱れていると思う』者は、男女とも8割以上いる。

性・年齢別にみると（図9-2-2），言葉が「非常に乱れていると思う」者は、男女とも高齢層ほど多く、60歳以上（男性40.2％，女性37.8％）では4割前後となっている。一方、男性の10代では、「あまり乱れていないと思う」が26.1％と、他の年齢層より多くなっている。

職業別にみると（図9-2-2），ふだんの生活の中で現在接している言葉が、「非常に乱れていると思う」者は管理職で43.2％と多く、「ある程度乱れていると思う」（46.9％）という者を合わせると、9割が言葉の乱れを感じている。また、事務職でも、言葉が『乱れていると思う』者（88.8％）が9割弱と、多くなっている。

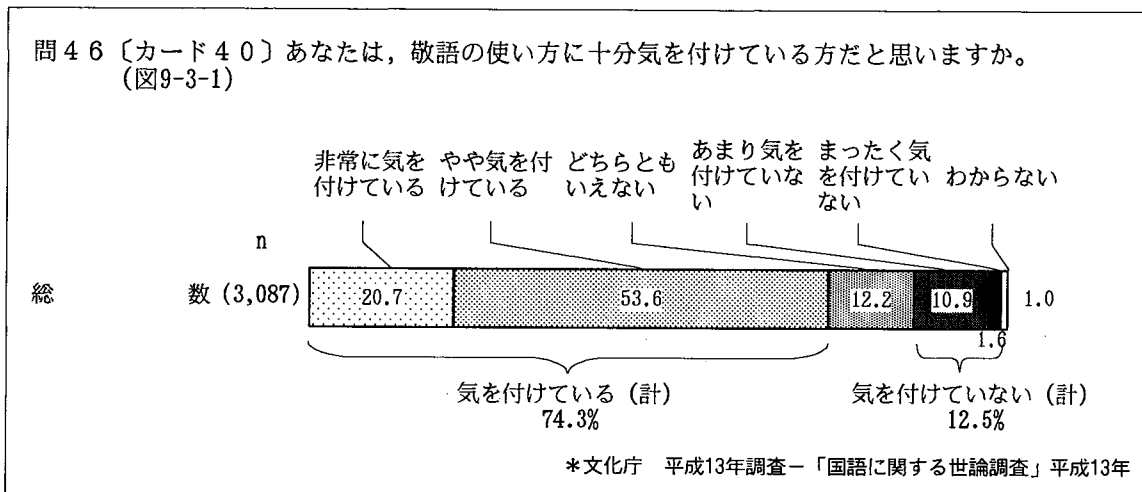
図 9-2-2 言葉の乱れ

(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

### 3 敬語の使い方への気づかい



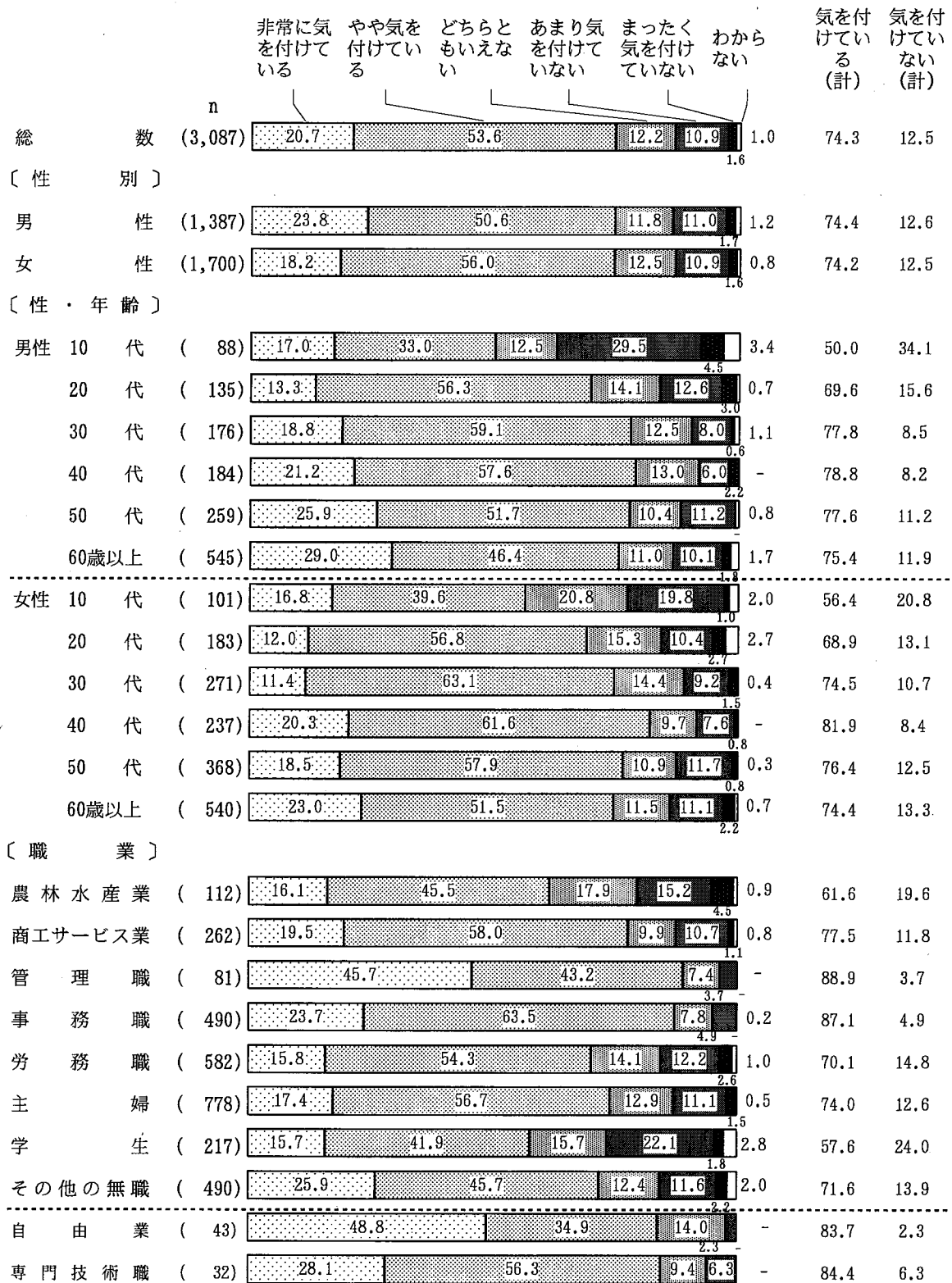
敬語の使い方について「非常に気を付けている」者（20.7％）は2割で、「やや気を付けている」者（53.6％）を合わせると、4人に3人は敬語の使い方について『気を付けている』（図9-3-1）。

性別にみると（図9-3-2）、敬語の使い方について「非常に気を付けている」者（男性23.8％、女性18.2％）は女性より男性に多くなっているが、「やや気を付けている」者（同50.6％、56.0％）を合わせると、敬語の使い方について『気を付けている』者の割合はほぼ同率である。

性・年齢別にみると（図9-3-2）、敬語の使い方について「非常に気を付けている」者は男女とも高齢層ほど多く、特に男性の60歳以上（29.0％）では3割となっている。一方、男性の10代では「あまり気を付けていない」者が29.5％と、他の年齢層より多くなっている。

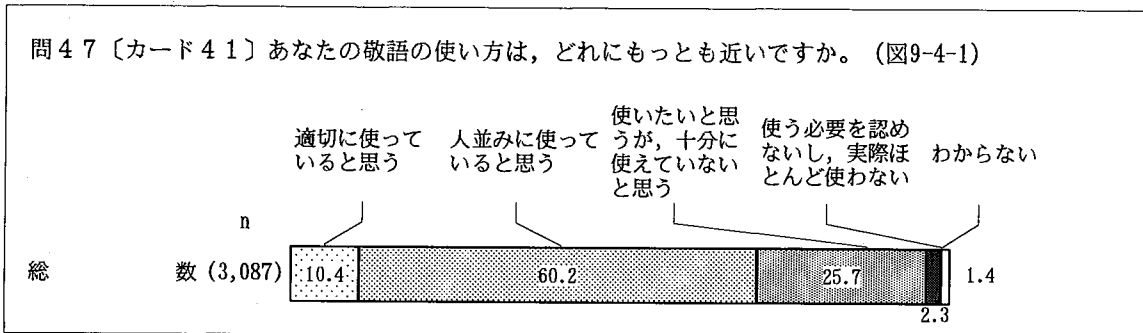
職業別にみると（図9-3-2）、敬語の使い方について「非常に気を付けている」者は管理職で45.7％と、特に多くなっている。一方、学生では2割強が、敬語の使い方について「あまり気を付けていない」（22.1％）と答えている。

図 9-3-2 敬語の使い方への気づかい  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照することとめ、分析の対象からは外してある。

#### 4 敬語の使い方



実際の敬語の使い方を聞いたところ(図9-4-1)、「人並みに使っていると思う」者が60.2%でもっとも多く、次いで「使いたいと思うが、十分に使えていないと思う」者が25.7%である。

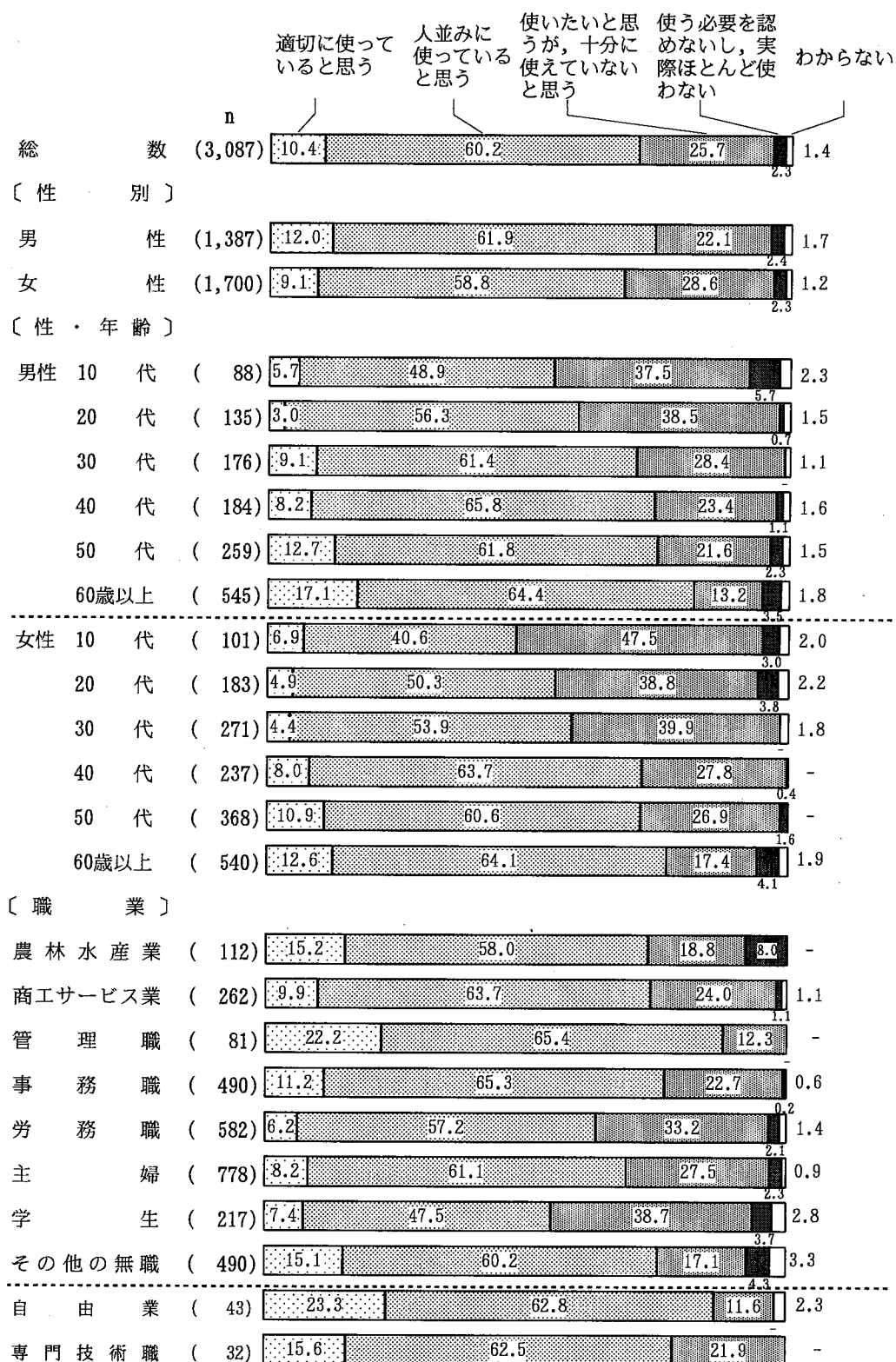
敬語を「適切に使っていると思う」(10.4%)という者は1割である。

性別にみると(図9-4-2)、敬語を「使いたいと思うが、十分に使えていないと思う」(男性22.1%、女性28.6%)という者は女性の3割弱と、男性より7ポイント多くなっている。

性・年齢別にみると(図9-4-2)、敬語を「使いたいと思うが、十分に使えていないと思う」者は、男女とも若年層ほど多く、特に女性の10代(47.5%)では半数近くが「十分ではない」と感じている。一方、敬語を「適切に使っていると思う」者は、男女とも高齢層ほど多くなっており、男性の60歳以上(17.1%)で2割弱が、適切に使用していると感じている。

職業別にみると(図9-4-2)、「使いたいと思うが、十分に使えていないと思う」者は学生(38.7%)で4割弱と他の職業に比べ、多くなっている。一方、敬語を「適切に使っていると思う」者は、管理職(22.2%)で2割を超えている。

図 9-4-2 敬語の使い方 (性別, 性・年齢別, 職業別)

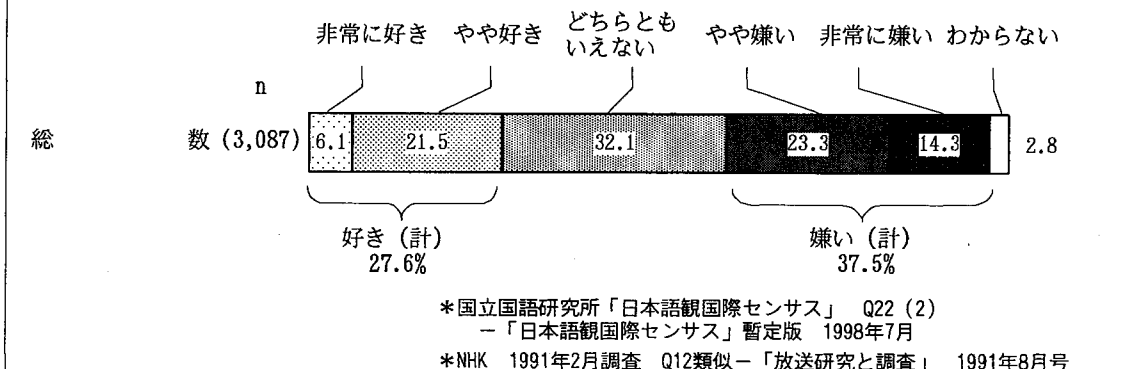


\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

## 5 英語についての意識

問48 それでは英語についてはどうですか。

(1)〔カード42〕あなたは英語が好きですか。(図9-5-1)



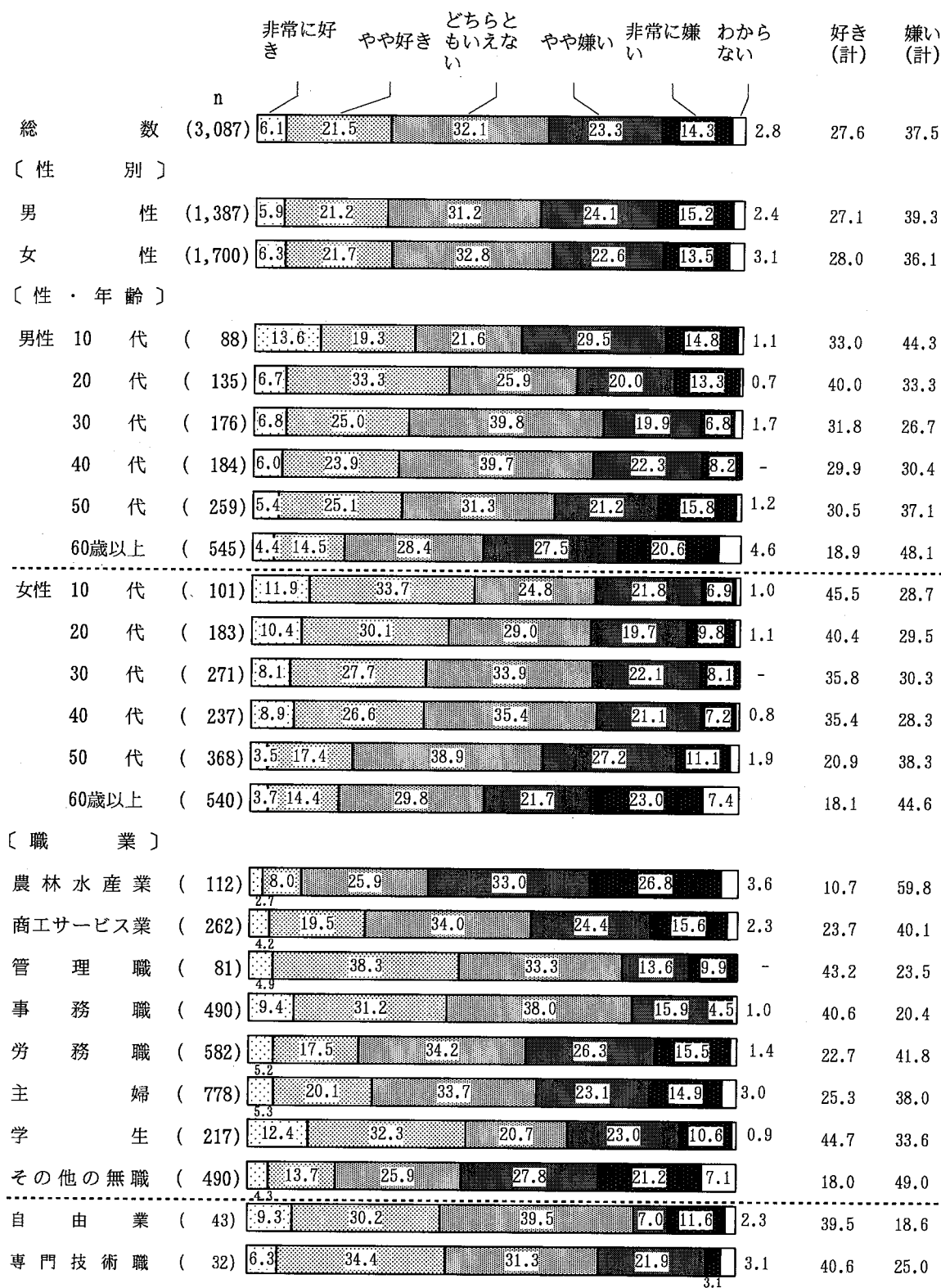
英語が「非常に好き」(6.1%)という者は1割弱で、「やや好き」(21.5%)を合わせると、英語が『好き』な者は3割弱である。一方、英語が「非常に嫌い」である者は14.3%おり、「やや嫌い」(23.3%)を合わせると、英語が『嫌い』な者は4割弱となっている(図9-5-1)。

性別にみると(図9-5-2)、英語の好き嫌いの意識に男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図9-5-2)、英語が「非常に好き」である者は、男女とも若年層にやや多い傾向があり、「やや好き」を合わせた英語が『好き』な者は、女性の10代から20代と男性の20代で4割台である。これに対して、「非常に嫌い」という者は、男女とも高齢層に多く、60歳以上(男性20.6%、女性23.0%)では2割を上回る。

職業別にみると(図9-5-2)、英語が『好き』な者は、学生(44.7%)、管理職(43.2%)、事務職(40.6%)で4割以上となっている。

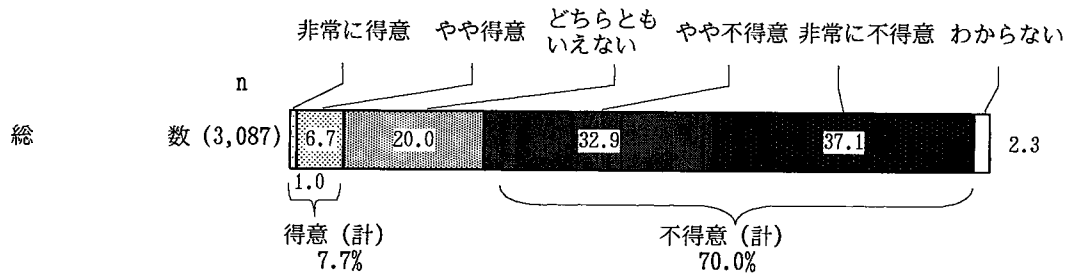
図 9-5-2 英語についての意識  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとり、分析の対象からは外してある。



問48 それでは英語についてはどうですか。  
 (2) [カード43]では、英語が得意ですか。(図9-5-3)



\*国立国語研究所「日本語観国際センサス」 Q20~22  
 - 「日本語観国際センサス」暫定版 1998年7月

次に、英語が得意であるかどうかを聞いたところ (図 9-5-3)、「非常に不得意」(37.1%)であるという者が4割弱で、「やや不得意」(32.9%)を合わせると7割は、英語が『不得意』であると感じている。

これに対して、「非常に得意」(1.0%)もしくは「やや得意」(6.7%)と答えた、英語が『得意』である者は1割に満たない。

性別にみると (図 9-5-4) , 男女とも7割が、英語は『不得意』であると感じている。

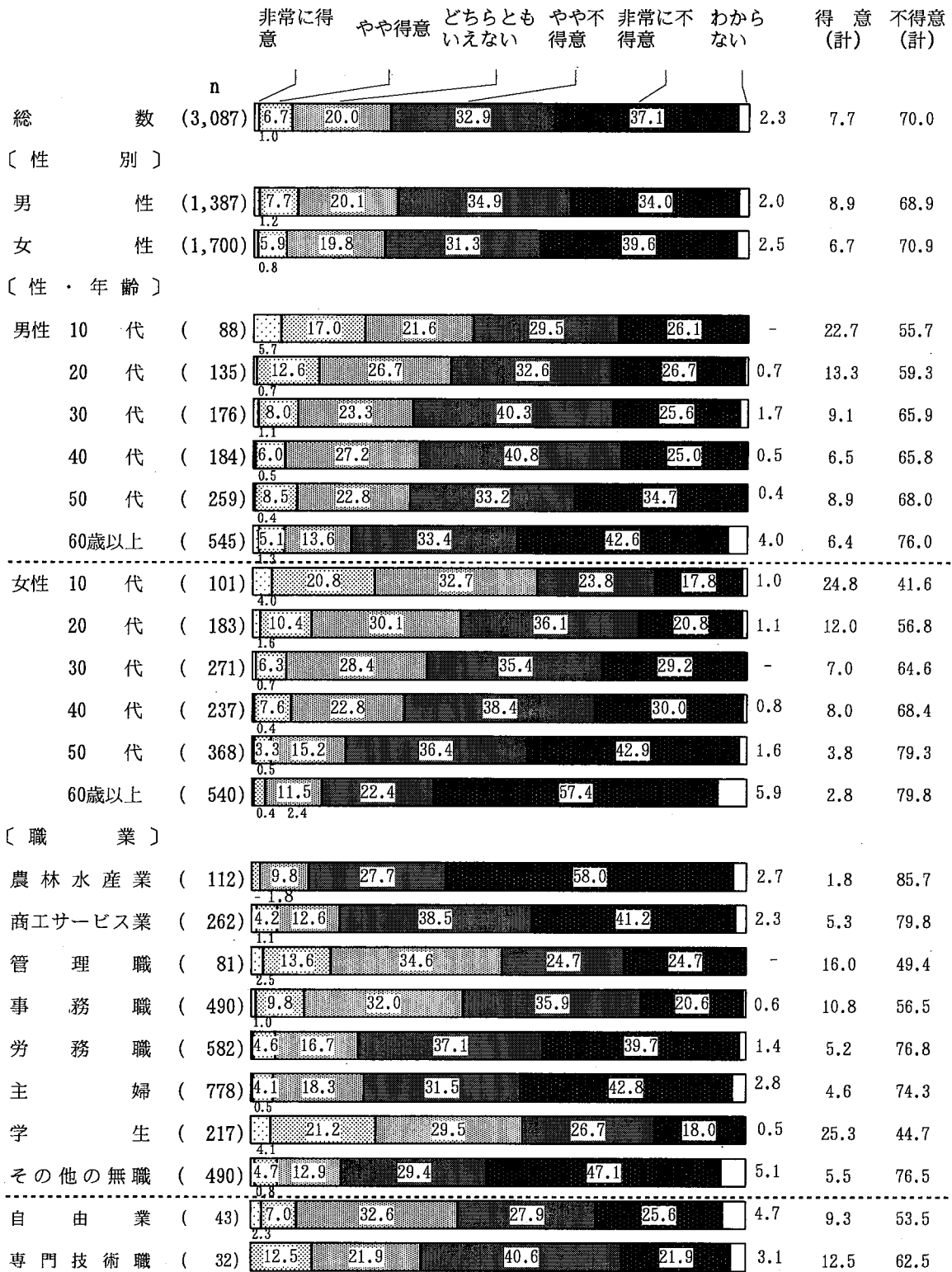
性・年齢別にみると (図 9-5-4) , 英語が「やや得意」という者は男女とも若年層ほど多く、「非常に得意」という者を合わせると、男女とも10代で英語が『得意』である者が2割を上回る。

一方、高齢層では「非常に不得意」であるという者が多くなっており、特に女性の60歳以上(57.4%)では6割近い。

職業別にみると (図 9-5-4) , 学生に「やや得意」(21.2%)という者が2割強おり、「非常に得意」な者を合わせると、4人に1人が、英語は『得意』であると認識している。

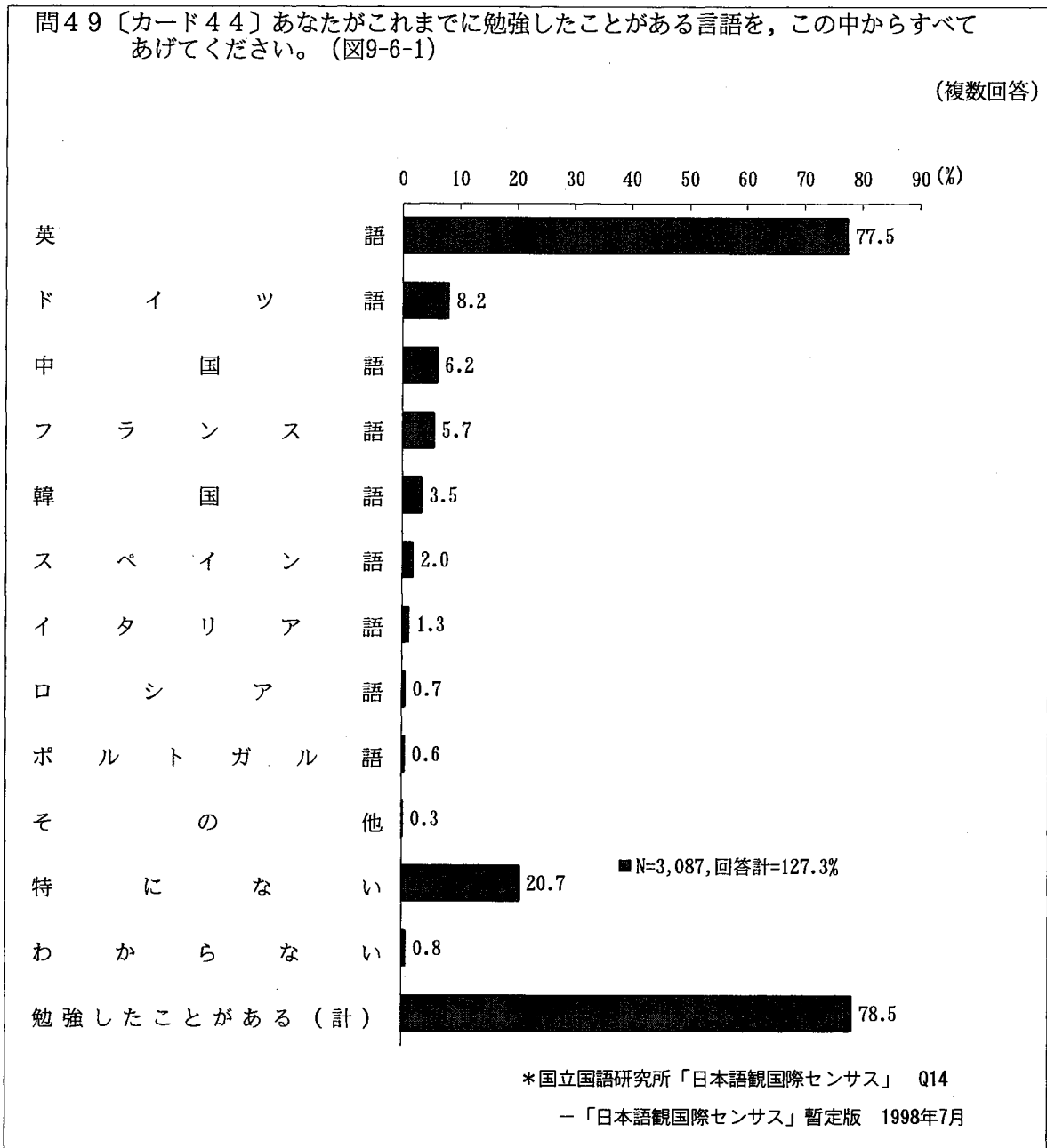
一方、農林漁業の6割近くは、英語が「非常に不得意」(58.0%)と答えており、大多数が英語は『不得意』であると答えている。

図 9-5-4 英語の得意さ  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照することとめ、分析の対象からは外してある。

6 これまでに勉強したことがある言語



これまでに学習したことがある言語としては(図9-6-1)、「英語」が77.5%で際立って多く、以下「ドイツ語」(8.2%)、「中国語」(6.2%)、「フランス語」(5.7%)などの順にあげられているが、いずれも1割に満たない。

「特にない」という者は20.7%である。

性別にみると(表9-6-1)、「ドイツ語」(男性11.6%、女性5.4%)を習ったことのある者は、女性より男性に多くなっている。

性・年齢別にみると(表9-6-1)、「特にない」と答えた、外国語の学習をしたことのない者は、男女とも高齢層に多く、特に60歳以上では男性の35.6%、女性の50.6%が、特に勉強していないと答

えている。

また、「ドイツ語」は、男性の40代から50代で勉強したことのある者が2割弱と、やや多くなっている。

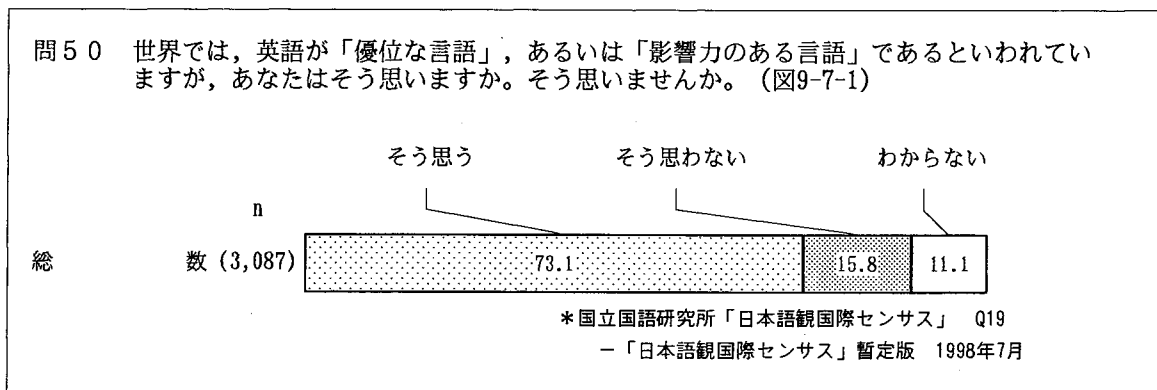
職業別にみると(表9-6-1)、「英語」は学生(94.9%)、事務職(92.4%)、管理職(90.1%)の9割以上が、学習経験を持っている。また、他の言語についても、管理職に学習経験のある者がやや多くなっている。

一方、農林漁業とその他の無職では、「特にない」(農林漁業55.4%、無職42.9%)と答えた、外国語を勉強したことのない者が、他の職業より多くなっている。

表9-6-1 これまでに勉強したことがある言語(性別、性・年齢別、職業別)

	総 数	英 語	ド イ ツ 語	中 国 語	フ ラ ン ス 語	韓 国 語	ス ペ イ ン 語	イ タ リ ア 語	ロ シ ア 語	ポ ル ト ガ ル 語	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	あ る (計 した こと が)	計 (M.T.)
	n	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	3,087	77.5	8.2	6.2	5.7	3.5	2.0	1.3	0.7	0.6	0.3	20.7	0.8	78.5	127.3
[性別]															
男性	1,387	78.0	11.6	8.4	6.2	3.5	2.3	1.0	1.2	1.0	0.3	19.7	0.9	79.4	134.2
女性	1,700	77.0	5.4	4.3	5.2	3.4	1.8	1.5	0.4	0.2	0.4	21.5	0.6	77.8	121.6
[性・年齢]															
男性10代	88	96.6	1.1	5.7	1.1	4.5	-	-	-	-	-	3.4	-	96.6	112.5
20代	135	92.6	8.9	14.8	8.9	5.2	3.7	2.2	0.7	2.2	-	6.7	-	93.3	145.9
30代	176	90.9	14.2	7.4	8.0	4.5	2.3	1.1	1.1	1.1	0.6	6.3	1.7	92.0	139.2
40代	184	89.1	17.9	12.0	8.7	1.6	3.3	3.3	2.2	1.6	1.1	8.2	0.5	91.3	149.5
50代	259	82.2	16.6	8.9	8.9	5.8	3.1	0.8	1.9	0.8	0.4	15.8	0.8	83.4	145.9
60歳以上	545	61.5	8.6	6.2	3.7	2.2	1.7	0.2	0.7	0.7	-	35.6	1.3	63.1	122.4
女性10代	101	97.0	1.0	6.9	5.0	4.0	2.0	1.0	-	-	-	2.0	1.0	97.0	119.8
20代	183	92.9	8.2	10.9	12.6	7.7	6.0	3.8	-	1.1	1.6	5.5	-	94.5	150.3
30代	271	93.0	7.4	4.4	7.0	3.7	2.6	1.8	0.7	-	-	6.3	-	93.7	126.9
40代	237	92.4	11.0	5.5	5.1	5.1	1.7	3.0	-	0.8	0.4	7.2	-	92.8	132.1
50代	368	86.7	3.8	2.2	6.3	2.2	1.4	0.3	0.3	-	0.5	12.8	-	87.2	116.3
60歳以上	540	46.5	2.8	2.4	1.3	1.9	0.2	0.7	0.6	-	-	50.6	1.9	47.6	108.7
[職業]															
農林水産業	112	41.1	3.6	6.3	1.8	1.8	0.9	-	-	0.9	-	55.4	1.8	42.9	113.4
商工サービス業	262	79.8	3.8	5.0	6.5	3.8	3.4	2.3	0.8	-	0.8	18.3	-	81.7	124.4
自由業	43	83.7	16.3	16.3	14.0	4.7	4.7	16.3	-	2.3	-	11.6	2.3	86.0	172.1
管理職	81	90.1	25.9	13.6	12.3	8.6	1.2	-	-	2.5	2.5	7.4	-	92.6	164.2
専門技術職	32	93.8	37.5	15.6	12.5	9.4	6.3	3.1	6.3	-	-	3.1	3.1	93.8	190.6
事務職	490	92.4	16.9	8.8	12.4	3.9	4.3	0.6	1.2	1.0	0.2	6.1	0.8	93.1	148.8
労務職	582	84.4	4.1	6.0	2.9	4.3	1.0	1.5	0.5	1.0	0.3	14.3	0.5	85.2	121.0
主婦	778	74.2	5.1	3.7	3.9	2.3	1.3	1.0	0.4	0.1	0.3	23.9	0.9	75.2	117.1
学生	217	94.9	4.1	8.8	6.9	4.6	2.3	1.8	-	-	0.5	3.7	0.5	95.9	128.1
その他の無職	490	55.1	8.6	4.3	2.7	2.2	1.0	0.2	1.2	0.4	-	42.9	1.0	56.1	119.6

## 7 英語の優位性



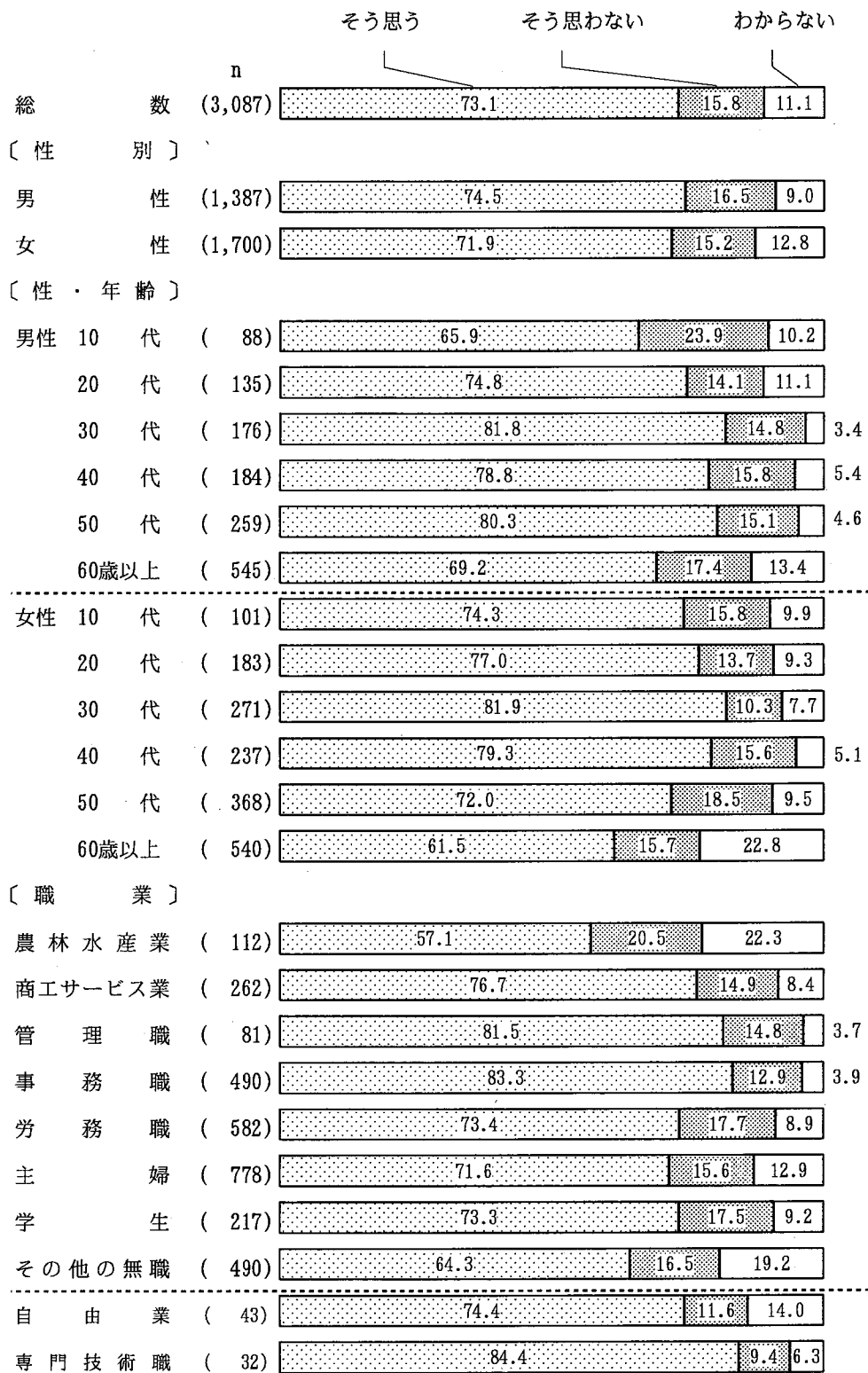
英語は“優位な言語”，あるいは“影響力のある言語”であるという意見について、「そう思う」という者は73.1%を占め、「そう思わない」者（15.8%）を大きく上回っている（図9-7-1）。

性別にみると（図9-7-2），英語の優位性の意識に大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図9-7-2），「そう思う」と答えた，英語は“優位な言語”，あるいは“影響力のある言語”であると思う者は，男性の30代から50代と女性の20代から40代で8割前後を占めている。

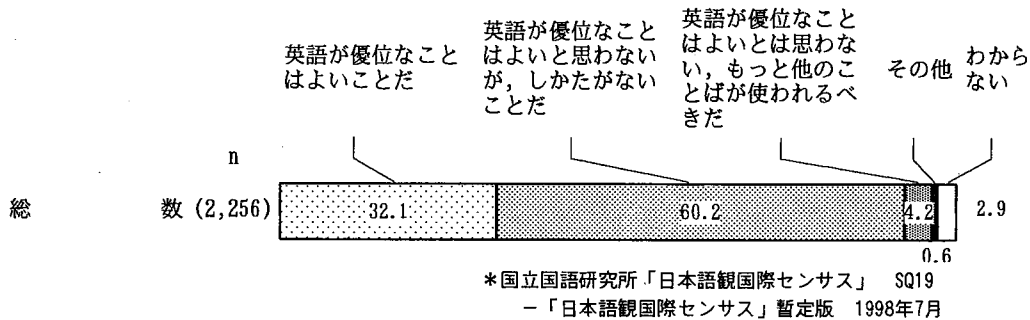
職業別にみると（図9-7-2），事務職と管理職の者は，英語を“優位な言語”であると感じる者（「そう思う」事務職83.3%，管理職81.5%）が8割以上となっている。

図 9-7-2 英語の優位性  
(性別, 性・年齢別, 職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。

問5 1〔カード45〕では、世界で、英語が「優位な言語」になっていることについてあなたはどう思いますか。(図9-7-3)



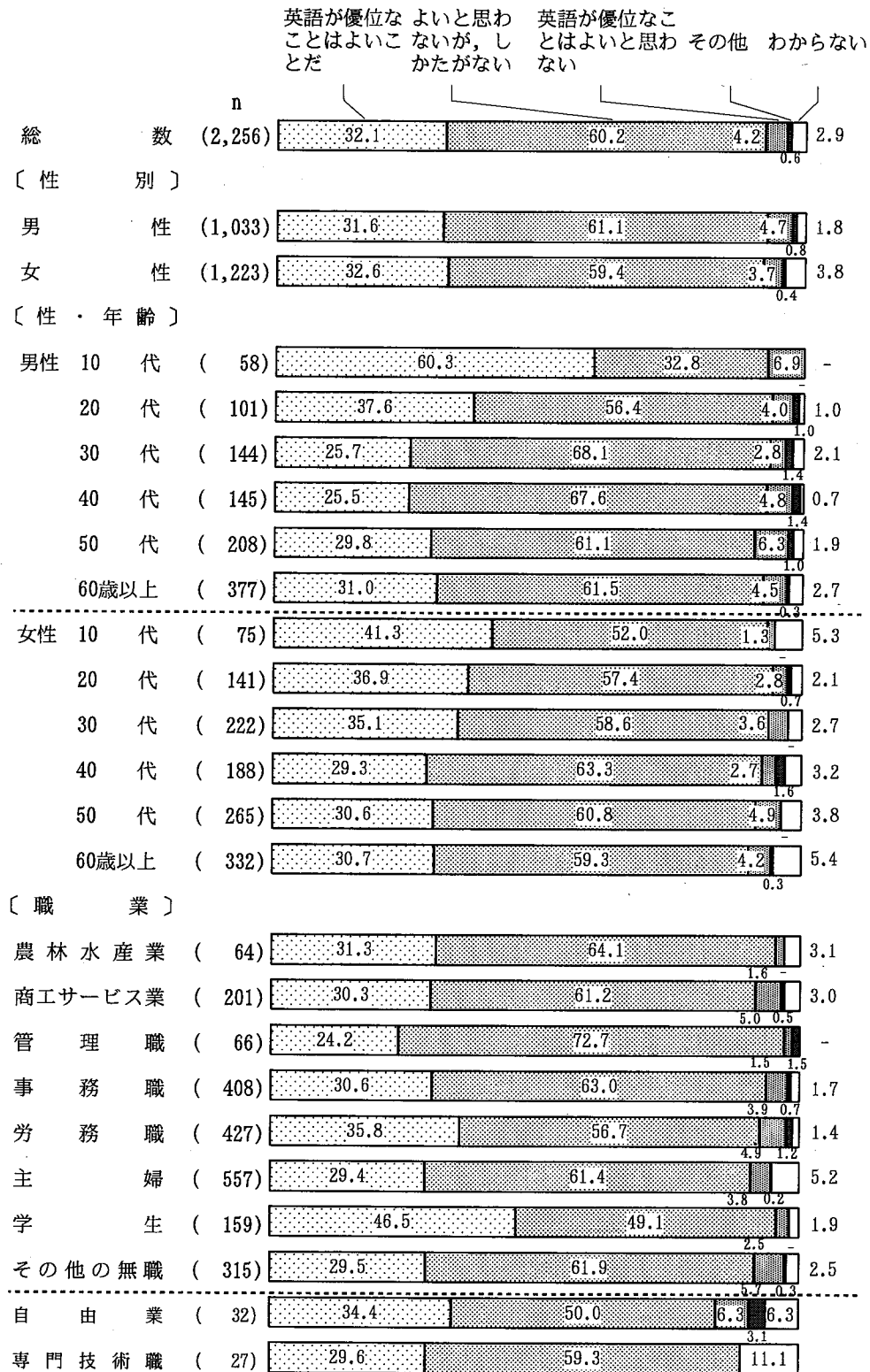
英語が“優位な言語”であると思う者(2,256人)に、その状況についての意見を聞いたところ(図9-7-3)、「英語が優位なことはよいと思わないが、しかたがないことだ」(60.2%)という者が6割でもっとも多く、次いで「英語が優位なことはよいことだ」という者が32.1%、「英語が優位なことはよいとは思わない。もっと他の言葉が使われるべきだ」という者は4.2%であった。

性別にみても(図9-7-4)、意識の男女差はみられない。

性・年齢別にみると(図9-7-4)、該当数は少ないが男性の10代で「英語が優位なことはよいことだ」という者が60.3%と、他の年齢層より多くなっている。

職業別にみると(図9-7-4)、学生では「英語が優位なことはよいことだ」(46.5%)という者が5割近くおり、「英語が優位なことはよいと思わないが、しかたがないことだ」(49.1%)という者とほぼ同率となっている。

図 9-7-4 英語が優位である状況についての意識  
(性別、性・年齢別、職業別)



\*「自由業」と「専門技術職」は、回答者数が50人より小さいので参照するにとどめ、分析の対象からは外してある。



### Ⅲ 調 査 票

(付：単純集計結果)

# 外来語に関する意識調査

平成15年10月

調査主体：独立行政法人 国立国語研究所

調査実施：社団法人 新情報センター

地点 No	対象 No	調査員名	点検者

調査開始時刻  時  分

※Nの表示のないものは、3,087人を基数とする。

〔カード1〕この調査の中で言う「外来語」とは、ここに示したように、昔、日本に伝わって、すでに日本語として定着している「コップ」「ボタン」などの言葉のほか、最近新しく入ってきた、通常カタカナで書かれるような、いわゆる「カタカナ語」も含めて指しています。「旅館」「家事」など、古い時代に中国から伝わってきたことば（漢語）は除外してお答えください。

はじめに、外来語そのものについての意識をお聞きします。

問1 〔カード2〕日頃、読んだり聞いたりすることばの中に、外来語を使っている場合が多いと感じることがありますか。この中から1つ選んでください。

47.9	33.3	13.4	3.8	1.6
しばしばある	時々ある	あまりない	めったにない	わからない

問2 〔カード3〕今以上に外来語が増えることについてどう思いますか。どれがお気持ちに一番近いですか。

7.5	29.5	42.0	13.3	7.6
好ましい	まあ好ましいことだ	あまり好ましいことではない	好ましくない	わからない

問3 〔カード4〕あなたが、外来語を使うことの良い点と思うものを、この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

- 28.2 新しさを感じさせることができる
- 22.1 しゃれた感じを<sup>あらわ</sup>表すことができる
- 13.9 知的な感じを表すことができる
- 20.0 同じ意味でこれまで使っていたことばの暗いイメージをなくすことができる
- 25.6 これまでになかった物事や考え方を表すことができる
- 29.5 話が通じやすく便利である
- 17.7 露骨な表現を<sup>やわ</sup>和らげる効果がある
- 11.8 この中に良いと思う点はない
- 5.6 わからない

(M.T.=174.2)

問4 [カード5]では、あなたが、外来語を使うことの悪い点と思うものを、この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

- 33.3 日本語の伝統が破壊される
- 13.4 いかにも気取っている感じをあたえる
- 11.5 軽薄な感じをあたえる
- 46.7 相手によって話が通じなくなる
- 37.2 誤解や意味の取り違えがおこる
- 12.7 人を煙に巻いたりごまかしたりするときに使われる
- 27.4 読み方がむずかしくて覚えにくい
- 17.2 正しい英語を学ぶ妨げになる
- 5.3 この中に悪い点と思うことはない
- 3.4 わからない

(M.T.=207.9)

日頃、読んだり聞いたりすることばの中には、ITやCDといったアルファベットの略語が含まれていることがあります。これから数問は、外来語に加えて略語も含めて、お答えください。

問5 あなたは、外来語や略語を知っている方だと思いますか、知らない方だと思いますか。

- 21.1 知っている方だと思う
- 21.7 どちらともいえない(自発的回答)
- 53.7 知らない方だと思う
- 3.6 わからない

問6 [カード6]日頃、読んだり聞いたりしていることばの中で、外来語や略語の意味が分からなくて困ったことがありますか。この中から1つ選んでください。

- |        |      |       |        |       |
|--------|------|-------|--------|-------|
| 24.4   | 53.3 | 16.3  | 4.8    | 1.2   |
| しばしばある | 時々ある | あまりない | めったにない | わからない |

問7 あなたは、新聞やテレビで知らない外来語や略語に出会ったら、辞書で調べたり人に尋ねたりしますか。

- 27.8 調べる
- 23.4 時と場合による(自発的回答)
- 47.5 調べない
- 1.3 わからない

問8 あなたのまわりで、分からない外来語や略語が使われているとき、取り残されたように感じることはありませんか。

- 25.5 感じる
- 19.5 時と場合による(自発的回答)
- 52.2 感じない
- 2.8 わからない

問9 あなたご自身は、外来語や略語を使う方だと思いますか、使わない方だと思いますか。

- 15.5 使う方だと思う
- 21.7 どちらともいえない(自発的回答)
- 60.3 使わない方だと思う
- 2.5 わからない

問10 あなたは、外来語や略語を相手や場面によって使ったり、使わなかったりしていますか。

36.5	使いわける	16.6	どちらともいえない (自発的 응답)
42.3	使いわけない	4.6	わからない

問11 [カード7] 「マイホーム」「パソコン」「コンビニ」などは、日本で作られた、いわゆる和製外来語ですが、このような外来語についてどう思いますか。この中から1つ選んでください。

9.9	大いに作っていいと思う	18.4	とくに何も思わない
52.5	ある程度は作ってもいいと思う	1.9	わからない
17.3	できるだけ作らない方がいいと思う		

では、「外来語」のほかに、昔中国から伝わった「漢語」、日本本来の言葉である「和語」などについての意識をお聞きます。

問12 [カード8] 日本語では、同じことを言うのに、いろいろな表現があります。このカードをご覧ください。

(1) まず、あなたが、もっとも使いたいと思う表現を、この中から1つ選んでください。

57.5	18.6	21.3	2.7
キャンセル	解約	取り消し	わからない

(2) 次に、あなたが、もっとも新しいと感じる表現を1つ選んでください。

83.4	5.6	3.3	7.6
キャンセル	解約	取り消し	わからない

(3) それでは、もっとも分かりやすいと思う表現はどれですか。

35.0	21.5	40.4	3.1
キャンセル	解約	取り消し	わからない

問13 [カード9] 次に、このカードをご覧ください。

(1) この中で、あなたが、もっとも使いたいと思う表現を1つ選んでください。

17.7	12.1	68.5	1.7
ハッピー	幸福	幸せ	わからない

(2) 次に、あなたが、もっとも新しいと感じる表現を1つ選んでください。

76.0	5.9	9.8	8.3
ハッピー	幸福	幸せ	わからない

(3) それでは、もっとも分かりやすいと思う表現はどれですか。

16.4	14.1	67.3	2.2
ハッピー	幸福	幸せ	わからない

問14 これから、いろいろなことばの意味についておたずねします。あなたのお考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

(1) [カード10] まず、「インフォームドコンセント」の意味は、この中のどれだと思いますか。

5.9 電気器具用の電力を取り出すシステム	18.6 聞いたことはあるが意味はわからない
35.9 医師による説明と患者や家族の同意	27.9 このことばを知らない
1.8 患者に病名を知らせない治療法	9.9 わからない
- その他(具体的に:	)

(2) [カード11] では、「マルチメディア」の意味は、どれでしょうか。

3.7 インターネットの別の言い方	
38.2 音声・文字・映像など多種類の情報を組み合わせた伝達媒体 <small>ほいたい</small>	
26.2 新聞・出版・放送・映画などマスコミの会社	
- その他(具体的に:	)
19.9 聞いたことはあるが意味はわからない	
7.4 このことばを知らない	
4.6 わからない	

(3) [カード12] 「ライフライン」の意味は、どれだと思いますか。

4.7 年代ごとの平均余命 <small>よめい</small>	18.5 聞いたことはあるが意味はわからない
22.6 生活水準を表す指標	7.3 このことばを知らない
42.1 電気・ガス・水道など	4.8 わからない
0.1 その他(具体的に:	)

(4) [カード13] それでは、「ケア」の意味は、どれだと思いますか。

84.5 福祉の分野で介護のこと	6.7 聞いたことはあるが意味はわからない
0.6 食料配達サービス	2.6 このことばを知らない
1.8 経済上の生活相談	2.6 わからない
1.2 その他(具体的に:	)

問15 [カード14] あなたは、どの分野の外来語が分かりにくいと感じますか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

59.1 政治・経済	18.5 ファッション	3.4 特にわかりにくい分野はない
49.3 医療・福祉	7.5 スポーツ	4.9 わからない
59.3 コンピュータ関連	10.5 音楽	
7.0 料理	0.4 その他(具体的に: )	(M.T.=219.9)

では、外来語を言い換えること、説明を加えることの必要性についてのお考えをお聞きます。

問16 [カード14] あなたは、どの分野の外来語をわかりやすく言い換えてほしいと思いますか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

56.4 政治・経済	8.9 ファッション	4.3 特に言い換えてほしい分野はない
56.0 医療・福祉	5.5 スポーツ	6.3 わからない
41.3 コンピュータ関連	5.2 音楽	
5.2 料理	0.4 その他(具体的に: )	(M.T.=189.3)

問17 今、公共職業安定所は「ハローワーク」、老人は「シルバー」や「シニア」などと、外来語に言い換えることもあります。このように外来語に言い換えることについてあなたはどのように思いますか。「外来語に言い換えたほうがいい」と思いますか、「もとのことばのほうがいい」と思いますか。

29.6 外来語に言い換えたほうがいい	29.6 どちらでもいい(自発的回答)
36.4 もとのことばのほうがいい	4.4 わからない

問18 [カード15] これまで日本語になかった物事や考え方を表す次の語について、あなたは、言い換えしないで外来語のまま使った方がよいと思いますか。まず、「ノーマライゼーション」については、いかがでしょうか。(調査員注:以下、(5)まで読み上げて聞く。)

	そう思う	そうは 思わない	どちらとも 言えない	わからない
(1) ノーマライゼーション	9.2	56.9	13.8	20.1
(2) インフォームドコンセント	15.2	54.7	13.4	16.7
(3) シミュレーション	40.8	35.2	13.4	10.6
(4) バリアフリー	55.0	27.0	11.0	7.0
(5) リハビリテーション	66.5	19.8	9.1	4.6

問19 あなたは、国立国語研究所が「外来語言い換え提案」をしていることを知っていますか。

11.4 知っている	84.6 知らない	4.0 わからない
------------	-----------	-----------

【全員に】

問20 [カード16] 国立国語研究所の「外来語言い換え提案」では、次のような「言い換え語」を提案しています。あなたは、「言い換え語」と、もとの外来語とではどちらが分かりやすいと思いますか。

もとの外来語	言い換え語	もとの外来語が わかりやすい	言い換え語が わかりやすい	どちらも いけない	わからない
(1) インフォームドコンセント	納得診療 <small>しんりょう</small>	16.5	65.5	12.0	6.1
(2) デイサービス	日帰り介護	48.4	40.8	7.8	3.1
(3) グローバル	地球規模	27.0	56.3	11.3	5.4

(自発的回答)

問21 あなたは、国立国語研究所が行っているような「外来語言い換え提案」は必要だと思いますか。

61.3 必要だと思う      11.5 必要ないと思う      27.2 どちらもいえない

では、情報通信について、いくつかお聞きします。

問22 [カード17] あなたは、ふだん、生活に密接な情報を何から得ていますか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

93.6 テレビ	21.1 インターネット	39.3 知人・友人・身近な人
23.9 ラジオ	5.4 電子メール	0.6 その他(具体的: )
77.5 新聞	26.3 市区町村の広報紙	0.6 特くない
29.1 雑誌	1.7 市区町村の役所の窓口	0.4 わからない (M.T.=319.5)

問23 [カード18] あなたは、職場や学校、家庭などでパソコンを使っていますか。

12.2 職場や学校で使っている      15.7 職場や学校、家庭の両方で使っている      0.5 わからない  
16.0 家庭で使っている      55.6 使っていない

問24 [カード19] あなたは、パソコンを平均してどれくらいお使いになりますか。この中からあてはまるものを1つお選びください。

25.2 毎日のように	12.6 週に1~3回 くらい	4.6 月に1~3回 くらい	1.4 年に数日 くらい	48.6 使っていない	7.6 わからない
-------------	--------------------	-------------------	-----------------	-------------	-----------

問25 [カード20] 職場や学校、家庭などでパソコンをどのようなことに使用していますか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

30.7 書類や原稿の作成	13.1 デジタルカメラの編集
25.7 ホームページの閲覧・検索	14.0 年賀状・住所録の作成
3.9 ホームページの作成	2.4 その他(具体的に: )
22.4 電子メール	56.4 わからない (M.T.=168.6)

問26 [カード21] では、あなたは、職場や学校、家庭などで、パソコンに限らず、携帯電話や携帯情報端末などを使って、ホームページを見たり、Eメールのやりとりをするなどして、インターネットを利用していますか。

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 6.0 職場や学校で使っている | 14.9 職場や学校、家庭の両方で使っている |
| 17.1 家庭で使っている   | 59.2 使っていない → 問29へ     |
|                 | 2.9 わからない              |

【問26で「1」～「3」と答えた、インターネットを利用している人に】

問27 [カード22] インターネットのホームページをどのくらい利用していますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください (N=1,172)

- |                  |                |           |
|------------------|----------------|-----------|
| 16.6 日に5回以上      | 11.9 月に1～2回くらい | 1.3 わからない |
| 26.2 日に1～2回くらい   | 3.1 年に数日くらい    |           |
| 32.7 一週間に1～3回くらい | 8.4 使わない       |           |

【問26で「1」～「3」と答えた、インターネットを利用している人に】

問28 [カード22] 電子メールをどのくらい使用していますか。1通の送信または受信を1回と、数えてください。 (N=1,172)

- |                  |               |           |
|------------------|---------------|-----------|
| 26.2 日に5回以上      | 6.1 月に1～2回くらい | 3.3 わからない |
| 29.2 日に1～2回くらい   | 2.7 年に数日くらい   |           |
| 22.4 一週間に1～3回くらい | 10.0 使わない     |           |

【全員に】

問29 [カード23] あなたは、新聞を1日に平均してどれくらいの時間お読みになりますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

- |               |            |           |
|---------------|------------|-----------|
| 14.9 ほとんど読まない | 10.2 1～2時間 | 0.5 わからない |
| 46.6 30分まで    | 2.4 2～3時間  |           |
| 25.0 30分～1時間  | 0.5 3時間以上  |           |

問30 [カード24] では、あなたは、テレビを、1日に平均してどれくらいの時間ご覧になりますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

- |             |            |           |
|-------------|------------|-----------|
| 3.0 ほとんど見ない | 33.8 2～3時間 | 0.3 わからない |
| 8.8 1時間まで   | 22.7 3～5時間 |           |
| 21.4 1～2時間  | 9.9 5時間以上  |           |

問31 [カード25] あなたは、ラジオを、1日に平均してどれくらいの時間お聴きになりますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

- |               |           |           |
|---------------|-----------|-----------|
| 57.8 ほとんど聴かない | 7.6 1～2時間 | 0.6 わからない |
| 13.5 30分まで    | 3.9 2～3時間 |           |
| 9.8 30分～1時間   | 6.8 3時間以上 |           |



問32 [カード26] あなたは、雑誌を、1日に平均してどれくらいの時間お読みになりますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

- |      |          |     |       |     |       |
|------|----------|-----|-------|-----|-------|
| 52.7 | ほとんど読まない | 5.0 | 1～2時間 | 1.1 | わからない |
| 27.9 | 30分まで    | 1.0 | 2～3時間 |     |       |
| 12.1 | 30分～1時間  | 0.4 | 3時間以上 |     |       |

次に、自治体の広報紙やホームページの利用についてお聞きします。

問33 [カード27] あなたは、今住んでいる地域の情報を得るのに、自治体の広報紙やホームページを利用していますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

- |      |                |      |             |
|------|----------------|------|-------------|
| 7.2  | 両方とも利用している     | 27.0 | 両方とも利用していない |
| 63.5 | 広報紙のみ利用している    | 1.2  | わからない       |
| 1.3  | ホームページのみ利用している |      |             |

問34 [カード28] 広報紙やホームページ以外に、どのような方法で地域の情報を得ていますか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

- |      |                                   |              |  |
|------|-----------------------------------|--------------|--|
| 9.1  | 市区役所・町村役場に出かけて職員に聞く               |              |  |
| 7.3  | 市区役所・町村役場の相談窓口で電話(FAX・メールを含む)をかける |              |  |
| 24.1 | 世話役さんや近所の人に聞く                     |              |  |
| 35.1 | 新聞の地域情報欄を読む                       |              |  |
| 17.7 | テレビの地域情報番組を見る                     |              |  |
| 22.0 | タウン誌・無料配布紙を見る                     |              |  |
| 6.1  | ケーブルテレビを見る                        |              |  |
| 2.5  | 地域限定のラジオ放送を聞く                     |              |  |
| 2.5  | 携帯電話のメールやWebサイトを見る                |              |  |
| 4.0  | その他(具体的に: )                       |              |  |
| 23.4 | 特になし                              |              |  |
| 1.6  | わからない                             | (M.T.=155.2) |  |

問35 [カード29] 広報紙で、あなたがよく読む記事はどんな記事ですか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

- |      |                   |              |          |
|------|-------------------|--------------|----------|
| 47.8 | 役所・役場からのお知らせ      | 6.3          | 首長の意見    |
| 53.5 | 行事や催し物のお知らせ       | 6.0          | 住民紹介記事   |
| 41.0 | 暮らしの情報・生活情報       | 11.5         | 特集記事     |
| 46.2 | 保健・医療・福祉だより       | 0.3          | その他      |
| 20.7 | 講座・セミナー・趣味サークルの案内 | (具体的に: )     |          |
| 15.4 | 学校や教育に関する記事       | 15.9         | 広報紙は読まない |
| 18.5 | ニュース記事            | 3.2          | わからない    |
| 14.2 | 議会だより             | (M.T.=300.5) |          |

問36 [カード30] 今住んでいる市区町村の広報紙は読みやすいですか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

11.1	62.8	5.8	0.9	19.4
たいへん読みやすい	まあ読みやすい	やや読みにくい	たいへん読みにくい	わからない

問37 [カード31] 広報紙に、わかりにくい言葉があると感じたことがありますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

3.3	23.2	48.1	6.9	18.4
しばしば感じる	時々感じる	あまり感じない	まったく感じない	わからない

問38 [カード32] 広報紙で、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしいと思われるのは、どんな種類のことばですか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

- 22.4 役所でよく使われることば(「可及的速やかに」「策定する」など)
- 36.0 外来語(「アウトソーシング」「ユニバーサルデザイン」「ソーシャルワーカー」など)
- 42.1 アルファベットの略語(「NPO」「ALT」「IT」など)
- 36.9 専門用語(「分離課税」「喀痰細胞診」など)
- 13.6 漢字の熟語(「進捗状況」「調整措置」など)
- 0.5 その他(具体的に: )
- 23.1 特になし
- 10.5 わからない (M.T.=185.1)

自治体の窓口や説明会での職員の話しことばについて、お聞きします。

問39 [カード33] 市区役所・町村役場の職員は、窓口や説明会で住民に話をするとき、分かりやすいことばで説明していますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

- 38.5 分かりやすいことばで説明している
- 5.4 分かりにくいことばをそのまま使っている
- 39.8 職員にもいろんな人がいるから一概には言えない
- 16.4 わからない

問40 [カード34] 住民に話すときは、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしいと思うのは、どんな種類のことばですか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

- 26.7 役所でよく使われることば(「可及的速やかに」「策定する」など)
- 39.2 外来語(「アウトソーシング」「ユニバーサルデザイン」「ソーシャルワーカー」など)
- 44.8 アルファベットの略語(「NPO」「ALT」「IT」など)
- 45.6 専門用語(「分離課税」「喀痰細胞診」など)
- 15.5 漢字の熟語(「進捗状況」「調整措置」など)
- 0.5 その他(具体的に: )
- 20.2 特にない
- 8.8 わからない

(M.T.=201.3)

問41 [カード35] 自治体の広報紙などでは、同じことを言うのに、いろいろな表現が使われています。

あなたは、a~iのそれぞれについて、広報紙などで表記する際に1~3のどの表現を使った方がよいと思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

a)	13.6	52.2	29.6	4.6
	パートナーシップ	パートナーシップ(協力・共同)	協力・共同	わからない
b)	7.2	52.7	34.5	5.5
	セーフティネット	セーフティネット(安全網・安全対策)	安全網・安全対策	わからない
c)	24.5	45.0	26.1	4.3
	ニーズ	ニーズ(必要・要望・要請)	必要・要望・要請	わからない
d)	8.3	53.0	32.0	6.7
	エコシティ	エコシティ(環境共生都市)	環境共生都市	わからない
e)	37.4	44.3	15.5	2.8
	デイサービス	デイサービス(日帰り介護)	日帰り介護	わからない
f)	59.3	31.1	6.6	3.0
	ボランティア	ボランティア(篤志奉仕者)	篤志奉仕者	わからない
g)	3.0	50.0	38.8	8.2
	ALT	ALT(外国人語学教師)	外国人語学教師	わからない
h)	20.3	52.1	21.6	5.9
	IT	IT(情報技術)	情報技術	わからない
i)	12.0	57.7	23.5	6.9
	NPO	NPO(非営利団体)	非営利団体	わからない

では、再び外来語についてお聞きします。

問42〔カード36〕あなたは、外来語の将来はどうかになるべきだと思いますか。この中からあてはまるものを1つ選んでください。

- |                       |           |
|-----------------------|-----------|
| 22.0 なるべく減らしていくべきだと思う | 0.9 その他   |
| 6.6 もっと増やしていくべきだと思う   | (具体的に： )  |
| 65.5 自然の成り行きに任せる方がよい  | 5.0 わからない |

問43〔カード37〕それでは、外来語の使用については将来どうかになるべきだと思いますか。この中から1つ選んでください。

- |  |
|--|
| 1.6 外来語はわかりにくくてもそのまま使うべきだと思う               |
| 21.6 外来語についても学校で教えて、誰もが分かり使えるようにすべきだと思う    |
| 49.5 分かりにくい外来語は言い換えしたり、説明を添えて使うようになるべきだと思う |
| 7.1 外来語は、なるべく和語や漢語に言い換えるべきだと思う             |
| 15.5 個人の自由にまかせるべきだと思う                      |
| 0.2 その他(具体的に： )                            |
| 4.5 わからない                                  |

ことばや、特に英語などのことばの学習一般についてお尋ねします。

問44〔カード38〕あなたは日本語が好きですか。この中から1つ選んでください。

- |       |      |           |      |       |       |
|-------|------|-----------|------|-------|-------|
| 54.9  | 30.8 | 11.6      | 1.0  | 0.8   | 0.9   |
| 非常に好き | やや好き | どちらともいえない | やや嫌い | 非常に嫌い | わからない |

問45〔カード39〕あなたがふだんの生活の中で現在接していることばは、乱れていると思いますか、そうは思いませんか。この中から1つ選んでください。

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 32.2 非常に乱れていると思う  | 1.2 まったく乱れていないと思う |
| 50.3 ある程度乱れていると思う | 3.4 わからない         |
| 12.8 あまり乱れていないと思う |                   |

問46〔カード40〕あなたは、敬語の使い方に十分気を付けている方だと思いますか。この中から1つ選んでください。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 20.7 非常に気を付けている | 10.9 あまり気を付けていない |
| 53.6 やや気を付けている  | 1.6 まったく気を付けていない |
| 12.2 どちらともいえない  | 1.0 わからない        |

問47 [カード41] あなたの敬語の使い方は、どれにもっとも近いですか。この中から1つ選んでください。

- 10.4 適切に使っていると思う
- 60.2 人並みに使っていると思う
- 25.7 使いたいと思うが、十分に使えていないと思う
- 2.3 使う必要を認めないし、実際ほとんど使わない
- 1.4 わからない

問48 それでは英語についてはどうですか。

(1) [カード42] あなたは英語が好きですか。この中から1つ選んでください。

- |       |      |           |      |       |       |
|-------|------|-----------|------|-------|-------|
| 6.1   | 21.5 | 32.1      | 23.3 | 14.3  | 2.8   |
| 非常に好き | やや好き | どちらともいえない | やや嫌い | 非常に嫌い | わからない |

(2) [カード43] では、英語が得意ですか。この中から1つ選んでください。

- |       |      |           |       |        |       |
|-------|------|-----------|-------|--------|-------|
| 1.0   | 6.7  | 20.0      | 32.9  | 37.1   | 2.3   |
| 非常に得意 | やや得意 | どちらともいえない | やや不得意 | 非常に不得意 | わからない |

問49 [カード44] あなたがこれまでに勉強したことがある言語を、この中からすべてあげてください。

(M.A.)

- |           |           |                 |              |
|-----------|-----------|-----------------|--------------|
| 77.5 英語   | 2.0 スペイン語 | 0.6 ポルトガル語      |              |
| 6.2 中国語   | 0.7 ロシア語  | 0.3 その他(具体的に: ) |              |
| 3.5 韓国語   | 8.2 ドイツ語  | 20.7 特にない       |              |
| 5.7 フランス語 | 1.3 イタリア語 | 0.8 わからない       | (M.T.=127.3) |

問50 世界では、英語が「優位な言語」、あるいは「影響力のある言語」であるといわれていますが、あなたはそう思いますか。そう思いませんか。(S.A.)

- |      |            |       |
|------|------------|-------|
| 73.1 | 15.8       | 11.1  |
| そう思う | そう思わない     | わからない |
| ↓    | → フェースシートへ |       |

【問50で「1 そう思う」と答えた人に】

問51 [カード45] では、世界で、英語が「優位な言語」になっていることについてあなたはどのように思いますか。

この中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 32.1 英語が優位なことはよいことだ
- 60.2 英語が優位なことはよいと思わないが、しかたがないことだ
- 4.2 英語が優位なことはよいとは思わない。もっと他のことばが使われるべきだ
- 0.6 その他(具体的に: )
- 2.9 わからない

【フェイスシート】

お聞きすることは以上ですが、あなたご自身のことについて少しおうかがいします。

F 1 性別 (調査員記入)

44.9 男性

55.1 女性

F 2 あなたのお年は、お歳は満でいくつですか。

6.1 15～19歳

7.6 35～39歳

10.1 55～59歳

4.7 20～24歳

6.2 40～44歳

11.2 60～64歳

5.6 25～29歳

7.4 45～49歳

9.8 65～69歳

6.9 30～34歳

10.2 50～54歳

14.1 70歳以上

F 3 あなたの職業は何ですか (職業の内容を具体的に記入してから、下の該当する項目に○をつける)。

[ ]

3.6 農林水産業

15.9 事務職

8.5 商工サービス業

18.9 労務職

1.4 自由業

25.2 主婦

2.6 管理職

7.0 学生

1.0 専門技術職

15.9 その他の無職

F 4 [カード 46] あなたが最後に卒業されたのはどれですか (中退在学中は卒業と見なす)。

1.8

17.4

51.4

27.6

1.8

小 卒

旧高小・新中卒

旧中・新高卒

旧高専・大卒

わからない

F 5 あなたがお生まれになったのはどこですか。

\_\_\_\_\_都道府県 \_\_\_\_\_市区町村 X 外国 Y わからない

F 6 5歳から15歳までの間で一番長く住んだところ (都道府県・市区町村) はどこですか。

\_\_\_\_\_都道府県 \_\_\_\_\_市区町村 X 外国 Y わからない

F 7 あなたはご自身のことをどこの出身 (都道府県・市区町村) だとお考えですか。

\_\_\_\_\_都道府県 \_\_\_\_\_市区町村 X 外国 Y わからない

F 8 [カード 47] あなたは、次のどの分野に関心がありますか。この中からいくつでも選んでください。

(M.A.)

32.3 政治・経済	22.2 ファッション	10.6 特に関心のある分野はない
41.1 医療・福祉	31.8 スポーツ	1.2 わからない
17.4 コンピュータ関連	27.6 音楽	
26.9 料理	2.2 その他(具体的に: )	(M.T.=213.3)

F 9 [カード 48] あなたは、ここ 10 年くらいの間に外国に行ったことがありますか。この中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

1.1 滞在(連続して3ヶ月以上)したことがある	62.7 外国には行ったことがない
30.7 旅行(3ヶ月以下)したことがある	0.5 わからない
5.0 滞在したこともあるし、旅行したこともある	

F10 [カード 49] では、お宅の収入は、ご家族全部あわせて、去年 1 年間で、およそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスを含め、税込みでお答えください。

8.7 200万円未満	13.3 600~800万円未満	0.8 2,000万円以上
20.1 200~400万円未満	6.7 800~1,000万円未満	27.2 わからない
17.8 400~600万円未満	5.4 1,000~2,000万円未満	

F11 [カード 50] かりに現在の日本の社会全体を、この表に書いてある 5 つの層にわけるとすれば、お宅は、この中のどれに入るとお考えですか。この中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

0.6	7.4	49.7	28.5	7.5	0.0	6.3
上	中の上	中の中	中の下	下	その他	わからない
(具体的に: )						

F12 [カード 51] あなたは、ふだん何党を支持していますか。この中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

26.4 自民党	1.3 共産党	0.8 無所属の会	49.5 支持する政党はない
7.1 民主党	1.7 社民党	0.1 自由連合	9.0 わからない
3.5 公明党	0.1 保守新党	0.6 その他の政党	

これですべて終わりです。長い間お付き合いいただき、ありがとうございました。

調査終了時刻  時  分 (24 時間表示)      調査時間  分

【全国調査報告書】  
外来語に関する意識調査  
報告書

平成16年3月 編集・発行

© 国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

Tel 03-3900-3111 Fax 03-3906-3530

URL <http://www.kokken.go.jp>

(平成15-23)